

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第538集

かつら た い  
**桂平 I 遺跡発掘調査報告書**

主要地方道二戸五日市線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

2008

岩手県二戸地方振興局土木部  
(財) 岩手県文化振興事業団

# **桂平 I 遺跡発掘調査報告書**

主要地方道二戸五日市線緊急地方道路整備事業関連発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多くのござれています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であります。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らねばなりません。

一方、県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要とされます。それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれその土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところであります。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の事前の緊急発掘調査を行ない、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、主要地方道二戸五日市線緊急地方道路整備事業に関連して平成18・19年度に発掘調査された二戸市桂平I遺跡の調査成果をまとめたものであります。調査の結果、縄文時代の陥し穴、平安時代の堅穴住居、近世の掘立柱建物などを検出し、縄文時代から近世に至る長い期間に渡り人々の生活が営まれてきたことが判明しました。

本書が広く活用され埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県二戸地方振興局、二戸市埋蔵文化財センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成20年11月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 武田牧雄

## 例　　言

- 1 本書は、岩手県二戸市浄法寺町大字御山字柱平地内に所在する柱平I遺跡の発掘調査成果の報告書である。
- 2 発掘調査は、主要地方道二戸五日市線の緊急地方道路整備事業に伴い、岩手県二戸地方振興局土木部の委託を受けた財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 野外調査は平成18年度・19年度の2か年にわたり実施され、調査総面積は7,809m<sup>2</sup>である。各年度の調査期間・面積・調査担当者は以下の通りである。

平成18年度調査　　期間：平成18年8月17日～11月28日  
面積：3,489m<sup>2</sup>（18年度終了は2,539m<sup>2</sup>。950m<sup>2</sup>は19年度継続調査。）  
担当調査員：川又　晋・千葉正彦

平成19年度調査　　期間：平成19年8月17日～11月15日  
面積：5,270m<sup>2</sup>  
担当調査員：川又　晋・北村忠昭

- 4 本報告書の執筆は川又と北村が行なった。編集は川又が行なった。
- 5 業務委託は、次の機関に委託した。
  - 石質鑑定　花崗岩研究会
  - 火山灰同定　株式会社パリノ・サーヴェイ
  - 炭化材同定　木炭協会
- 6 遺物番号は逆番で、写真図版と対応している。
- 7 本書で使用した遺構種別による略号は以下の通りである。
  - S I : 壁穴住居・壁穴住居状造構　S K : 土坑　P : ピット（柱穴状上坑）　S D : 溝・堀
  - S B : 掘立柱建物　S N : 燃土遺構
- 8 本報告書で使用した地図は、国土地理院発行5万分の1地形図を使用した。
- 9 本書で用いる座標値は、旧座標（日本測地系）に準拠している。レベル高は海拔である。
- 10 本報告書で使用した土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」によった。
- 11 遺構図版におけるアミ掛けは焼土の範囲を示している。
- 12 土器実測図において、内面に黒色処理が施されるものについては右半分にアミを掛けている。石器実測図において、磨痕・炭化物付着のあるものはアミ掛けで範囲を示している。
- 13 野外調査にあたっては、二戸市埋蔵文化財センターのご協力をいただいた。
- 14 出土遺物および調査に関わる諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

## 目 次

I 調査に至る経過 .....	1
-----------------	---

### II 遺跡周辺の環境

1 遺跡の位置・環境 .....	3
2 地形的環境 .....	3
3 地質的環境 .....	4
4 歴史的環境 .....	5
5 調査の方法 .....	7
6 基本層序 .....	8
7 野外調査経過 .....	9

### III 検出遺構と出土遺物

1 堅穴住居・堅穴住居状遺構 .....	27
2 陥し穴 .....	37
3 土坑 .....	44
4 堀跡 .....	49
5 捶立柱建物・柱穴状土坑 .....	49
6 焼土遺構 .....	52
7 遺構外出土遺物 .....	52

### IV 自然化学分析

1 桂平I遺跡における火山灰分析（1） .....	154
2 桂平I遺跡における火山灰分析（2） .....	160

V まとめ .....	165
-------------	-----

報告書抄録 .....	229
-------------	-----

## 図版目次

第1図 岩手県全図	1	第43図 陥し穴（8）S K28・29	76
第2図 遺跡の位置	2	第44図 陥し穴（9）S K30・32	77
第3図 地形分類図	4	第45図 陥し穴（10）S K31	78
第4図 周辺の遺跡	6	第46図 陥し穴（11）S K36・37	79
第5図 調査範囲・グリッド配置図	10	第47図 陥し穴（12）S K38・39	80
第6図 基本層序1（A・B・D区）	11	第48図 陥し穴（13）S K41・44・46	81
第7図 基本層序2（C区）	12	第49図 陥し穴（14）S K48・50	82
第8図 遺構配置図①（全体）	13	第50図 陥し穴（15）S K51・52	83
第9図 遺構配置図②（A区）	14	第51図 陥し穴（16）S K53・54・55	84
第10図 遺構配置図③（B区1）	15	第52図 陥し穴（17）S K57・58・61・62	85
第11図 遺構配置図④（B区2）	16	第53図 陥し穴（18）S K71・72	86
第12図 遺構配置図⑤（C区）	17	第54図 陥し穴（19）S K73	87
第13図 遺構配置図⑥（D区1）	18	第55図 陥し穴（20）S K74・75・77・79	88
第14図 遺構配置図⑦（D区2）	19	第56図 土坑（1）S K05・06	89
第15図 遺構配置図⑧（D区3）	20	第57図 土坑（2）S K10・15~17	90
第16図 遺構配置図⑨（D区4）	21	第58図 土坑（3）S K18・19・25・27	91
第17図 遺構配置図⑩（C区拡大1）	22	第59図 土坑（4）S K33・13	92
第18図 遺構配置図⑪（C区拡大2）	23	第60図 土坑（5）S K34・35・40	93
第19図 遺構配置図⑫（C区拡大3）	24	第61図 土坑（6）S K42・43・45	94
第20図 遺構配置図⑬（C区拡大4）	25	第62図 土坑（7）S K47・49・70	95
第21図 遺構配置図⑭（C区拡大5）	26	第63図 土坑（8）S K56	96
第22図 S I01・S I02	55	第64図 土坑（9）S K59・60	97
第23図 S I03	56	第65図 土坑（10）S K76・78・80・81	98
第24図 S I04	57	第66図 S D01	99
第25図 S I05	58	第67図 焼土（1）S N01~06	100
第26図 S I06・S I08	59	第68図 焼土（2）S N07~12	101
第27図 S I07（1）	60	第69図 焼土（3）S N13・14・16~21	102
第28図 S I07（2）	61	第70図 焼土（4）S N22~29	103
第29図 S I07（3）・S I09	62	第71図 S B01	104
第30図 S I10・S I11（1）	63	第72図 S B02	105
第31図 S I10・S I11（2）・S I13	64	第73図 S B03	106
第32図 S I12	65	第74図 S B04	107
第33図 S I14	66	第75図 S B05	108
第34図 S I15	67	第76図 S B06・S B07	109
第35図 S I16・S I17	68	第77図 S B08・S B09	110
第36図 陥し穴（1）S K01・02・03	69	第78図 S I01・S I02遺物	111
第37図 陥し穴（2）S K07・08	70	第79図 S I03遺物（1）	112
第38図 陥し穴（3）S K09・11	71	第80図 S I03遺物（2）	113
第39図 陥し穴（4）S K12・14	72	第81図 S I04遺物	114
第40図 陥し穴（5）S K20・21	73	第82図 S I05遺物（1）	115
第41図 陥し穴（6）S K22・23	74	第83図 S I05遺物（2）	116
第42図 陥し穴（7）S K24・26	75	第84図 S I06遺物	117

第85図	S I 07遺物 (1) .....	118	第96図	縄文土器 .....	129
第86図	S I 07遺物 (2) .....	119	第97図	陶磁器 .....	130
第87図	S I 07 (3) · S I 08 · S I 09遺物 .....	120	第98図	石器・石製品 (1) .....	131
第88図	S I 10遺物 (1) .....	121	第99図	石器・石製品 (2) .....	132
第89図	S I 10遺物 (2) · S I 12遺物 (1) .....	122	第100図	石器・石製品 (3) .....	133
第90図	S I 12遺物 (2) .....	123	第101図	石器・石製品 (4) .....	134
第91図	S I 12遺物 (3) .....	124	第102図	石器・石製品 (5) .....	135
第92図	S I 14遺物 .....	125	第103図	石器・石製品 (6) .....	136
第93図	S I 15遺物 .....	126	第104図	銅製品 .....	137
第94図	S K 19 · S K 25遺物 .....	127	第105図	銅製品 (1) .....	138
第95図	S K 81遺物 .....	128	第106図	銅製品 (2) .....	139

## 表 目 次

第1表	周辺の遺跡 .....	6	第5表	遺物観察表 (金属製品) .....	144
第2表	遺物観察表 (土器) .....	140	第6表	遺物観察表 (銭貨) .....	145
第3表	遺物観察表 (陶磁器) .....	142	第7表	柱穴一覧表 .....	146
第4表	遺物観察表 (石器・石製品) .....	143	第8表	焼上遺構一覧表 .....	153

## 写真図版目次

写真図版1	航空写真 (1) .....	169	写真図版23	SI09 .....	191
写真図版2	航空写真 (2) .....	170	写真図版24	B区その他 .....	192
写真図版3	B区 (東から) .....	171	写真図版25	SI10 (1) .....	193
写真図版4	C区 (西から) .....	172	写真図版26	SI10 (2) .....	194
写真図版5	C区 (東から) .....	173	写真図版27	SI11 .....	195
写真図版6	CK区 (東から) .....	174	写真図版28	SI12 (1) .....	196
写真図版7	CK区 (柱穴1) .....	175	写真図版29	SI12 (2) · SI13 .....	197
写真図版8	CK区 (柱穴2) .....	176	写真図版30	SI14 .....	198
写真図版9	A区 .....	177	写真図版31	SI15 .....	199
写真図版10	D2区 .....	178	写真図版32	SI16 · SI17 .....	200
写真図版11	D1区 .....	179	写真図版33	陥し穴 (1) SK01~03 · 07 .....	201
写真図版12	SI01 .....	180	写真図版34	陥し穴 (2) SK08 · 09 · 11 · 12 .....	202
写真図版13	SI02 .....	181	写真図版35	陥し穴 (3) SK14 · 20 · 21 · 22 .....	203
写真図版14	SI03 .....	182	写真図版36	陥し穴 (4) SK23 · 24 · 26 · 28 · 29 .....	204
写真図版15	SI04 (1) .....	183			204
写真図版16	SI04 (2) .....	184	写真図版37	陥し穴 (5) SK30 · 31 · 32 .....	205
写真図版17	SI05 .....	185	写真図版38	陥し穴 (6) SK36~39 .....	206
写真図版18	SI06 .....	186	写真図版39	陥し穴 (7) SK41 · 44 · 46 · 48 .....	207
写真図版19	SI07 (1) .....	187	写真図版40	陥し穴 (8) SK50~53 .....	208
写真図版20	SI07 (2) .....	188	写真図版41	陥し穴 (9) SK54 · 55 · 57 · 58 .....	209
写真図版21	SI08 (1) .....	189	写真図版42	陥し穴 (10) SK61 · 62 · 71 · 72 .....	210
写真図版22	SI08 (2) .....	190	写真図版43	陥し穴 (11) SK73~75 · 77 .....	211

写真図版44	陥し穴（12）SK79・80	212	写真図版53	SD01（2）	221
写真図版45	土坑（1）SK05・06・10・15	213	写真図版54	焼土（1）SN01～01	222
写真図版46	土坑（2）SK16・17・18・19	214	写真図版55	焼土（2）SN05～08	223
写真図版47	土坑（3）SK25・27・33・13	215	写真図版56	焼土（3）SN09・10	224
写真図版48	土坑（4）SK34・35・40・42	216	写真図版57	焼土（4）SN11～14	225
写真図版49	土坑（5）SK43・45・47	217	写真図版58	焼土（5）SN16・17・19・20	226
写真図版50	土坑（6）SK49・56・59・60	218	写真図版59	焼土（6）SN21～24	227
写真図版51	土坑（7）SK70・76・78・81	219	写真図版60	焼土（7）SN18・25～29	228
写真図版52	SD01（1）	220			

## I 調査に至る経過

桂平I遺跡は「主要地方道二戸・五日市線緊急地方道路整備事業」工事に伴い、事業計画区内に存することから発掘調査を行うことになったものである。

主要地方道二戸・五日市線は二戸市南西部に位置し、二戸市と八幡平市を結ぶ道路であり、その機能は東北縦貫自動車道八戸線の平行路線としての代替可能な幹線道路である。事業対象区域である「浄法寺工区」においては、浄法寺の中心地に位置しており、車道の幅員が狭い上に歩道がなく、さらに見通しの悪いカーブが多いことから、危険な状態となっている。そのような中、安全・安心に暮らせる地域の実現を目指して平成8年に「新交流ネットワーク道路整備事業」により事業着手したものであるが、平成16年度に新たに「緊急地方道路整備事業」の採択となり早期完成を目指すものである。

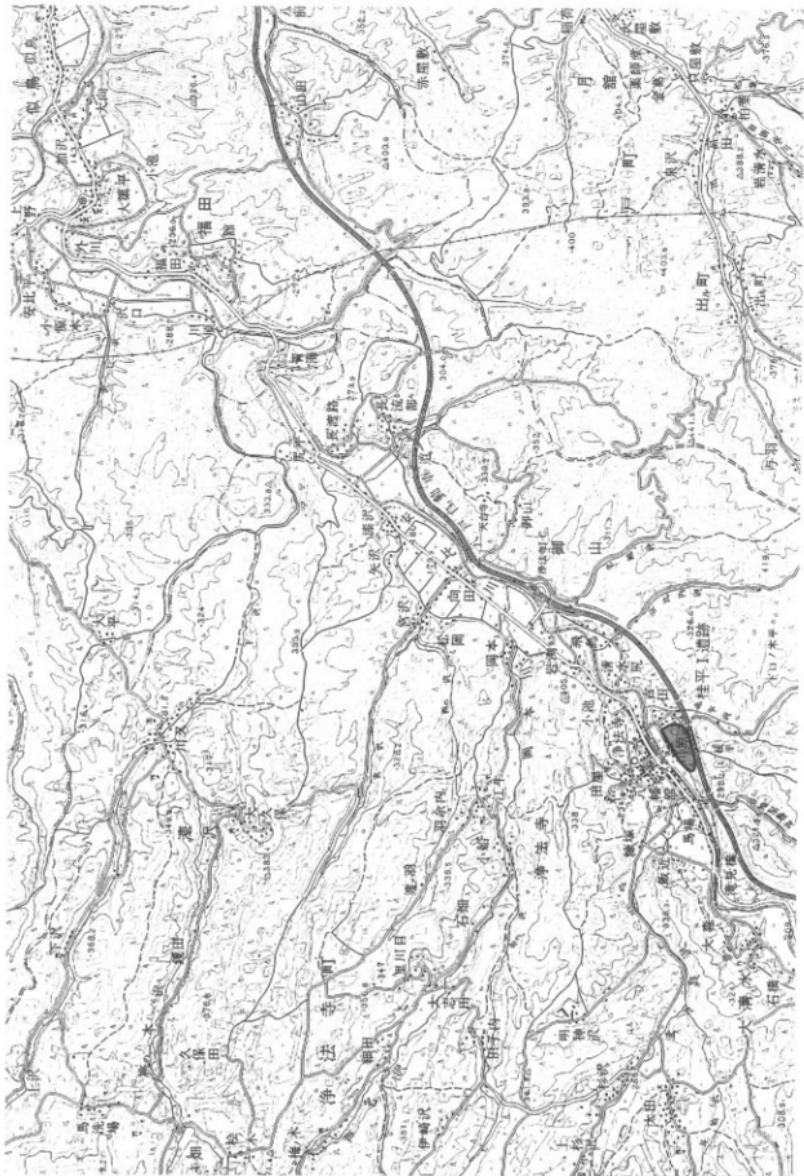
当事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、二戸地方振興局土木部から平成17年10月13日付け二戸土第300号及び平成17年11月2日付け二戸土第322号により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた県教育委員会では、平成17年10月17日と同年11月9日に試掘調査を実施し、工事に着工するには桂平I遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成17年11月14日付け教生1179号により当土木部へ回答してきた。

その結果を踏まえて当土木部は県教育委員会と協議し、平成18・19年度に財團法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結して発掘調査を実施することとなった。

(岩手県二戸地方振興局土木部)



第1図 岩手県全図



第2図 遺跡の位置

## II 遺跡周辺の環境

### 1 遺跡の位置・環境（第1・2図）

桂平I遺跡は、岩手県二戸市浄法寺町大字御山字桂平地内に所在し、旧浄法寺町役場から東約0.5km、安比川右岸の海拔210~230mの台地およびその周辺部分に立地する。その位置は国土地理院発行の地形図1/25,000「浄法寺」NK-54-18-15-2図幅に含まれ、北緯40度10分50秒、東経141度9分30秒付近である。遺跡は、西岳・七時雨山から続く丘陵の縁辺部に広がる北向きの緩斜面で、東側が広く西側に向かうにつれ狹くなる。北側は段丘崖で、下の台地の縁辺部に沿って市道が通行する。南側はやや傾斜のきつい斜面で、丘陵地となっている。南側には東北縦貫道八戸線が開通している。現況では遺跡の大半が畠地として利用されており、主に煙草の栽培が行なわれている。今回の調査区は、県道建設予定範囲に該当する谷と市道の間の丘陵部分を東西に横断する7,809mである。

二戸市は岩手県の北部に位置し、平成18年1月に旧二戸市と二戸郡浄法寺町の合併により成立了。市域総面積は420.31km<sup>2</sup>、西に八幡平市、南に一戸町、東に九戸村・輕米町と境を接し、北は青森県三戸町・南部町・田子町等との県境を接する。平成17年10月時点で総人口31,480人、人口密度74.9人/km<sup>2</sup>、岩手県北においては沿岸部の久慈市と並ぶ内陆部の中心市である。

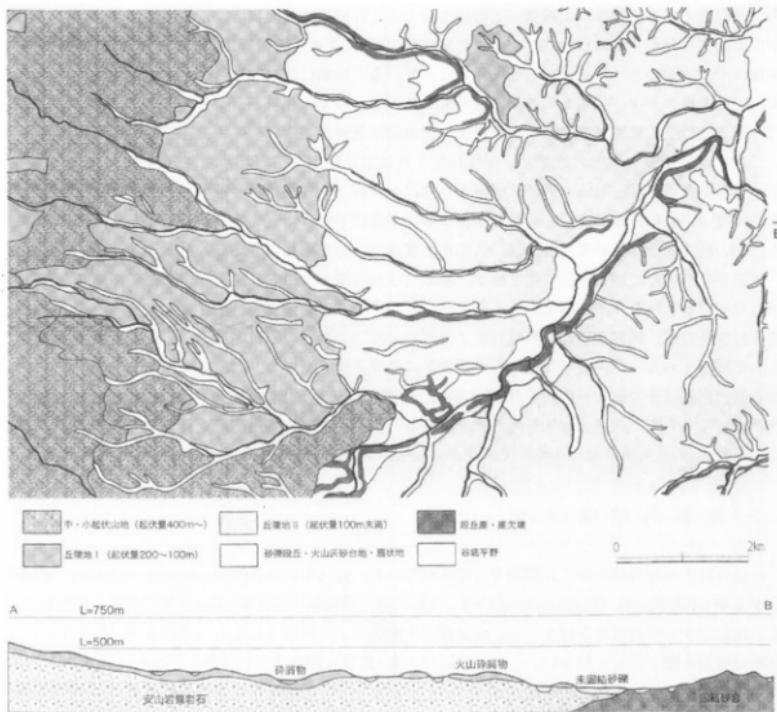
遺跡が所在する二戸市浄法寺町〔以下、単に「浄法寺町」と略す〕は二戸市西部にあたり、旧行政区画における二戸郡浄法寺町である。旧浄法寺町は明治22年に浄法寺、駒ヶ嶺、大清水、漆沢、御山の5村合併の後、昭和15年に町制施行により成立した。これらの旧村名は二戸市との合併までは大字として残っており、合併後の現在でも一部地名に名残を残している。遺跡はこのうち御山に属している。鉄道路線は東の旧二戸市内をJR東北本線、西は八幡平市を花輪線がそれぞれ走るが、旧浄法寺町内は通っておらず、道路交通網に頼る状態である。主要な道路は県道二戸五日市線であり、安代で国道282号、二戸で国道4号へ連絡して盛岡市や秋田県鹿角市、青森県八戸市の各方面へと続く。

### 2 地形的環境（第3図）

浄法寺町の大部分は山地と丘陵地で占められている。安比川より西側は、稲庭岳(1,078m)を頂点とする中・小起伏山地(起伏量400m以下)、それに続く丘陵地(起伏量200m以下)が広く分布しており、東に向かって高度を下げている。稲庭岳は火成岩により構成される火山であるが、風化浸食によりその原形を殆ど残していない。一方、安比川の東・南側も様相は同じであり、西岳(1,018m)や七時雨山(1,060m)から続く丘陵地によって占められている。八幡平市に源流を持つ安比川が浄法寺町の中央を蛇行しつつ北東に流れ、東西双方から小河川が山地・丘陵を下刻しつつ安比川へと流れ込んでいる。安比川およびその支流の流域には谷底平野や台地(段丘)が形成されている。高位から砂礫段丘I・火山灰砂台地・砂礫段丘II・砂礫段丘IIIの「台地」各面、扇状地・谷底平野の「低地」が分布しているが、しかしその分布は断続的かつ狭小であり発達は良好ではない。図ではこれらの台地が狭小であるため、台地各面と扇状地を一括して示した。浄法寺の中心部は、安比川沿いの狭い谷底平野に形成されている。本遺跡の周辺は台地に分類され、安比川右岸の中位段丘面にあたる。

## 3 地質的環境

土地分類基本調査（岩手県1979）によれば、浄法寺の表層地質は第3図の断面模式図に示すとおりである。東西の山稜部分は更新世の凝灰岩質岩石や固結砂岩を基底とし、その上位に完新世の火山碎屑物や安山岩質岩石が載っている。安比川およびそれに流れ込む小河川の下刻・堆積作用により細かな谷底地形が形成されて未固結の砂礫や碎屑物が堆積している。吉田館遺跡の所在する御山地区付近は、更新世の固結砂岩岩体の分布域にあたり、地質的には比較的古い様相を示している地域である。



第3図 地形分類図

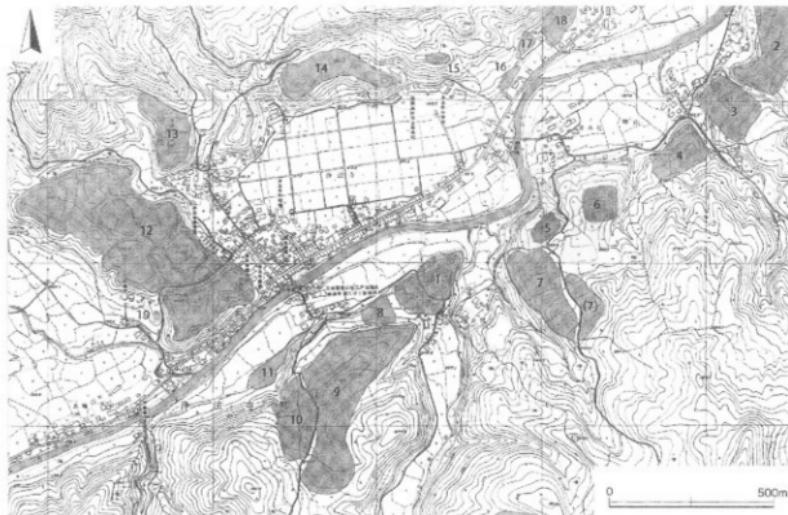
二戸市・絆米町・九戸村などの県北内陸部では、ローム質火山灰・浮石凝灰岩・スコリア質火山灰などの火山碎屑物が層をなして堆積している。これらのテフラ群は十和田系の火山噴出物に起源をもち、一般的には上位から、十和田a火山灰〔To-a〕、十和田b火山灰〔To-b〕、中振浮石〔To-Cu〕、南部浮石〔To-Nb〕、二ノ倉火山灰〔To-Nk〕、八戸火山灰〔To-H〕、大不動浮石流凝灰岩〔To-Of〕という層序が確認されている。二ノ倉よりも上位が完新世に堆積した火山灰である。本遺跡の調査区内では複数のテフラ層群が観察される。これらのテフラについてはその特徴や近隣遺跡での成果から見て、白頭山火山灰、十和田a火山灰、中振浮石、南部浮石、二ノ倉火山灰、八戸火山灰に相当するものと推定される。白頭山火山灰、十和田a火山灰、南部浮石については自然科学的分析の結果により明らかとなっている。

中振浮石“アワズナ”は粗粒の砂状バミスで、浮石純層および上下層への混在が観察される。降下年代は約5,400年B.P.と推測され、縄文時代前期中葉に相当する。南部浮石“ゴロタ”は黄褐色～赤褐色を呈する粗粒浮石で、旧二戸市内では発泡の良い拳大の浮石の場合によっては1mを超える厚い層をなしているが、浄法寺町では堆積は顕著ではない。本遺跡の場合は径5mmほどのバミス粒が厚さ3～5cm程度の薄い層（V層）を形成していることが観察されるにすぎず、その上下の黒色土層に疎らに混入する形で存在している。<sup>14</sup>C年代は8,600±250年とされており、降下年代は縄文時代早期に相当する。一方、二ノ倉火山灰は本遺跡の場合には赤褐色スコリア質バミス粒で、土壌化した八戸火山灰層の上位にごく薄い混入層が見られる。降下年代は概ね10,000～12,000年B.P.と推測され、当テフラの直上には縄文時代早期中葉の文化層が存在することから早期前葉～中葉に相当するものとされている。八戸火山灰は更新世のローム質火山灰であり、AMS<sup>14</sup>C年代では14,500～17,000年B.P.とされ、噴出時期はおよそ15,000年前と考えられている。本遺跡の場合、八戸火山灰は土質・色調の違いから上下2層に分かれている。上層は黄褐色を呈し、その上位は土壌化して黒褐色化している。なお、上段調査区の遺構底面や壁で確認したところでは、本層下位に不整合な細砂層が介在している。この細砂は一見して山砂で、中振浮石が如き火山性のものとは思われない。局的に存在しているのかもしれないが、当細砂層の起源・堆積メカニズムについては不明である。一方、その下位には灰白色凝灰岩層が存在している。層中に炭化した樹幹や粒度の大きい軽石が混在している。この灰白色凝灰岩層の様相は大不動浮石流凝灰岩（32,000年B.P.）に類似しており、大不動である可能性もあるが、ここでは八戸火山灰の下層と捉えておく。本層は一見堅固な岩盤であるが、上層の黄褐色ロームに比して粘性・しまりに欠け、水分を含むと脆く崩壊しやすい。なお、SD01編の法面の観察ではさらに下位の複数のローム層が観察されるが、詳細は不明であり、基本層序としては把握していない。

#### 4 歴史的環境（第4図）

平成18年時点で、二戸市内には603箇所の遺跡が周知されており、うち浄法寺町では縄文時代から近世までの429遺跡が登録されている（註1）。本遺跡の周辺には複数の遺跡が存在している（第3図）。岡幅中では縄文時代～近世の遺跡が存在している。旧石器時代については確認されていない。そのうち、飛鳥台地I遺跡、安比内I遺跡、大久保I遺跡、館II遺跡、桂平II遺跡、沼久保I遺跡、小池遺跡、浄法寺城跡、館II遺跡、太田向館跡について、当センター・県教委生文課および旧浄法寺町教委による発掘調査が行われている。遺跡の内容は以下のとおりである。

縄文時代：飛鳥台地I遺跡、安比内I遺跡、大久保I遺跡、館II遺跡、桂平II遺跡、沼久保I遺跡で遺構・遺物が検出されている。飛鳥台地I遺跡では早期2棟・前期6棟・後期3棟・晚期5棟の堅



第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡

遺跡名	時代	種別	遺物・遺物など	参考
1 吉田館	中世・縄文・古代	城跡跡・集落跡	曲輪、空堀、切岸、虎口、獨立柱建物跡、陶器器、古磚、整穴住居跡(縄文・古代)、獨立柱建物跡、土坑、縫し穴他	岩手県埋文調査 浄法寺町教委調査
2 飛鳥台地 I	縄文～近世	集落跡	整穴住居跡(縄文・古代)、獨立柱建物跡、土坑、縫し穴他	岩手県埋文調査
3 安比内 I	縄文・古代	集落跡	縫し穴、縄文土器	岩手県埋文調査
4 佐 I	縄文	散布地	縄文土器	
5 不動塚	縄文・中世	城跡跡	曲輪、二重堀、土坑、縄文土器	岩手県教委調査関係
6 筒 II	縄文・古代・中世	城跡跡	曲輪、塀、獨立柱建物跡、獨立柱建物跡、土坑、縫し穴他	岩手県埋文調査
7 大久保 I	縄文・中世	集落跡	縫し穴、縄文土器他	岩手県埋文調査
8 杜平 I	古代～近世	集落跡	整穴住居跡(古代)、縫し穴、土坑、獨立柱建物跡、粗筋土器等、須恵器他	報告遺跡
9 桂平 II	縄文・古代	集落跡	整穴住居跡(縄文・古代)、縫し穴、土坑他	岩手県埋文調査
10 沼久保 I	縄文～近世	集落跡	整穴住居跡、縫し穴、土坑他	岩手県埋文調査
11 大坊	縄文	散布地	縄文土器	
12 幸野寺城	中世	城跡跡	曲輪、塀、獨立柱建物跡、獨立柱建物跡、青磁、白磁他	浄法寺町教委調査
13 上外野	古代	集落跡	土器器	壞滅
14 小池	古代	集落跡	土器器	旧「小池II」。岩手県教委調査
15 小池城	不明	塀		
16 岩瀬 III	縄文	散布地	縄文土器	
17 岩瀬 IV	縄文	散布地	縄文土器	
18 岩瀬 V	縄文・古代	散布地	縄文土器、土器器	
19 福敷寺經塚	近世	經塚	經石	

穴住居が検出され、押型文を特徴とする早期の日計式、前期の早稻田6類、後期初頭～前葉、晚期前葉の大洞B式の縄文土器が出土している。後期の堅穴住居は岡幅中では桂平II遺跡、沼久保I遺跡で検出された。

弥生時代：沼久保I遺跡で堅穴住居1棟が検出され、弥生土器は桂平II遺跡でも出土した。

平安時代：飛鳥台地I遺跡、大久保I遺跡、桂平II遺跡、沼久保I遺跡で平安時代の集落跡が確認された。

中世：城館跡としては北東約0.5kmの吉田川対岸に不動館遺跡・館II遺跡、西約0.8kmの安比川対岸に浄法寺城跡が存在している。浄法寺城については平成9年以降、内容確認のための発掘調査が継続的に行われており、掘立柱建物や堅穴建物跡、空堀跡、多数の柱穴等が検出されている（浄法寺町教委1999～2005）。本遺跡東方に位置する館II遺跡は不動館の東郭にあたり、平成17年度に調査が行われた。空堀・大溝によって区画された複数の平場を調査し、掘立柱建物・堅穴建物跡等が検出され、館の繩張変遷の様相が確認された。また、城館ではないが、飛鳥台地I遺跡と沼久保I遺跡では中世の堅穴造構が検出されている。該期の陶器器類は安比内I遺跡、柱平II遺跡、沼久保I遺跡で出土した。

近世：浄法寺城南西に隣接する福蔵寺経塚があるのみで、本遺跡周辺では希薄である。

## 参考文献

- |          |        |  |
|----------|--------|--|
| 岩手県      | 1979   | 『北上山系開発地域 土地分類基本調査 済法寺』                  |
| 町田洋・新井房夫 | 2003   | 『新編 火山灰アトラス－日本列島とその周辺』 東京大学出版会           |
| 岩手県教委    | 2006   | 『岩手県遺跡情報検索システム（平成18年度版）CD-ROM版』          |
| 岩手県埋文    | 1986 a | 『沼久保遺跡発掘調査報告書』 岩手縣文化振興事業團埋藏文化財調査報告書第109集 |
| 岩手県埋文    | 1986 b | 『桂平遺跡発掘調査報告書』 第110集                      |
| 岩手県埋文    | 1988   | 『飛鳥台地I遺跡発掘調査報告書』 第120集                   |
| 岩手県埋文    | 2006   | 『館II遺跡発掘調査報告書』 第497集                     |
| 千葉 正彦    | 2008   | 『古田館遺跡発掘調査報告書』 第520集                     |
| 浄法寺町     | 1997   | 『浄法寺町史（上巻）』                              |
| 浄法寺町教委   | 1991   | 『岩手県二戸郡浄法寺町 遺跡詳細分類調査報告書 I（大字浄法寺地区）』      |
| 浄法寺町教委   | 1996   | 『浄法寺町遺跡地図（1995年版）』                       |

## 5 調査の方法

調査区は、東側からA～D区と大別している。平成18年度調査開始時点の調査予定範囲はB・C区のみで、A・D区は平成19年度に追加となった部分である。

表土除去はバックホー(0.45m<sup>3</sup>)、排土の運搬はキャリアダンプ(6t)を使用した。作業の進捗状況により、台数は増減している。表土除去は、I・II層の除去を目安とし、その下の層で1回目の検出を行った。I・II層の下は、III・IV・V・VIのいずれかの層となる。III～V層が堆積する地点では、各層の上面で検出を行い、順次掘り下げて下層の確認を行った。基本的にVI層を最終検出面とした。最大でIII・IV・VI層の各上面（第1～3検出面）で計3回検出をおこなった。

表土除去後、遺構検出・精査を行った。遺構が確認できない箇所では、人力により下の層へ掘り下げを行なった。土層観察のため、住居跡など大型の遺構は十字にベルトを残し、土坑・柱穴状小土坑（柱穴）は、半裁を基本とした。上層断面の写真撮影、実測を行った後完壊し、完壊状況の写真撮影、平面実測を行なった。

検出した遺構は、検出順に登録した。遺構名は略号を用い、SI（堅穴住居）、SK（土坑・陥し穴）、

SB（掘立柱建物）、SD（溝・堀跡）、P（柱穴状土坑）などと表記した。

写真撮影は、 $6 \times 7$  判モノクロ、35mmモノクロ、デジタルカメラ（一眼レフ35mm相当）を基本的に使用した。一部の遺構については、一眼レフデジタルカメラの代わりに35mmリバーサルフィルムを使用したものや、 $6 \times 7$  判モノクロの撮影を省略したものもある。この他、小形のデジタルカメラをメモ写真程度に使用した。

実測は、業者委託により打設された基準点を元に、光波トランシットを用いて補助杭を打設した。平面図については、光波を用いて直接計測したものと、杭を基準にメッシュを作成し実測したものがある。平面図・断面図ともに基本的には縮尺20分の1で作成し、種類により10分の1で作成したものもある。

遺構図は、調査員が第2原図を作成し、作業員がトレースした。遺物は、作業員が実測したものを調査員が点検し、トレースした。遺構の掲載縮尺は、住居跡60分の1、土坑類40分の1、遺構配置図はこの限りではない。遺物掲載の縮尺は、縄文土器・土師器・陶磁器3分の1、鉄製品2分の1、剥片石器2分の1、疊石器3分の1である。

## 6 基本層序 (第6・7図)

I～VII層まで分層した。写真は調査区東の斜面下部分である。I層は黒褐色～暗褐色土で、現在の表土で畑の耕作土も含まれる。II層は黒褐色～暗褐色土で、盛上層である。I・II層は近・現代に形成されたものとみられる。III層は、ややしまりの弱い黒色土である。地点により、この層の中位にTo-aとみられるテフラを含んでいる。IV層は褐色土で、十和田山中振テフラ（アワズナ）を含む層である。地点により様相が異なり、堆積の薄い地点、純層に近い地点、固結してガリガリに堅くなったり地點などがあるが一括している。V層は暗褐色～黒褐色土である。火山性とみられる白色粒子を含み、しまりは堅い。色調により、Va・Vbと細分した地点もある。VI層は、Vla・Vlb・Vlcと細分した。Vla層は黄褐色土層である。Vlb層は南部浮石層で、層厚は0～数cm程度である。Vlcは黄褐色土層で、八戸火山灰上層とみられる。VII層は砂層である。起源ははつきりしないが、VII層の直上に局所的に存在する。VII層は灰白色土で、堅くしまる。八戸火山灰下層とみられる。陥し穴や堀跡など深い遺構では、このVII層まで掘り込んでいるのが確認された。地点によっては、堆積状況は調査区内で一様ではない。

A区は、I・II層直下がVI層となり、近年に削平を受けたためか、平坦である。宅地に隣接しており、調査前に建物があったようである。

B区は、平坦に近い緩斜面で、北側へ下がる。I・II層の直下は、斜面上ではVI層、斜面下ではIII・IV・V層となる。斜面下のIII層は、遺構が確認できないとみられたため、バックホーでIV・V層上面まで掘り下げた。IV・V層上面の精査の後、人力で掘り下げを行い、VI層上面で検出を行った結果、陥し穴を確認している。

C区はB区に近い状況であるが、南側にIII～V層の堆積がみられる。III層上面で焼上遺構を検出した。III層除去後のIV層上面でも多くの柱穴を確認した。B区と同様、最終的にIV・V層を除去し、VI層上面で陥し穴などを確認した。

D区は、大半が斜面部分で、上段、中段、下段に平坦部がみられた。斜面部分では薄くI層がのるのみで、その下はVI層となる。平坦部は、I・II層の堆積が厚く、その下にIV・V層が堆積する。最上段では、最終検出面であるVI層上面まで、現地表面から約2m近く掘り下げる結果となった。

## 7 野外調査経過

### (1) 平成18年度調査（B・C区）

平成18年度調査は8月17日より開始した。当初予定の調査範囲は、B・C区のみであった。隣接する吉田館遺跡の調査終了後、調査員・作業員がそのまま移動して調査開始する予定であったが、吉田館遺跡の調査が延長されたため、当初は調査員1名、作業員8名で調査を開始し、千葉調査員と残りの作業員は9月から合流している。バックホーによりB区東側から表土除去を開始し、排土は、キャリアダンプで西側のD区に運搬した。ただし、B区南辺の煙草畑に接する通路部分は、畑での作業中のため残した。表土除去の後、遺構検出、精査を進めていった。B区の表土除去後、C区の表土除去を行った。8月30日、基準杭を打設する。

B区では、比較的の検出面が分かりやすかったが、C区では、黒色土中の検出で、当初なかなか状況がつかめなかった。10月10日、連日の豪雨により調査区北側の斜面が一部崩落した。10月14日、現地説明会を開催した（参加者約30名）。B区で残していた南側通路では、北側の調査で予想していたよりも多くの住居跡が検出された。C区は、黒色土であるⅢ層上面で焼土遺構・柱穴を確認したが、重複が激しく、なかなか全容がつかめなかった。下層から、古代・縄文時代の遺構が検出されることも予想され、18年度中の終了が厳しいとの見方が強まってきた。また、当初調査範囲外であったA区、D区についても遺構が確認される可能性が浮上してきた。このような状況から、11月1日、協議が行われ、19年度へ調査の延長が決定された。11月2日航空写真撮影。B区は調査を終了させたが、C区は第1面の検出作業までで打ち切りとなった。C区の未了部分はシートをかけ、11月22日資材を撤収した。B区は11月28日まで重機により埋め戻し作業を行った。

### (2) 平成19年度調査（A・C・D区）

平成19年度調査は8月17日から開始した。作業員数は22名である。作業員を二手に分け、C区の精査を行なう班とA・D区の精査を行なう班に分かれて作業を進めた。

C区はシートを剥がし、再検出作業を行ったが、依然として状況はつかめなかった。精査を進めて行くにつれ予想以上に柱穴が重複し、深いものが多いことが判明した。多くの柱穴と重複して土坑や、住居跡が存在することが確認された。C区北辺部は、D区への重機の進入路となることから、先行して終了させた。9月5日基準杭打設。

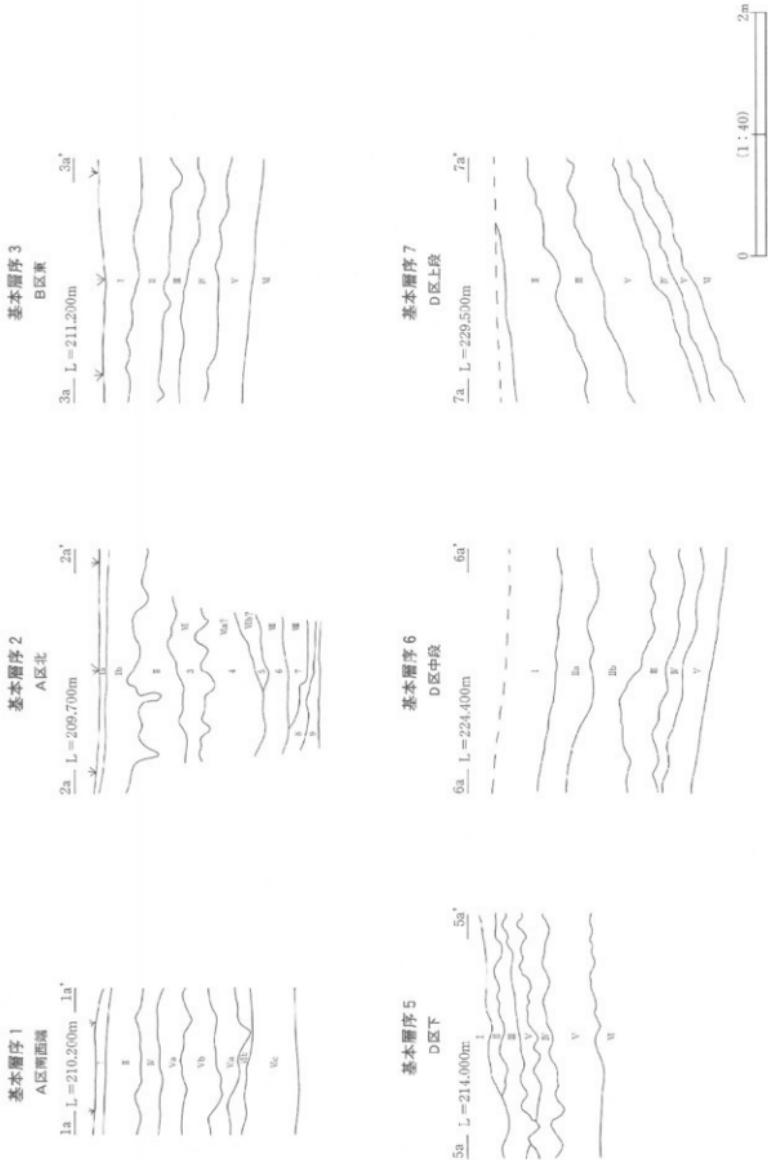
調査区東端のA区は民家が隣接し、調査区への進入路にかかるため、一度に表土除去を行なうことことができず、最初に北側半分を調査し、一旦埋め戻した後南側の調査を行った。18年度終了したB区を排土場とした。

調査区西端のD区は大半が斜面であるが、斜面部は全面的な表土除去は行なわず、基本的にはトレンチのみの調査で終了した。上段・下段の平坦部分については、面的に表土除去を行なっている。9月18日、集中豪雨があったが、調査区内外ともに被害はなかった。10月24日、航空写真撮影。

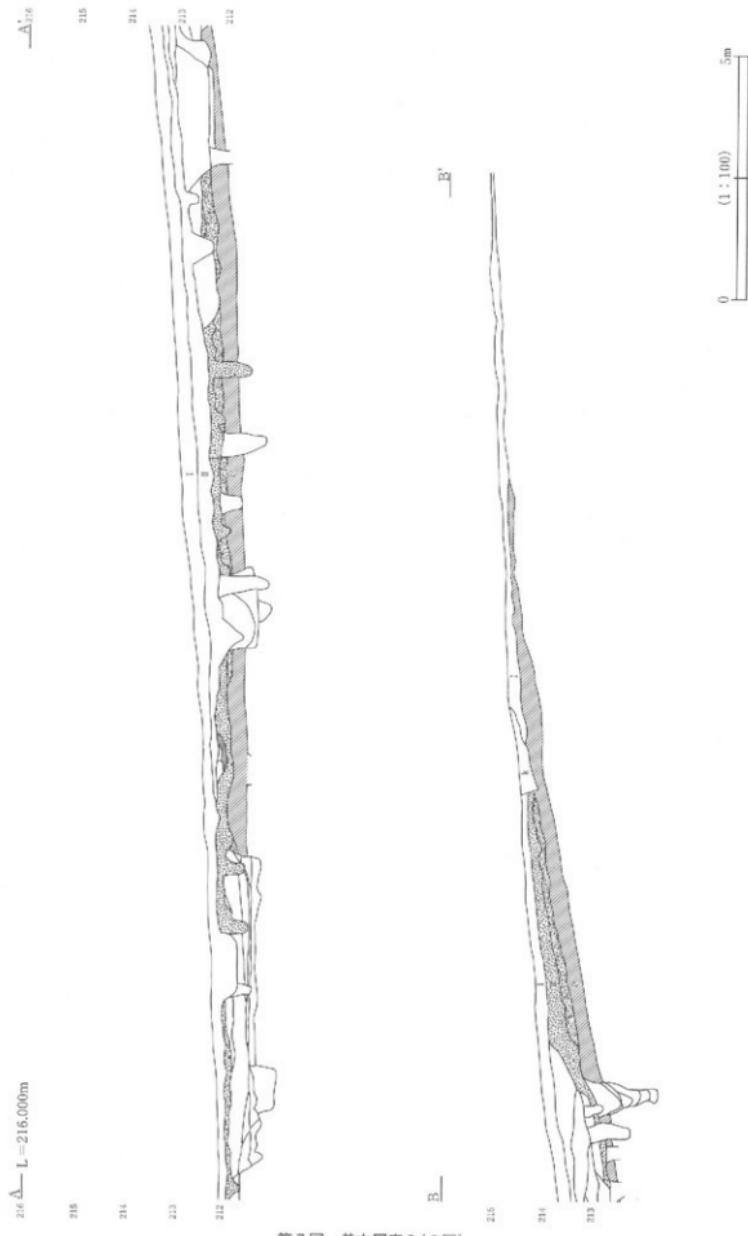
A区、D区の作業は10月では終了した。11月は作業員が合流し、C区で最終検出面までの掘り下げを行なった。11月13日に作業員による作業は終了し、資材を撤収した。その後重機によりC区の埋め戻しを行い、11月15日すべての作業を終了した。



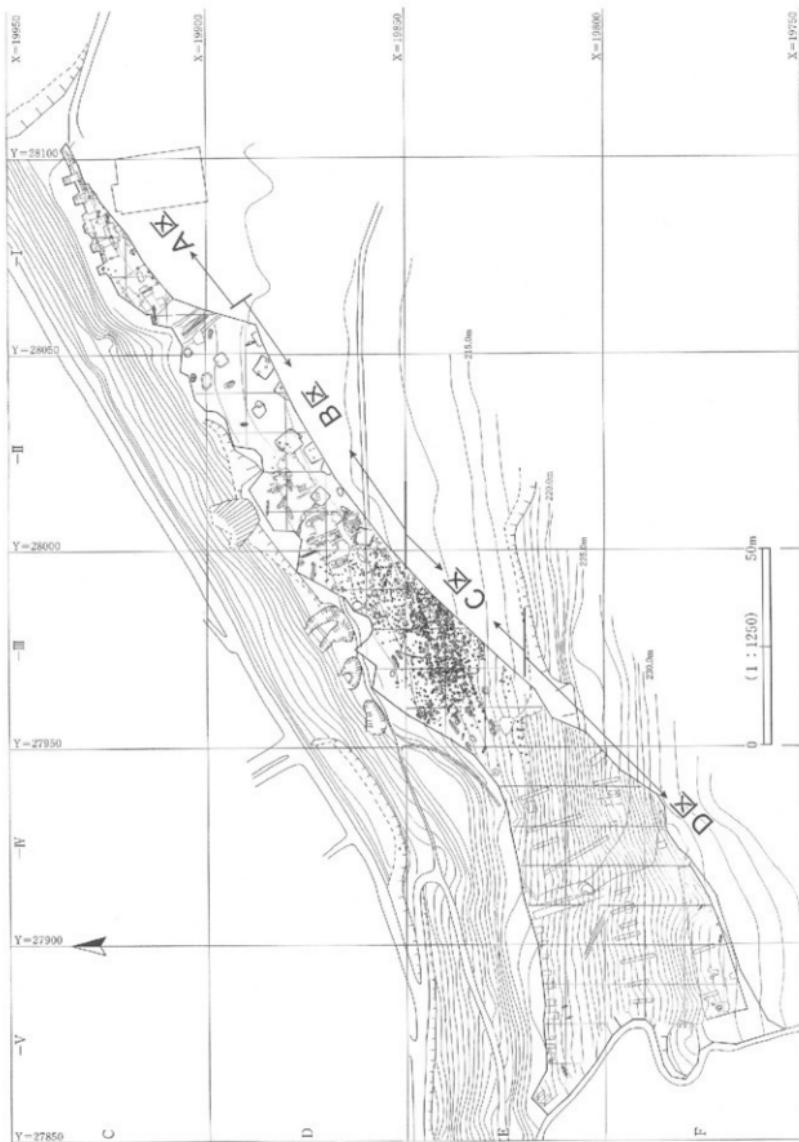
第5図 調査範囲・グリッド配置図



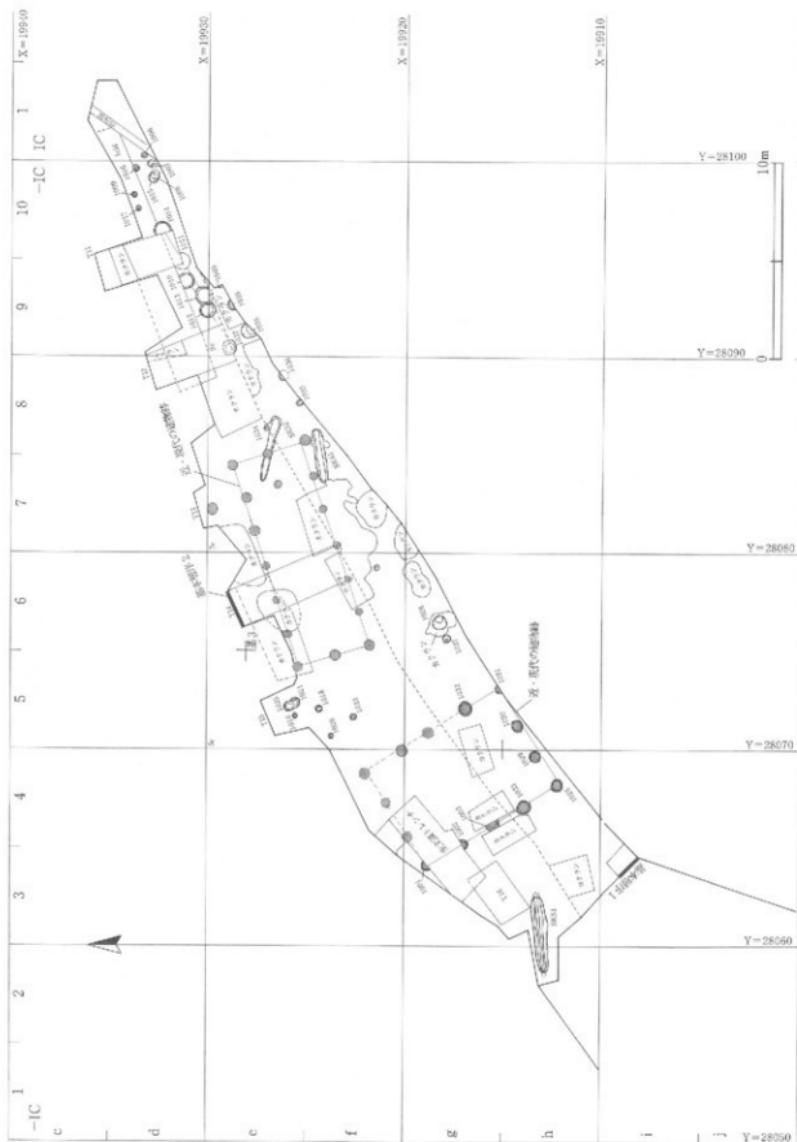
第6図 基本層序1(A・B・D区)



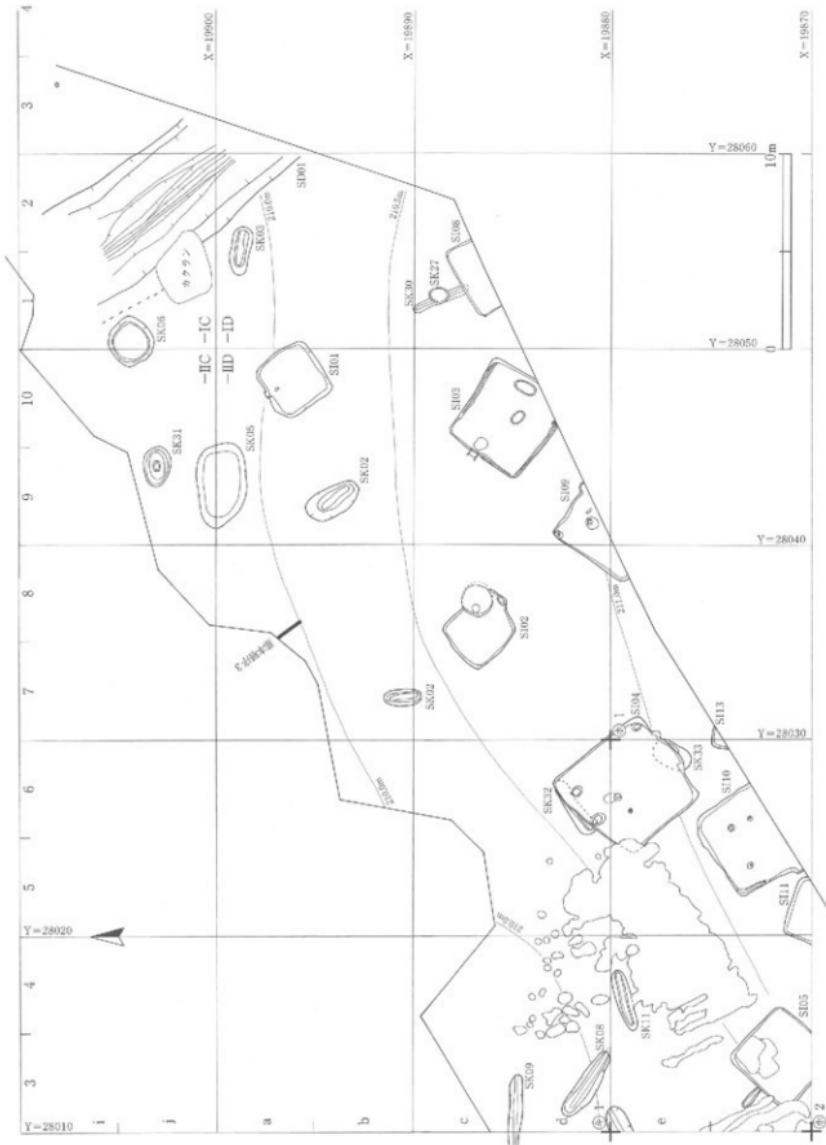
第7図 基本層序2(C区)



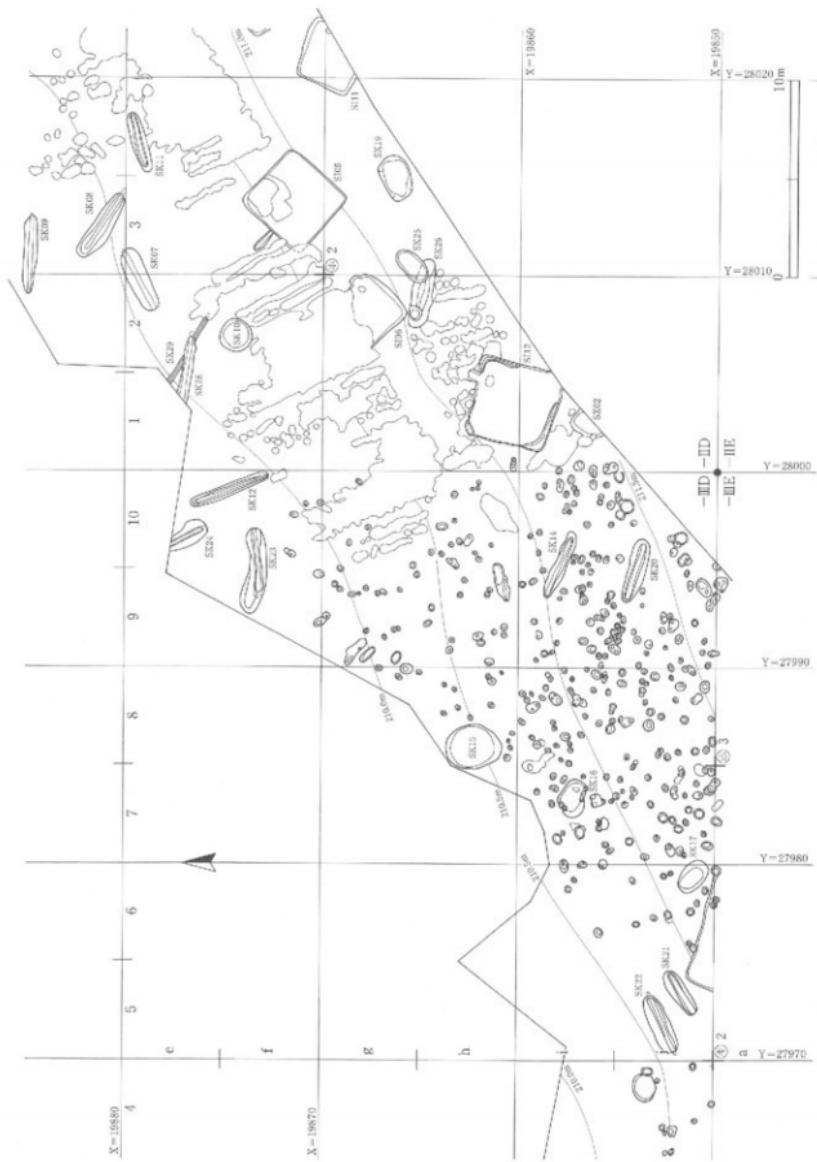
第8図 遺構配置図①(全体)



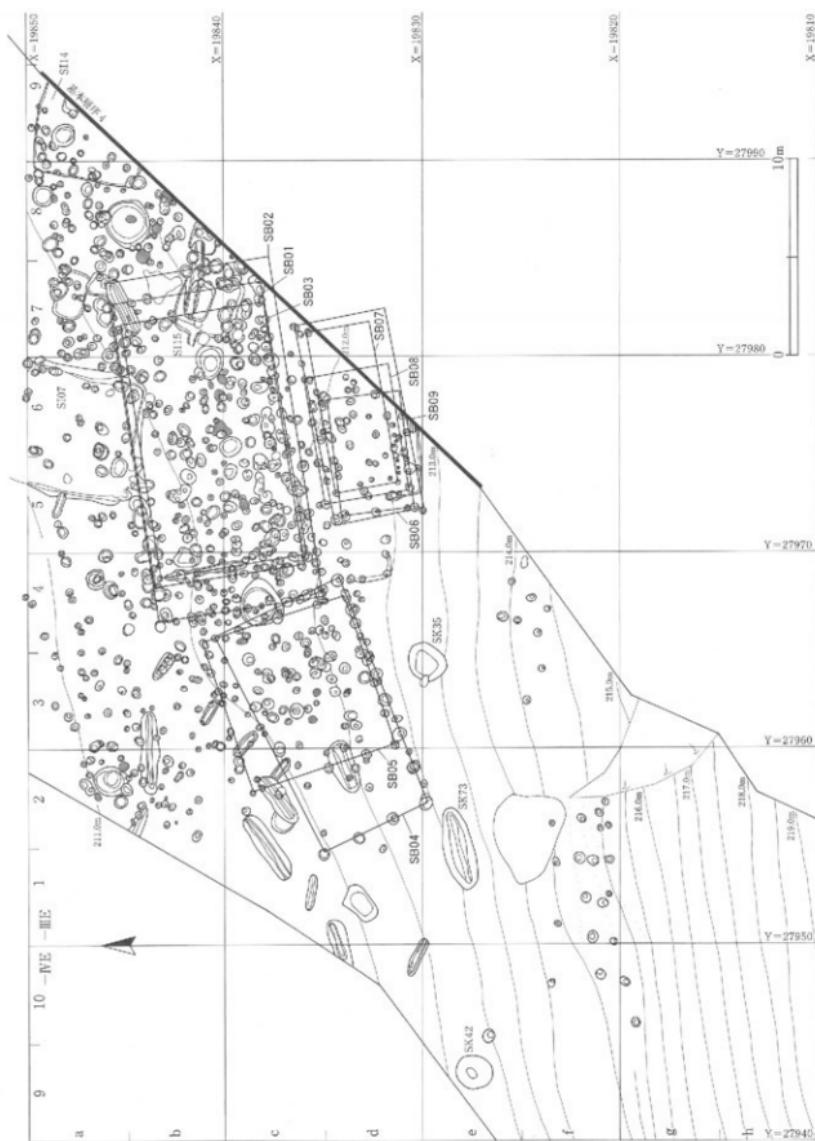
第9図 遺構配置図②（A区）



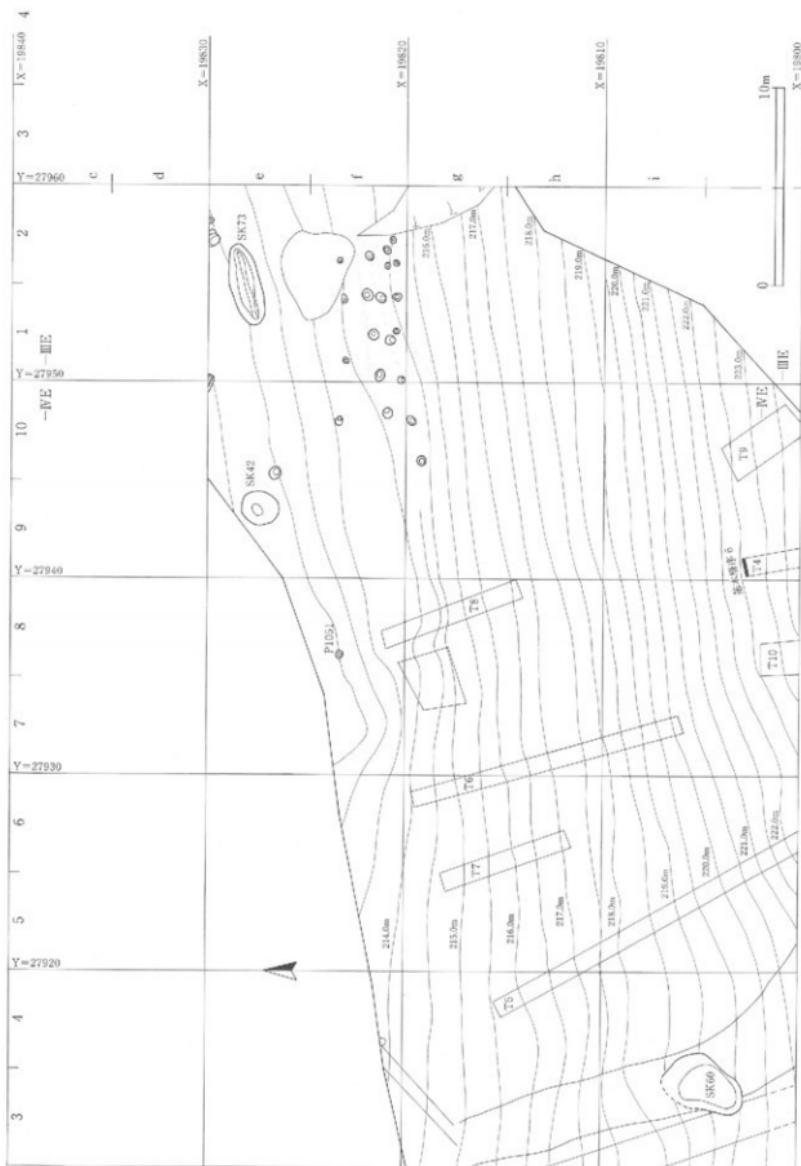
第10図 遺構配置図③（B区1）



第11図 遺構配置図④（B区2）



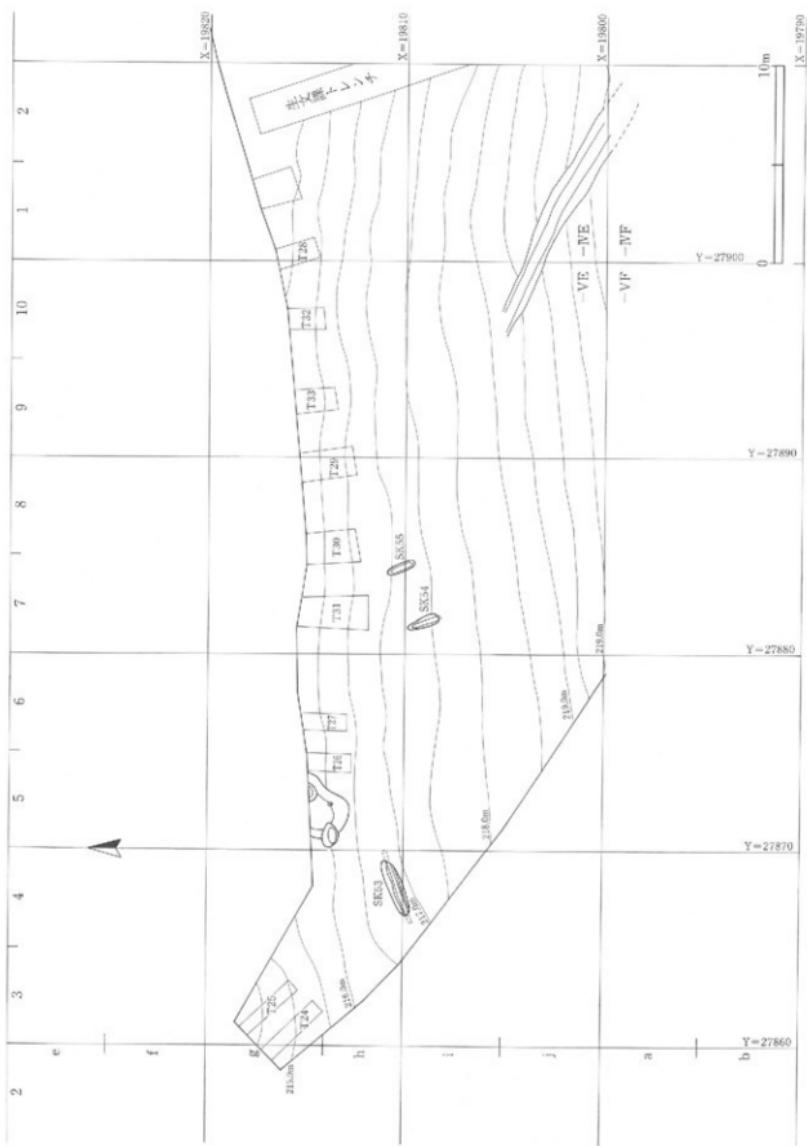
第12図 遺構配置図⑤ (C区)



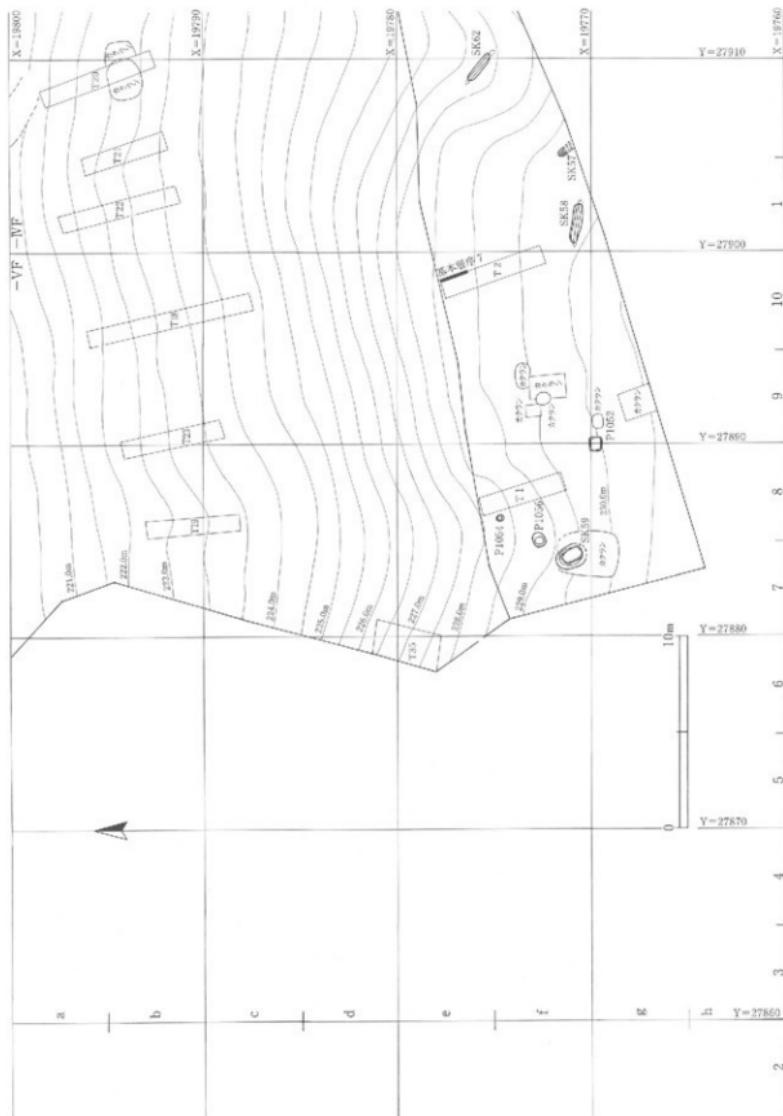
第13図 遺構配置図⑥ (D区1)



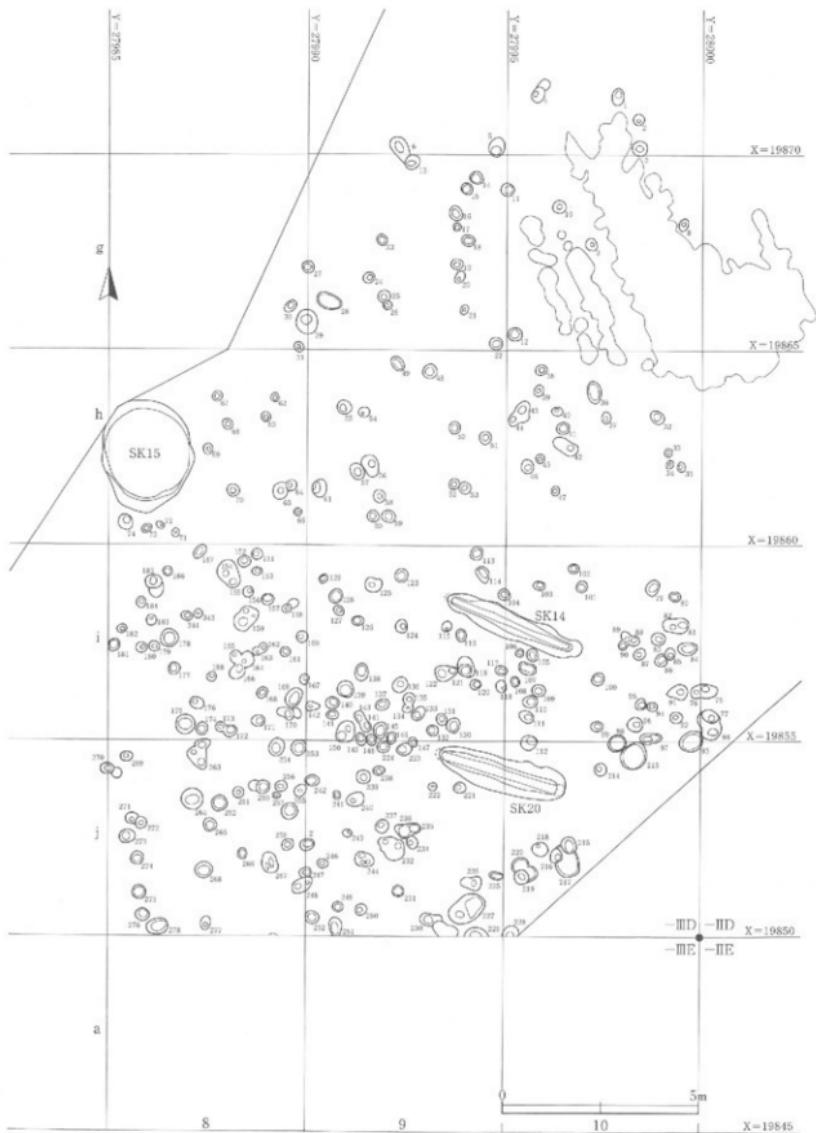
第14図 遺構配置図⑦（D区2）



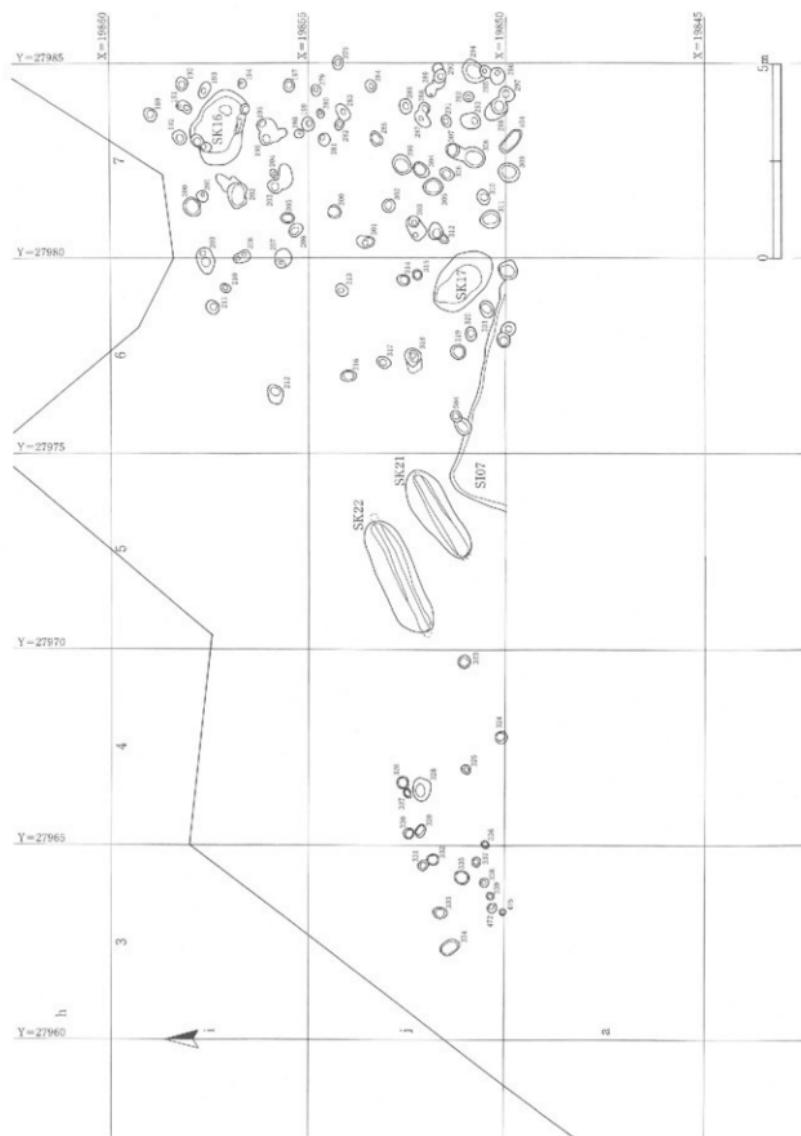
第15図 遺構配置図⑧（D区3）



第16図 遺構配置図⑨(D区4)



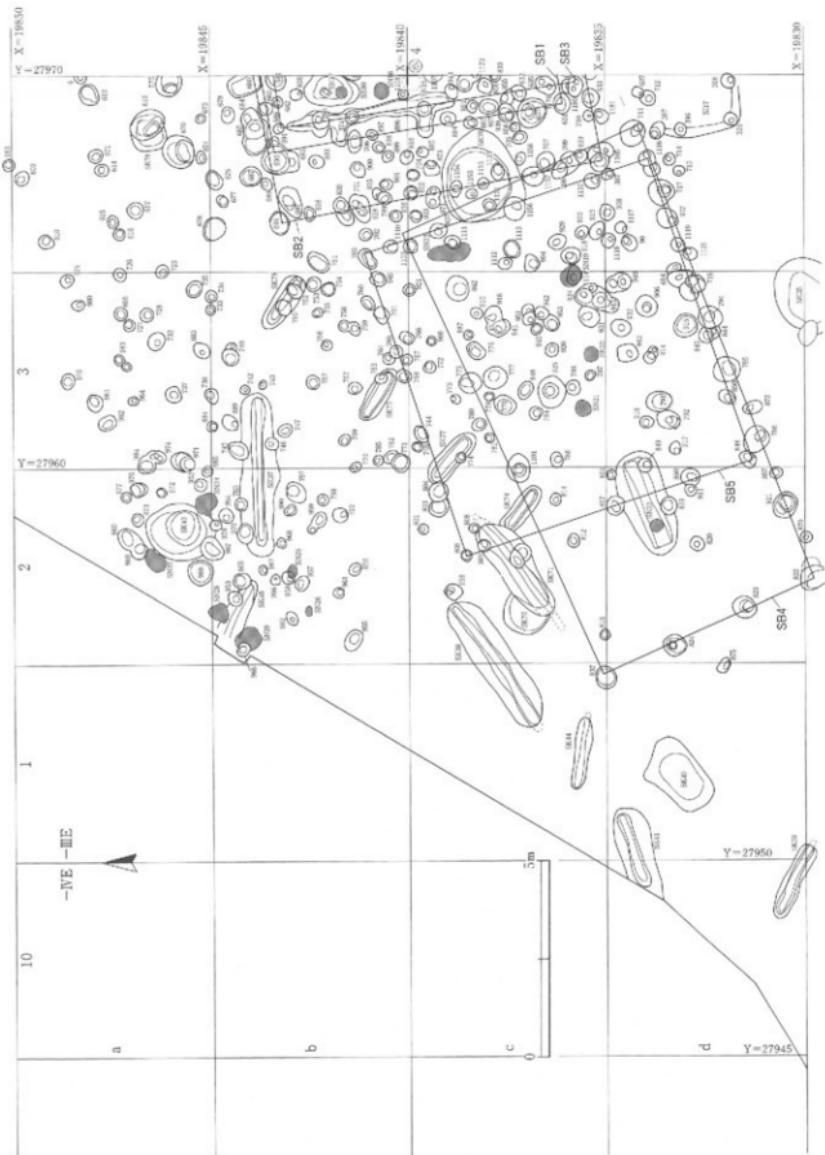
第17図 遺構配置図⑩（C区拡大1）



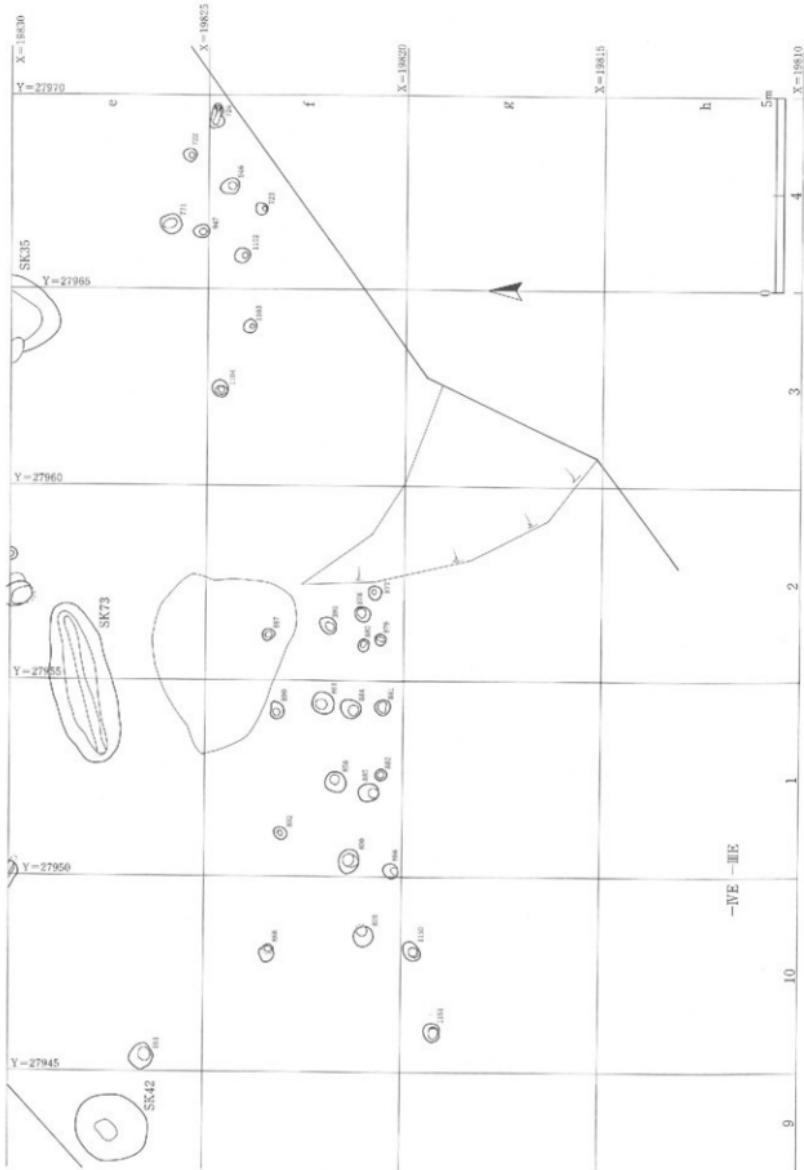
第18回 遺構配置図①（C区拡大2）



第19図 通構配置図② (C区拡大3)



第20図 遺構配置図⑬（C区拡大4）



第21図 遺構配置図④ (C区拡大5)

### III 検出遺構と出土遺物

#### 1 壇穴住居・壇穴住居状遺構

##### S I 01壇穴住居（第22・78図、写真図版12）

〔位置〕B区東側、- II D 10 a グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕重複する遺構はない。

〔検出状況・埋土〕V層上面において、黒褐色土の方形プランとして検出した。検出プランの北西隅にはTo-aとみられる灰白色火山灰ブロックや焼土粒が多く混入するのが確認された。埋土は黒褐色土が主体で、火山灰や黄褐色土のブロックと焼土粒を混入する。上位に多く集中する傾向がみられたが、分層はできなかった。北西壁が一部外側へ張り出しが、埋土と地山の区別が難しかったため掘りすぎた可能性がある。

〔形状・規模〕平面形は方形で、長軸方向はN-33°-Wである。規模は北西-南東壁間が3.26m、北東-南西壁間が3.24m、深さが0.42mである。床面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。床面に縫まった部分は特に確認されなかつたが、カマドの焼成面と同一レベルを床面と考えた。柱穴や周溝などの床面施設は一切検出できなかつた。貼り床はほぼ全域で確認され、カマドのある北側は床下30cmの深さまで掘り込まれていた。貼り床は黄褐色土ブロックが混入する暗褐色土主体で、周囲の地山と類似し区別が非常に困難であった。

〔カマド〕カマドは北西壁のほぼ中央に設置されている。カマド周辺の床面上には、構築土とみられる焼土混じりの白色～黄色粘土が広がった状態であったが、崩落により動いたものと考えられる。煙道は短く、住居壁から20cmの所ですぐに立ち上がる。煙道の両脇には、板状に加工された軟質の砂岩が設置されていた。袖部分にも同様の砂岩が埋め込まれていた。燃焼部焼土の範囲は22×20cm、焼成深度は床下3cm程度である。焼成は弱く、焼成面はほとんど縛まりがなかつた。

〔出土遺物〕土師器壺1点（1）を掲載した。土師器の出土総量は88gである。他は壺の小破片のみで固化しなかつた。1はロクロ使用で、内面にミガキ・黒色処理が施される。体部が内湾し、口唇部がわずかに外反する器形である。底部は残存せず不明である。

〔時期〕出土遺物と火山灰の混入状況から、平安時代の遺構と考えられる。

##### S I 02壇穴住居（第22・78図、写真図版13）

〔位置・重複関係〕B区東側、- II D 8 c グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕東側でS K18十坑を切る。

〔検出状況・埋土〕検出は、VI層上面において黒褐色土の方形プランとして確認した。プラン内にはTo-aとみられる灰白色火山灰がブロック状に混入していた。埋土は黒褐色土が主体で、最上位に火山灰の大ブロック、中位に黄褐色土ブロックが混入するが、境界が不明瞭であり分層はできなかつた。

〔形状・規模〕平面形は方形で、長軸方向はN-46°-Wである。規模は北西-南東壁間が3.61m、北東-南西壁間が2.98m、深さが0.18mである。床面は平坦で、中央部分がやや堅く縮まる。壁は外傾して立ち上がる。南東壁が一部張り出した形状となっており、ここで柱穴状土坑P 1を確認した。P 1の埋土上には多量の炭化物が混入していた。周溝は確認されなかつた。貼り床はほぼ全面に施されるが、中央部に比べ周辺部が深く、床下20cmまで掘り込まれている。

〔カマド〕カマドは、燃焼部焼土のみを確認し、煙道や袖などの構築物は確認できなかった。焼土は北東壁のやや南よりの部分で検出した。ここはSK18土坑との重複部分にあたり、SK18土坑の埋土直上に焼土が形成されている。燃焼部焼土の範囲は50×41cmで、床下8cmまで焼成が及ぶ。焼成は強く、焼成面はやや堅く縮まっていた。

〔出土遺物〕土師器壺4点（2～5）を掲載した。土師器の出土総量は1,026gである。

壺2～5はいずれもロクロ不使用で、2～4は口縁～体部、5は底部付近である。2・4は口縁部が短く外反し、体部外面に縱方向のナデ、内面に横方向のナデが施される。胎土に砂粒・小礫を多く含み、脆い印象を受ける。3は内面に横方向のナデが施され、外面には弱くケズリ調整されるが、輪積み痕が顕著に残る。5は砂底で、体部はナデ調整される。

出土位置はすべて住居跡の東隅で、上器片と黄褐色土・焼土粒の混合物がまとまった状態で出土した。カマドの構築上である可能性もあるが、焼土と離れている。3～5はSI05堅穴住居の埋土出土の破片と接合した。

〔時期〕出土遺物と火山灰の混入状況から、平安時代の造構と考えられる。

#### S I 03堅穴住居（第23・79・80図、写真図版14）

〔位置〕B区東側、-II D10cグリッド付近に位置する。

〔重複関係〕重複する造構はない。南隅周辺は調査区外にあり確認できなかった。

〔検出状況・埋土〕VI層上面において、黒褐色土の方形プランとして検出した。検出面において、埋土中にTo-aとみられるブロック状の灰白色火山灰が疊らに含まれるのが確認できた。埋土は5層に細分した。黒褐色土を主体とするが、上～中位は火山灰ブロックや大きめの黄褐色土ブロックが多く含まれ、實際は混入物が少ない。

〔形状・規模〕平面形は方形で、長軸方向はN-53°-Wである。規模は北西-南東壁間が4.84m、北東-南西壁間が4.68m、深さが0.38mである。床面は平坦で、壁は直立に近い角度で立ち上がる。床面で柱穴状土坑2基（P1・4）、土坑2基（P2・3）を確認した。また、北隅と南東壁を除いた壁の内側で深さ20cm程度の周溝を確認した。貼床はほぼ全面に施されていた。

〔カマド〕カマドは北西壁の中央付近に設置されている。煙道は短く、壁から40cmの所ですぐに立ち上がる。煙道の側面と袖とみられる部分には、厚さ8cm程度の板状に加工された軟質の砂岩が設置されていた。また、煙道の中央には同質の礫が蓋のように被さった状態であった。煙道の天井として用いられたものとみられる。燃焼部焼土の範囲は65×60cm、焼成深度は床下12cmである。強く焼成を受けた様子で、焼成面は非常に堅く縮まっていた。燃焼部の煙道側には堅く盛り上がった部分があり、支脚の役割を果たしたものではないかと考えられる。

〔出土遺物〕土師器壺2点（6・7）、土師器壺12点（8～19）、小形土器1点（20）を掲載した。この他に磨石1点（201）、刀子1点（301）が出土した。土師器4,148gが出土し、このうち壺6はロクロ使用で、内面にミガキが施されるが、黒色処理はされていない。7は器面の剥落が著しく、ロクロ使用の有無が不明である。内面にはミガキ・黒色処理が施される。壺は8～13が口縁部付近、16～19が底部付近である。いずれもロクロ不使用で、口縁部にヨコナデ、体部外面に縱方向のナデまたはケズリ、内面に横方向のナデが施される。口縁部はいずれも短く外反する。8は法量が他よりもやや小さい。底部は14・16に木葉痕がみられ、18が砂底である。20は手握ねの小型土器で、コップのような形状である。15はSI02堅穴住居出土の破片と接合した。

磨石201は表裏に磨り痕がみられる。刀子301は完形で全長12.0cmである。

〔時期〕出土遺物と火山灰の混入状況から、平安時代の遺構と考えられる。

#### S 104堅穴住居（第24・81図、写真図版15・16）

〔位置〕B区中央、一Ⅱ D 6 e グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕北側でSK32土坑、南側でSK33土坑を切る。また、西隅は耕作痕によって削平されている。

〔検出状況・埋土〕VI層上面において黒褐色土の方形プランとして検出した。埋土は黒褐色土を主体とする。床面から10cmの高さには、B-Tmとみられるにぶい黄橙色火山灰が2cmの厚さで堆積する。その下層には黄褐色土ブロックが多く混入し、壁際は混入物が少ない。

〔形状・規模〕平面形は方形を基調とするが、図では北壁のSK32土坑と重複する付近と、南壁のSK33土坑と重複する付近が直に外側へ張り出す。これは重複する遺構の埋土を誤って掘ってしまったためと考えられるが、復元できないので調査で掘った通りの図を示した。長軸方向はS-40°→E、規模は北西-南東壁間が5.98m、北東-南西壁間が5.40m、深さは0.26mである。床面は平坦で、カマド周辺から住居跡の中央付近にかけて部分が硬化していた。壁は外傾して立ち上がる。床面施設は、柱穴状土坑4基（P 1～4）を確認したが、配列に規則性がなく、上屋を支える柱穴か定かではない。この他に、地床炉1基を確認している。P 4と重複し、範囲は70×50cm、深さ8cmまで焼成を受けている。貼床は全面に施される。

〔カマド〕南東壁の東により設置している。多量の礫が重なり、その上に構築土とみられる白色粘土が被さったような状況であった。意図的に破壊したような様相が窺えた。崩落により動いたとみられる礫を上から順次除去していくと、礫と礫の間に土師器甕が出土し、その下に燃焼部焼土が現れた。甕は明確に床面に刺さった状態のものではなく、崩落したものとそうでないものとの判別が困難であったが、床面直上のものを原位置と捉えると、燃焼部を挟んで「ハ」の字形に配列していたと考えられる。燃焼部焼土は79×65cmの範囲で広がり、10cmの深さまで強く被熱していた。焼成面は堅く締まる。煙道部分は短く、壁から20cmの所ですぐに立ち上がる。

〔出土遺物〕土師器甕7点（21～27）を掲載した。土師器の出土総量は2,935gである。体部外面にナデまたはケズリ、内面にナデ調整が施される。27のみロクロ使用である。21は、頸部付近に「大」の字の刻書がある。ロクロ使用の坏口縁部片2点が出土しているが、図面掲載していない。出土位置はカマド付近が最も多い。

〔時期〕出土遺物と火山灰の混入状況から、平安時代の遺構と考えられる。

#### S 105堅穴住居（第25・82・83、写真図版17）

〔位置〕B区中央、一Ⅱ D 3 f グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕重複する遺構はない。中央部は搅乱により底面以下まで大きく削平されていた。西隅付近は耕作痕によって破壊されている。遺構上部は全体的に削平されたものとみられる。

〔検出状況・埋土〕VI層上面で、黒褐色土の方形プランとして検出した。北東壁付近では土器片が埋土から露出し、炭化物や焼土粒が散らばった状況であったためカマドの存在が予想できた。埋土は黒褐色土主体で、To-aとみられる火山灰ブロックや、炭化物・焼土ブロックが混入する。床面直上では、白色火山灰の面的な堆積が確認された。また、炭化物と焼土の大きな広がりが確認された。

〔形状・規模〕平面形は方形で、軸方向はN-46°→Wである。規模は、北東-南西壁間が4.04m、北西-南東壁間が3.84mである。深さは、削平の少なかった南隅付近で0.30mであるが、削平を受け

た大半の部分では床面から0.08m程度の高さしか残存しなかった。床面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

床面では、北隅に土坑1基（P1）を確認した。開口部が1.50×1.00mで、深さ0.80mである。床面施設としては規模が大きすぎ、住居よりも古い時期のものもある可能性もあるが、確認することができなかつた。柱穴・周溝などは確認されなかつた。

〔カマド〕カマドは、北西壁の中央付近に設置されている。燃焼部焼土は、一部を搅乱に切られる。規模は煙道の軸方向で46cm、焼成深度8cmである。焼土の南東側にはごくわずかであるが白色粘土が確認され、これが袖部分とみられる。煙道は、浅い直線的な掘り込みを壁から1.30m先まで確認した。上位を削平されているため、倒り貫き式か掘り込み式かは不明である。

カマド付近から中央にかけての床面直上で焼土の広がりを確認した。この焼土は原位置のものではなく、炭化物も多く混入していた。これを除去したところ、カマド燃焼部とみられる焼土と、南側にこれとは別の焼土（焼土2）を確認した。焼土2は、非常に堅く綺まっていた。

〔出土遺物〕土器類5点（28～32）、須恵器甕（33）を同化した。他に磨石2点（202・203）、台石（204）、鉄製鎌（302）が出土した。土器の出土総量は2,573gである。

甕28・32は口縁部が極めて矧い。29～31は底部付近で、外底面にはナデまたはケズリ調整が施される。33は外面に平行タキ目がみられる。出土位置は、南隅の床面上にまとまって出土したほか、カマドのある北側で多く出土した。埋土の残存が薄いため、埋土中の遺物もほぼ床面近くにあったものと考えられる。

磨石203は表裏に磨面がみられる。202は断面が三角形に近く、2面に磨面がある。204は片面に磨痕がある。

〔時期〕出土遺物と火山灰の混入状況から、平安時代の遺構と考えられる。

#### S I 06壁穴住居（第26・84図、写真図版18）

〔位置・重複関係〕B区西側、- II D 2 gグリッド付近に位置する。

〔重複関係〕重複する遺構はない。北西側は耕作痕によって大きく破壊され、遺構上部はS I 05壁穴住居と同様大きく削平されたとみられる。

〔検出状況・埋土〕VI層上面で、黒褐色土のプランとして確認した。北側の壁の立ち上がりは確認できなかつた。

〔形状・規模〕平面形は方形であったと推測される。軸方向はN-47°-Eで、規模は残存する北東-南西壁間が3.10mと、やや小規模である。深さは、壁の残存する南東側で0.52mであるが、削平を受けた北西側では8cm程度しか壁が残存しなかつた。床面は平坦で、壁は外傾する。柱穴・土坑・周溝など床面施設は確認できなかつた。貼床も確認されなかつた。

〔カマド〕カマドは、燃焼部焼土のみを確認した。位置は北東壁の南より部分である。焼土の範囲は34×32cmの円形であり、深さは4cmで、焼成はそれほど強くない。この焼土の直上には土器片や白色粘土・炭化物・焼土粒の混合物が確認されたため、これらがカマドの構築物であった可能性が高い。また、焼土から壁の外側へ向かって20cmほど張り出すように掘ることができたため、煙道の残存部分の可能性が高いと推測される。

〔出土遺物〕甕6点（34～39）を掲載した。土器類の出土総量は2,024gである。

34～36は口縁部～部体、37～39は底部付近である。いずれもロクロ不使用で、口縁部にヨコナデ、部体外面に縦方向のナデまたはケズリ、内面に横方向のナデ調整が施される。底面は37・38にナデ調

整、39に木葉痕がみられる。出土したのはすべて壺で、坏は含まれない。出土地点は、カマド燃焼部直上および周辺部が多い。36はS K25土坑出土の破片と接合し、39はS I 03堅穴住居埋土出土の破片と接合した。

〔時期〕出土遺物と火山灰の混入状況から、平安時代の造構と考えられる。

#### S I 07堅穴住居（第27・28・85～87図、写真図版19・20）

〔位置〕C区東側、一ⅢE 6 aグリッド付近に位置する。

〔重複関係〕S N18が埋土最上面で確認された。また、複数の柱穴状土坑に埋土を切られていたとみられるが、十分確認せず掘り過ぎてしまった可能性が高い。

〔検出状況・埋土〕IV層およびVI層黄褐色土上面で、黒褐色土の方形プランとして検出した。埋土は、上位が黒褐色土、中位が黒色土、下位が暗褐色土である。西壁際では焼土塊がまとまって出土し、床面直上に炭化材が多く出土した。炭化材は、北西隅・北東隅・南壁中央付近の3箇所に大きく分かれて確認された。炭化材は、鑑定によりケヤキが多いと判明した。焼失住居であった可能性が高いと考えられる。

〔形状・規模〕平面形は方形で、軸方向は、N-80°-Wである。規模は、南-北壁間が6.56m、東-西壁間が6.34mと他の住居跡と比べ群を抜いて大きい。深さは0.85mである。床面は平坦で、壁は外傾するが、斜面上に当る南側と東側では壁の崩落が著しい。

床面から柱穴状土坑21個（P 1～21）を確認した。このうちP 1・9・12・20の4個が方形に配列し、規模も近いことから、住居の主柱穴である可能性が高いと考えられる。他については、深さも一定ではないため、詳細は不明である。貼床は全面に施されるが、北西側の4分の1が深く、深いところで床下35cmである。

〔カマド〕カマドは北壁中央に確認された。確認できたのは燃焼部焼土と煙道のみで、袖は残存しなかった。構築物の残骸とみられる黄橙色土がわずかに確認され、その直下に焼土を確認した。燃焼部焼土は45×40cmの楕円形の範囲で、厚さは6cmである。焼成はそれほど強くなく、焼成面も硬化していなかった。焼土付近の壁から外側へ、浅い直線的な掘り込みが確認され、これが煙道とみられる。長さは壁から1.10mである。

カマド以外に、床面で焼土2基（焼土1・2）を確認した。焼土1はカマドの反対側、東壁の南よりで検出した。前述したカマドと別時期のカマドであるという可能性もあるが、煙道や構築物など、カマドとしての痕跡は見出せなかった。範囲は45×40cmの楕円形で、厚さは7cmである。焼成は強くなく、縮まりは弱い。焼土2は床面中央のやや北よりで検出した。これは当初床面上に小さく見えていたが、貼床を除去する際に上から床を削っていったところ、範囲が広がり明瞭となった。範囲は35×35cmの円形で、厚さは5cm、焼成は弱く縮まりはない。

〔出土遺物〕土器器坏2点（40・41）、土器器壺6点（42～47）、須恵器壺1点（48）、磨石7点（205～211）、刀子1点（303）、劫鉤車1点（304）を掲載した。土器の出土総量は2,289gである。

坏はいずれもロクロ使用で、内面にミガキ・黒色処理がみられる。40は底面に回転糸切り痕がみられる。土器器壺はいずれもロクロ不使用で、外面に縦方向のナデまたはケズリ、内面に横方向のナデ調整が施される。43・47は、底面にナデ調整がみられる。42はやや大型、43はやや小型の壺である。48は壺の肩部とみられる。211は炭化物が付着する。

〔時期〕出土遺物から、平安時代の造構と考えられる。

S I 08堅穴住居（第26・87図、写真図版21・22）

〔位置・重複関係〕B区東側、-I D 1 c グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕北側でS K30陥し穴を切る。南東側の大半は調査区外にあり確認できなかった。

〔検出状況・埋上〕V層上面で、黒褐色土のプランとして検出した。埋上は最上位に浅黄橙色火山灰が確認された。鑑定の結果、白頭山火山灰であることが判明した。中～下位は黄褐色土ブロックを含む黒褐色土である。床面直上には焼土層があり、床面上には原形を留めた炭化物が複数確認できた。

〔形状・規模〕平面形は方形と推測される。確認できた北西壁を基準とすると、軸方向はN-60°-Eで、規模は北東-南西壁間が3.86m、深さ0.44mである。床面は平坦で、壁は直立に近い。

壁際と埋土の中位あたりから大量の焼土が出土した。また、炭化材が床面中央から隅の方向へ放射状に伸びるように確認された。炭化材同定の結果、木材は大半がケヤキであることが判明した。

柱穴や周溝は確認できなかった。貼床はほぼ全面に施され、深いところで床下10cm程度である。

〔カマド〕調査範囲内にカマドは確認できなかった。

〔出土遺物〕土師器壺1点（49）を掲載した。49は内面にミガキ・黒色処理が施され、底面に回転糸切り痕がみられる。土師器の出土総量は106gである。

〔時期〕出土遺物と火山灰の堆積状況から、平安時代の遺構と考えられる。

S I 09堅穴住居（第29・87図、写真図版23）

〔位置・重複関係〕B区東、-II D 9 d グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕重複する遺構はない。南東側の大半は調査区外にあり確認できなかった。

〔検出状況・埋上〕VI層上面で、黒褐色土のプランとして検出した。埋上は黒褐色土主体で、To-aとみられる火山灰ブロック・黄褐色土粒を含む。壁際は混入物が少ない。

〔形状・規模〕平面形は方形と推測される。軸方向は、北西壁を基準とするとN-60°-Eである。規模は、確認できた北東-南西壁間が4.56mで、深さは0.36mである。

貼床は全面に施され、深いところで床下0.15m程度である。床面に柱穴状土坑2個（P 1・2）を確認したが、柱穴であるという断定はできない。

〔カマド〕カマドは、はっきりとした痕跡が確認できなかった。ただし北東側の調査区境付近では、焼土・炭化物粒・白色粘土の混合したものが床面上にあり、その直下で焼土を確認した。ただし、焼成は非常に弱く、形状も不整である。焼土付近では土師器片も多く出土している。また、焼土付近から壁の外側へ30cm伸びる浅い掘り込みがあり、煙道ではないかと推測できる。以上のことから、この北東壁にカマドがあった可能性が高いとみられるが、大半の部分は調査区外にある。

〔出土遺物〕土師器壺3点（50～52）、紡錘車1点（305）を掲載した。土師器の出土総量は981gである。出土したのは壺のみで、壺は含まれない。出土位置は焼土付近に集中する。51は小型の壺で、外面にケズリ、内面にハケメ調整が施される。底部は厚く、砂底である。50・52は口縁部～体部のみの残存で、内面にナデ、外面にケズリまたはナデ調整が施される。紡錘車305は炭化材の直上で出土した。軸は失われ、円盤部分のみが残存する。

〔時期〕出土遺物から、平安時代の遺構と考えられる。

S I 10堅穴住居（第30・31・88・89図、写真図版25・26）

〔位置〕B区中央、-II D 6 f グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕重複する遺構はない。南東側は調査区外にあり確認できなかった。

〔検出状況・埋土〕 V層上面で、黒褐色土のプランとして検出した。埋土は、黒褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックを多く含む。中位には混入物の少ない層を挟む。火山灰の堆積は確認できなかった。下位～床面直上に焼土層があり、床面直上には炭化材が多く確認された。このことから、焼失住居とみられる。焼成は床下まで及んでいた。床面の炭化材は、北隅付近に特に集中する。一部は格子状に重なった状況であり、焼失後の状況について詳細は明らかではない。焼土は反対側の南西側に多く残存した。南隅の一角は掘りすぎてしまったが、ここにも焼土は存在したとみられる。床面直上に、長方形に加工された軟質の砂岩が出土した。規模は $55 \times 45 \times 8$  cmで、表面を工具で削り平坦面を作り出した痕跡が確認できた。材質が非常に脆く、取り上げようとしたときにばらばらになってしまった。何らかの作業台として用いた可能性が高いが、詳細は不明である。すぐ脇に砂岩の偏平盤が出土しているが、これには使用痕はみられなかった。

〔形状・規模〕 確認できた北西壁を基準とすると、軸方向はN-59°-Eである。規模は、北東-南西壁間が4.80m、深さは0.62mである。床面は、中央が幾分凹んでいた。壁はわずかに外傾するが直立に近い。中央部に柱穴状土坑3個を確認した。西隅周辺に周溝を確認したが、ほんの一部に限られる。貼床は中央部が浅く、周辺が深い。深いところで床下30cm程度である。

〔カマド〕 調査区内にカマドは確認できなかった。ただし西壁の調査区境付近が若干外側に張り出すのが確認され、調査区境の断面を観察すると、黄褐色土の層や床面直上にわずかながら焼上層が確認できることから、この付近がカマドである可能性が高いと言えるが、大半が調査区外にあるため断定はできない。

〔出土遺物〕 土師器壺（53～59）、磨石1点（212）、台石1点（213）、鐵錐（306）、鏃先（307）を掲載した。土師器の出土総量は2,324gである。すべて甕で、坏は含まれない。出土地点は埋土中が多く、床面直上での出土は少ない。53・54はいずれも口縁部が短く外反し、口径も近いことから同一個体の可能性がある。212は片面、213は表裏2面に磨痕がみられる。

〔時期〕 埋土の堆積状況から隣接するS I 11堅穴住居より古いとみられるが、出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

#### S I 11堅穴住居（第30・31図、写真図版27）

〔位置〕 B区中央、- II D 5 g グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕 S I 10堅穴住居と近接するが調査区内では重複していない。南隅周辺は調査区外にあり確認できなかった。

〔検出状況・埋土〕 V層上面で、黒褐色土の方形プランとして検出した。埋土上位にはB-Tmとみられるにぶい黄褐色火山灰が、厚さ2cm程度堆積する。その下には、黄褐色土ブロックが多量混入する層と少量混入する層が交互に堆積する。壁ぎわは黒色土のみの層がある。

〔形状・規模〕 一部が調査区外にあり全容は不明であるが、平面形状は方形と推測される。北西壁を基準とすると、軸方向はN-22°-Eである。規模は、北東-南西壁間が3.14m、北西-南東壁間が3.14m、深さが0.44mである。床面は平坦でやや堅く縮まり、壁は外傾して立ち上がる。

中央から東隅にかけて、床面直上に炭化物の広がりを確認した。炭化物の個々の大きさはそれほど大きくなく、大きめのブロック程度のものが散らばった状況である。住居の焼失によるものかは判断し難い。

床面施設は、柱穴状土坑2基（P 1・2）を確認した。P 1は住居の東隅に位置し、埋土に炭化物・焼土粒を含む。P 2はP 1よりも内側に位置する。この他に柱穴らしきものは確認できず、上屋を支

える柱穴であったかは不明である。貼床は全面に施され、深いところでは床下30cmまで達する。

〔カマド〕東隅の調査区塊、P 1付近で焼土を確認した。調査区外へ続く。焼成は弱く、焼成深度は1cm程度であった。焼土の直上には炭化物・焼土粒・白色土などが存在したため、これらがカマドの構築土で、焼上はカマドの燃焼部である可能性が高いと考えられる。袖や煙道は確認されなかったが、調査区外に存在する可能性は十分考えられる。

〔出土遺物〕土師器壺95gが出土した。小破片のため掲載していない。

〔時期〕出土遺物と火山灰の堆積状況から、平安時代（10世紀前半頃）の遺構と考えられる。

#### S I 12壁穴住居（第32・89～91図、写真図版28・29・69）

〔位置・重複関係〕B区西、- II D 1 h グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕南隅周辺は調査区外にあり確認できなかった。耕作痕によってカマド付近および遺構上部の一部は破壊されている。

〔検出状況・埋土〕V層上面で、黒褐色土のプランとして検出した。埋土は、上位にⅢ層起源とみられる黒色土が堆積する。中～下位は黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックの混入量で分層できる。

〔形状・規模〕本体部分の平面形は隅丸の方形基調である。カマドの煙道方向を基準とすると、輔方向は、N-20°-Eである。規模は、南北壁間が3.14m、東西壁間が3.14m、深さ0.62mである。床面は平坦であり、カマド周辺から東半にかけての床面は非常に堅く締まっていた。この東半部分では、床面直上に疊が散在したが、製品として用いられたものはないようである。

〔カマド〕カマドは北壁のやや東よりに位置する。燃焼部は54×42cmの楕円形の範囲で、厚さ8cmまで比較的強く焼成を受けていた。燃焼部の周辺にはカマドの構築土とみられる砂岩や白色粘土質土が散在している状況であった。また土器も出土している。燃焼部の脇には砂岩が立った状態であり、袖とみられる。煙道は壁から少なくとも70cm先まで直線的に掘り込まれているが、その先は耕作痕により破壊され全容は不明である。

〔出土遺物〕土師器壺1点（60）、土師器壺2点（61・62）、土師器壺4点（63～66）、須恵器壺2点（67・68）、磨石7点（214～220）、鉄製品1点（308）を掲載した。土師器の出土総量は3,821gである。

61・62はいずれも口縁部が残存しないが、頸部が窄まり肩の張る形状から壺と考えられる。内面にナデ、外面にミガキまたはナデ調整が施される。63はロクロ使用の壺で、外底面に糸切り痕が確認できる。64～66はロクロ不使用の壺で、外面にケズリ、内面にナデ調整が施される。308は木製の棒に薄い鉄板を巻いたもので、刃物の柄部と思われるが、詳細は不明である。

〔時期〕出土遺物と火山灰の堆積状況から、平安時代の遺構と考えられる。

#### S I 13壁穴住居（第31図、写真図版29）

〔位置〕B区中央、- II D 7 f グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕重複遺構はない。北側にS I 04壁穴住居、西側にS I 10壁穴住居が隣接する。

〔検出状況・埋土〕埋土は黒褐色土が主体で、上位には黄褐色土ブロックが混入する。

〔形状・規模〕調査範囲内で確認できたのは遺構の北西隅とみられるごく一部であるが、直線的な二辺の壁が直交し、壁の立ち上がりが直立に近く、床面が平坦であることから、住居跡として登録した。確認できた範囲は北壁0.52m、西壁0.52mで、深さは0.31mである。残りの大半は調査区外にあり、全体の規模やカマド・床面施設などについては一切不明である。西壁を基準とすると、袖方向はN-

23° - E である。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕判断材料が少なく詳細は不明であるが、周辺部にあるものと同じ平安時代の住居跡と考えられる。

#### S I 14堅穴住居（第33・92図、写真図版30）

〔位置〕C区東側、- III E 9 a グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕複数の柱穴に切られる。東側は調査区外にあり確認できなかった。

〔検出状況・埋土〕IV層上面で、黒褐色土の方形プランとして確認した。埋土は5層に細分した。1層は黒色土で、III層起源とみられる。To-aとみられる白色ブロックが壁際から床面に多く確認された。壁際には炭化物粒を多く含む層がある。

〔形状・規模〕北壁-南壁間は5.20mである。床面までの深さは0.25mである。床下は、掘り方があり、凹凸に貼床が施され、平坦な床面が構築される。貼床は5~15cmの深さである。

〔カマド〕調査区内では確認されなかった。調査区外の北壁もしくは南壁に設置されている可能性がある。床面には柱穴状土坑（P 1~16）が確認された。一部は、S I 14堅穴住居より新規のものを誤って掘ってしまった可能性もある。多くは上屋を支える柱穴と考えられるが、P 1・14は規模・形状から貯蔵穴など、柱穴以外の機能が考えられる。堅穴外にも柱穴が確認されているが、本遺構に伴う可能性もあるが、断定はできない。

〔出土遺物〕土師器甕3点（77~79）、鉄製品6点（309~314）を掲載した。土師器の出土総量は1,251gである。77~79はいずれも甕で、77・78は口縁部片、79は底部片である。77は内面にハケメ、外面にナデ調整が施される。78は内外面ともナデ調整が施される。79は底面にナデ調整が施される。309~314はいずれも細長い形態であり、309・310・313・314は断面が三角形であることから刀子の刃部、311・312は刀子の柄部と考えられる。

〔時期〕埋土の堆積状況と出土遺物から、平安時代の遺構と考えられる。

#### S I 15堅穴住居（第34・93図、写真図版31）

〔位置・重複関係〕C区中央、- III E 7 b グリッド付近に位置する。

〔重複関係〕S K45上坑に中央部分を床面下まで切られる。複数の柱穴に壁の一部と埋土を切られる。東側でS K50陥し穴を切る。

〔検出状況・埋土〕IV層上面で検出した。検出時、カマドの構造礫が露出していたが、柱穴と土坑の重複が激しかったこともあり、当初は遺構のプランを全く把握できなかった。柱穴・土坑を精査し、その壁を観察して、ようやく住居跡であることを認識した。ベルトは、主軸方向に直交する方向に設定したが、S K45土坑・P503に切られているため、S I 15堅穴住居の埋土として記録できたのはわずかな部分である。下位に黄褐色土ブロックを多量に含む。S K45土坑に床面の北側の大半を切られる。

〔形状・規模〕カマドのある主軸方向はN-72° - Wである。堅穴部の規模は、3.5×3.1mで、ほぼ方形である。床面までの深さは0.40mである。貼床は施されていない。

〔カマド〕西壁の中央に設置される。燃焼部は46×38cmの範囲で、4cmの深さまで被熱している。燃焼部の両脇には、袖は、構造材とみられる襖が立った状態で、燃焼部の北側には襖が散逸した状態であったが構造材と考えられる。襖道部は、堅穴部の壁から25cm外側へ僅かに張り出しが、浅く5cm掘りこまれた程度である。煙道の南側側面にも礫が埋め込まれている。

〔出土遺物〕土師器886gが出土した。このうち5点(80~84)を掲載している。出土地点はすべてカマド付近の床面である。80・81は壺の口縁部~体部で、口縁部がわずかに外反し、内面はナデ、外面はケズリ調整が施される。82・83は壺の底部で、いずれも内面はナデ、外面はケズリ調整される。82は底面に木葉痕、83はナデの痕跡が確認できる。84は器種不明であるが、小形の壺のような器形が想定される。

〔時期〕出土遺物から、平安時代の遺構と考えられる。

#### S I 16壁穴住居状遺構（第35図、写真図版32）

〔位置・重複関係〕C区-III E 6 d グリッドに位置する。

〔重複関係〕南側でS K72を切る。東側は調査区外にあり確認できなかった。

〔検出状況・埋上〕V層上面で、白色土の混入する方形プランとして検出した。壁・床面ともV層であり、埋土との識別は困難であった。床面付近に礫の配列が確認できた。壁の内側に、壁に沿った方向である。

〔形状・規模〕確認できた壁は、南西角付近である。西壁と南壁はほぼ直交し、西壁は等高線に直交する方向、南壁は斜面上側で等高線に沿った方向にある。西壁は斜面下側へ行くほど低くなり、南端から長さ1.8mの所で消滅する。南壁は、西端から3.4mの長さまで確認できたが、その先は調査区外にあり確認できなかった。斜面下の北側には壁の立ち上がりは確認されなかった。確認できた壁高は、最大で18cmである。床面は平坦で、貼床は確認されなかった。図には壁穴部の内側に位置する柱穴をすべて図示したが、いずれが伴うものなのかは不明である。これより北側の柱穴も伴う可能性もある。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕S B07・S B08は壁穴部の内側に配列し、幅方向もほぼ同一であることから、これらの構築に伴う掘りこみであった可能性も考えられる。近世以降の構築である可能性が高いとみられる。

#### S I 17壁穴住居状遺構（第35図、写真図版32）

〔位置〕C区、-III E 6 d グリッドに位置する。

〔重複関係〕重複する遺構はない。西側はトレンチに切られる。

〔検出状況・埋上〕V層黒褐色土中で、黒色土の方形プランとして確認された。壁の上位は埋土との識別がやや難しい。床面はVI層まで掘りこまれる。埋土には黄褐色土の大ブロックが含まれていたことから、カクランの可能性が高いと考え掘削を行なったが、柱穴が配列することから遺構して登録した。

〔形状・規模〕東側はトレンチにより削平されており、壁が確認できたのは南西角付近のみである。西壁と南壁はほぼ直交し、西壁は等高線に直交する方向、南壁は斜面上側で等高線に沿った方向にある。西壁は斜面下側へ行くほど低くなり、南端から長さ1.30mの所で消滅する。南壁は、南西角から0.60mの長さのみ確認された。長軸方向は、N-86°-Eである。

〔柱穴〕9個の柱穴(P606・950・398・395・396・397・712・629・604)を図示した。これらは、当初、本遺構に伴うと想定していなかったため、通常の柱穴と同じ番号を付し、番号の付け替えは行なっていない。これらの柱穴は壁穴部の内側に壁に沿った方向で、長方形に配列する。柱穴で囲まれる範囲は、2.00×1.00mである。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕近世以降と考えられるが、詳細は不明である。

## 2 陥し穴

### S K01陥し穴（第36図、写真図版33）

B区-II D 9 bグリッド付近に位置する。IV・V層上面で検出した。開口部は梢円形で、長軸方向N-35°-W、開口部径2.85×1.52m、深さ1.72mである。短軸方向の断面形は漏斗状である。埋土は自然堆積とみられ、最上位には十和田aテフラとみられる灰白色火山灰が厚く堆積し、中位にはⅢ層起源の黒色土、下位には黄褐色土ブロックを含む締まりの弱い黒褐色土が堆積していた。重複する遺構はない。出土遺物はない。火山灰の堆積状況から平安時代に近い時期まで開口していたとみられる。

### S K02陥し穴（第36図、写真図版33）

B区-II D 7 bグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は梢円形で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-7°-E、開口部径1.94×0.86m、深さ1.60mである。V層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、最上位にはTo-aテフラとみられる灰白色火山灰が堆積し、中位にはⅢ層起源の黒色土、下位には黄褐色土ブロックを含む締まりの弱い黒褐色土が堆積する。出土遺物はない。火山灰の堆積状況から平安時代に近い時期まで開口していたとみられる。

### S K03陥し穴（第36図、写真図版33）

B区-I D 2 aグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は梢円形で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-83°-W、開口部径2.44×1.06m、深さ1.55mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、最上位にはTo-aテフラとみられる灰白色火山灰が厚く堆積し、中位にはⅢ層起源の黒色土、下位には黄褐色土ブロックを含む締まりの弱い黒褐色土が堆積する。出土遺物はない。火山灰の堆積状況から平安時代に近い時期まで開口していたとみられる。

### S K07陥し穴（第37図、写真図版33）

B区-II D 2 eグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-62°-E、開口部径3.42×1.15m、深さ1.70mである。V層上面で検出したが、掘り込み面はVI層上面であった可能性が高い。埋土は自然堆積とみられ、最上位にはⅢ層起源の黒色土が堆積し、中位にはV層起源の黒褐色土、下位には黄褐色土ブロックを含む締まりの弱い黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

### S K08陥し穴（第37図、写真図版34）

B区-II D 3 dグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-57°-E、開口部径3.82×1.10m、深さ1.52mである。V層上面で検出したが、掘り込み面はVI層上面であった可能性が高い。埋土は自然堆積とみられ、最上位にはⅢ層起源の黒色土が堆積し、中位にはV層起源の黒褐色土、下位には黄褐色土ブロックを含む締まりの弱い黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

### S K09陥し穴（第38図、写真図版34）

B区-II D 3 dグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面

形は漏斗状である。長軸方向N-88°-W、開口部径3.92×0.75m、深さ1.50mである。V層上面で検出したが、掘り込み面はVI層上面であった可能性が高い。埋土は自然堆積とみられ、最上位にはⅢ層起源の黒色土が堆積し、中位にはV層起源の黒褐色土、下位には黄褐色土ブロックを含む締まりの弱い黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K11陥し穴（第38図、写真図版34）

B区-II D 4 e グリッド付近に位置する。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-75°-W、開口部径3.12×0.78m、深さ0.85mである。周囲は近・現代の耕作痕による搅乱が激しく、これらを除去した時点で検出した。開口部付近は破壊されていたが、底面付近が残存した。よって、埋土として確認できたのは下位の一部のみであったが、黄褐色土ブロックを含む黒褐色土であった。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K12陥し穴（第39図、写真図版34）

B区-III D 10 f グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は梢円形で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-22°-W、開口部径4.18×0.68m、深さ1.40mである。V層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にはⅢ層起源の黒色土、下位には黄褐色土ブロックを含む黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K14陥し穴（第39図、写真図版35）

B区-III D 10 i グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。南側にはS K20陥し穴が、ほぼ同一の軸方向で隣接する。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-67°-W、開口部径3.64×0.76m、深さ1.30mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にはV層起源の黒褐色土、中位には褐色土、最下位には黑色土が薄く堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K20陥し穴（第40図、写真図版35）

B区-III D 9 j グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。北側にはS K14陥し穴が、ほぼ同一の軸方向で隣接する。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-72°-W、開口部径3.30×0.98m、深さ1.52mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にはⅢ層起源の黒色土、下位には黄褐色土ブロック混じりの黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K21陥し穴（第40図、写真図版35）

B区-III D 5 j グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。北側にはS K22陥し穴が、ほぼ同一の軸方向で隣接する。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-59°-E、開口部径2.56×0.96m、深さ1.20mである。VI層上面で検出した。埋土は黄褐色土ブロックを含む黒褐色土で、最下位には黑色土が薄く堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K22陥し穴（第41図、写真図版35）

B区-III D 5 j グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。北側にはS K21陥し穴が、ほぼ同

一の軸方向で隣接する。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-65°-W、開口部径3.14×1.02m、深さ1.44mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位に黒色土、下位には黄褐色土ブロック混じりの黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 23陥し穴（第41図、写真図版36）

B区-I D 10 f グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-85°-W、開口部径4.34×1.22m、深さ1.46mである。V層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位に黒色土、下位には黄褐色土ブロック混じりの黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 24陥し穴（第42図、写真図版36）

B区-I D 10 e グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。北側は調査区外にあり全容は不明である。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-25°-W、開口部の短軸方向径1.22m、深さ1.68mである。V層上面で検出した。断面図をとることができなかったが、上位に黒褐色土、下位には黄褐色土ブロック混じりの黒褐色土が堆積していた。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 25陥し穴（第42図、写真図版36）

B区-II D 2 g グリッド付近に位置する。S K 25土坑に切られる。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-75°-W、開口部径3.54×1.20m、深さ1.08mである。V層上面で検出した。埋土は暗褐色土を主体とする。埋土と地山の区別が難しく、底面と壁を掘りすぎた可能性がある。遺構の両端が中央よりも深い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 28陥し穴（第43図、写真図版36）

B区-II D 1 e グリッド付近に位置する。S K 29陥し穴を切る。北側は調査区外にあり全容は不明である。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-82°-W、開口部の短軸方向径0.58m、深さ1.35mである。VI層上面で検出した。埋土は上位が黒褐色土、下位が黄褐色土ブロックを含む黒褐色土である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 29陥し穴（第43図、写真図版36）

B区-II D 2 e グリッド付近に位置する。S K 28陥し穴に切られる。北側は調査区外にあり全容は不明である。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-60°-W、開口部の短軸方向径0.32m、深さ1.10mである。VI層上面で検出した。埋土は上位が暗褐色土、下位が黄褐色土ブロック混じりの黒褐色土である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 30陥し穴（第44図、写真図版37）

B区-I D 1 c グリッド付近に位置する。S I 08堅穴住居・S K 27土坑に切られる。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は漏斗状である。長軸方向N-25°-W、開口部径3.04×0.54m、深さ0.62mである。VI層上面で検出した。埋土は上位が黒褐色土、下位が暗褐色土である。出土遺物はなく、時

期の詳細は不明である。

#### S K 36 葩し穴（第46図、写真図版38）

C区-Ⅲ E 7 a グリッド付近に位置する。IV層上面で柱穴の精査中に検出した。ただし、重複する柱穴の精査中に見つけたものである。ただしV層と壁の境界が明瞭ではなく、埋土はV層起源とみられるため、掘りこみ面はVI層であった可能性がある。平面形は溝状である。長軸方向N-65°-E、開口部径3.00×0.70m、深さ1.60mである。埋土は黒褐色土主体で、黄褐色土粒を含む。また埋土最下位は褐色土の割合が多く締まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 37 葩し穴（第46図、写真図版38）

C区-Ⅲ E 2 b グリッド付近に位置する。IV層上面で検出した。ただし掘りこみ面がVI層上面であった可能性がある。長軸方向N-89°-E、開口部径4.16×1.00m、深さ1.40mである。埋土下位は締まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 38 葩し穴（第47図、写真図版38）

C区-Ⅲ E 2 c グリッド付近に位置する。IV層上面で検出した。ただし掘りこみ面はVI層上面であった可能性がある。長軸方向N-54°-E、開口部径3.76×0.94m、深さ1.64mである。埋土最上位はⅢ層黒色土で、上位はIV層・V層とみられる。中位～下位は褐色土粒やブロックを多く含み、締まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 39 葩し穴（第47図、写真図版38）

C区-Ⅳ E 10 d グリッド付近に位置する。VI層上面で検出した。平面形は溝状で、長軸方向N-65°-W、開口部径2.00×0.50m、深さ0.90mである。埋土は褐色土ブロックを含む黒褐色土主体で、締まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 41 葩し穴（第48図、写真図版39）

C区-Ⅲ E 1 d グリッド付近に位置する。VI層上面で検出した。西端は調査区外にある。平面形は溝状で、長軸方向はN-74°-E、開口部の短軸は0.90m、深さ1.04mである。埋土は、上位に黒褐色土、中位に崩落によるとみられる褐色土、最下位に締まりの弱い黒色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 44 葩し穴（第48図、写真図版39）

C区-Ⅲ C 1 c グリッド付近に位置する。VI層上面で検出した。平面形は溝状で、長軸方向N-82°-W、開口部径1.80×0.32m、深さ0.76mである。埋土は褐色土ブロックを含む黒褐色土で、下位は締まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 46 葩し穴（第48図、写真図版39）

C区-Ⅲ E 2 c グリッド付近に位置する。平面形は溝状で、長軸方向N-70°-E、開口部径2.70×1.16m、深さ1.54mである。底面の形状が長方形で特徴的である。埋土上位には十和田aとみられる白色ブロックを含む。埋土中位は黒褐色土と黄褐色土が交互に堆積し、下位は黄褐色土が多い。底

面付近は砂が多く、締まりが弱い。出土遺物はないが、火山灰の堆積状況から平安時代に近い時期まで開口していたとみられる。

#### S K 48陥し穴（第49図、写真図版39）

C区-Ⅲ E 2 bグリッド付近に位置する。IV層上面では確認できず、VI層上面で検出した。西側は調査区外にあり、確認できたのは東端部分のみである。平面形は溝状で、長軸方向N-62°-W、開口部の短軸方向が0.60m、深さ0.96mである。東端部の壁は外側へオーバーハングする。V層を切っており、掘りこみ面はV層上面より上位と考えられる。埋土中位～下位は黒褐色土と黄褐色土が交互に堆積した状況であり、締まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 50陥し穴（第49図、写真図版40）

C区-Ⅲ E 7 bグリッド付近に位置する。S K 45土坑・S I 15竪穴住居・S K 49土坑・柱穴など多くの造構に切られる。平面形は溝状で、長軸方向N-80°-W、開口部径3.80×0.72m、深さ1.20mである。長軸方向の両端は壁が外側へオーバーハングする。埋土は、下位に黄褐色土・黒褐色土が互層をなして堆積する。中位には崩落土と見られる黄褐色土が堆積する。いずれも締まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 51陥し穴（第50図、写真図版40）

A区西端-Ⅰ C 3 hグリッド付近に位置する。重複する造構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は概ね漏斗状を呈するが、中間部が壁の崩落により、オーバーハングしている。長軸方向N-83°-E、開口部径3.82×0.81m、深さ1.66mである。V層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にはV層起源の黒褐色土、中位には壁の崩落土と考えられるVI層起源の黄褐色土、下位には砂質の黒褐色土が薄く堆積し、その下に壁の崩落土と考えられるにぶい黄橙色砂と黄褐色砂の混合層が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 52陥し穴（第50図、写真図版40）

A区中央-Ⅰ C 7 fグリッド付近に位置する。重複する造構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面形はU字状を呈する。長軸方向はN-78°-W、開口部径3.36×0.54m、深さ0.39mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にはV層起源と考えられる暗褐色土、下位にはIV層起源と考えられる黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 53陥し穴（第51図、写真図版40）

D区北側-V E 4 hグリッド付近に位置する。重複する造構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は概ね漏斗状を呈する。長軸方向はN-70°-E、開口部径3.04×0.76m、深さ1.33mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられる。上半部はV層起源の黑色土・黒褐色土と壁の崩落土層と考えられる褐色土が互層に堆積し、下半部は砂質の黒褐色土と壁の崩落土層が互層に堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 54陥し穴（第51図、写真図版41）

D区北側-V E 7 iグリッド付近に位置する。重複する造構はない。S K 55陥し穴がほぼ同一の軸

方向で隣接する。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は逆台形状を呈する。長軸方向はN-20°-W、開口部径1.68×0.58m、深さ0.6mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にはV層起源と考えられる黒褐色土、中位の壁際には壁の崩落土と考えられる褐色土、下位には砂質の黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 55陥し穴（第51図、写真図版41）

D区北側-V E 7 h グリッド付近に位置する。重複する造構はない。S K 54陥し穴がほぼ同一の軸方向で隣接する。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は逆台形状を呈する。長軸方向はN-21°-W、開口部径1.49×0.45m、深さ0.74mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位はV層起源と考えられる黒褐色土、中位は壁の崩落土と考えられる褐色土、下位には砂質の黒褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 57陥し穴（第52図、写真図版41）

D区南側-IV F 1 f グリッド付近に位置する。重複する造構はない。南東側は調査区外に広がっている。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は概ね漏斗状を呈する。長軸方向はN-46°-W、確認できた深さは0.8mである。VI層上面で検出した。埋土は黒褐色土の単層である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 58陥し穴（第52図、写真図版41）

D区南側-IV F 1 f グリッド付近に位置する。重複する造構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面形は概ね漏斗状を呈する。長軸方向はN-83°-W、開口部径2.07×0.56m、深さ1.22mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にV層起源の暗褐色土、中位に壁の崩落土と考えられる褐色土やにぶい黄褐色土、下位にV層起源の暗褐色土が堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### S K 59陥し穴（第64図、写真図版50）

D区南側-V F 7 f グリッド付近に位置する。重複する造構はない。開口部は楕円形で、断面形は逆台形状を呈する。長軸方向はN-30°-W、開口部径1.69×1.27m、深さ1.16mである。攪乱部分の底面（VI層）で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にTo-CuやTo-Nbを含む黒褐色土、中位の壁際には壁の崩落土と考えられる褐色土、下位にVI層起源と考えられる黄褐色土、その下に2~3cmの厚さで砂を含む黒褐色土が堆積する。底面で2個の副穴を確認した。2個との埋土は赤褐色バミスを含む褐色土の単層である。出土遺物がないため、断定はできないが、造構の形状や埋土にT o-C u が混入することから縄文時代前期に属すると考えたい。

#### S K 61陥し穴（第52図、写真図版42）

A区-I C 7 f グリッド付近に位置する。VI層上面で検出した。上位は削平を受けた可能性がある。長軸方向N-80°-E、開口部径2.72×0.56m、深さ0.46mである。埋土は、黒褐色土と黄褐色土が交互に堆積した状況であるが、黒褐色土はV層起源とみられ、白色バミスを含み締まりがある。底面はⅤ層まで掘りこまれている。埋土の状況から、縄文時代の造構と考えられる。

**S K 62陥し穴（第52図、写真図版42）**

D区南側—NF 2 e グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は溝状で、短軸方向の断面形はU字状を呈する。長軸方向はN-49°-W、開口部径1.77×0.39m、深さ0.75mである。V層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、上位にⅢ層起源と考えられる黒色土、中位～下位に明黄褐色バミスや赤褐色バミスを含む黒色土、その下位に礫の崩落土と考えられる褐色土が薄く堆積する。底面の中央のやや北西側で深さ5cm程の副穴を確認した。埋土は明黄褐色バミスを含む黒色土の单層である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 71陥し穴（第53図、写真図版42）**

C区—Ⅲ E 2 c グリッド付近に位置する。IV層上面で検出した。平面形は溝状で、長軸方向N-53°-E、開口部径2.80×0.96m、深さ1.42mである。埋土はアズナのブロックを含む。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 72陥し穴（第53図、写真図版42）**

C区—Ⅲ E 6 d グリッド付近に位置する。調査区内で確認できたのは東端部のみであるが、形状から陥し穴と判断した。S I 15に切られる。端部は外側へオーバーハングする。長軸方向はN-86°-E、深さ1.30mである。埋土はブロック状の黄褐土を含み、縫まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 73陥し穴（第54図、写真図版43）**

C区—Ⅲ E 1 e グリッド付近に位置する。斜面部のVI層上面で検出した。平面形は溝状で、長軸方向はN-75°-E、開口部径4.14×1.50m、深さ1.40mである。埋土上位は黒褐色土がレンズ状に堆積する。中位では中央部分のみ黒色土で、その両側は地山に近い土が堆積する。下位は、黒色土と褐色土・砂などが互層をなし水平に堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 74陥し穴（第55図、写真図版43）**

C区—Ⅲ E 2 c グリッドに位置する。IV層上面では確認できず、VI層上面で黒褐色土のプランとして検出した。平面形は短い溝状で、長軸方向N-51°-W、開口部径1.42×0.46m、深さ0.54mである。埋土上位は黒褐色土主体で、IV層起源とみられるTo-Cuのブロックを含む。中位～下位は黄褐色土と黒褐色土が交互に堆積し、縫まりが弱い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。SK 79・75・77・74陥し穴は、北西～南東方向にかけてほぼ一直線上、等間隔に配列し、埋土の状況も類似することから、同時に構築され機能していた可能性が高いと考えられる。

**S K 75陥し穴（第55図、写真図版43）**

C区—Ⅲ E 3 b グリッドに位置する。IV層上面では確認できず、VI層上面で黒褐色土のプランとして検出した。平面形は短い溝状で、長軸方向N-60°-W、開口部径1.50×0.52m、深さ0.68mである。埋土上位は黒褐色土主体で、IV層起源とみられるTo-Cuのブロックを含む。中位～下位は黄褐色土と黒褐色土が交互に堆積し、縫まりが弱い。SK 79・75・77・74陥し穴は、北西～南東方向にかけてほぼ一直線上、等間隔に配列し、埋土の状況も類似することから、同時に構築された可能性が高いと考えられる。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 77陥し穴（第55図、写真図版43）**

C区—I E 3 c グリッドに位置する。IV層上面では確認できず、VI層上面で黒褐色土のプランとして検出した。平面形は短い溝状で、長軸方向N-48°-W、開口部径1.60×0.54m、深さ0.70mである。埋土上位は黒褐色土主体で、IV層起源とみられるTo-Cuのブロックを含む。中位～下位は黄褐色土と黒褐色土が交互に堆積し、締まりが弱い。S K 79・75・77・74陥し穴は、北西～南東方向にかけてほぼ一直線上、等間隔に配列し、埋土の状況も類似することから、同時に構築され機能していた可能性が高いと考えられる。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 79陥し穴（第55図、写真図版44）**

C区—I E 3 b グリッドに位置する。IV層上面では確認できず、VI層上面で黒褐色土のプランとして検出した。平面形は短い溝状で、長軸方向N-55°-W、開口部径1.52×0.60m、深さ0.62mである。埋土上位は黒褐色土主体で、IV層起源とみられるTo-Cuのブロックを含む。中位～下位は黄褐色土と黒褐色土が交互に堆積し、締まりが弱い。S K 79・75・77・74陥し穴は、北西～南東方向にかけてほぼ一直線上、等間隔に配列し、埋土の状況も類似することから、同時に構築され機能していた可能性が高いと考えられる。

**S K 80陥し穴（第65図、写真図版44）**

C区—I E 4 b グリッドに位置する。VI層上面で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向N-0°-E、開口部径1.20×0.88m、深さ0.60mである。壁際の埋土は、褐色土ブロックの割合が多く、地山と埋土の区別が困難である。底面に副穴1基を伴う。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

### 3 土 坑

**S K 05土坑（第56図、写真図版45）**

B区—I D 9 a グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は稍円形に近い形状である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。長軸方向N-89°-E、開口部径4.28×2.56m、深さ0.62mである。V層上面で検出した。埋土最上位は黒色土で、To-aテフラとみられる灰白色火山灰ブロックがわずかに混入する。その直下に焼土ブロックのまとまりを確認したが、原位置ではなく流れ込みの可能性が高いと判断した。中位～下位は黒褐色土が堆積するが、付近の基本層序も黒褐色土であり、埋土とほとんど違いがなく、底面や壁の識別は困難であった。掘りすぎた可能性もある。鏡状石器(224)が出土しており縄文時代の可能性が考えられるが、時期の詳細や遺構の性格は不明である。

**S K 06土坑（第56図、写真図版45）**

B区—I C 1 j グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は円形で、底面は平坦、壁はやや外反する。開口部径2.52×2.30m、深さ0.94mである。V層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、最上位には黒褐色土、中位にはⅢ層起源の黒色土、下位には黄褐色土ブロックを含む黒褐色土が堆積する。遺構の性格としては貯蔵穴などの可能性が考えられるが、詳細は不明である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K10 フラスコ土坑（第57図、写真図版45）**

B区-II D 2 f グリッド付近に位置する。開口部の一部を近・現代の耕作痕に切られる。開口部は円形で、底面は平坦である。壁は下位が外側へオーバーハングし、開口部より広い。開口部径1.60×1.56m、深さ0.96mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、最下位に黒色土、その上には黒褐色土と黄褐色土が互層をなすように堆積する。壁際には崩落とみられる黄褐色土の割合が多い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K13 土坑（第59図、写真図版47）**

B区-II D 1 i グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。搅乱により開口部の一部を破壊される。北東側にS I 12が隣接する。確認できたのは北西側の一部のみとみられ、南東側の大半は調査区外にあり確認できない。埋土は、上位が黒色土、中位が黒褐色土、下位が暗褐色土である。埋土と地山の境界は不明瞭であった。壁は直線的ではなく、平面形は推定できない。底面は平坦に近いが、凹凸が多い。壁は外反する。出土遺物はなく、遺構の性格や時期など詳細は不明である。

**S K15 土坑（第57図、写真図版45）**

B区-III D 8 h グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は円形で、底面は平坦、壁は直立する。開口部径2.86×2.28m、深さ0.60mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、壁際には黒褐色土、上位には黄褐色土ブロック混じりの黒褐色土が堆積する。東側の埋土中位では焼土のまとまりが確認された。遺構がある程度埋まつた時点で焼成を受けたとみられる。フラスコ土坑の底面付近である可能性も考えられるが、出土遺物はなく、遺構の性格や時期の詳細は不明である。

**S K16 土坑（第57図、写真図版46）**

B区-III D 7 i グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は楕円形で、底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。長軸方向N-89°-W、開口部径1.94×1.50m、深さ0.44mである。VI層上面で検出した。埋土は黒褐色土を主体とする。南側では、埋土を少し掘り下げたところで焼土のまとまりを確認した。焼成は底面付近まで及び、底面の地山も弱いが焼成を受ける。出土遺物はなく、遺構の性格や時期の詳細は不明である。

**S K17 土坑（第57図、写真図版46）**

B区-III D 6 j グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は楕円形で、壁は緩やかに立ち上がる。長軸方向N-41°-W、開口部径1.82×1.12m、深さ0.48mである。VI層上面で検出した。埋土は黒褐色土を主体とする。出土遺物はなく、遺構の性格や時期の詳細は不明である。

**S K18 フラスコ土坑（第58図、写真図版46）**

B区-II D 8 c グリッド付近に位置する。S I 02堅穴住居に上部を切られる。開口部は円形で、底面は平坦である。壁は下位が外側へオーバーハングし、開口部より広い。開口部径1.58×1.52m、深さ0.45mである。S I 02堅穴住居の埋土除去後に床面で検出した。埋土上位にはS I 02堅穴住居の燃焼部焼土が形成される。埋土は黒褐色土を主体とし、黄褐色土の大ブロックが壁際に入る。重複関係からS I 02堅穴住居より古い遺構であるが、出土遺物はなく詳細は不明である。

**S K 19土坑（第58・94、写真図版46）**

B区-II D 3 g グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は楕円形で、壁は緩やかに立ち上がる。長軸方向N-78°-E、開口部径2.28×1.52m、深さ0.32mである。VI層上面で検出した。埋土は最上位にTo-aとみられる灰白色ブロックを含む。その下には黒褐色土の層があり、さらに下には炭化物の層がある。その下には焼土の層が形成されていた。焼土層を除去すると、東側の底面は強く焼けている。遺物は、焼土付近から土師器の小型土器（69）が出土しており平安時代の遺構と考えられるが、遺構の性格は不明である。

**S K 25土坑（第58・94図、写真図版47）**

B区-II D 3 g グリッド付近に位置する。S K 26陥し穴を切る。V層上面で検出した。開口部は楕円形で、長軸方向N-34°-Eであり、開口部径2.00×1.12m、深さ0.42mである。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は人為的に埋め戻された様相を呈し、十和田aとみられる灰白色火山灰ブロック、褐色土ブロックを大量に含んでいた。埋土下位において、多量の土師器片が、礫や焼土ブロックなど、カマド構築物のようなものと混合した状態で出土した。

遺物は、土師器3,998gが出土しているが、すべて壺で、坏は含まれないようである。このうち、壺7点（70~76）を掲載した。70はS I 06堅穴住居埋土出土の破片と接合し、またここで掲載した他に、66がS I 12堅穴住居埋土出土の破片、42がS I 07堅穴住居埋土出土の破片と接合しており、複数の遺構と接合関係がある。70・72は口縁～上位の残存で、口縁部は外傾する。口縁部付近はヨコナデ、体部内面はナデ調整される。74は口縁～底部まで残存しており、器形全体が復元できた数少ない資料である。口縁部は外傾し、ヨコナデ調整される。体部は内外面ともナデ調整されるが、外面の底部付近には一部ケズリがみられる。底部は砂底である。71・73は器形・胎土が類似しており同一個体の可能性がある。体部は外面にケズリ、内面にミガキ調整される。76は底部付近で、74と立ち上がりの形状が異なるが、砂底である。出土遺物から平安時代以降に構築されたと考えられる。

**S K 27土坑（第58図、写真図版47）**

B区-I D 1 c グリッド付近に位置する。S K 30陥し穴を切る。開口部は円形で、底面は平坦、壁は外傾する。長軸方向N-34°-E、開口部径0.96×0.78m、深さ0.32mである。V層上面で検出した。埋土は黒褐色土の単層である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 34土坑（第60図、写真図版48）**

C区-III E 8 b グリッド付近に位置する。円形、大型の土坑である。長軸方向N-85°-W、開口部径2.38×2.20m、深さ1.34mである。S I 14堅穴住居に隣接する。埋土の最上位、中央部分にはS N03焼土が構築されていた。S N03焼土断ち割りの過程で周辺の土が掘れることに気付き、トレンチを入れ掘り下げたところ、VI～VII層までの掘りこみ面が確認され、土坑と認定した。したがって、検出面はS N03と同じIII層上面ということになるが、実際の掘りこみ面はそれより下層であった可能性がある。底面は平坦である。開口部が崩落のためか、聞き気味である。底面壁際には崩落土とみられる黄褐色土の三角堆積がみられた。壁は直立に近い。埋土は黒褐色土主体である。埋土中位にはTo-a火山灰とみられる灰白色のブロックが少量堆積していたため、平安時代には開口していたと考えられる。出土遺物はない。隣接するS I 14堅穴住居と同時期に構築され、何らかの施設として機能していた可能性も考えられる。

**S K 35土坑（第60図、写真図版48）**

C区-Ⅲ E 3 e グリッド付近に位置する。検出面はV層上面で、To-aの集中により確認したが、本体の輪郭は明瞭に確認された訳ではない。長軸方向N-37°-E、開口部径2.10×1.76m、深さ0.40mである。To-aは埋土最上位の中央部に厚く堆積していた。To-aより下位の埋土は黒褐色土主体である。V層上面から掘りこまれているとみられたが、壁の上位はこのV層であるため、埋土との区別がはっきりしない。底面はVI層まで掘りこまれており、底面付近では埋土と地山の識別が容易であり、VI層中での壁の立ち上がりから上位の壁を推定した部分もある。底面は平坦に近いものの、底面と壁の境界がはっきりせず、緩やかに壁が立ち上がる。斜面地にあるため、必然的に斜面上側の壁が高いが、下側も僅かに立ち上がる。To-aの堆積状況から、平安時代に開口していたと考えられる。

**S K 40土坑（第60図、写真図版48）**

C区斜面下-Ⅲ D 1 d グリッド付近に位置する。V層上面検出時には確認できず、VI層上面まで掘り下げた段階で確認した。長軸方向N-52°-E、開口部径2.00×1.11m、深さ0.36mである。埋土の上位にはIV層と同一と見られるTo-aのブロックが堆積していた。他は黒褐色土が主体である。底面は凹凸が激しいが、掘りすぎてしまった可能性もある。斜面上側は壁の立ち上がりが急である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 42土坑（第61図、写真図版48）**

C区斜面下-Ⅳ E 9 e グリッドに位置する。V層上面で検出した。長軸方向N-10°-E、開口部径1.84×1.68m、深さ1.18mである。埋土は黒褐色土主体である。底面は平坦である。開口部に比べ底面が狭く、底へ行くほど窄まった形状をしている。埋土は黒褐色土主体で、下位は混入する褐色土の割合が多く、地山との区別が難しい。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 43土坑（第61図、写真図版49）**

C区斜面下側、-Ⅲ E 2 a グリッド付近に位置する。V層上面で確認した。長軸方向N-6°-E、開口部径1.80×1.48m、深さ0.36mである。埋土は暗褐色土主体である。底面は概ね平坦であるが、中央に僅かな窪みがみられる。壁の立ち上がりはそれほど急ではない。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K 45土坑（第61図、写真図版49）**

C区-Ⅲ E 7 b グリッド付近に位置する。IV層上面で検出した。S I 15竪穴住居・SK 50陥し穴を切り、また多くの柱穴に切られ、平面プランの把握は困難であった。掘削はS I 15竪穴住居と同時に進め、掘削後にS I 15竪穴住居を切る造構であると認識した。長方形の土坑である。長軸方向N-72°-W、開口部径2.06×1.26m、深さ1.20mである。埋土は、下位にTo-aとみられる白色ブロックや黄褐色土ブロックを多く含む。上位にも白色粒がみられる。礫が集中して出土した。人為的に埋め戻された様相である。最上位にはB-Tmとみられる濁った色のテフラが薄く堆積していた。底面付近からは土師器壺が出土し、平安時代の造構と考えられる。

**S K47土坑（第62図、写真図版49）**

C区-III E 8 bグリッド付近に位置する。南側は調査区外にある。平面形は正方形と推定される。S K50に切られる。長軸方向N-25°-E、開口部径1.38×1.28m、深さ0.68mである。埋土は、黒褐色土主体で、To-aとみられる白色ブロックや黄褐色土ブロックを多く含み、縫まりが弱い。埋土の様相から、平安時代の遺構と考えられる。

**S K49土坑（第62図、写真図版50）**

C区-III E 6 bグリッド付近に位置する。IV層上面で検出した。柱穴が多く、プランは明瞭ではなかった。長軸方向N-84°-W、開口部径1.66×1.34m、深さ1.00mである。埋土は黒褐色土に大小の黄褐色土ブロックを含み、また、中～下位に複数の縛、大きいもので径40cm程度の縛を含む。上位から底面付近までほぼ同一であり、人為的に一度に埋め戻された可能性が高い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K56土坑（第63図、写真図版50）**

D区北西-VE 5 hグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。北側は調査区外に広がっている。開口部は不整形で、断面形は逆台形状を呈する。調査区外に広がっているため、全体の規模は不明で、確認できた深さは1.09mである。VI層上面で検出した。埋土は自然堆積とみられ、最上位にTo-aと考えられる火山灰塊が混入する黒褐色土、上位に白頭山と考えられる火山灰を層状に挟むⅢ層起源の黒色土、中位にTo-aの水成堆積層やTo-aと考えられる火山灰塊を含むⅢ層起源の黒色土、下位にⅢ層起源の黒色土が堆積する。出土遺物がないため、断定はできないが、埋土中位にTo-aと考えられる火山灰の水成堆積層が見られることから古代に属すると考えたい。

**S K60土坑（第64図、写真図版50）**

D区中央-IV E 3 jグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。開口部は不整形で、断面形は北側がやや下方を向く逆台形状を呈する。長軸方向はN-28°-E、開口部径4.20×2.85m、深さ1.55mである。VI層上面で検出した。当初攪乱と考えていたため断面図の作成は行わなかったが、埋土は人為堆積とみられ、上位は黒褐色土主体、中位は褐色土主体、下位は褐色土塊を含む黒褐色土主体に堆積する。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K70土坑（第62図、写真図版51）**

C区-III E 4 cグリッド付近に位置する。IV層上面で検出した。長軸方向N-85°-W、開口部径2.32×2.04m、深さ0.68mである。埋土は黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックを全体に含み、縫まりが弱い。中位には炭化物を多く含む黒色土の層が確認された。埋土を切る柱穴が複数確認されているが、埋土を壁とするため認識が困難であり、他にも見落としたものがあった可能性がある。平面形は円形で、開口部は開き気味である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K76土坑（第65図、写真図版51）**

C区-III E 2 cグリッドに位置する。S K71陥し穴の精査中に壁で確認した。平面形は円形に近く、長軸方向N-50°-W、開口部の短軸方向が1.12m、深さ0.52mである。S K71陥し穴より古くとみられる。埋土は黒褐色土主体で、V層に近い。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

**S K78土坑（第65図、写真図版51）**

C区-III E 4 a グリッド付近に位置する。平面形は正方形に近い。VI層上面で検出した。P619に切られる。埋土はV層起源の黒褐色土で、單層である。底面は凹凸があり、平坦ではない。底面と壁の境界は明瞭ではなく、壁は緩やかに立ち上がる。埋土の状況から、縄文時代の遺構と考えられる。

**S K81土坑（第65図、写真図版51）**

C区-III E 7 a グリッド付近に位置する。IV層上面で検出した。平面形は長方形で、長軸方向N-74°-W、開口部径2.46×1.44m、深さ0.90mである。埋土上位は黒褐色土でTo-aとみられる白色ブロックを含む。中位には炭化物と焼土を多量に含む層があり、土師器が多量出土した。埋土下位は黄褐色ブロックを多く含み、締まりが弱い。底面には若干凹凸があり、壁は直立する。断面の観察によると、底面付近に水平に堆積する層があり、貼床の可能性も考えられたが、締まりはそれほどなく、貼り床と断定するには至らなかった。埋土の状況と出土遺物から、平安時代に機能していたと考えられる。

**4 堀 跡****S D01堀跡（第66図、写真図版52・53）**

B区東端-I C 2 j グリッド付近に位置する。重複する遺構はない。長軸方向はN-38°-Wで、調査区を北西-南東方向に横断する。地権者からの聞き取りによると、以前から窪んだ地形であり、表土除去前から遺構の存在は判明していた。調査範囲内で確認できたのは北西から南東にかけての全長約13mの範囲で、北端、南端は調査区外にあり不明である。北側は調査区外である段丘崖へそのまま抜けるとみられるが、危険であるため、掘削は途中まで断念した。南側も、調査範囲よりかなり内側で留めた。地表面から底面までの深さは4mである。開口部の幅は6.5mで、東岸、西岸は平行する。開口部から下へ向かって徐々に狭くなり、最下部は幅50cm程度のまま更に1m近く下がり、ようやく底面に達する。断面形は、薬研状である。埋土は、最上位には木根やビニールなど近・現代のものが混入している。以下黒褐色土、暗褐色土と地山の崩落土とみられる黄褐色土が互層をなす。最下位は、八戸火山灰起源の白色土が多く混入し、崩落が著しかったことが窺える。掘り込みはこの埋層以下まで行なわれている。掘削時に崩落土か、地山かの判断がなかなか付かなかった。

出土遺物はない。隣接する吉田館の関連施設である可能性が高いとみられる。

**5 挖立柱建物・柱穴状土坑（第9～21図、写真図版7・8）**

柱穴状土坑は1110個を確認した（P 1～1200、欠番あり）。A区38個、B区340個、C区728個、D区4個で、C区が圧倒的に多い。

C区の柱穴については、平成18年度に表土除去・検出・検出平面図を作成まで行い、翌平成19年度に精査を行った。検出面は、III層上面、IV層上面の2種類があるがはっきり区別して精査することはできなかった。

柱穴のうち、配列を確認できた9棟を挖立柱建物として登録した。ただし、現場での調査期間中に建物としての配列を抽出することができず、ここで建物跡として提示するものはすべて、調査終了後に平面図を整理し、平面的な配列のみから見出したものである。そのため、挖立柱建物単独の写真は

掲載していない。抽出できた建物跡はごく一部と考えられる。

#### S B01掘立柱建物（第71図）

C区-III E 6 b グリッド付近に位置する。35個の柱穴（P 357・358・363・365・367・375・381・391・402・406・416・427・430・491・517・518・523・538・539・556・568・570・592・631・663・668・674・681・690・700・936・1159・1168・1195・1197柱穴状土坑）を使用した。P 358は一部調査区外にある。桁行の軸方向はN-80°-Eである。桁行7間、梁行4間で、規模は14.70×7.30m、面積は107.31m<sup>2</sup>である。柱穴の配置から、母屋部分は4室に分かれ、南側に庇を持つ構造であったと推測される。S B02・03掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は、P 539から砥石（245）、P 556から永樂通寶（437）、P 592から鉄鏡？片（326）、P 690から銅鏡（446）、P 936から銅鏡（454）、P 363から不明の陶器片2片（不掲載）、P 668から貝殻1点が出土した。出土遺物から近世初頭の建物跡と推測されるが、詳細は不明である。規模から、母屋級の建物と推測される。

#### S B02掘立柱建物（第72図）

C区-III E 6 b グリッド付近に位置する。21個の柱穴（P 393・405・413・436・500・510・520・544・554・578・584・594・623・630・633・696・789・818・1105・1154・1157柱穴状土坑）を使用した。P 357は一部調査区外にあり、南東隅の柱は調査区外に存在する可能性がある。桁行の軸方向はN-82°-Eである。桁行8間、梁行4間で、規模は17.30×8.30m、面積は143.59m<sup>2</sup>である。柱穴の配置から、母屋部分は少なくとも2室に分かれ、南側に庇を持つ構造であったと推測される。S B01・03掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は、P 584から永樂通寶（438）、P 630から永樂通寶（442・443）、銅鏡（441）、P 405から貝殻1点、P 633から不明の陶器片1点、P 1157から石核1点が出土した。出土遺物から、近世初頭の建物跡と推測されるが、詳細は不明である。規模から、母屋級の建物と推測される。

#### S B03掘立柱建物（第73図）

C区-III E 6 b グリッド付近に位置する。27個の柱穴（P 372・373・374・378・383・392・403・409・418・428・498・521・527・534・555・632・655・662・667・669・686・800・846・934・1178・1180・1196柱穴状土坑）を使用した。桁行の軸方向はN-81°-Eである。桁行7間、梁行4間で、規模は13.40×7.50m、面積は100.5m<sup>2</sup>である。柱穴の配置から、母屋部分は少なくとも2室に分かれ、南側と西側に庇を持つ構造であったと推測される。S B01・02掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は、P 392から貝殻1点が出土したのみである。S B01・02掘立柱建物と規模・軸方向がほぼ等しく、ほぼ同じ位置に重複していることから、S B01～03掘立柱建物は同じ機能を持つ建物の建て替えである可能性が高く、時期はS B01・02掘立柱建物と同じく近世初頭と考えられる。

#### S B04掘立柱建物（第74図）

C区-III E 3 d グリッド付近に位置する。16個の柱穴（P 708・711・717・719・744・775・791・795・796・804・821・822・823・824・837・1101柱穴状土坑）を使用した。北東隅の柱穴は検出することができなかった。また北辺と南辺が平行とならず、プランは台形となる。柱穴の配置から、母屋部分は2室に分かれていたと推測される。北辺を基準にすると、桁行の軸方向はN-65°-Eである。桁行6間、梁行3間で、規模は、北辺12.30m、西辺5.80m、南辺12.2m、東辺6.30mで、台形ブ

ランの面積は、 $74.415\text{m}^2$ である。S B05掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は、P 837から貝殻 1 点が出土したのみである。S B01・02掘立柱建物と同じ近世初頭と推測される。S B01～03のいずれか 1 棟及び S B06～09掘立柱建物のいずれか 1 棟と共存していた可能性が高い。

#### S B05掘立柱建物（第75図）

C区-III E 3 c グリッド付近に位置する。22個の柱穴（P 694・703・761・768・779・788・792・806・817・845・848・850・860・862・904・907・914・937・1116・1118・1120・1156）を使用した。柱穴の配置から、母屋部分は 2 室に分かれ、南側・東側に庇を持つ構造であったと推測される。桁行の軸方向は N-70° - E である。桁行 6 間、梁行 4 間で、規模は  $8.10 \times 7.50\text{m}$ 、面積は  $60.75\text{m}^2$  である。S B04掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は、どの柱穴からも出土していない。配置から、S B01・02掘立柱建物と同じく近世初頭の建物と推測される。S B04掘立柱建物は建替え前、もしくは建替え後で、S B01～03掘立柱建物のいずれか、及び S B06～09掘立柱建物のいずれかと共存していたと推測される。

#### S B06掘立柱建物（第76図）

C区-III E 6 d グリッド付近に位置する。8 個の柱穴（P 345・546・549・559・605・620・1145・1185柱穴状土坑）を使用した。南東隅付近は調査区外にあるが、対応する柱穴が存在するものと予想される。桁行の軸方向は N-79° - E である。桁行 5 間、梁行 1 間で、規模は  $10.50 \times 4.50\text{m}$ 、面積は  $47.25\text{m}^2$  である。桁行と梁行の長さの比は 7 : 3 である。S B07～09掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は、どの柱穴からも出土していない。配置から、S B01・02掘立柱建物と同じく近世初頭の建物と推測される。S B07～09掘立柱建物は建替え前、もしくは建替え後で、S B01～03掘立柱建物のいずれか、及び S B04・05掘立柱建物のいずれかと共存していたと推測される。S B01～05に比べると規模が小さく、小屋など、付属屋的な性格が想定される。

#### S B07掘立柱建物（第76図）

C区-III E 6 d グリッド付近に位置する。7 個の柱穴（P 322・550・561・602・1133・1138・1146柱穴状土坑）を使用した。南東隅付近は調査区外にあるが、対応する柱穴が存在するものと予想される。桁行の軸方向は N-80° - E である。桁行 5 間、梁行 1 間で、規模は  $8.30 \times 3.20\text{m}$ 、面積は  $26.56\text{m}^2$  である。S B06・08・09掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は、どの柱穴からも出土していない。配置から、S B06・08・09掘立柱建物は建替え前、もしくは建替え後で、S B01～03掘立柱建物のいずれか、及び S B04・05掘立柱建物のいずれかと共存していたと推測される。したがって、S B01・02掘立柱建物と同じく近世初頭の建物と推測される。S B01～05掘立柱建物に比べると規模が小さく、小屋など、付属屋的な性格が想定される。

#### S B08掘立柱建物（第77図）

C区-III E 6 d グリッド付近に位置する。9 個の柱穴（P 407・412・547・560・1124・1136・1143・1148・1198柱穴状土坑）を使用した。南東隅付近は調査区外にあるが、対応する柱穴が存在するものと予想される。桁行の軸方向は N-81° - E である。桁行 3 間、梁間 2 間で、規模は  $6.30 \times 4.50\text{m}$ 、面積は  $28.35\text{m}^2$  である。桁行の柱間寸法はいずれも  $2.10\text{m}$  で等間隔である。梁行きの柱間寸法は  $2.25\text{m}$  で等間隔である。桁行と梁行の長さの比は 7 : 5 である。S B06・07・09掘立柱建物と重複するが、

新旧関係は不明である。遺物は、どの柱穴からも出土していない。配置から、S B06・07・09掘立柱建物は建替え前、もしくは建替え後で、S B01～03掘立柱建物のいずれか、及びS B04・05掘立柱建物のいずれかと共存していたと推測される。したがって、S B01・02掘立柱建物と同じく近世初頭の建物と推測される。S B01～05掘立柱建物に比べると規模が小さく、小屋など、付属屋的な性格が想定される。

#### S B09掘立柱建物（第77図）

C区-E 6 d グリッド付近に位置する。8個の柱穴（P 542・543・564・604・606・607・608・626柱穴状土坑）を使用した。南東隅付近は調査区外にあるが、対応する柱穴が存在するものと予想される。桁行の軸方向はN-84°-Eである。桁行3間、梁間2間で、規模は6.00×3.90m、面積は23.40m<sup>2</sup>である。S B06～08と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は、P 607から剥片1点が出土した他は確認されていない。配置から、S B06～08掘立柱建物は建替え前、もしくは建替え後で、S B01～03掘立柱建物のいずれか、及びS B04・05掘立柱建物のいずれかと共存していたと推測される。したがって、S B01・02掘立柱建物と同じく近世初頭の建物と推測される。S B01～05掘立柱建物に比べると規模が小さく、小屋など、付属屋的な性格が想定される。

### 6 焼土遺構（第67～70図、写真図版54～60）

焼上遺構は、計28基検出した（S N01～29、S N15は欠番）。S N09はa～cと分けたが1基として数えている。すべてC区のⅢ層上面で検出した。位置・規模などは第8表に示した。

上記の焼土遺構は、平成18年度調査時に検出・平面図作成を行ない、翌平成19年度に断ち割り、断面図作成を行なったものである。平成18年度調査終了時に、S N24～29焼上の位置する斜面下部分は一旦埋め戻しを行い、翌年調査開始時に重機により表土除去を行なった。この2度目の表土除去の際、一部検出面以下まで掘り過ぎてしまい、S N25～27焼土の3基は断ち割り調査前に破壊してしまった。そのため、断面図・写真は掲載していない。

### 7 遺構外出土遺物

#### 縄文土器（第96図）

縄文土器は、調査区全体で1219g出土し、このうち8点（92～99）を掲載した。掲載しなかったものは地文のみの体部小片である。遺構外で検出時・粗掘り時に出土したものが大半である。C区の遺構外-E 3 c グリッドでは849gがまとまって出土した（92・93）。それ以外は散発的に小破片が出土したのみである。遺構内からは出土していない。

92・93は接合しないが同一個体とみられる。92は平縁の口縁部、93は尖底の底部で、いずれも外面にR L 単節斜縄文が施される。早期末の赤御堂式と推定される。94～96は口縁部の破片である。94は縦方向の短い刻みと細い沈線が2条施される。95は地文のみである。96は山形の口縁部で、沈線により区画され刺突が施される。後期と推定される。97は数条の押引文が施される。98・99は底部片である。いずれも平底で、98は羽状縄文、99はR L 地文が施される。100は円盤状土製品に転用している。

### 陶磁器（第97図）

陶磁器は、17点を掲載した。101・103～105・107・115～117は造構外出土であるが、その他はすべてC区の柱穴から出土した。すべて破片の状態で、完形に近い状態のものはない。

101は陶器丸皿の底部で、大窯4期（16世紀頃）の美濃産である。102は青磁碗の口縁部で、細描蓮弁文が施される。15世紀後半～16世紀末の中国産と考えられる。103は陶器碗の底部で、国産と推定される。104は陶器端反皿の口縁部で、大窯2期後半（16世紀後半）の瀬戸・美濃産である。105は陶器丸皿の口縁部で、大窯4期の美濃産である。106は青磁碗の底部で、内面見込みに印花文が施される。15世紀の中国産とみられる。110は磁器染付皿の底部で、15世紀中～16世紀中頃の中国産である。111は陶器皿の底部で、18世紀後半の肥前産と考えられる。112は磁器染付皿の底部で、17世紀後半の肥前産である。113は陶器蓋で、19世紀の東北地方産と考えられる。114は陶器碗の底部で、16世紀の東北地方産と考えられる。115は陶器擂鉢の底部で、東北地方産と考えられる。116は陶器碗の口縁部である。117は素焼きで器種不明である。

### 石器類（第98～103図）

224は頁岩製の箆状石器で、側縁に両面から調整が施される。225は頁岩製のスクレイバーで、両面から調整が施される。226は頁岩製の石棒で、先端部が方形に加工されている。227は頁岩製の石棒で、両端を丸く。228は花崗閃緑岩製の敲石で、両端に敲打痕がある。

229～231は剥片の接合資料である。D区斜面下側の一IV E 4 f グリッドで、剥片28点（写真図版77、h 1～h 28、計394.7g）がまとまって出土した。このうち、h 3とh 4（229）、h 1とh 2（230）、h 7とh 27（231）が接合した。

232は箆状の石製品で、頁岩製であるが用途は不明である。233は凝灰岩製で、円錐状で中央が貫通しており、紡錘車とみられる。234は石英製の剥片である。火打金（321）とは同一地点から出土したため、火打石と推定される。235は凝灰岩製の磨石で、両面に磨痕がみられる。同様の材質・形状のものがB区S I 12から出土している。

236～247は砥石である。すべてC区の柱穴から出土しており、破断しているものが多い。材質は、236・238・240・241が凝灰岩製、237・239・242～246が頁岩製、247が砂岩製である。236は断面形が凹レンズ状である。238は凝灰岩製で、4面が使用される。239は頁岩製で、3面が使用される。245は4面のうち1面に溝状の掘りこみが複数みられる。

248～252は台石である。248・249は表裏とも中央部分に炭化物の付着がみられる。250は側面、251・252は表面に磨痕が確認された。253・254は石臼である。

### 鉄製品（第104図）

315～327（計13点）は鉄製品で、遺構外または柱穴から出土したものである。315は鎌物の破片で三叉に分岐するが、全体の形状は不明である。断面形は台形である。316・322・323は刀子の刃部と考えられる。318は角釘である。319は薄い鉄板を折り返したようにみられる。320・321は火打金である。321は火打石？（234）とともに出土した。317は環状、324・325は長方形の板状であるが、用途不明である。326・327は板状でやや湾曲しており、鉄鍋の一部の可能性がある。

### 銅製品（第106図）

460～468（計9点）は銅製品である。460・461は小刀の鍔と考えられる。楕円形の薄い板状で、中

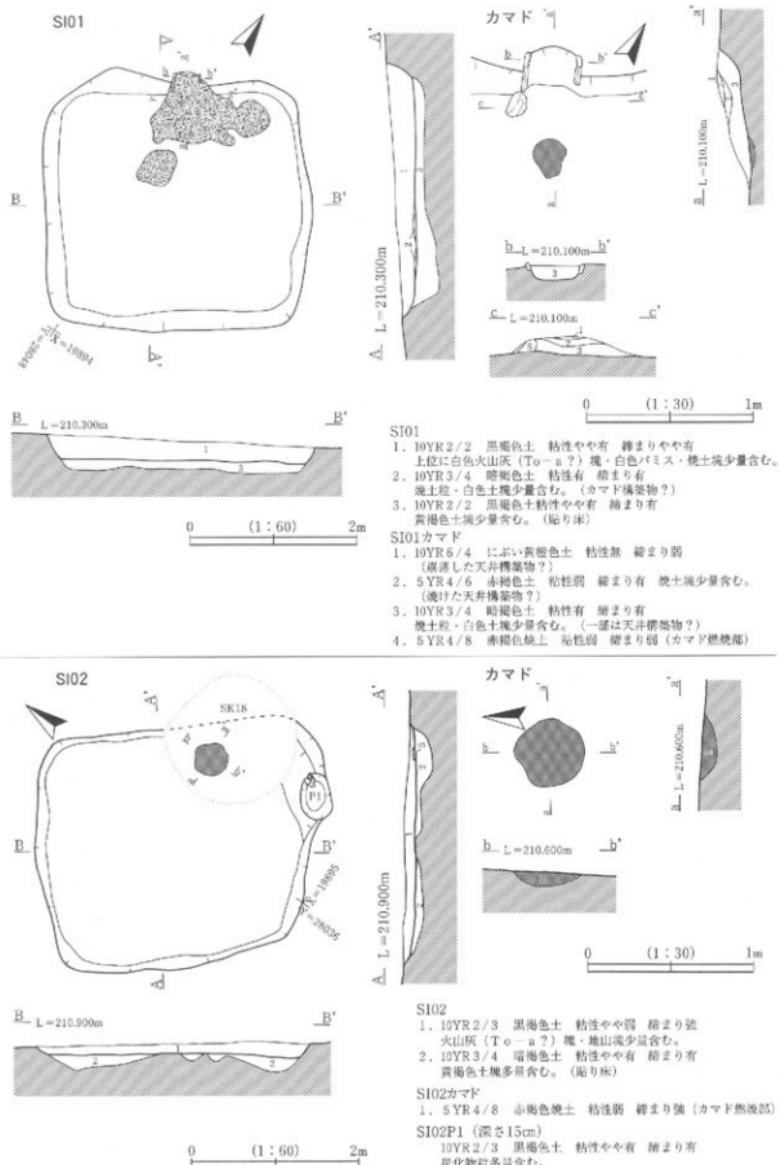
央に三角形の穴が開く。462～464、466は煙管雁首、465・467・468は煙管吸口である。464と465は接合した状態で出土した。461の小口部分は、補強のためか糸が巻かれた状態であった。462～464は雁首の曲がり具合から17世紀頃のものと考えられる。

#### 銭貨（第105・106図）

401～456（計56点）は銅錢である。427・445の2点は破損が著しく、写真・拓本とも掲載していない。424・441・448～451・454の7点は写真のみを掲載している。

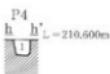
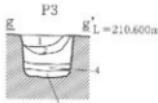
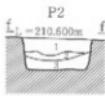
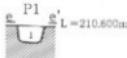
出土地点は、A区が2点、B区が2点、C区が49点、D区が3点で、C区が圧倒的に多い。C区で出土した49点のうち、27点は柱穴から出土している。銭種は、咸平元寶（北宋・998年）、洪武通寶（明・1368年）、永樂通寶（明・1408年）、古寛永（寛永13・1636年）、新寛永文錢（寛文8・1668年）がある。

点数は、咸平元寶（1点）、洪武通寶（1点）、永樂通寶（27点）、古寛永（7点）、新寛永（3点）磨滅・破損により不明のもの（17点）であり、永樂通寶が半数近くを占める。

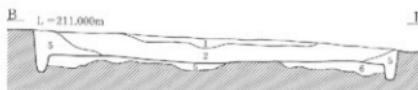
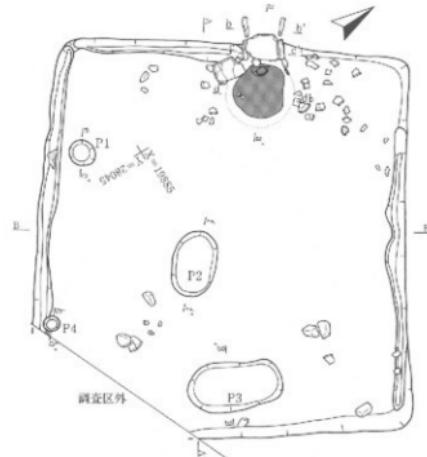


第22図 S I O1・S I O2

## SI03



0 (1 : 60) 2m



## SI03

- 10YR 2/2 黒褐色土 粘性有 繊まり有  
火成灰(Te ± ?)層・地山塊・炭化物塊多量含む。
2. 10YR 2/3 黒褐色土 粘性有 繊まり有  
1層と同様混入物。ただし割合が多い。地山塊は大きい。
3. 10YR 2/3 黒褐色土 粘性有 繊まり有  
2層と同様混入物。ただし割合が少ない。
4. 10YR 2/3 黒褐色土 粘性有 繊まり有  
5. 10YR 1 黑色土 粘性有 繊まりやや弱 白色バニッシュ少量含む。
6. 10YR 2/2 黒褐色土 粘性有 繊まり有  
黄褐色土塊多量含む。(貼り床)

## SI03カマド

1. 10YR 2/2 黒褐色土 粘性有 繊まり有  
焼土粒・炭化物粒少量含む。
2. 10YR 2/2 黒褐色土 粘性有 繊まり有  
焼土粒・炭化物粒多量含む。
3. 5 YR 4/8 赤褐色燒土 粘性弱 繊まり強(カマド燃焼部)
4. 5 YR 4/8 赤褐色土 粘性弱 繊まり強(支脚?)
5. 10YR 3/4 黄褐色土 粘性やや有 繊まり強  
黄褐色土粒少量含む。(備葉煙の握り方壁上)

## SI03P1

1. 10YR 2/3 黒褐色土 粘性やや有 繊まりやや有

## SI03P2

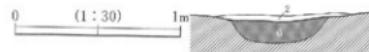
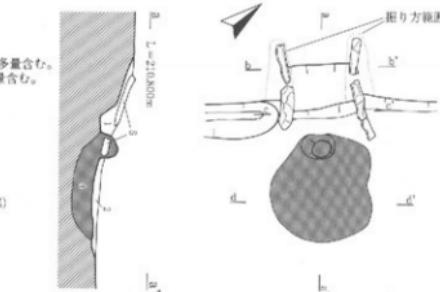
1. 10YR 2/3 黒褐色土 粘性やや有 繊まりやや有 黄褐色土塊多量含む。
2. 10YR 3/4 黄褐色土 粘性やや有 繊まりやや有 黄褐色土塊少量含む。
3. 10YR 3/4 黑色土 粘性やや有 繊まりやや有 白色土塊少量含む。

## SI03P3

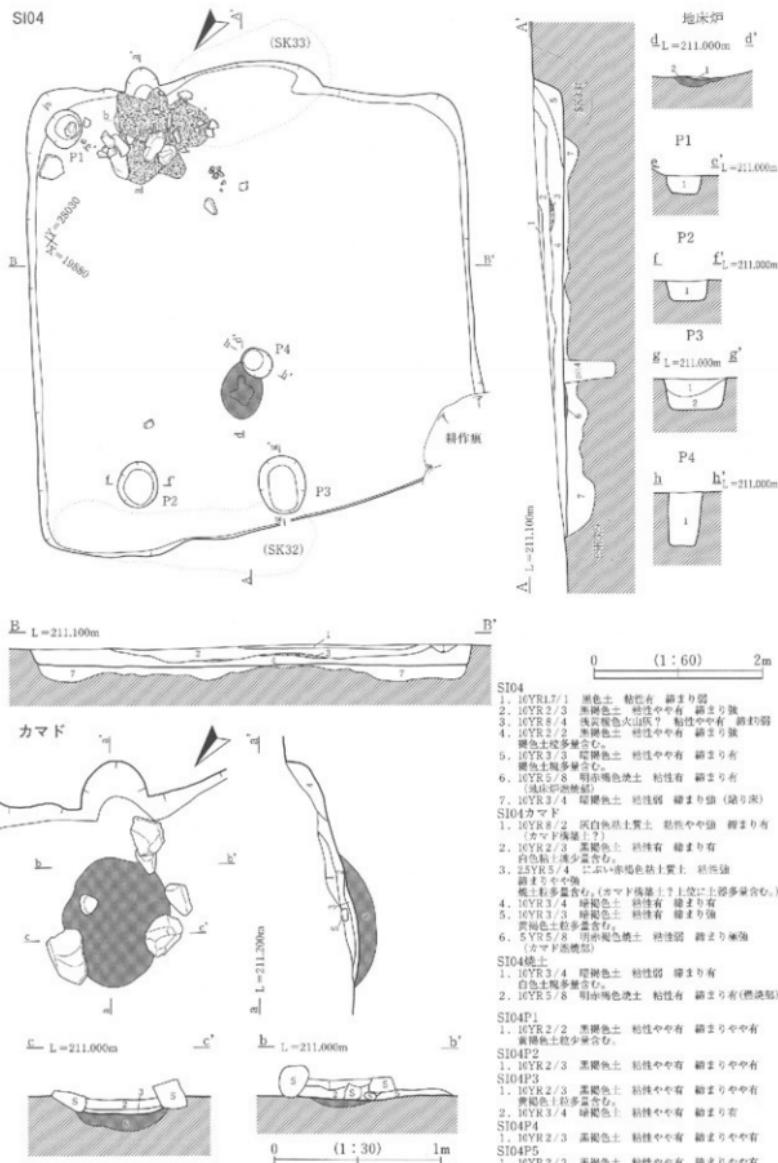
1. 10YR 3/4 黄褐色土 粘性やや有 繊まり有 黄褐色土塊多量含む。
2. 10YR 1.7/1 黑色土 粘性やや有 繊まりやや有 黄褐色土粒・白色土粒少量含む。
3. 10YR 3/4 黄褐色土 粘性やや有 繊まり有 黄褐色土塊少量含む。
4. 10YR 1.7/1 黑色土 粘性やや有 繊まりやや有 白色土塊少量含む。
5. 10YR 3/4 黄褐色土 粘性やや有 繊まりやや有 黄褐色土粒少量含む。

## SI03P4

1. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性やや有 繊まりやや有

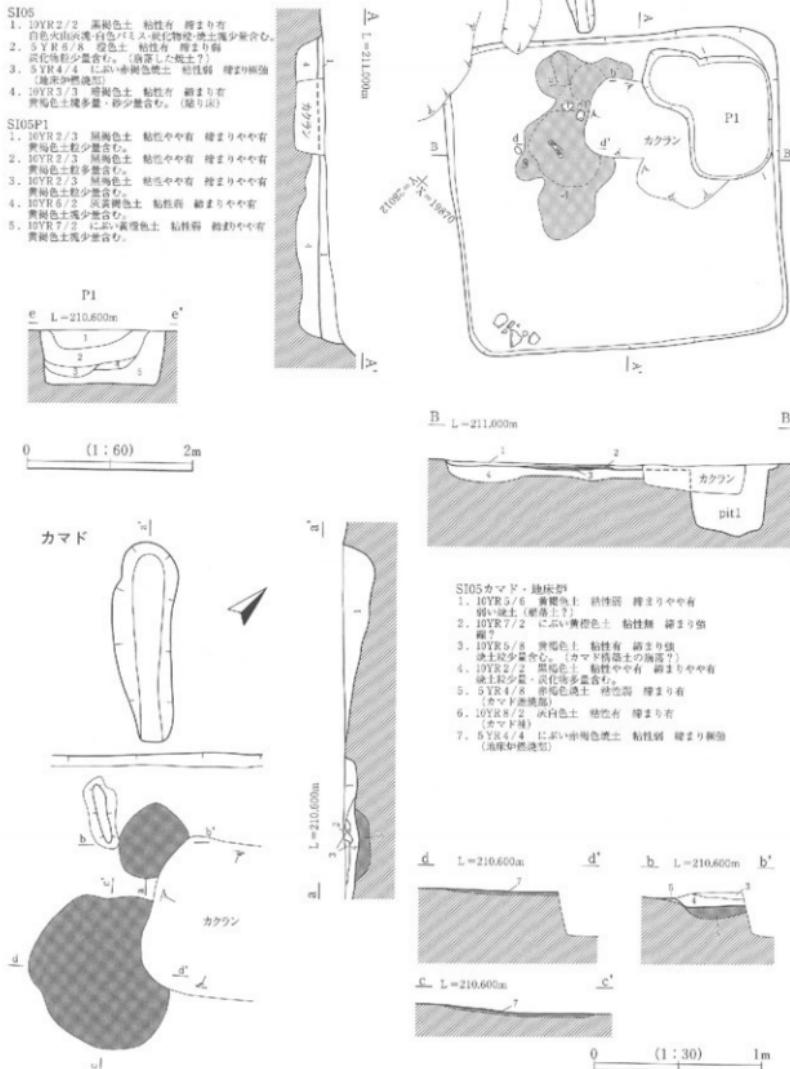


第23図 S I 03



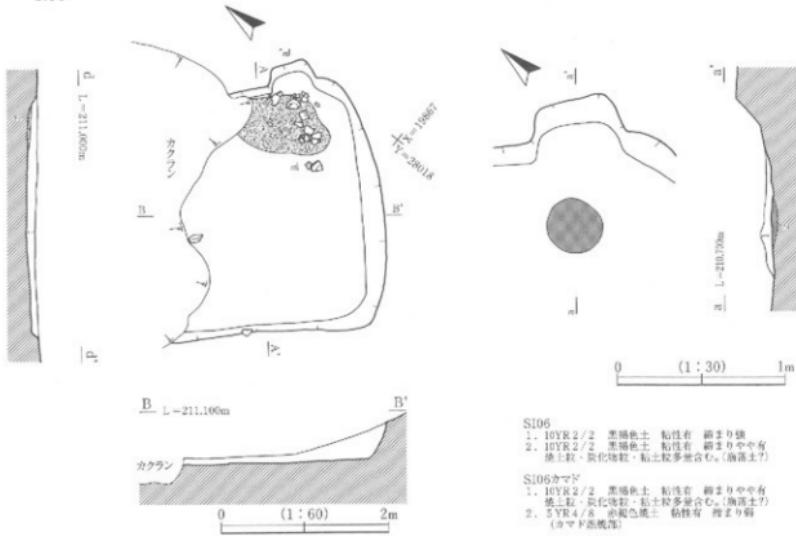
第24図 SI04

## SI05

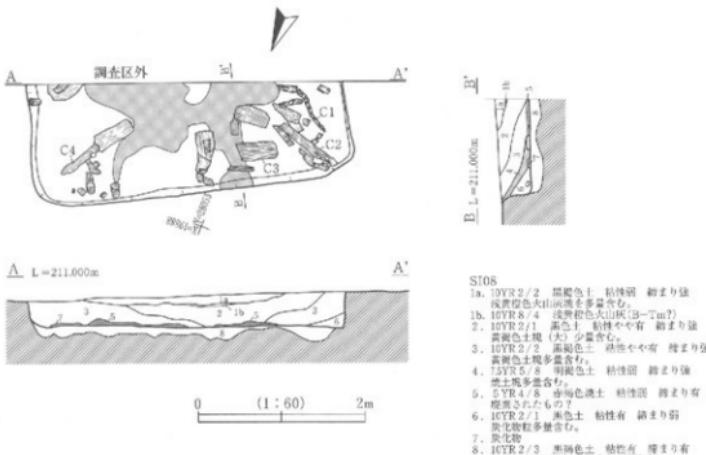


第25図 S I 05

SI06

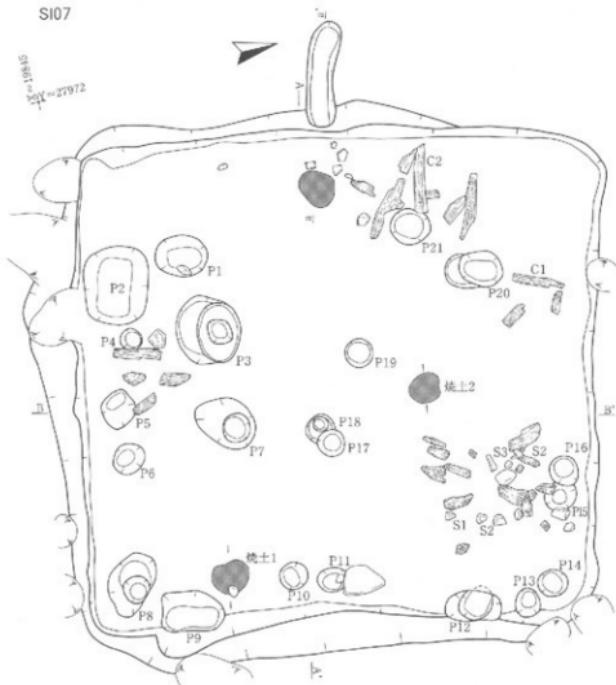


SI08



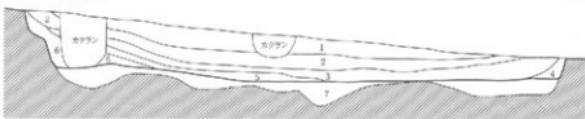
第26図 S I 06・S I 08

SI07



B L = 211.900m

B'



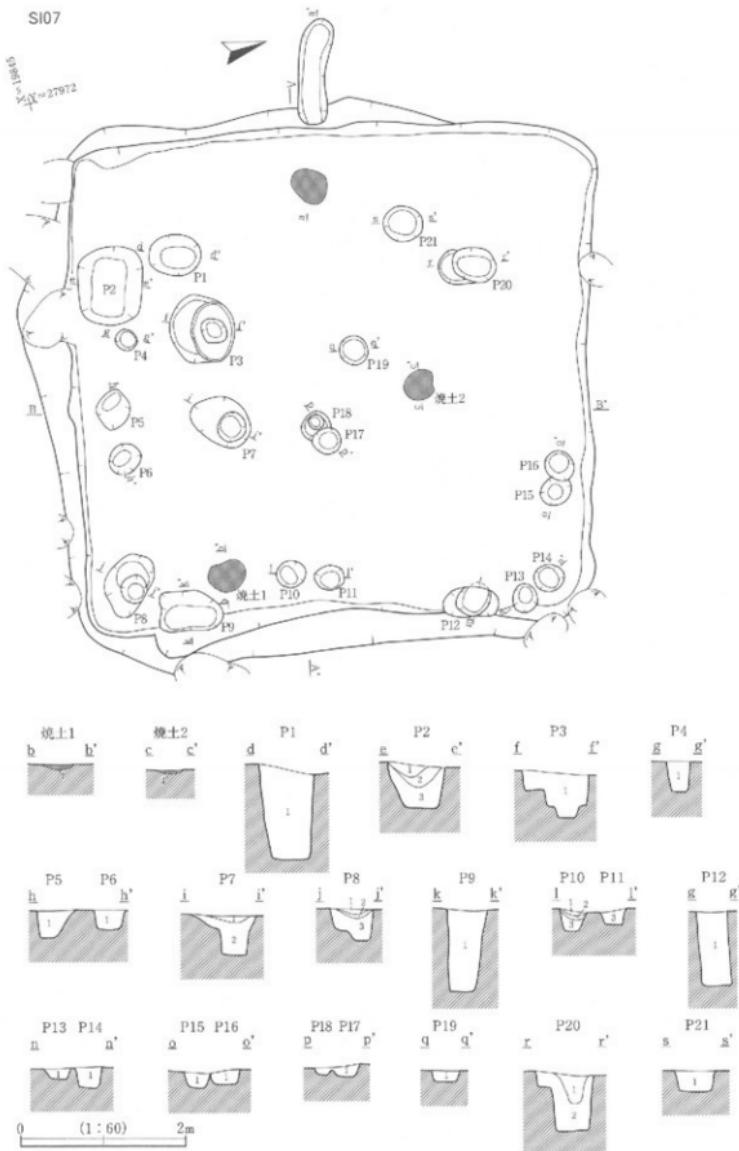
A L = 211.900m

A'



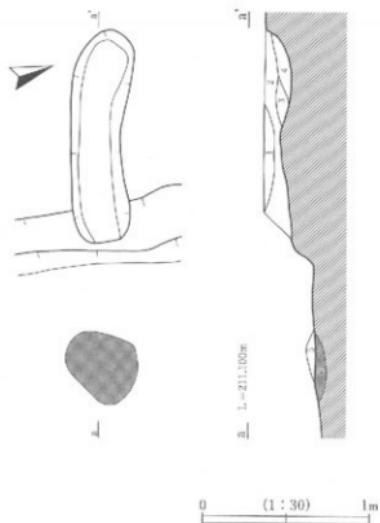
- SI07
1. 黒色土 黏性有 掘まり有
  2. 黄褐色土 多量含む
  3. 黑褐色土 黏性有 掘まり有  
黄褐色土多量含む
  4. 黑褐色土 黏性有 掘まり有  
(流れ込みの土下)
  5. 黑色土 黏性有 掘まり有  
炭化物類多量含む
  6. 黑褐色土 黏性有 掘まり有  
炭化物類多量含む
  7. 黄褐色土 黏性有 掘まり有  
黄褐色土多量含む (跡り床)

第27図 SI07 (1)

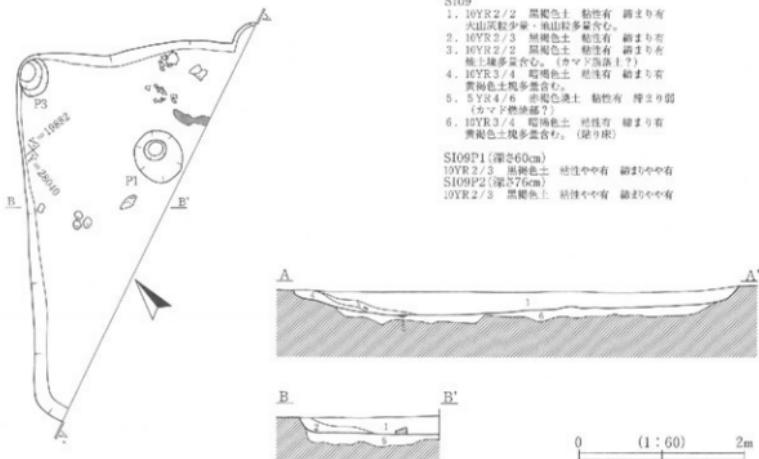


第28図 SI07 (2)

SI07カマド

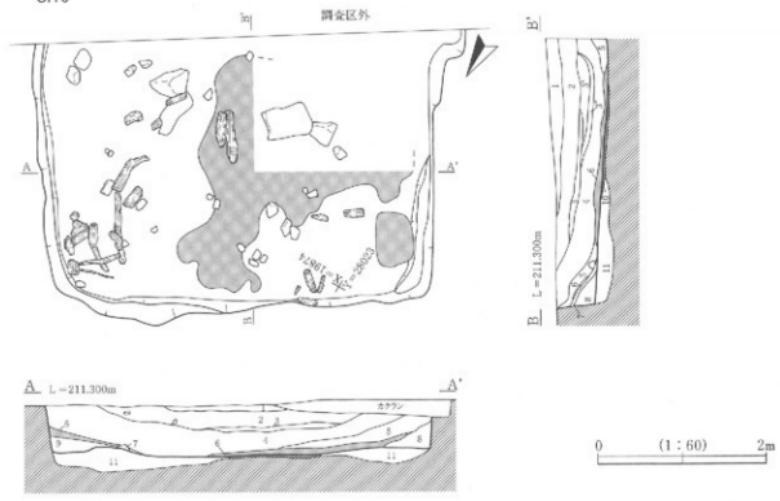


SI09



第29図 S I 07 (3)・S I 09

SI10



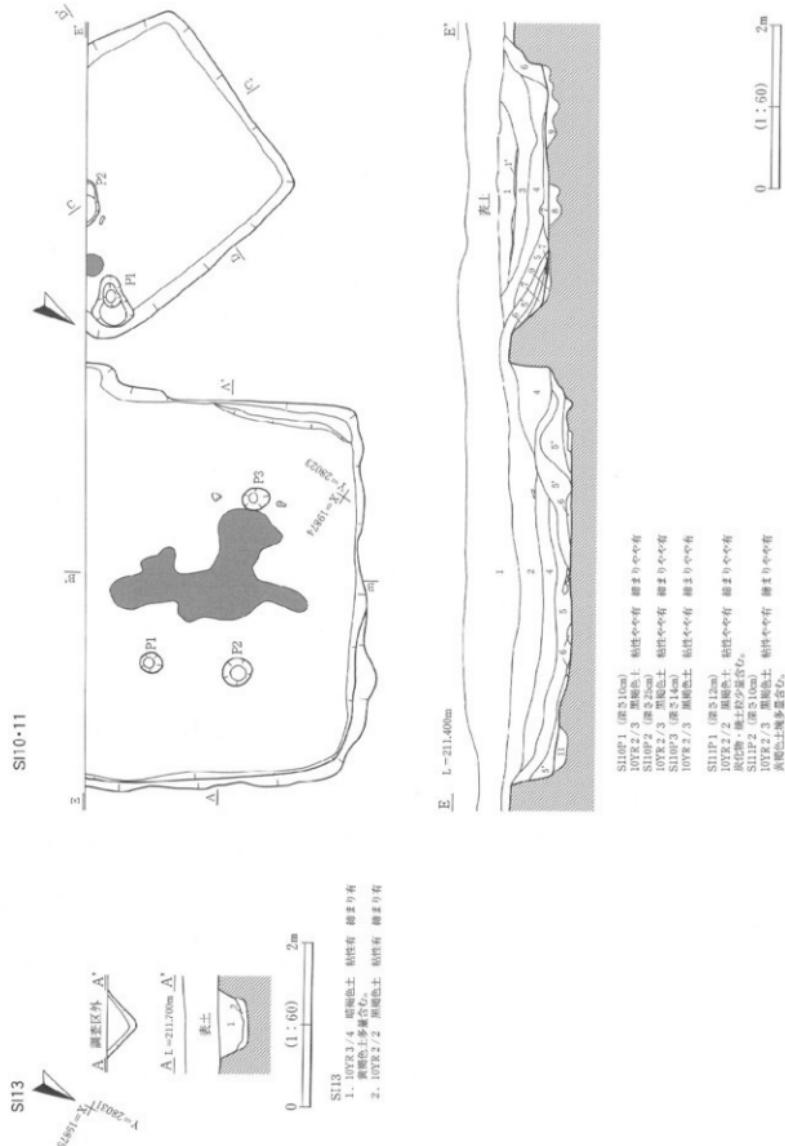
SI10

- 10YR 2/1 黒褐色土 粘性やや有 壊まり強
- 10YR 2/2 黑褐色土 粘性やや有 壊まり有  
黄色土混含。
- 10YR 2/1 黒褐色土 粘性有 壊まりやや弱
- 10YR 2/1 黒褐色土 粘性有 壊まりやや弱  
壊れの黄褐色土混含。
- 10YR 2/2 黒褐色土 粘性やや有 壊まり有
- 10YR 2/2 黑褐色土 粘性やや有 壊まり有  
黄色土塊。(大) 多量有。
- 10YR 3/3 黑褐色土 (やや堅質) 粘性やや弱 壊まりや弱
- 10YR 3/3 黑褐色土 粘性やや強 壊まり有  
黄褐色土塊多量含む。
- 10YR 2/1 黑褐色土 粘性有 壊まりやや弱
- 6 5 YR 4/8 黄褐色土 粘性弱 壊まり有  
(壊れられたもの)
7. 灰化物
8. 10YR 2/2 黑褐色土 粘性やや有 壊まり弱
9. 10YR 4/3 に似る黄褐色火成岩 粘性無 壊まり強
10. 5 YR 4/6 黄褐色土粘性弱 壊まり有  
(壊れの燃焼部分)
11. 10YR 3/4 黄褐色土粘性有 壊まり強  
黄褐色土塊多量含む。(壊り床)

SI11

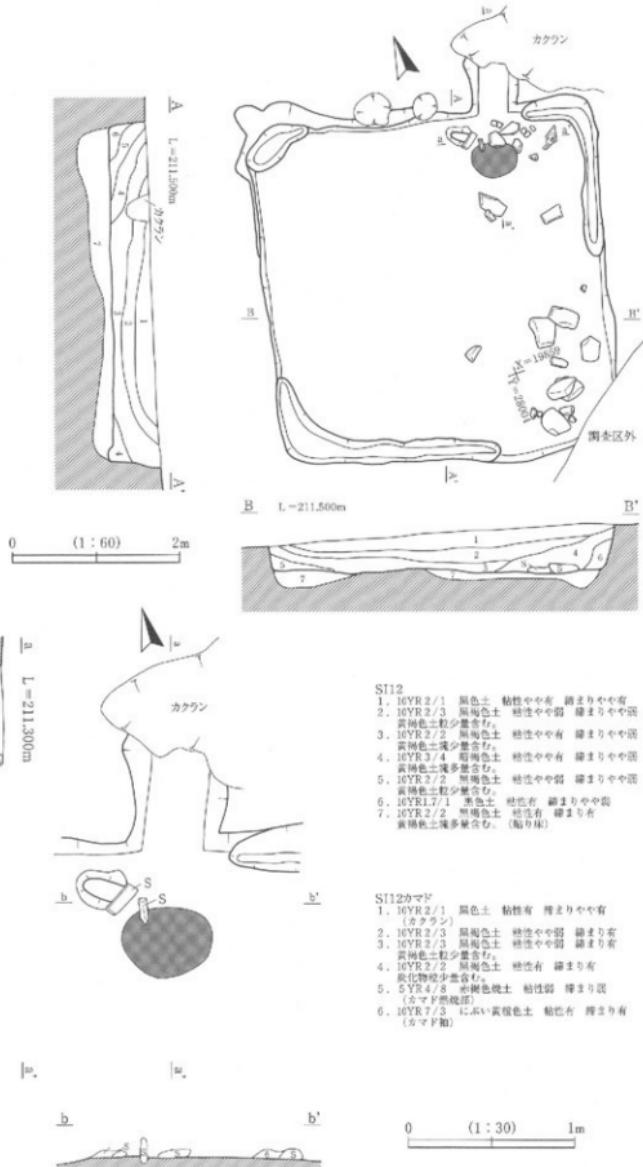
- 10YR 2/2 黑褐色土 粘性やや有 壊まり強  
火成岩塊多量含む。
- 10YR 7/4 に似る黄褐色火成岩 粘性強 壊まり強
2. 10YR 2/1 黑褐色土粘性やや有 壊まり強  
黄褐色土塊少量含む。
3. 10YR 2/1 黑褐色土粘性やや有 壊まり強  
黄褐色土塊多量含む。
4. 10YR 7/1 黑褐色土粘性やや有 壊まり強
5. 10YR 2/1 黑褐色土粘性やや有 壊まり強  
黄褐色土塊少量含む。
6. 10YR 7/1 黑褐色土粘性弱 壊まりや弱
7. 灰化物
7. 5 YR 4/8 黄褐色土粘性有 壊まりや弱
8. 10YR 3/4 黄褐色土粘性有 壊まり有  
黄褐色土塊少量含む。(P2壁)
9. 10YR 2/2 黑褐色土粘性有 壊まり有  
黄褐色土塊多量含む。(F2床)

第30図 SI10・SI11(1)

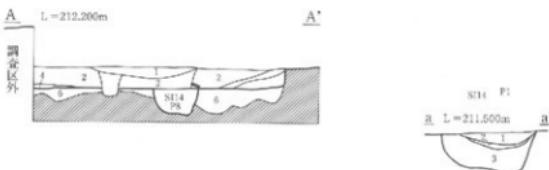
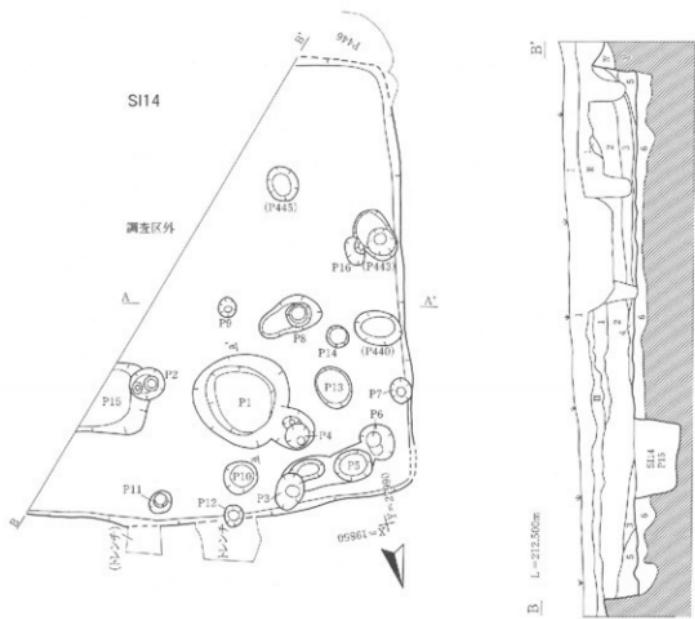


第31図 S I 10・S I 11(2)・S I 13

SI12



第32図 S I 12



SU4

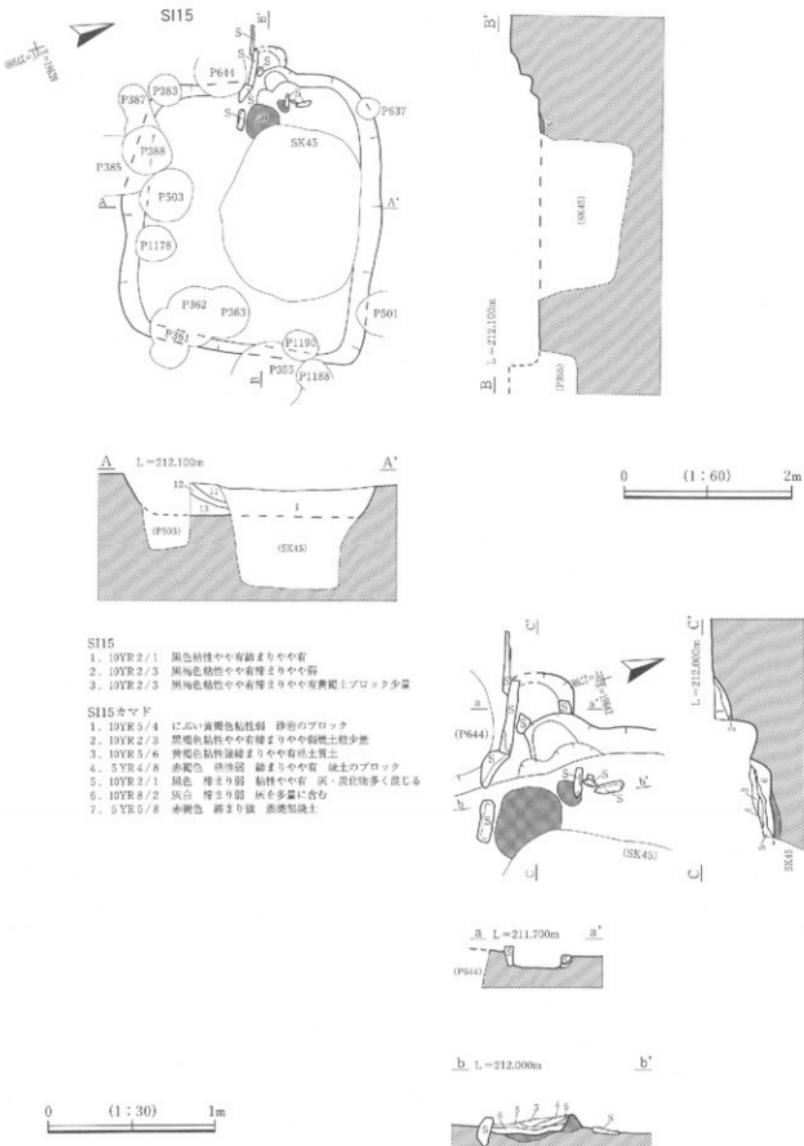
- |    |          |              |                                     |
|----|----------|--------------|-------------------------------------|
| 1. | 10YR 2/1 | 黑色<br>粘性やや柔軟 | 語まりやや柔軟<br>B-Tra ブロック少量             |
| 2. | 10YR 2/1 | 黑色<br>粘性やや柔軟 | 語まりやや柔軟<br>To-a ブロック少量              |
| 3. | 10YR 2/1 | 黑色<br>粘性やや柔軟 | 語まりやや柔軟<br>To-a ブロック少量<br>食糞土ブロック少量 |
| 4. | 10YR 2/1 | 黑色<br>粘性やや柔軟 | 語まりや柔軟<br>To-a ブロック (3より大)<br>消化物類  |
| 5. | 10YR 1/7 | 黑色<br>粘性有り   | 語まりやや柔軟<br>成・液                      |
| 6. | 10YR 2/2 | 黑色<br>粘性やや柔軟 | 語まり強<br>黄褐色<br>土ブロック多量貼床            |

SUMMARY

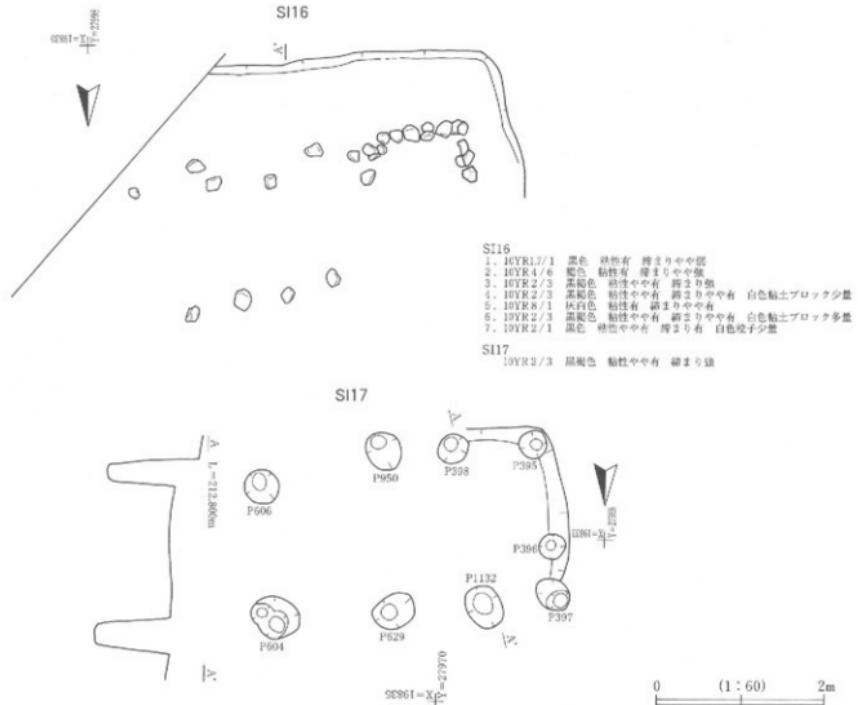
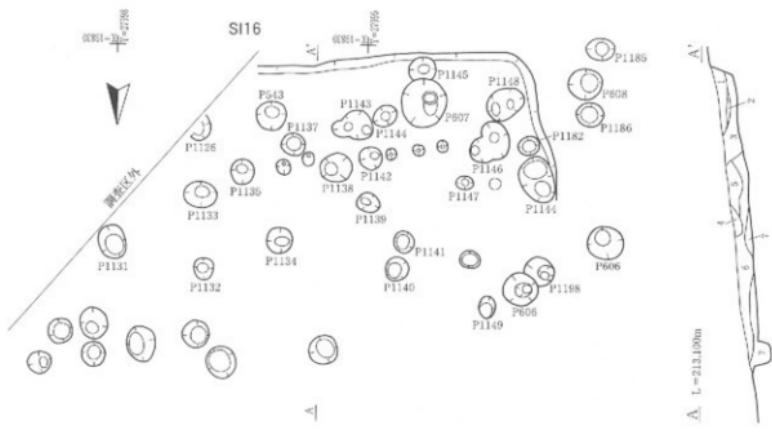
- | SILVAT |            |     |       |   |       |            |
|--------|------------|-----|-------|---|-------|------------|
| 1.     | 10YR 2 / 2 | 黑褐色 | 黏性やや弱 | 稍 | よりやや有 | 黄褐土粒少<br>量 |
| 2.     | 10YR 2 / 2 | 黑褐色 | 黏性やや弱 | 稍 | よりやや有 | 白色灰多<br>量  |
| 3.     | 10YR 2 / 2 | 黑褐色 | 黏性やや弱 | 稍 | よりやや有 | 黄褐土粒多<br>量 |

0 (1 : 60) 2m

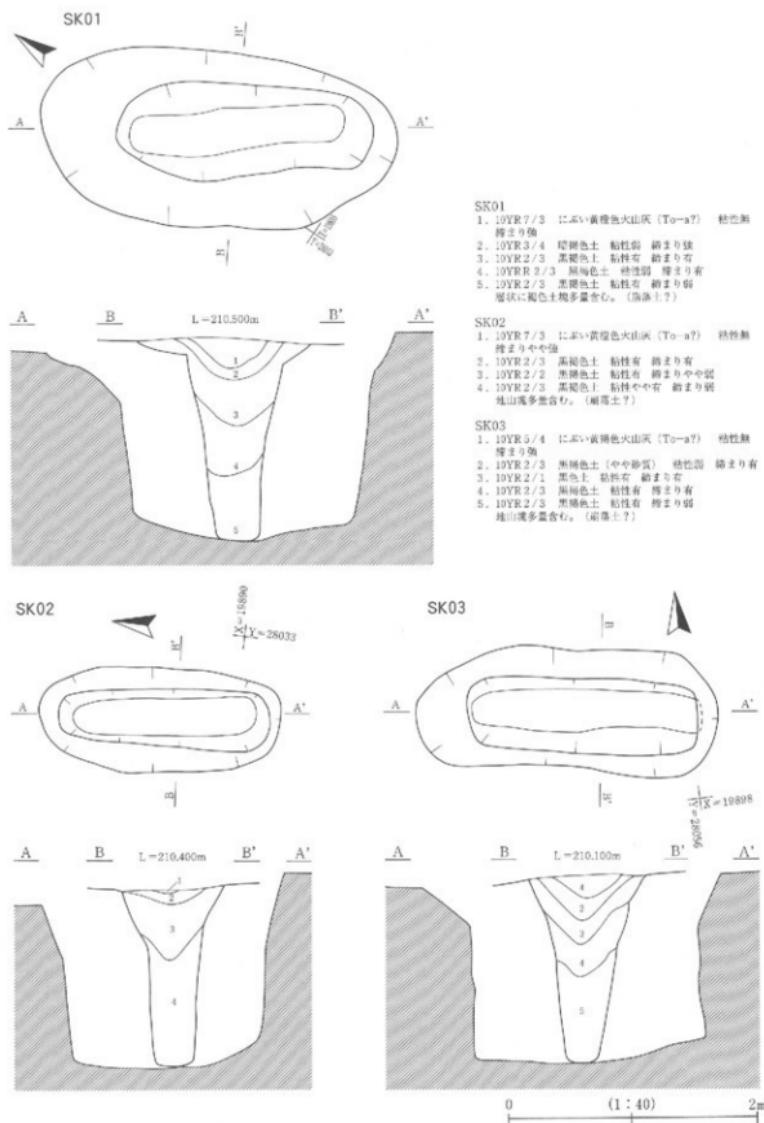
第33回 S.I.14



第34図 SI15

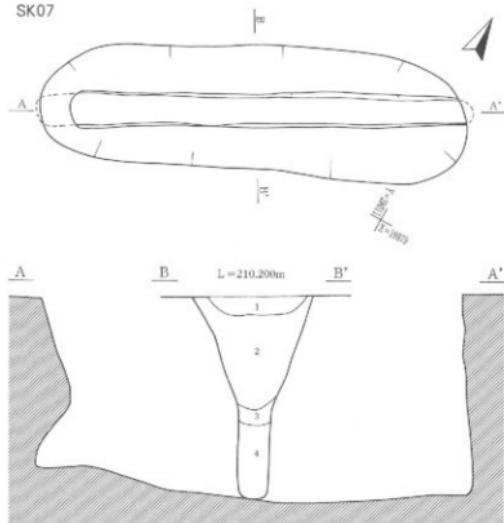


第35図 S I 16・S I 17



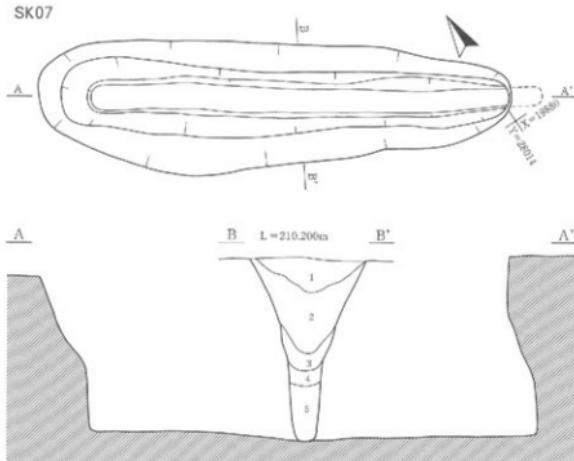
第36図 詰し穴(1) SK01・02・03

SK07



- SK07
1. 10YR1.7/1 黒色土 粘性有 繊まり有
  2. 10YR2.3 濃褐色土 粘性有 繊まりや強 白色バース多量含む
  3. 10YR4.6 黄褐色土 粘性強 繊まり強 淡褐色土塊少量含む
  4. 10YR4.6 黄褐色土 粘性弱 繊まり有 淡褐色土塊50%
  5. 10YR4.2 黄褐色土 粘性有 繊まり弱 砂多量含む

SK07



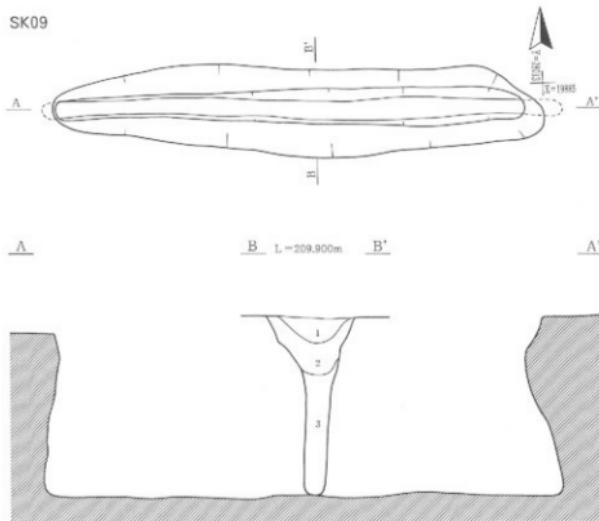
SK08

1. 10YR1.7/1 黒色土 粘性有 繊まり有
2. 10YR2.3 濃褐色土 粘性有 繊まりや強 白色バース多量含む
3. 10YR4.6 黄褐色土 粘性強 繊まり強 淡褐色土塊少量含む
4. 10YR4.6 黄褐色土 粘性弱 繊まり有 淡褐色土塊50%
5. 10YR4.2 黄褐色土 粘性有 繊まり弱 砂多量含む

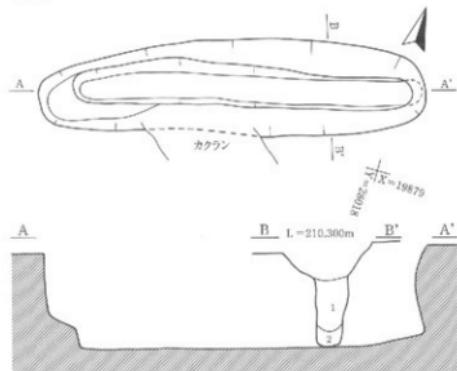
0 (1 : 40) 2m

第37図 跌し穴 (2) S K07・08

SK09



SK11



SK09

1. 10YR 2/1 黒色土 粘性やや強 硬まりやや弱
2. 10YR 3/2 黑褐色土 粘性有 硬まりやや弱
3. 10YR 2/2 黑褐色土 粘性有 硬まりやや弱  
地山塊（大）多量含む。

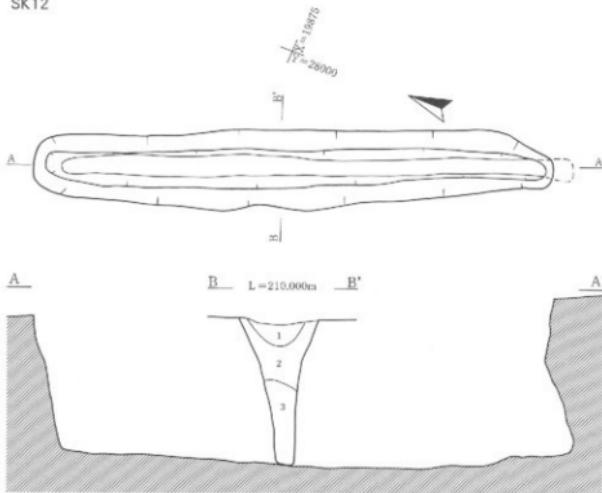
SK11

1. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性有 硬まり有  
白色パラス少量・地山塊多量含む。
2. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性有 硬まり有  
白色パラス少量含む。地山塊1層より多量含む。

0 (1 : 40) 2m

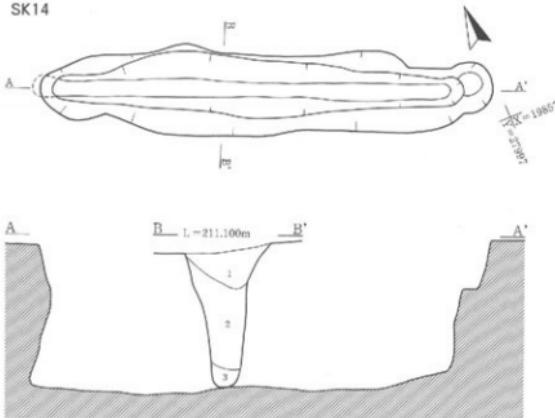
第38図 陥し穴(3) SK09・11

SK12



- SK12
1. 1GYR 2/1 黑色土 粘性有 機まりやや弱  
白色パース少量含む。
  2. 1GYR 2/2 黑褐色土 粘性有 機まりやや強  
白色パース少量含む。
  3. 1GYR 2/3 黑褐色土 粘性有 機まり弱  
地山砂多量含む。(崩落土?)

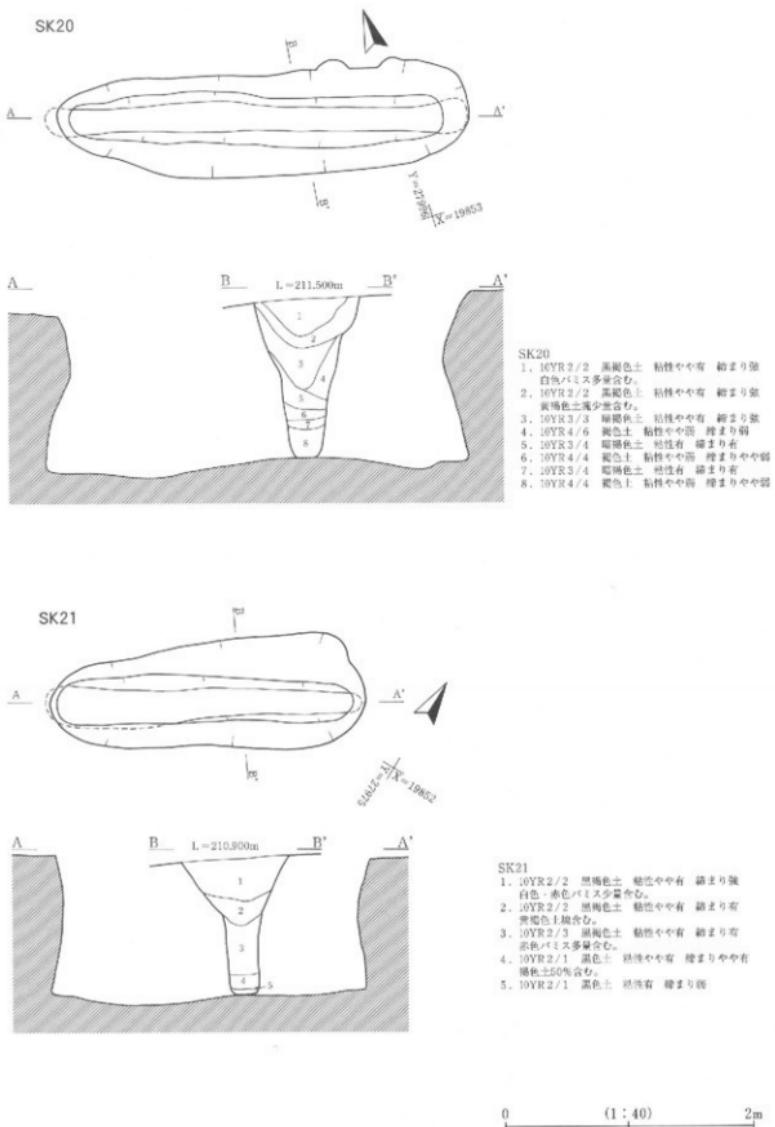
SK14



- SK14
1. 1GYR 2/1 黑色土 粘性やや強 機 2 有  
地山瓦少量含む。
  2. 1GYR 3/4 砂褐色土 粘性強 機まり強  
地山より薄った感じ
  3. 1GYR 3/3 砂褐色土 粘性弱 機まり弱  
砂・黑色土多量含む。

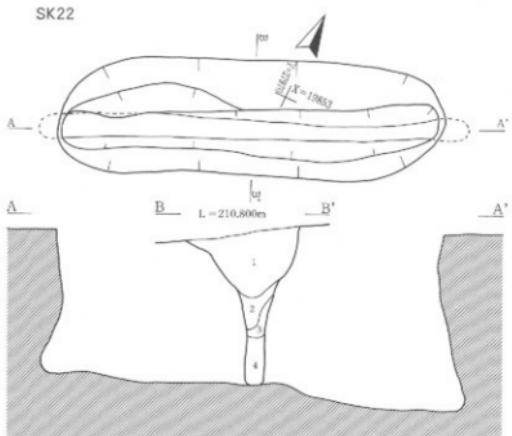
0 (1 : 40) 2m

第39図 蔽し穴(4) SK12・14

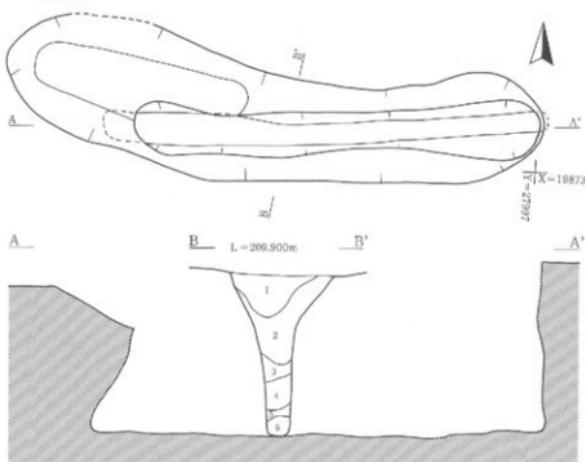


第40図 脱し穴 (5) S K 20・21

SK22



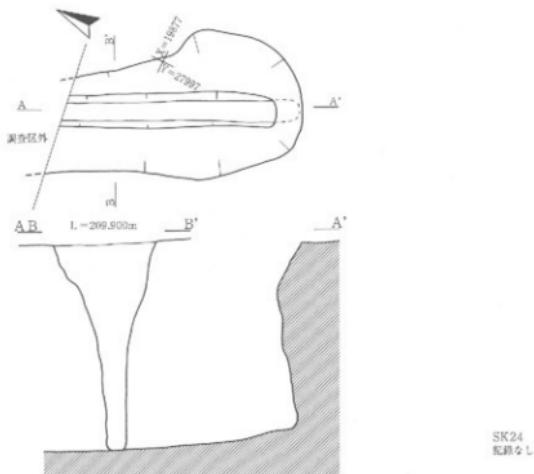
SK23



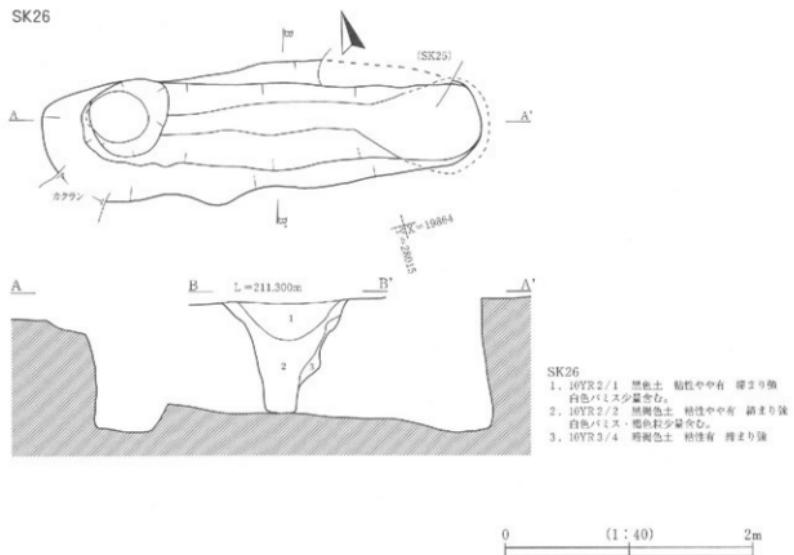
0 (1 : 40) 2m

第41図 跪し穴 (6) SK 22・23

SK24

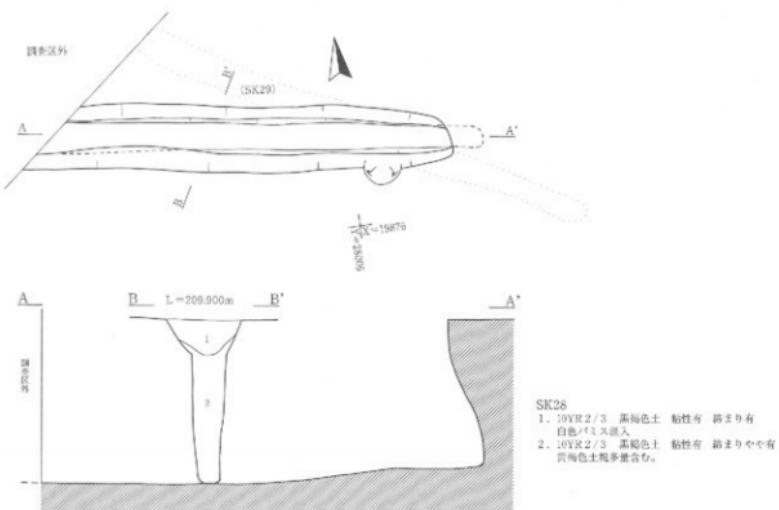


SK26

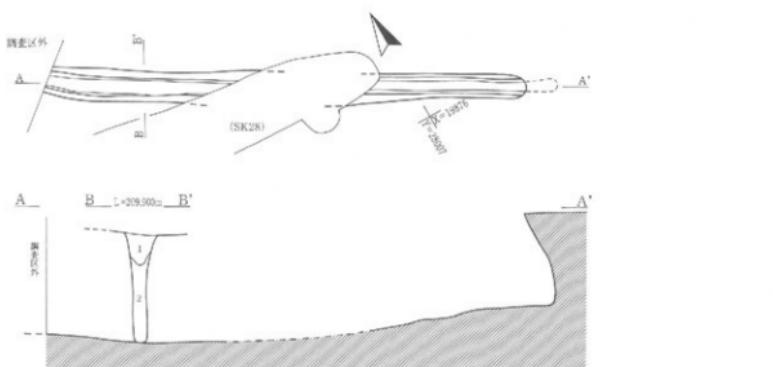


第42図 陥し穴 (7) S K24・26

SK28



SK29



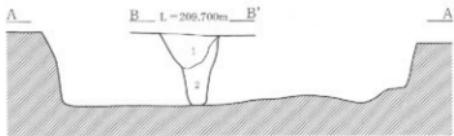
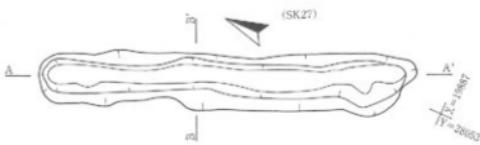
SK29

1. 30YR 3/4 黄褐色土 粘性やや有 絡まり有  
褐色土混入
2. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性有 絡まりやや有  
黄褐色土塊多量含む。

0 (1:40) 2m

第43図 踏し穴 (8) S K 28 + 29

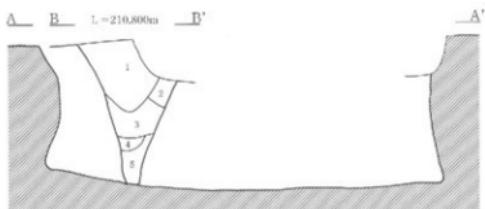
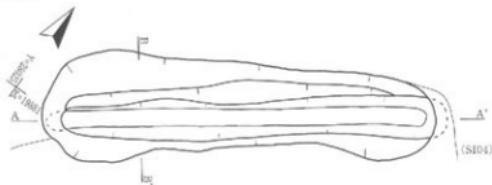
SK30



SK30

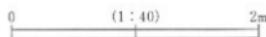
1. 10YR 2 / 3 黒褐色土 粘性やや有 塗まり強  
白色・橙色バニス少量含む。
2. 10YR 4 / 6 棕褐色土 粘性有 塗まり強

SK32



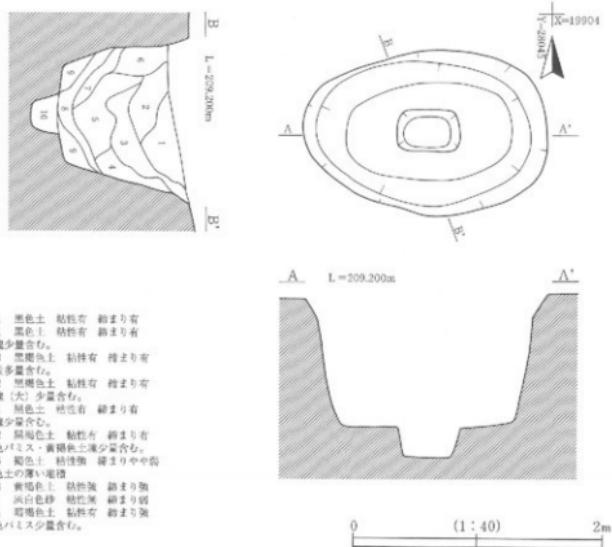
SK32

1. 10YR 1 / 1 黒色土 粘性やや有 塗まり有  
白色バニス少量含む。
2. 10YR 3 / 4 棕褐色土 粘性やや有 塗まり有
3. 10YR 3 / 3 棕褐色土 粘性やや有 塗まり有  
黒褐色上地多量含む。
4. 10YR 1 / 1 黒色土 粘性やや有 塗まり弱
5. 10YR 3 / 4 棕褐色土 粘性強 塗まりやや有  
白色土塊多量含む。



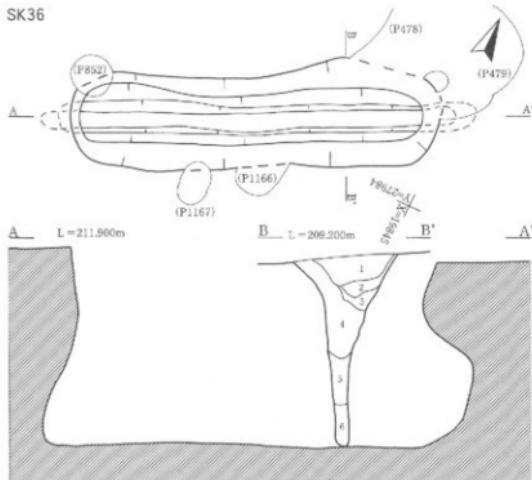
第44図 陥し穴 (9) S K 30・32

SK31

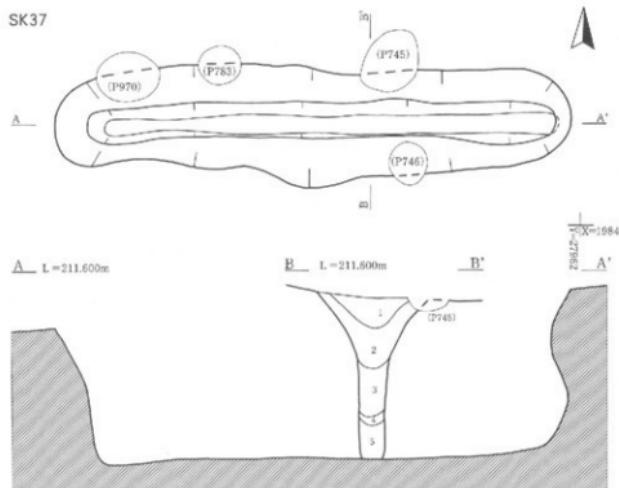


第45図 脱し穴 (10) SK31

SK36



SK37



SK36

1. 10YR 2/1 黒色 粘性 組織強
2. 10YR 4/2 黒褐色 粘性 組織弱
3. 10YR 4/5 黒色 粘性 組織有
4. 10YR 2/2 黑褐色 粘性 組織弱
5. 10YR 3/2 ブロック多量
6. 10YR 3/4 黒色 粘性 組織弱

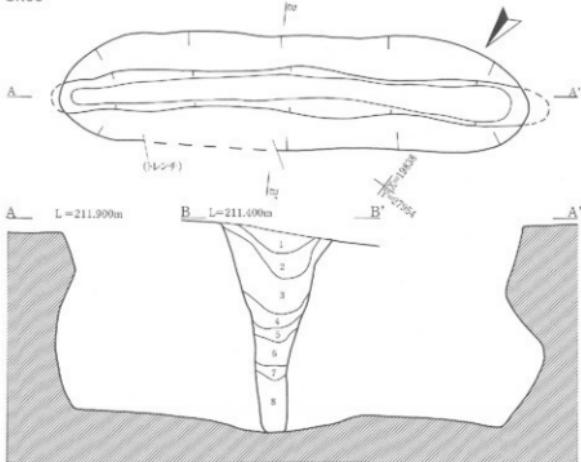
SK37

1. 10YR 2/2 黑褐色 粘性やや有 組織有
2. 10YR 2/2 黑褐色 粘性やや有 組織弱
3. 10YR 2/2 黑褐色 粘性やや有 組織弱
4. 10YR 2/2 黑褐色 粘性やや有 組織弱
5. 10YR 3/2 ブロック多量 粘性やや有 組織弱  
黄褐色ブロック多量 白色土(錆斑)・鉄少量

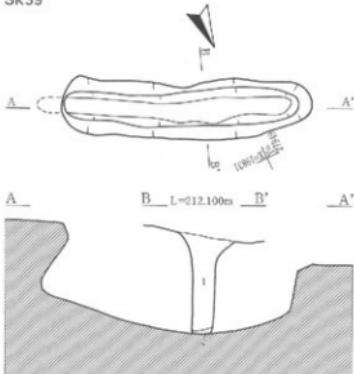
0 (1:40) 2m

第46図 陥し穴 (11) S K 36・37

SK38



SK39

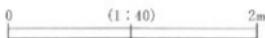


SK38

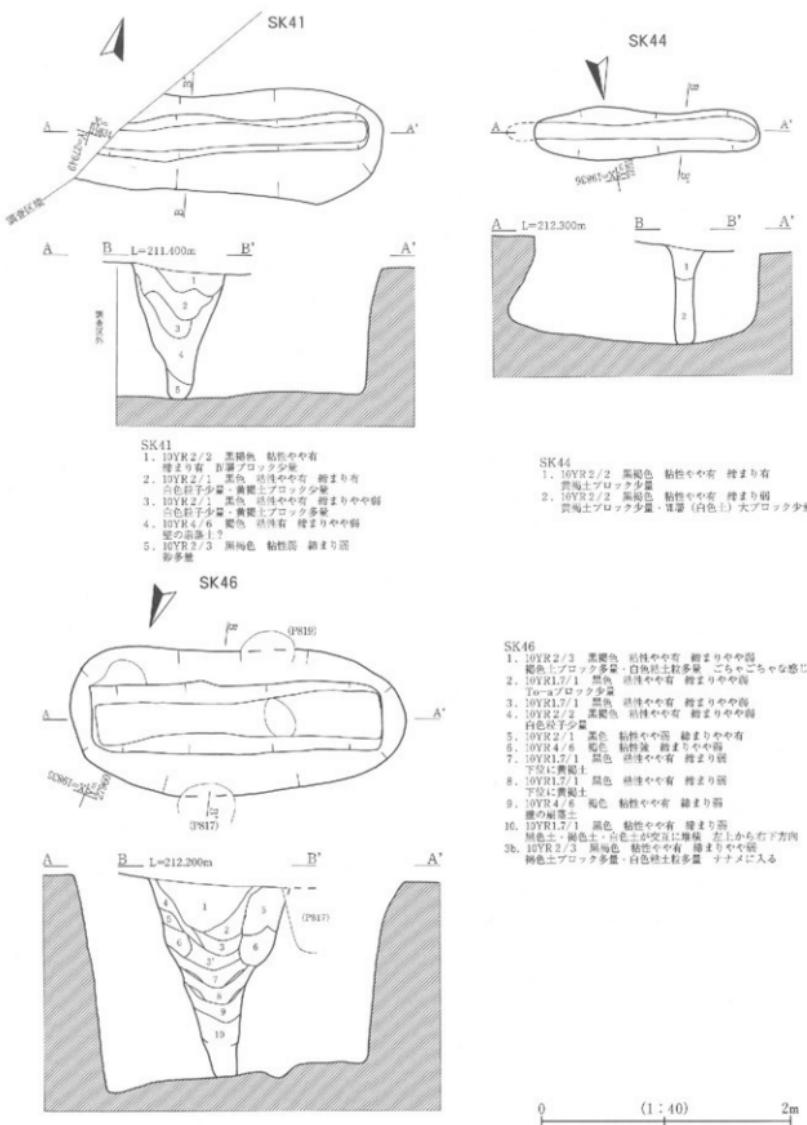
1. ICYR 2/1 黄色 柔らかや有 繊まりや有
  2. ICYR 2/1 黄色 柔軟や有 繊まりや有  
B'型ブロッケン型
  3. ICYR 2/1 白色 柔らかや有 繊まり有  
白色バースト少量V端と同一
  4. ICYR 2/1 黄色 柔らかや有 繊まり弱  
黄色多量の崩落土
  5. ICYR 3/4 黄色 柔軟や有 繊まり弱  
黒の崩落等
  6. ICYR 2/2 展開色 柔軟や有 繊まり弱  
褐色土多量の崩落土
  7. ICYR 3/4 菊陽色 柔軟や有 繊まり弱  
黒の崩落等
  8. ICYR 3/4 菊陽色 柔軟や有 繊まり弱  
黒多量の崩落土

SK39

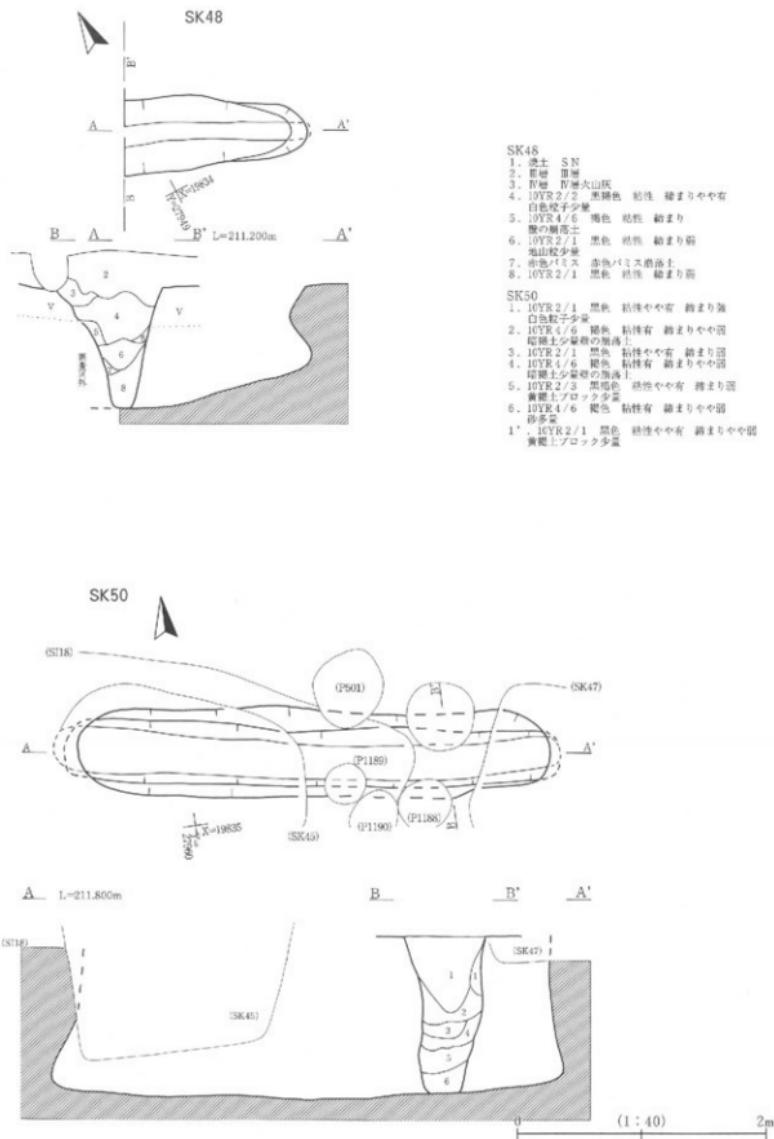
1. 10YR 2/1 黒色 粘性やや有 緩まりやや有  
前嘴土ブロック步量 菖蒲火山灰ブロック
  2. 10YR 6/1 暗灰褐色 粘性やや有 緩まり緩  
白色土多量



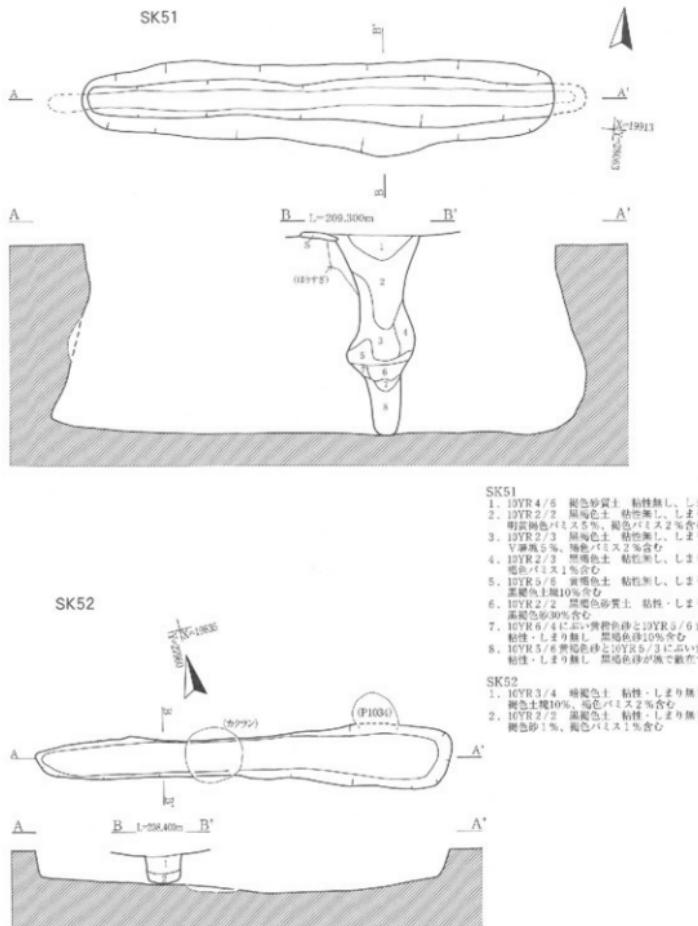
第47図 陥し穴 (12) SK38・39



第48図 脱糞穴 (13) S K 41・44・46



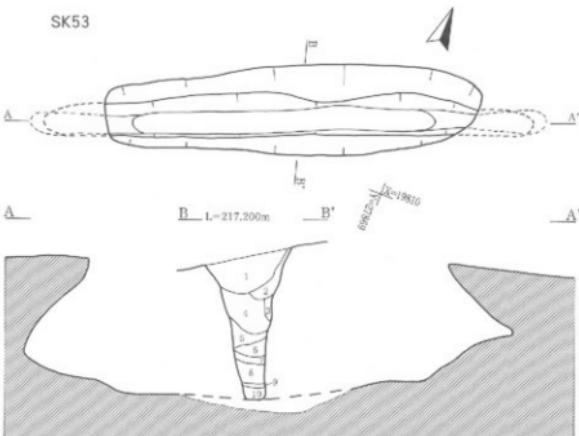
第49図 脱し穴 (14) S K 48・50



0 (1 : 40) 2m

第50図 跪し穴 (15) S K51・52

SK53

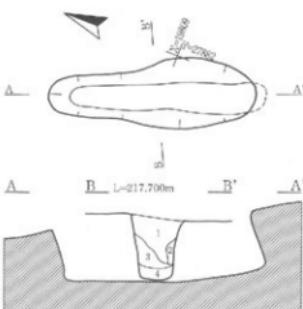


SK53

1. 10YR 2/1 黒色土 粘性無し、しまり中  
黒褐色バクス2%、褐色バクス1%含む
2. 7YR 3/4 褐褐色土 粘性中、しまりやや無し  
同色バクス2%含む
3. 7YR 4/4 褐色土 粘性やや有り、しまり中  
褐色バクス1%含む
4. 10YR 2/2 黒褐色土 粘性無し、しまり中  
褐褐色バクス1%含む
5. 7YR 4/4 褐色土 粘性中、しまりやや無し  
褐褐色バクス1%含む

6. 10YR 2/3 黒褐色土 粘性無し、しまり中  
黒褐色バクス2%、褐色バクス1%含む
7. 10YR 4/6 黑色土 粘性中、しまり無し  
黒褐色バクス1%含む
8. 10YR 2/3 黑褐色砂質土 粘性中、しまり無し  
褐色「藻」2%、直径1mmの砂2%含む
9. 10YR 2/3 黑色土 粘性中、しまり無し  
褐色バクス2%含む
10. 10YR 2/3 黑褐色砂質土 粘性中、しまり無し  
褐色土藻2%、直径1mmの砂2%含む

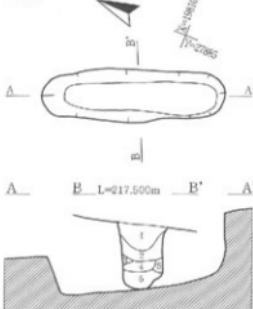
SK54



SK54

1. 10YR 2/2 黑褐色土 粘性無し、しまり中  
褐色バクス2%、赤褐色バクス1%含む
2. 10YR 4/6 黑褐色土 粘性無し、しまり中  
黑褐色土藻2%含む
3. 10YR 4/4 黑褐色土 粘性中、しまりやや有り
4. 10YR 2/2 黑褐色砂質土 粘性・しまり無し  
直径1mmの砂3~5%、赤褐色バクス1%含む

SK55

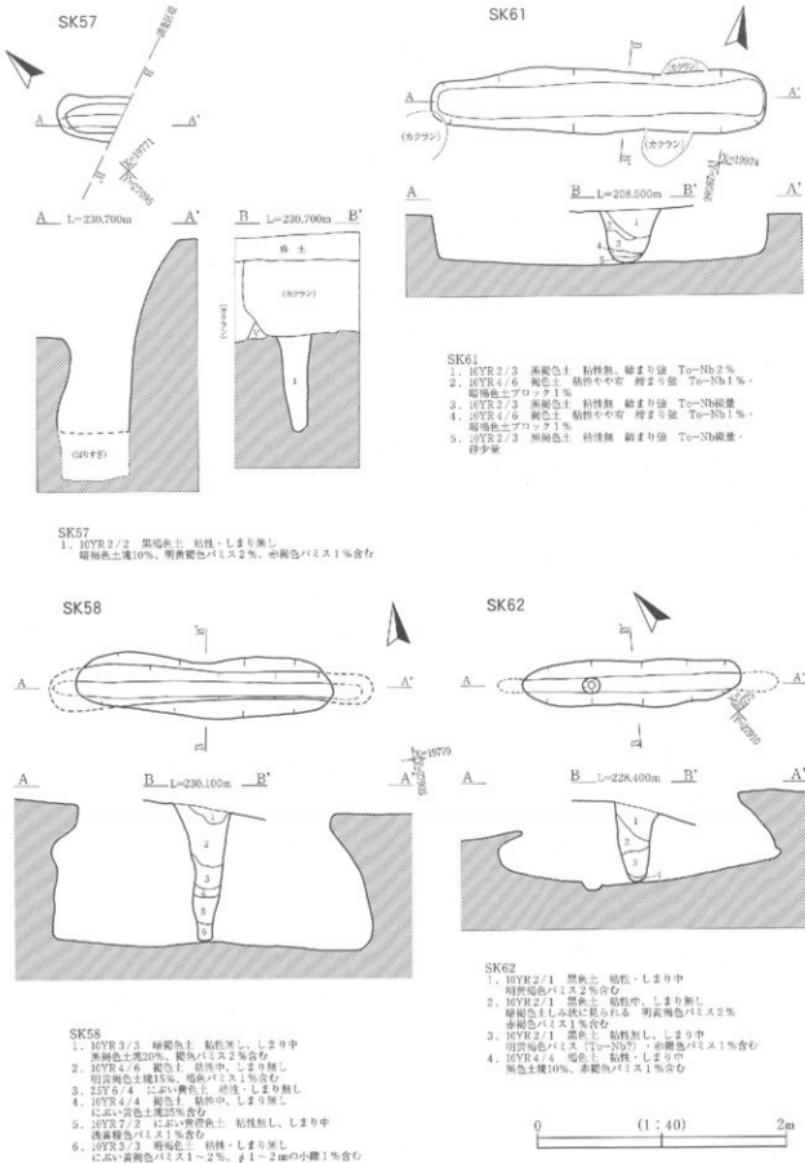


SK55

1. 10YR 2/2 黑褐色土 粘性無し、しまり中  
褐色バクス2%、赤褐色バクス1%含む
2. 10YR 4/6 黑褐色土 粘性無し、しまり中
3. 10YR 4/6 黑褐色砂質土 粘性中、しまり無し
4. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性・しまり無し  
直徑2~3mmの砂2%含む
5. 10YR 5/6 黑褐色砂質土 粘性・しまり無し
6. 10YR 2/2 黑褐色砂質土 粘性・しまり無し  
直徑1mmの砂3~5%、赤褐色バクス1%含む

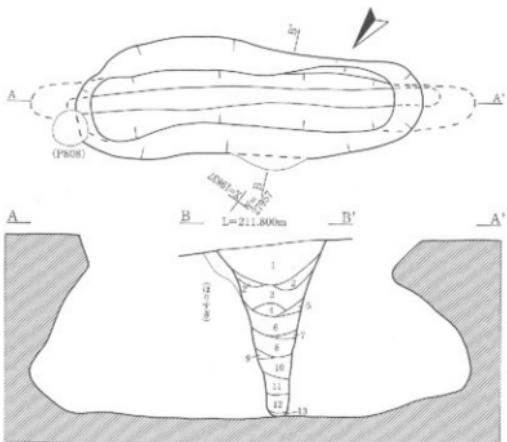
0 (1:40) 2m

第51図 陥し穴(16) SK53・54・55

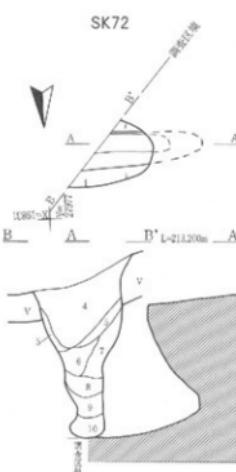


第52図 塗し穴(17) S K57・58・61・62

SK71



SK72



SK71

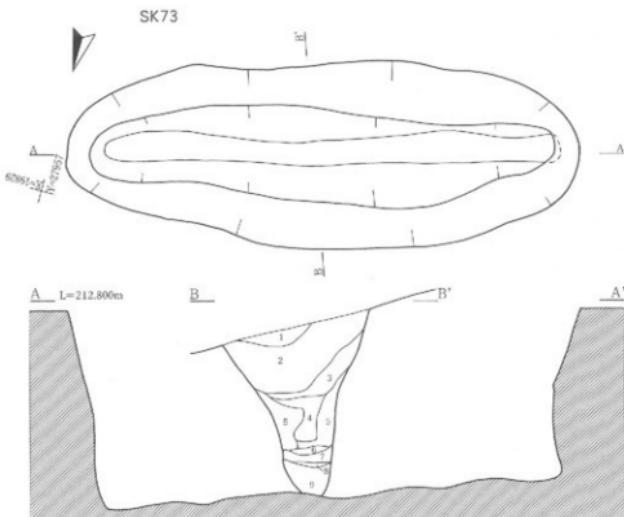
1. 10YR 2 / 1 黒色 粘性やや有 締まり有  
V層
2. 10YR 2 / 1 黒色 粘性やや有 締まりやや弱  
アワナ少量
3. 10YR 2 / 3 黒褐色 粘性やや有 締まり有  
D層少々量
4. 10YR 2 / 3 黄褐色 粘性弱 締まり強  
D層少々量
5. 10YR 3 / 4 黑褐色 粘性やや有 締まり有  
黄褐色土ブロック少量
6. 10YR 2 / 3 黒色 粘性やや有 締まり有  
D層少々量
7. 10YR 3 / 4 黑褐色 粘性やや有 締まり有  
黄褐色土ブロック少量
8. 10YR 2 / 1 黒色 粘性やや有 締まり有  
D層少々量
9. 10YR 3 / 4 黑褐色 粘性やや有 締まり有  
D層少々量
10. 10YR 2 / 3 黑褐色 粘性やや有 締まり有  
D層少々量
11. 10YR 2 / 3 黑褐色 粘性やや有 締まり有  
黄褐色土ブロック少量
12. 10YR 2 / 3 黑褐色 粘性やや有 締まり有  
黄褐色土ブロック多量
13. 10YR 1 / 1 黒色 粘性有 締まり弱

SK72

1. 10YR 2 / 2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや弱  
黄褐色土ブロック多量
2. 10YR 2 / 2 黑褐色 粘性やや有 締まり弱
3. 10YR 2 / 3 黑褐色 粘性やや有 締まりやや弱  
白色パラソ
4. 10YR 2 / 2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや強  
白色パラソ
5. 10YR 2 / 3 黑褐色 粘性やや有 締まりやや弱  
白色パラソ・黄褐色土少量
6. 10YR 1 / 1 黑褐色 粘性弱 締まり弱
7. 10YR 2 / 3 黑褐色 粘性有 締まり弱  
黄褐色土多量
8. 10YR 1 / 1 黑色 粘性有 締まり弱
9. 10YR 4 / 6 黑褐色 粘性有 締まり弱
10. 10YR 1 / 1 黑色 粘性有 締まり弱

0 (1 : 40) 2m

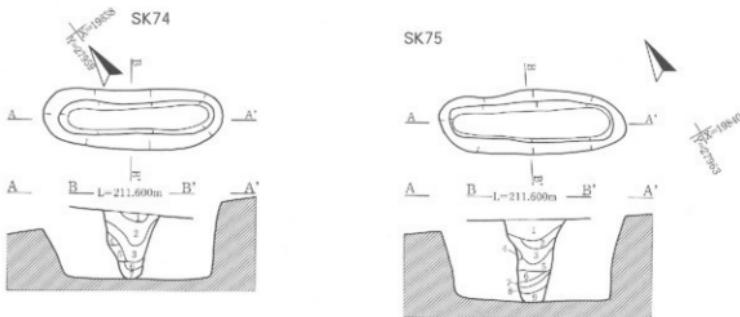
第53図 路面 (18) S K71・72



- SK73  
 1. 黄褐色  
 2. V層  
 3. 2. 黄褐色土ブロック多量  
 4. 4YR 5/1 黒色 粘性 緩まり弱  
 5. 10YR 4/6 黑色 粘性強 緩まりやや弱  
 6. 10YR 7/1 黒色 粘性やや有 緩まりやや弱  
 黄褐色土块多量  
 7. 10YR 5/8 黄褐色 粘性強 緩まり強  
 8. 10YR 7/1 黑色 粘性やや弱 緩まり弱  
 黄褐色土块多量  
 9. 10YR 7/2 に近い黄褐色 粘性強 緩まり弱  
 黄褐色土块多量・黒色度粒多量

0 (1 : 40) 2m

第54図 陥し穴 (19) S K73

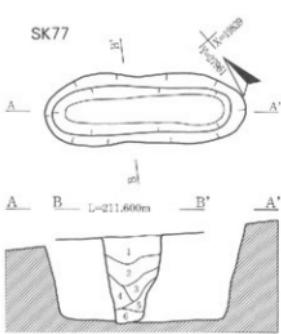


SK74

1. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有
2. IGYR 2/1 黑色 粘性やや有 締まりやや有  
3. IGYR 2/1 黑褐色 粘性有 締まり弱
4. IGYR 2/1 黑褐色 粘性有 締まり弱
5. IGYR 2/3 黑褐色 粘性やや有 締まり弱
6. IGYR 2/3 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
黑褐色 粘性多量 同じ
7. IGYRL7/1 黑褐色 粘性有 締まり弱

SK75

1. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有  
2. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有  
3. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有  
4. IGYR 5/8 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有  
5. IGYR 5/8 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有  
6. IGYR 4/6 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
7. IGYR 2/1 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
8. IGYR 2/1 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
9. IGYR 2/1 黑褐色 粘性やや有 締まり弱



SK77

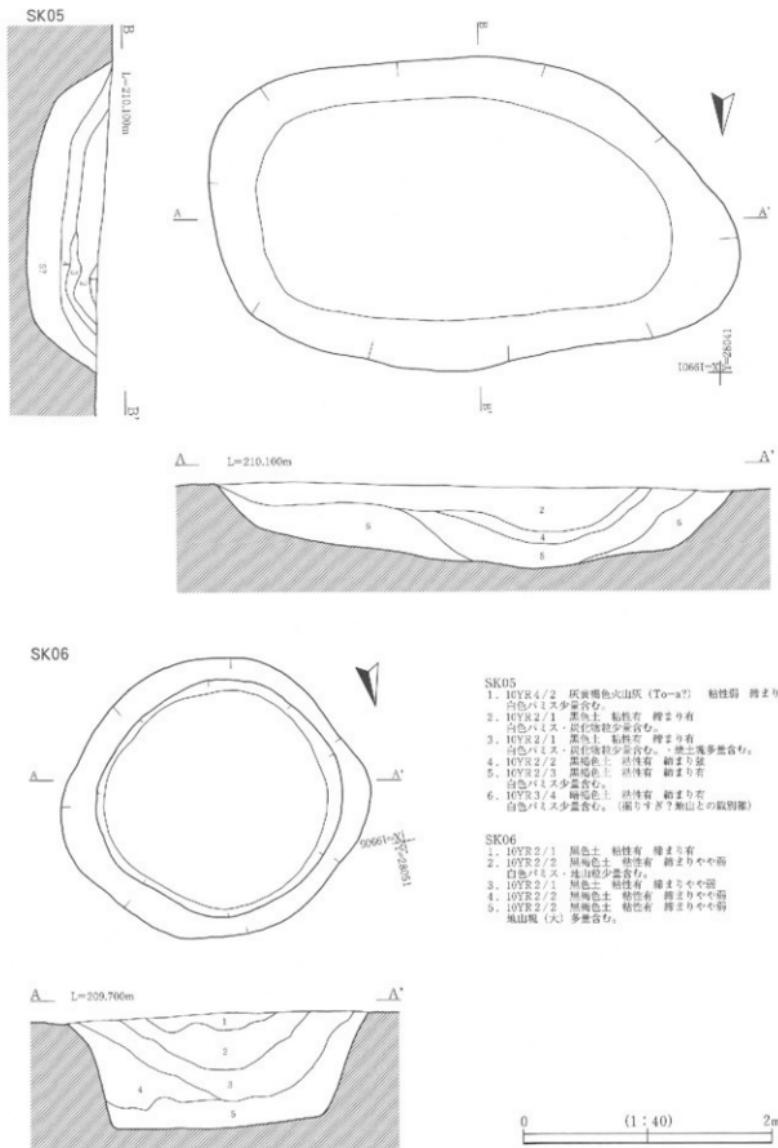
1. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
2. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
3. IGYR 2/1 黑褐色 粘性有 締まり弱  
4. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
5. IGYR 2/6 黑褐色 粘性有 締まり弱  
6. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
赤色粉少量

SK79

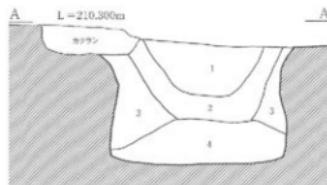
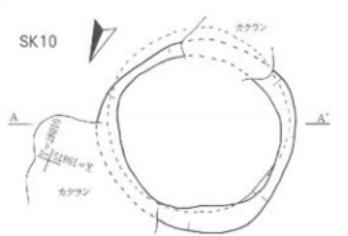
1. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有  
2. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有  
3. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まりやや有  
4. IGYR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
黄褐色少量

0 (1:40) 2m

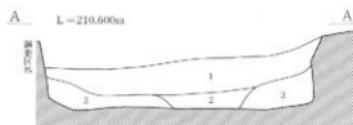
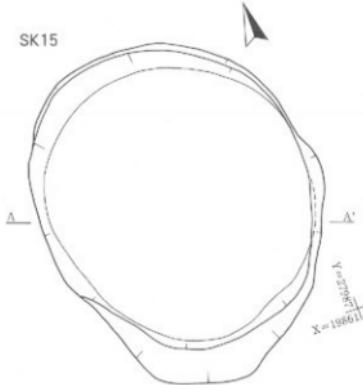
第55図 謹し穴(20) SK74・75・77・79



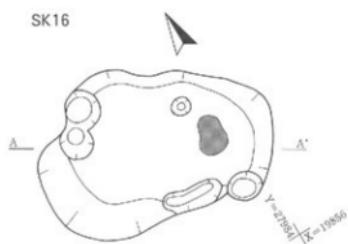
第56図 土坑(1) SK05・06



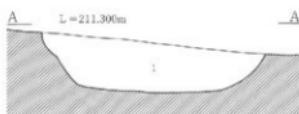
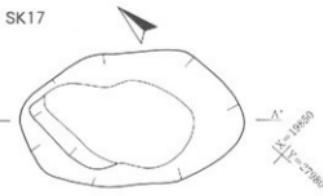
- SK10
1. 10YR 7/1 黒色土 粘性強 締まりやや有 白色バニス少量含む。
  2. 10YR 2/2 黒褐色土 粘性有 締まり有 白色バニス少量含む。
  3. 10YR 2/2 黑褐色土 粘性有 締まり有 雄山が丘層板に堆積（崩落土？）
  4. 10YR 7/1 黑色土 粘性強 締まりやや有 白色バニス少量含む。



- SK15
1. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性有 締まり有 白色バニス少量含む。下部に雄山層多量含む。
  2. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性有 締まり有 黑色土壤少量・雄山層多量含む。
  3. 10YR 2/1 黑色土 粘性有 締まり有 白色バニス少量・雄山層多量含む。



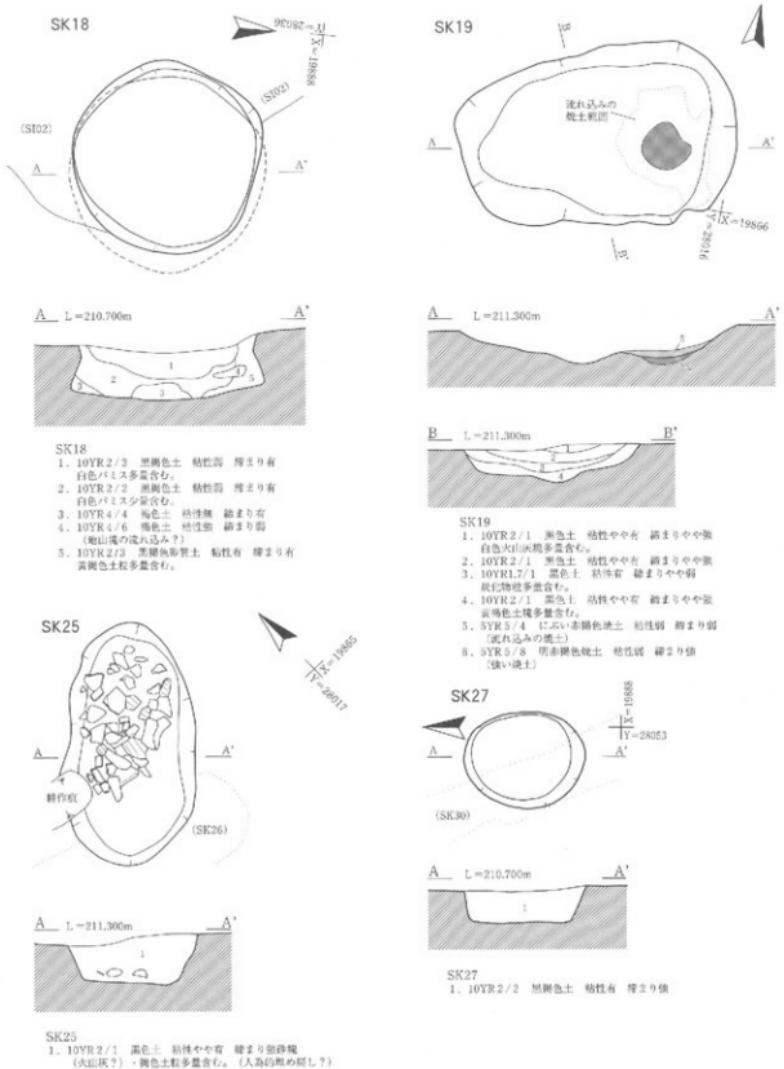
- SK16
1. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性有 締まり強 「高樹する珊瑚の柱穴？」
  2. 10YR 6/3 にぶい黄褐色土（やや砂質） 粘性弱 締まりやや有
  3. SYR 5/6 明赤褐色土 粘性強 締まり弱 「磯れ込み？」
  4. 10YR 2/3 黑褐色土 粘性有 締まりやや弱 黄褐色土粒・白色バニス少量含む。
  5. SYR 5/6 明赤褐色土 粘性強 締まり有（弱い段丘）



- SK17
1. 10YR 2/2 黑褐色土 粘性有 締まり強 白色バニス少量含む。下部に雄山層少量含む。

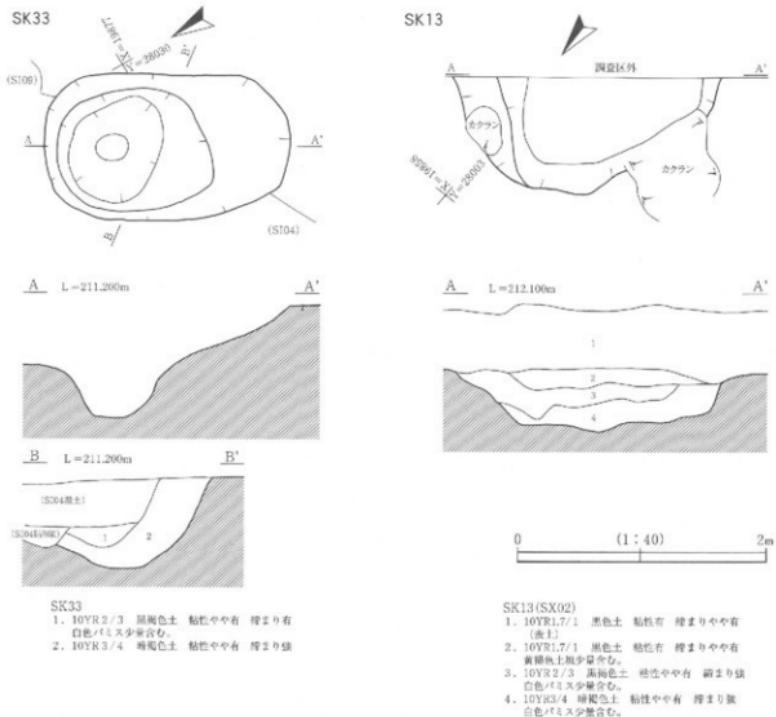
0 (1 : 40) 2m

第57図 土坑 (2) SK10・15～17

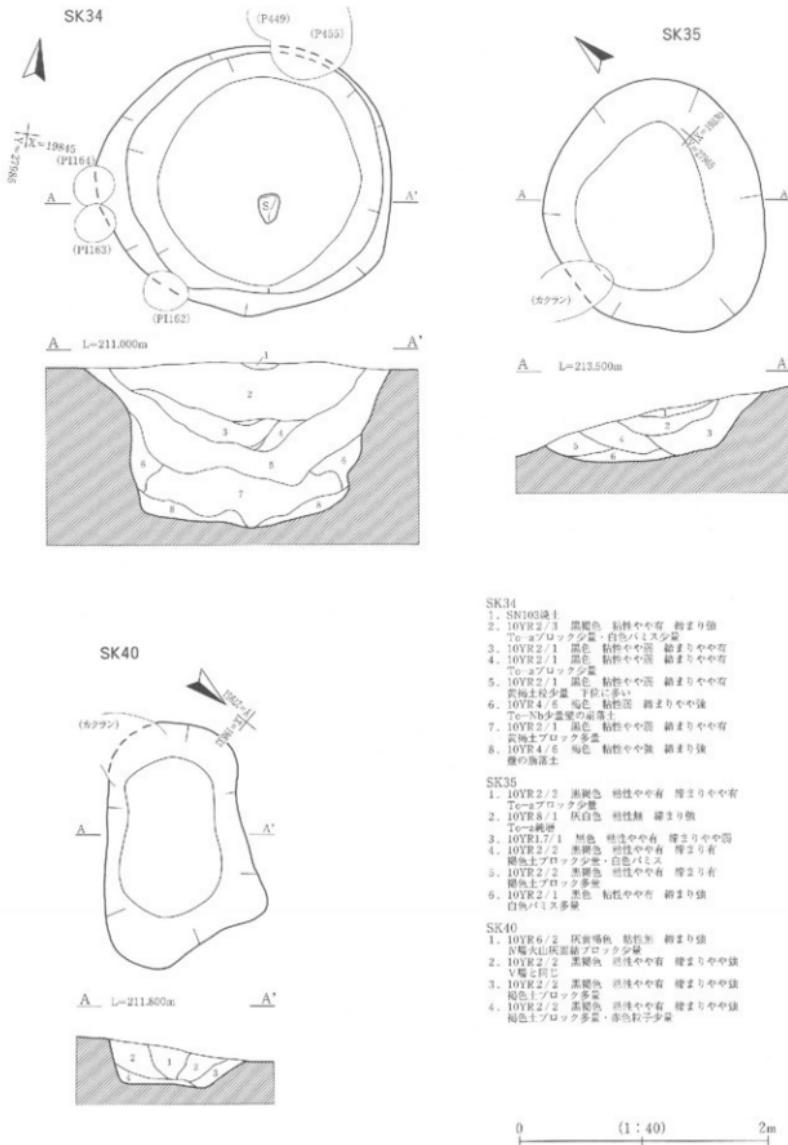


0 (1 : 40) 2m

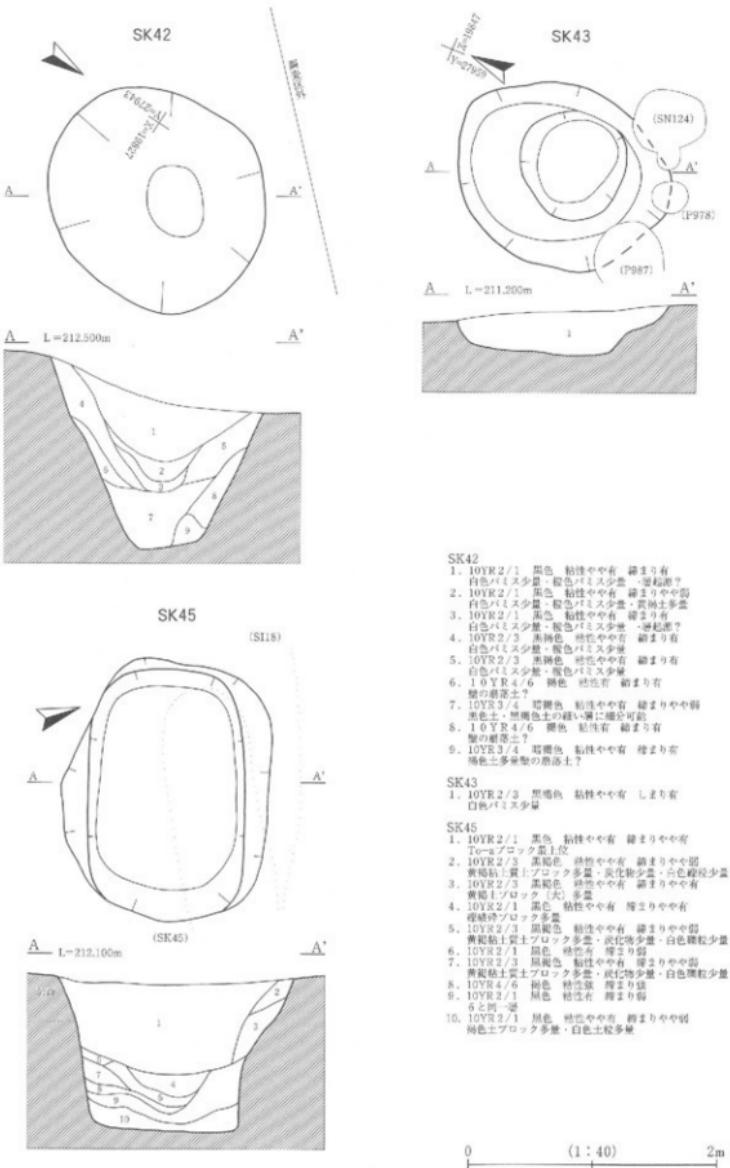
第58図 土坑 (3) S K 18・19・25・27



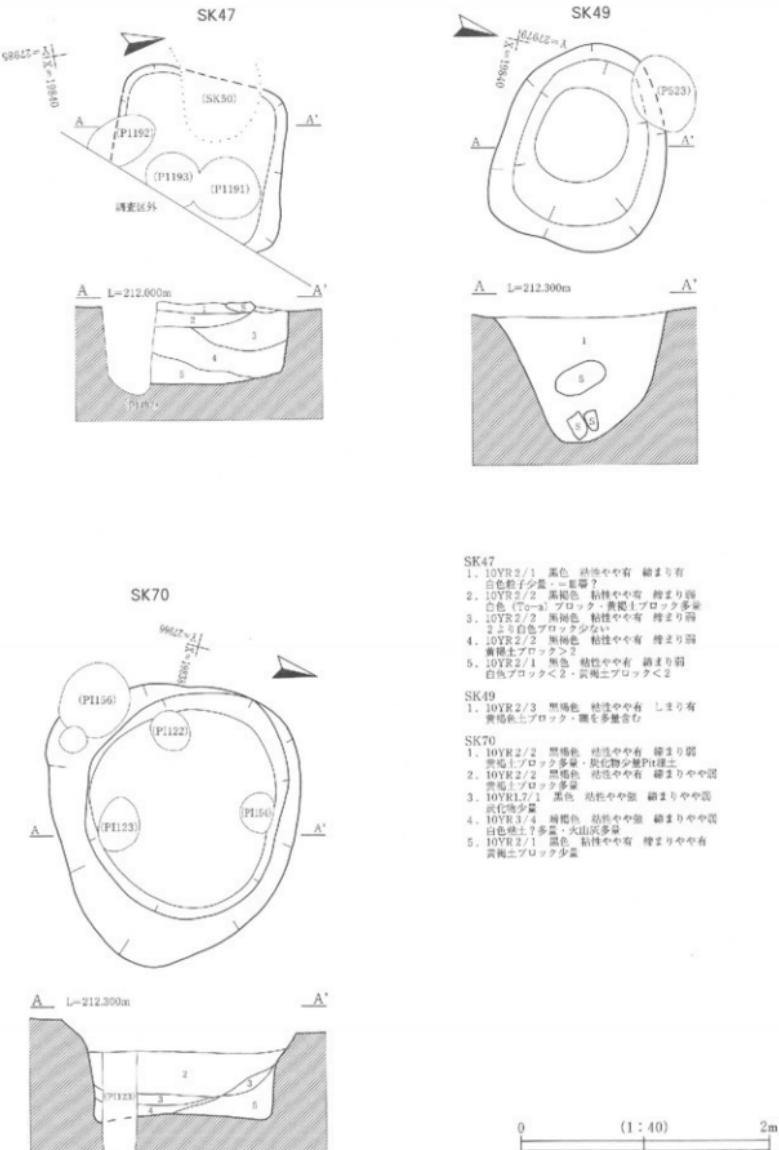
第59図 土坑 (4) SK33・13



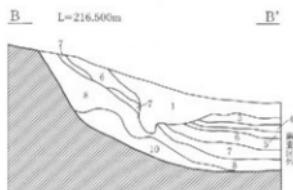
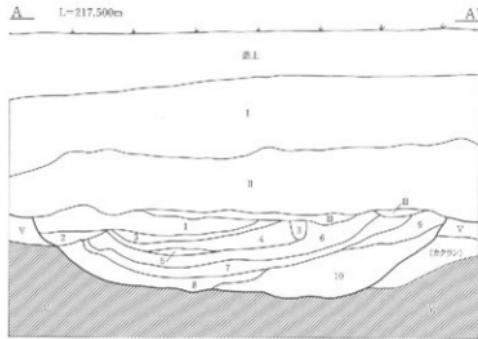
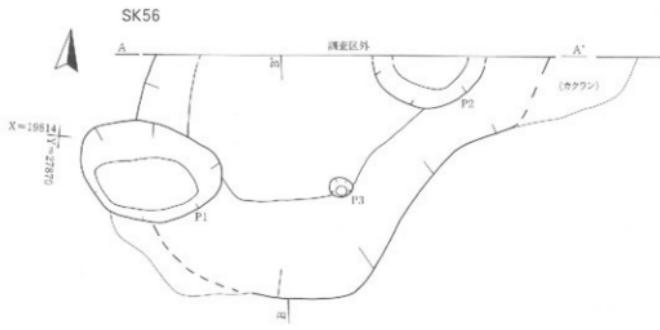
第60図 土坑(5) S K 34・35・40



第61図 土坑 (6) S K 42・43・45



第62図 土坑 (7) S K 47・49・70

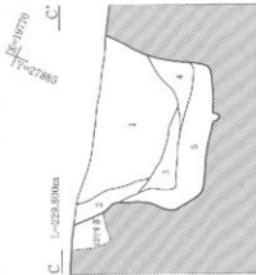
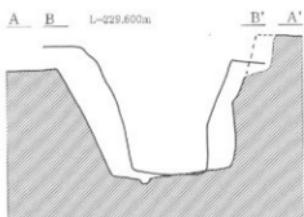
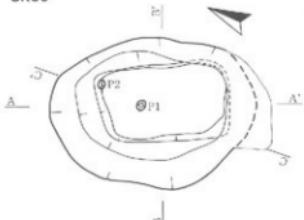


- SK56
1. 10YR 2/2 黒褐色土 結性・しまり無し  
To-a塊・褐色土塊3%含む
  2. 10YR 2/2 黒褐色土 結性・しまり無し  
褐色土塊2%、明黄褐色バミス1%含む
  3. 10YR 2/2 黑褐色土 結性・しまり無し  
4. 2.5Y 6/1 黑褐色土 結性・しまり無し  
に灰色色斑・白雲母か。
  5. 10YR 2/1 黑褐色土 結性・しまり無し 白頭山塊3%含む
  6. 10YR 3/2 黑褐色土 結性・しまり無し To-a塊40%、  
灰化堆積2%含む。部分的に7層との間に黒色土層が堅似に見られる
  7. 2.5Y 6/1 黑褐色土 結性・しまり無し  
底下部には赤鉄・2mmのスコリアが點々をなしている
  8. 10YR 2/1 黑褐色土 結性・しまり中
  9. 10YR 2/1 黑褐色土 結性無し・しまり中 To-a1~2%含む
  10. 10YR 2/1 黑褐色土 結性無し・しまり中 褐色土塊30%、  
褐色バミス1%含む

0 (1:40) 2m

第63図 土坑(8) S K56

SK59



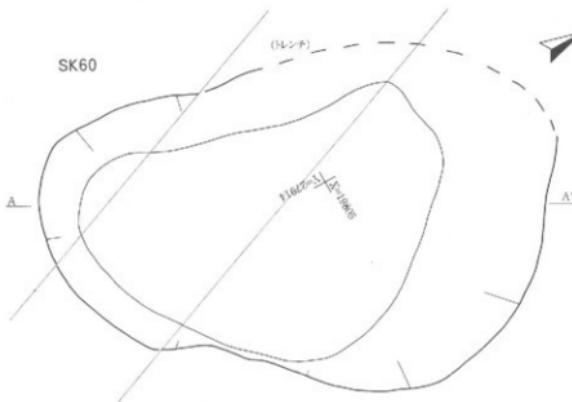
SK59

1. 10YR 2/3 黒褐色土、粘性中、しまり有り  
細粒土質 3%、粗粒土質 2% 含む
2. 10YR 4/4 灰色土、粘性有り、しまり中  
赤褐色ペースト混20%含む
3. 10YR 3/3 黒褐色土、粘性中、しまり無し  
褐色土質20%、赤褐色ペースト2%含む
4. 10YR 4/4 黒褐色土、粘性中、しまり無し  
明黄褐色ペースト Tg 11°C 1%含む  
(5.0)RA4/4 黄褐色土、黑褐色土層・褐色土層、  
赤褐色ペーストを含み、最下部には直径1~2mmの砂を含む  
黒褐色土が2~3cmの層として堆積している)

SK59P1-T2  
10YR 4/4 灰色土、粘性中、しまり無し、赤褐色ペースト1%含む

0 (1:40)  
2m

SK60

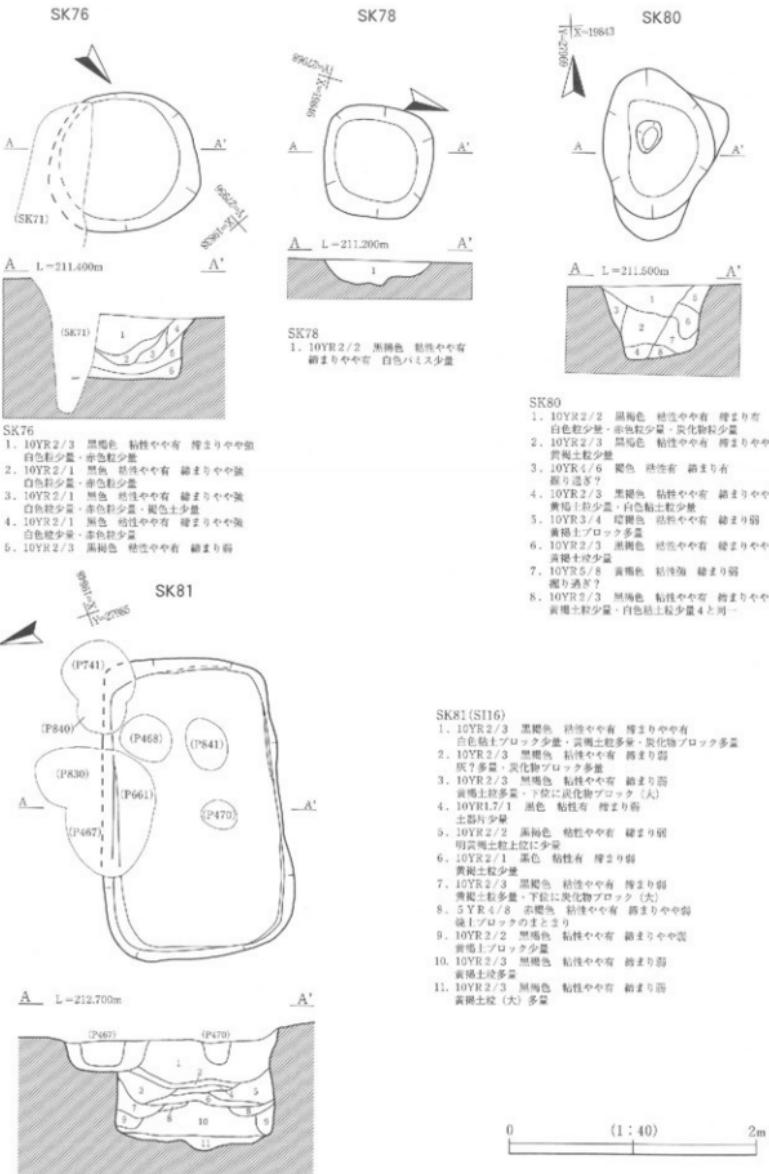
A—  
L=219.200m

SK60

上部：褐褐色土主体、しまり無し 中間部に黄褐色土と褐褐色土の混合層を挟む  
中間部：褐褐色土主体、粘性有り、しまり無し 中間部に劣質褐色  
粘土層を挟む 下部：黒褐色土主体、粘性無し、しまり有り 褐色土塊10%含む

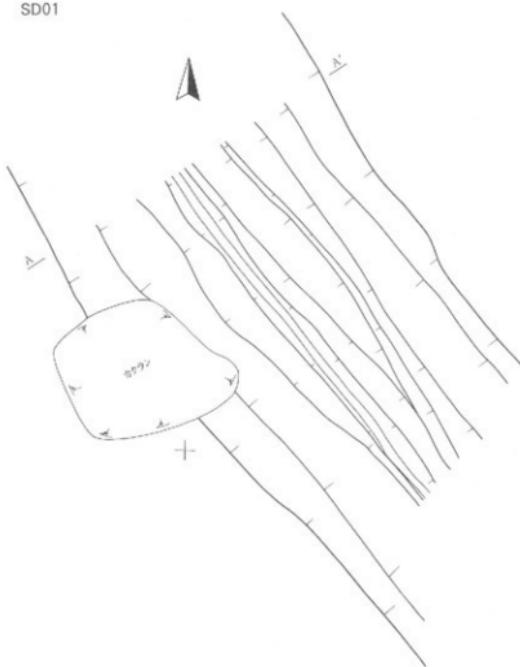


第64図 土坑(9) SK59・60



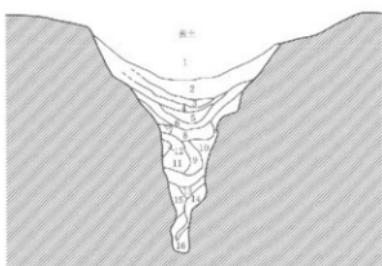
第65図 土坑 (10) S K76・78・80・81

SD01



A L=210.000m

A'

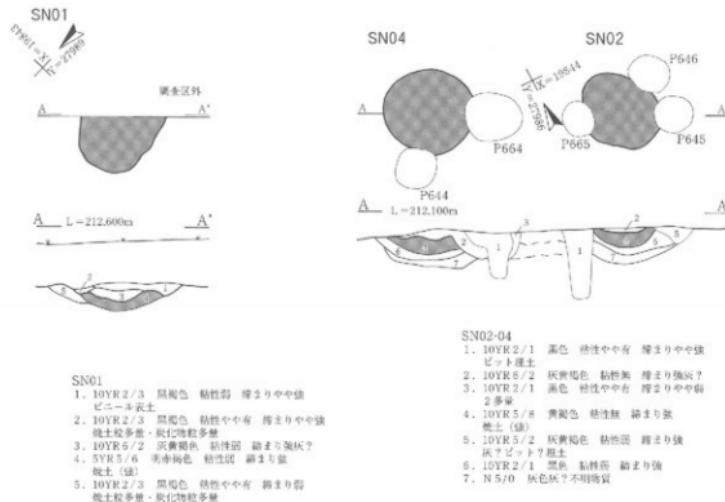


SD01

1. IOYR 2/2 黒褐色土 粘性土 緩まりやや弱  
木根・ビニールなどのゴミ含む。(被覆の様の剥し出し)
2. IOYR 2/2 黒褐色土 (やや砂質) 粘性土や弱  
緩まりやや有  
黄褐色土疊多量、黄砂、白色バース少量含む。
3. IOYR 2/2 黑褐色土 (やや砂質) 粘性土や弱  
緩まりやや有  
黄褐色土疊多量、黄砂、白色バース少量含む。
4. IOYR 2/1 黑褐色土 粘性土 緩まり有  
砂質の隙間土、2層上よりもの多い。
5. IOYR 2/1 黑褐色土 粘性土や弱 緩まりや有  
砂質の隙間土、2層上よりもの多い。
6. IOYRL 7/1 黑褐色土 粘性土 緩まり有  
黄褐色土疊(大) 白色土疊少量含む。
7. IOYR 2/3 黑褐色土 粘性弱 緩まりやや弱  
黑褐色土 粘性強 緩まり弱  
砂30%含む。
8. IOYR 4/4 黑褐色土 粘性弱 緩まり有  
砂質の隙間土、2層上よりもの多い。
9. IOYR 4/4 黑褐色土 粘性弱 緩まり有  
砂質の隙間土、2層上よりもの多い。
10. IOYRL 7/1 黑褐色土 粘性有 緩まり有  
黄褐色土疊少量含む。
11. IOYR 2/2 黑褐色土 粘性土や有 緩まり弱  
白色バース少量含む。
12. IOYR 8/2 黑褐色土 粘性土 緩まり弱  
白色バース少量含む。
13. IOYR 8/2 黑褐色土 粘性土 緩まり弱  
白色バース少量含む。
14. IOYR 7/2 黑褐色土 黄褐色土 粘性弱 緩まり弱  
白色バース少量含む。
15. IOYR 7/1 黑褐色土 粘性土 緩まり弱  
白色バース少量含む。
16. IOYR 3/4 黑褐色土 粘性土や有 緩まり弱  
白色バース少量含む。

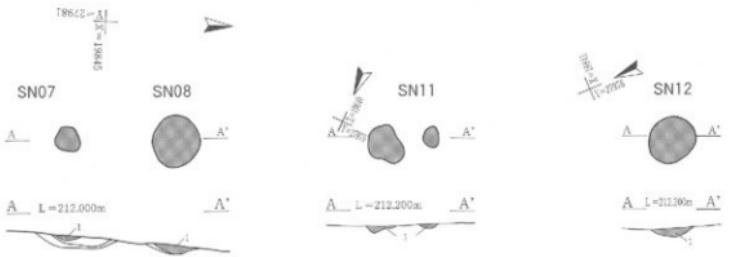
0 (1 : 100) 5m

第66図 SD01



0 (1 : 40) 2m

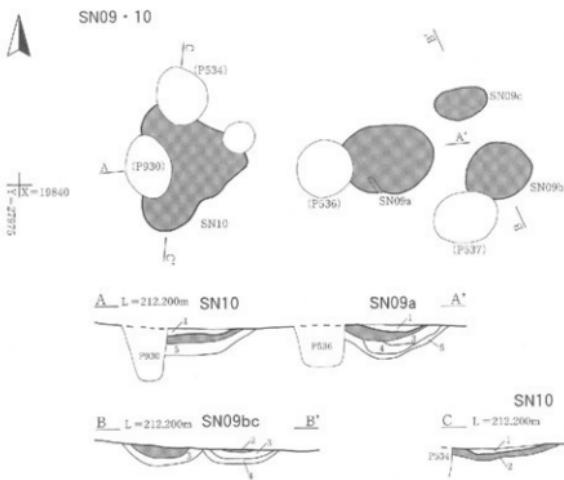
第67図 焼土 (1) S N01~06



SN07-08  
 1. 5YR 3/6 明赤褐色 粘性やや有 締まりやや有  
 硫素(弱)  
 2. 10YR 1/7 1 黒色 粘性やや有 締まり強  
 白色パミス少量  
 3. 10YR 2/2 1 黒色 粘性やや有 締まり弱  
 灰?:不明地質

SN11  
 1. 5YR 5/8 明赤褐色 粘性弱 締まり弱粘土  
 (非塑性性)

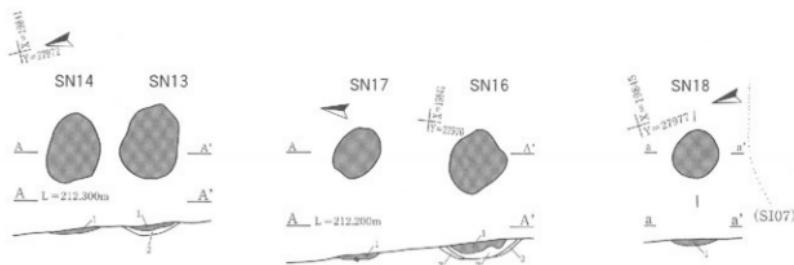
SN12  
 1. 5YR 5/8 明赤褐色 粘性弱  
 締まりやや強



SN09-10  
 1. 10YR 2/2 黒褐色 粘性やや有 締まり強  
 2. 10YR 3/4 に赤い黄褐色 粘性やや有 締まりやや有  
 灰化物少  
 3. 5YR 4/8 赤褐色 粘性やや有 締まりやや有  
 灰  
 4. 10YR 2/2 黒褐色 粘性やや有 締まりやや有  
 灰化物ブロック少量  
 5. 10YR 5/1 褐灰色 粘性やや有 締まりやや有  
 灰化物無  
 6. 10YR 2/2 黑褐色 粘性やや有 締まり弱  
 灰  
 7. 10YR 8/1 黄白色 粘性やや有 締まりやや有  
 灰化物少  
 8. 10YR 5/6 黄褐色 粘性やや有 締まりやや有  
 灰土(弱)

0 (1 : 40) 2m

第68図 烧土 (2) S N07~12

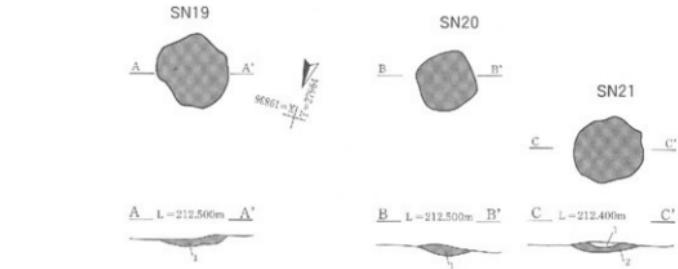


SN13-14  
 1. 5YR 5/8 明赤褐色 黏性弱 締まりやや強  
 深土(強)  
 2. 10YR 2/2 黒褐色 黏性やや有 締まり強  
 深土(強)

SN16  
 1. 7.5YR 5/8 黑褐色 黏性弱 締まりやや強  
 2. 10YR 2/1 黑色 黏性やや有 締まり強  
 深土(強)  
 3. N 5/0 深色灰?不溶物質

SN17  
 1. 7.5YR 5/8 明褐色 黏性弱 締まりやや強  
 地土

SN18  
 1. 7.5YR 5/8 明褐色 黏性弱  
 締まりやや強 坡土



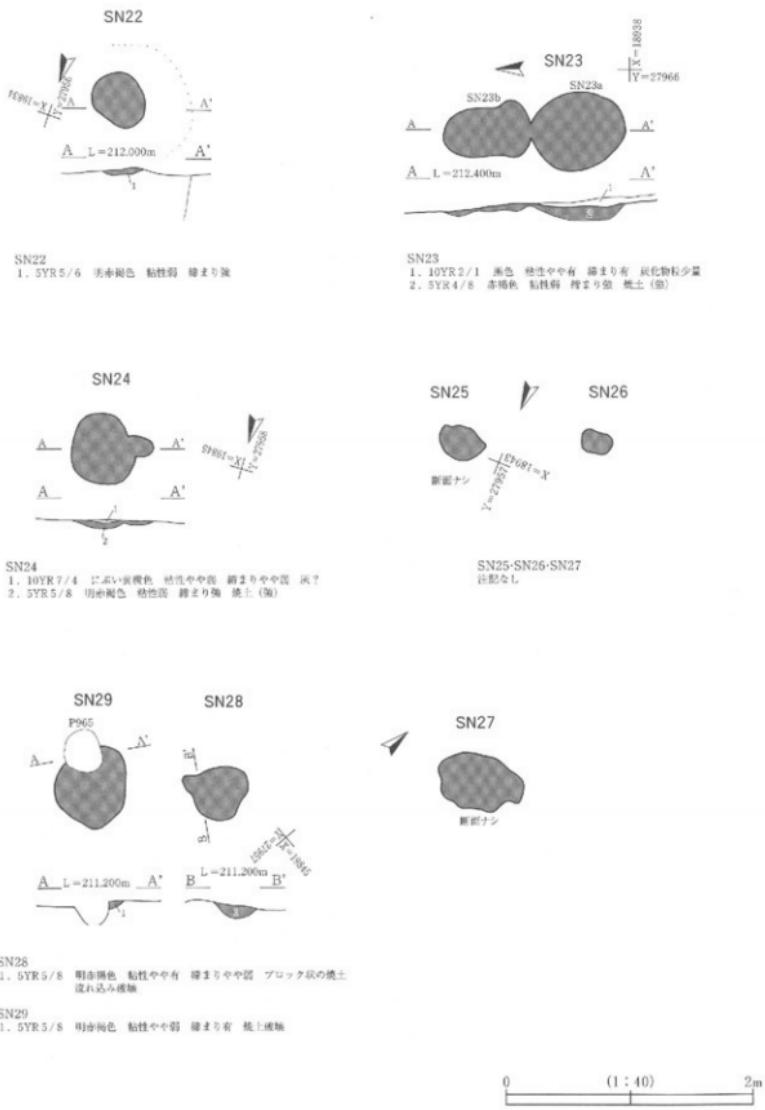
SN19  
 1. 5YR 5/8 明赤褐色 黏性弱 締まりやや強  
 深土(強)

SN20  
 1. 5YR 5/8 明赤褐色 黏性弱 締まりやや強

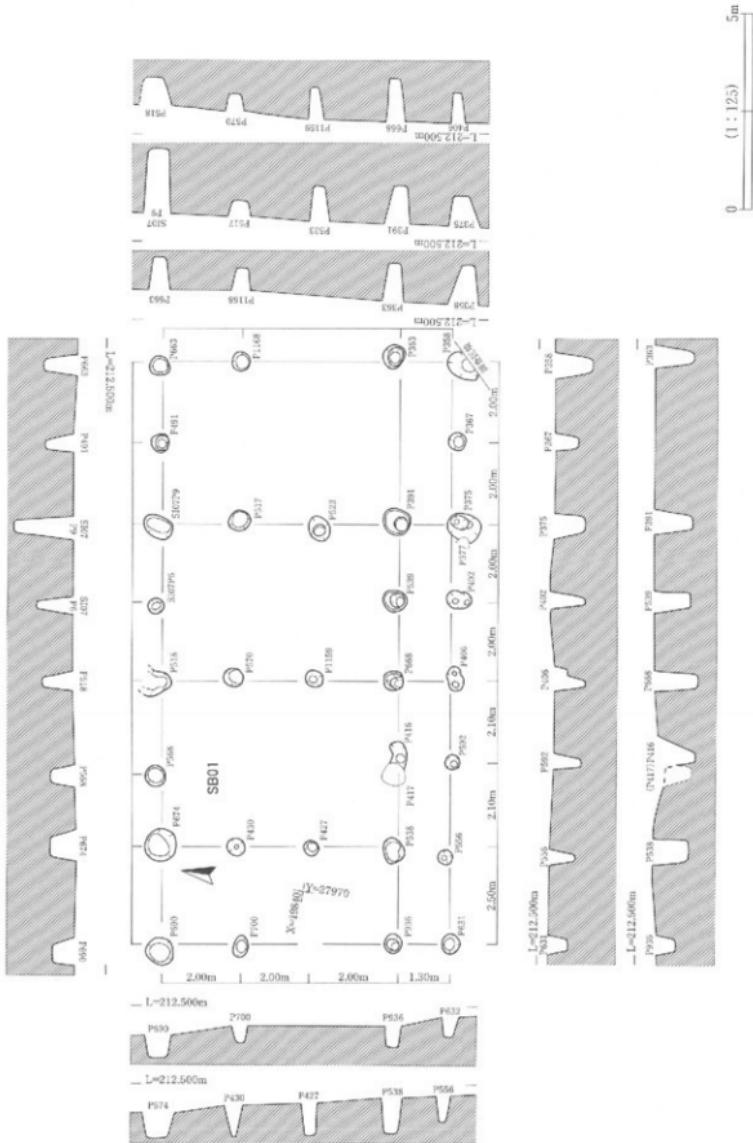
SN21  
 1. 10YR 6/3 にぶい黄褐色 黏性強 締まりやや強?  
 2. 5YR 5/6 明赤褐色 黏性やや弱 締まり強  
 坡土

0 (1 : 40) 2m

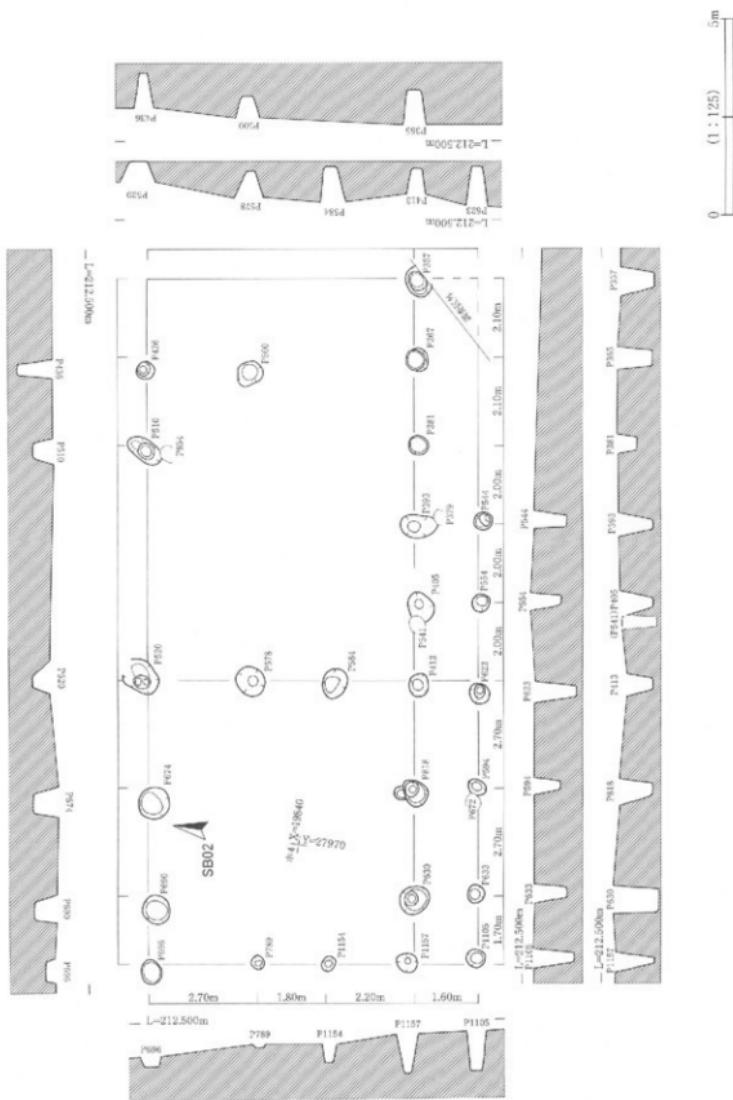
第69図 焼土 (3) S N13・14・16~21



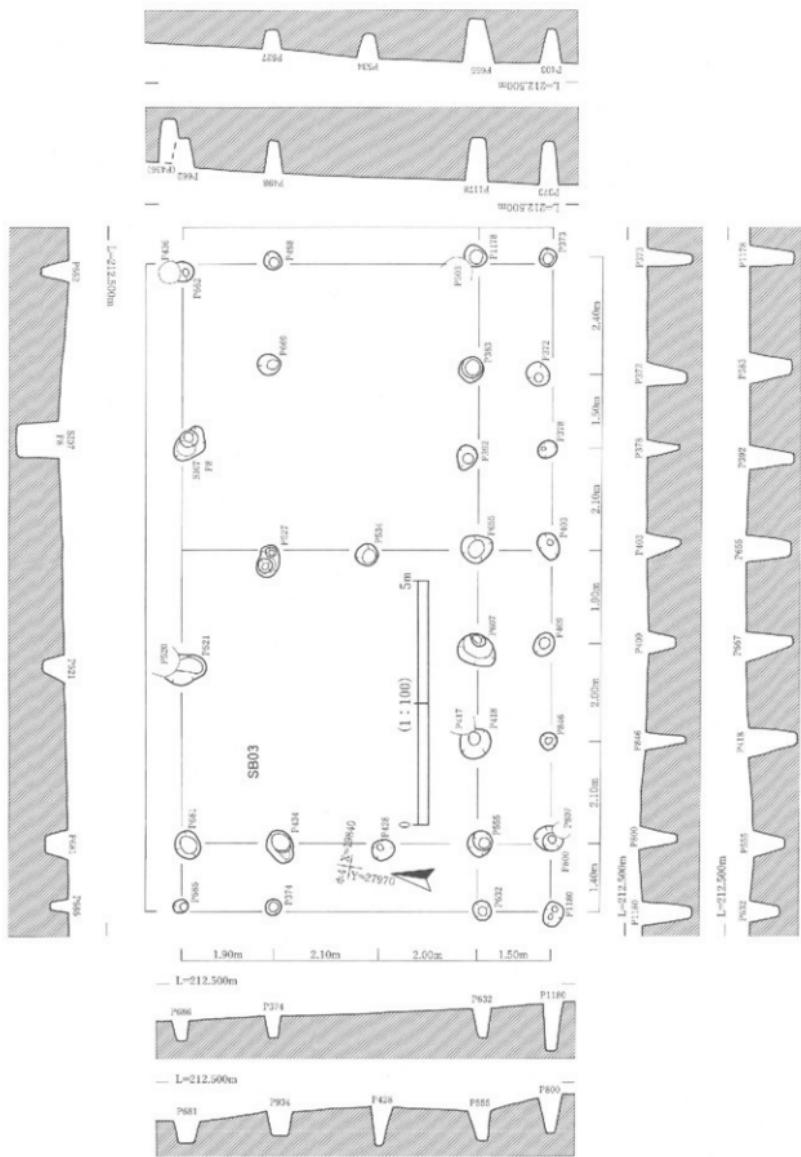
第70図 燃土 (4) S N22~29



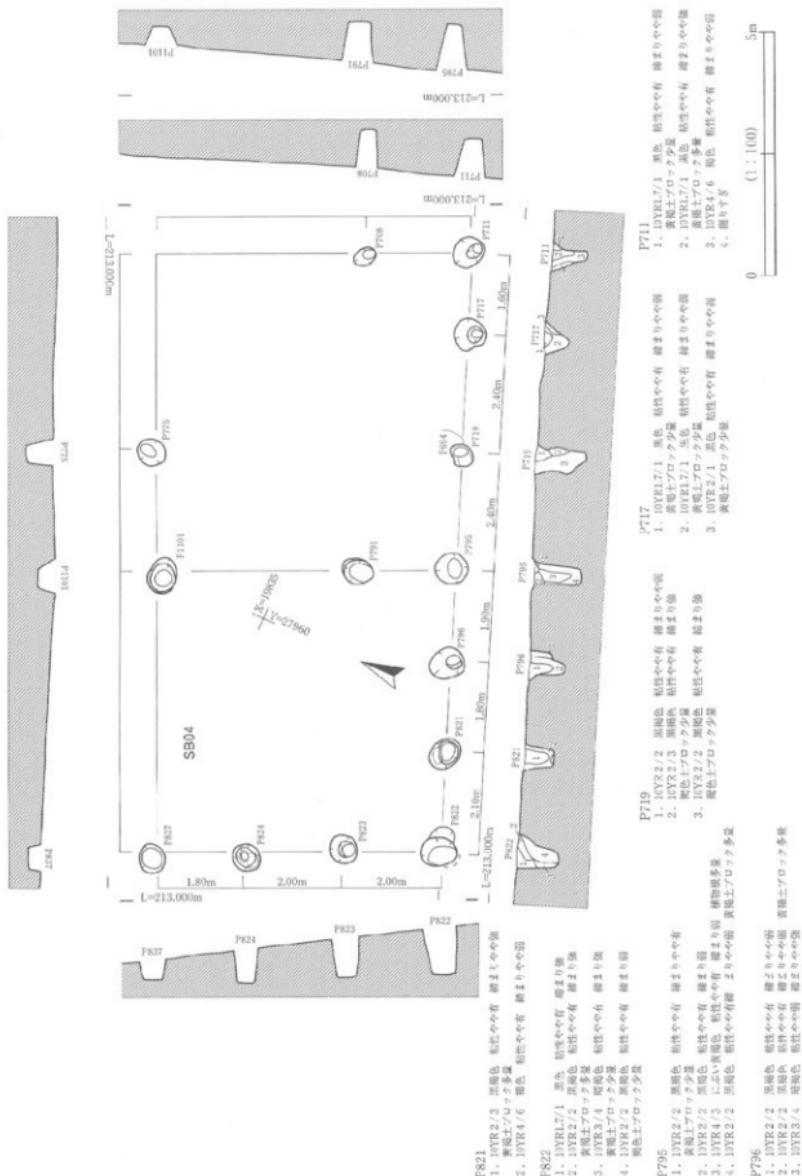
第71回 S B01



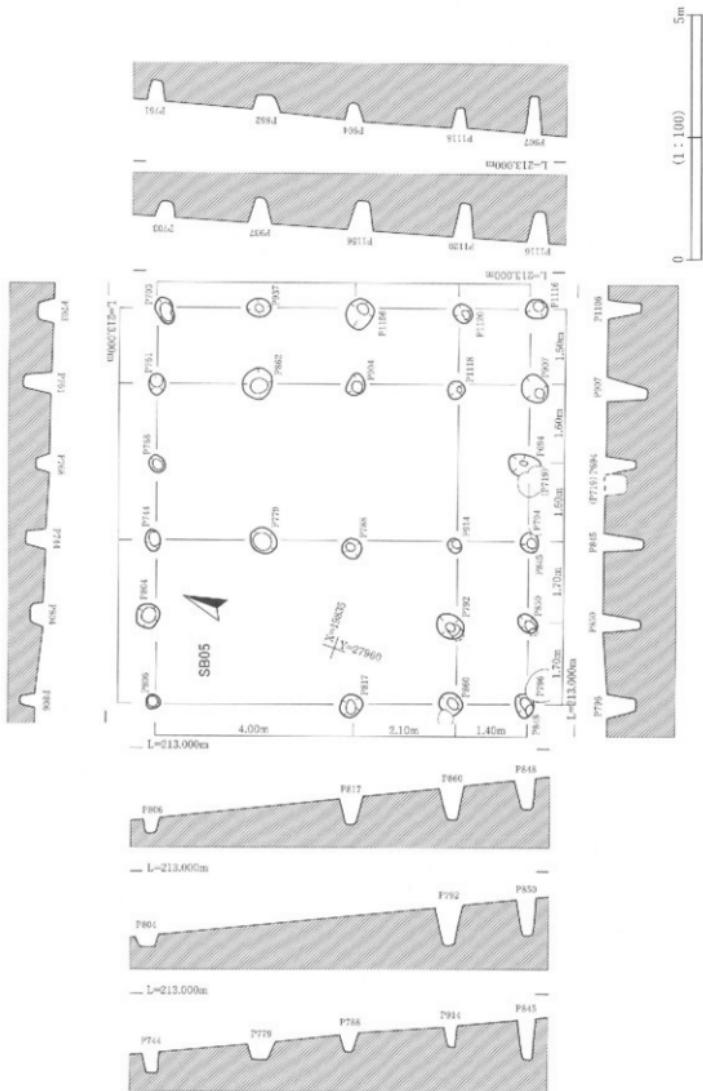
第72図 SB02



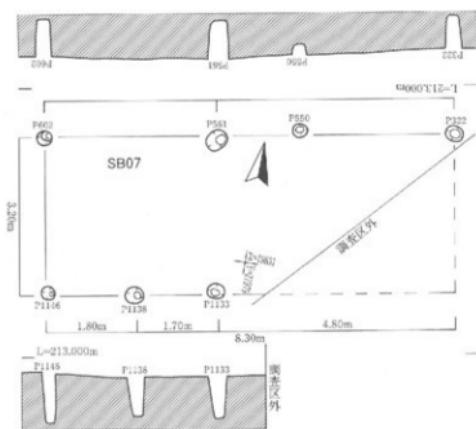
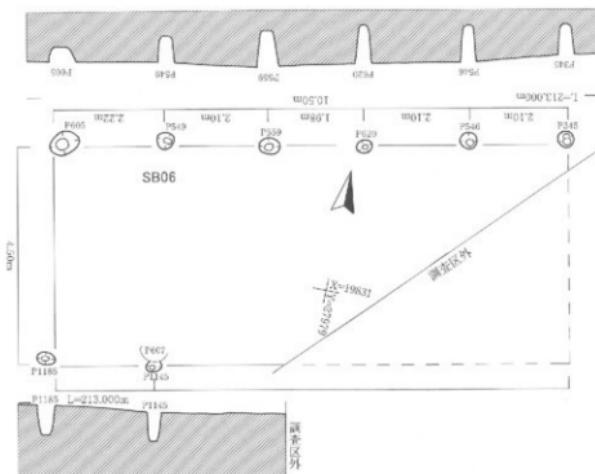
第73図 SB03



第74図 SB04

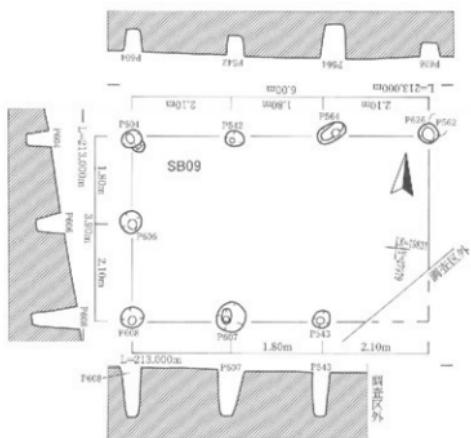
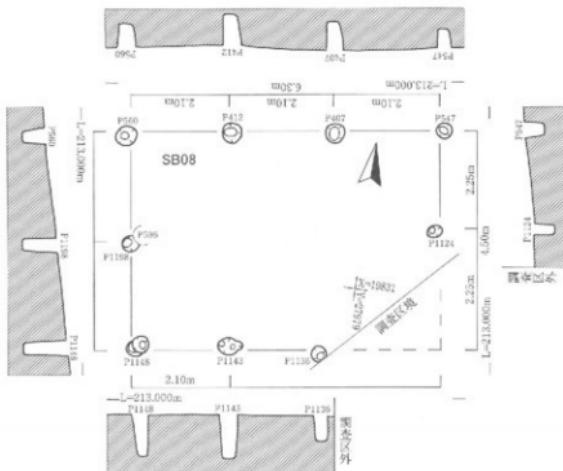


第75図 SB05



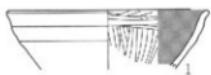
0 (1 : 100) 5m

第76図 SB06・SB07

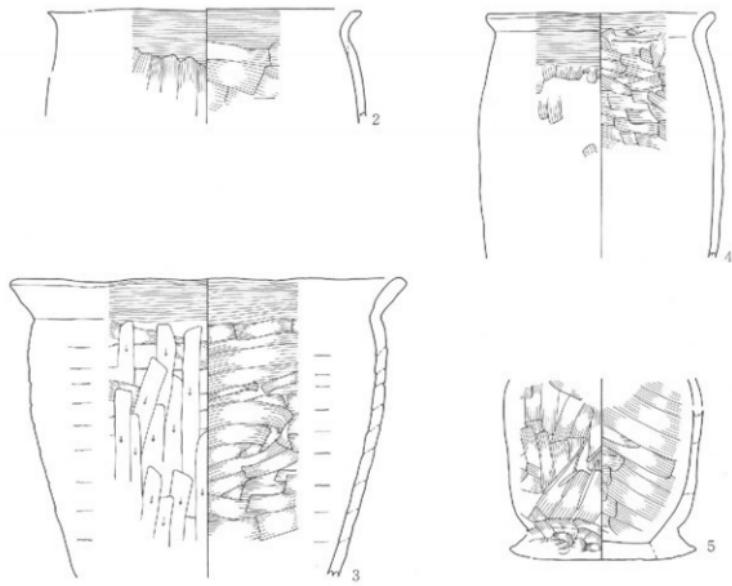


第77図 SB08・SB09

SI01



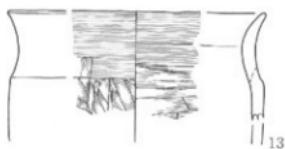
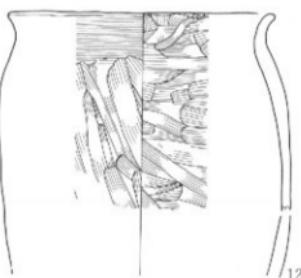
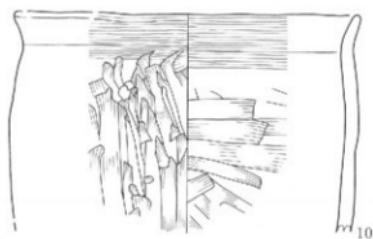
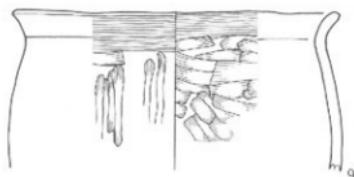
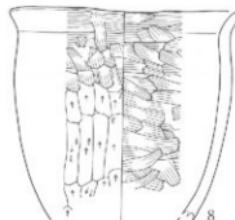
SI02



0 (1:3) 10cm

第78図 SI01・SI02遺物

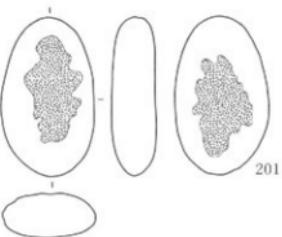
SI03



0 (1:3) 10cm

第79図 SI 03遺物 (1)

SI03



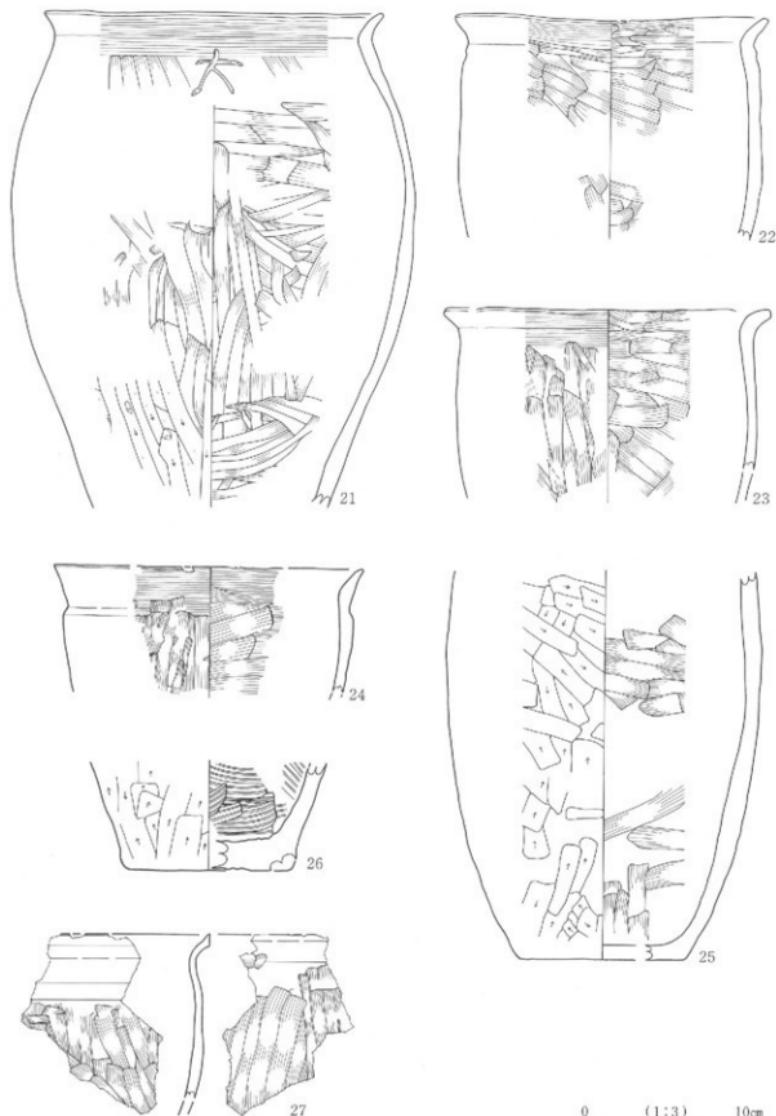
0 (1:3) 10cm



0 (1:2) 10cm

第80図 SI03遺物 (2)

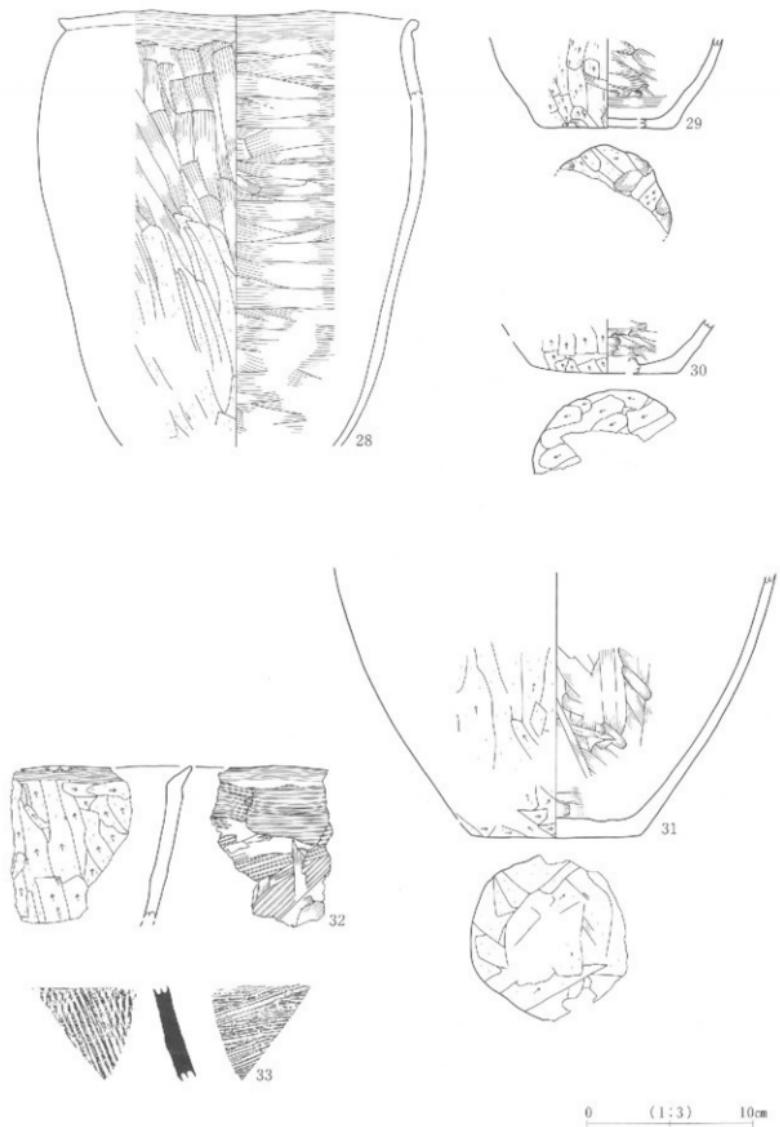
SI04



0 (1:3) 10cm

第81図 S I 04遺物

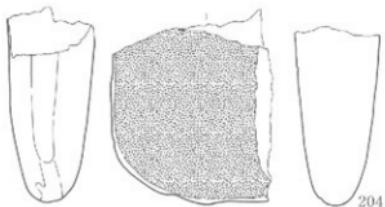
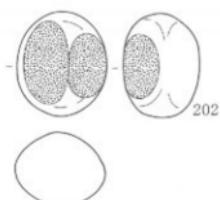
SI05



第82図 S I 05遺物 (1)

0 (1:3) 10cm

SI05



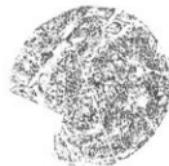
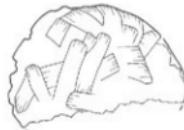
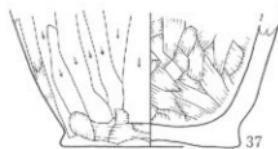
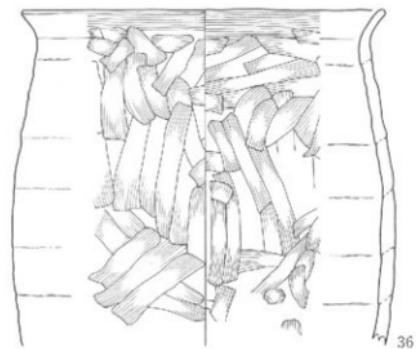
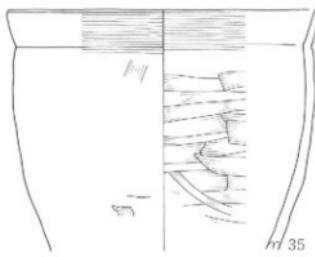
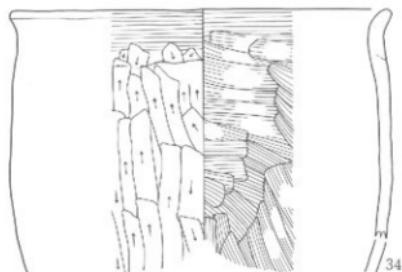
0 (1 : 3) 10cm



0 (1 : 2) 10cm  
302

第83図 S I 05遺物 (2)

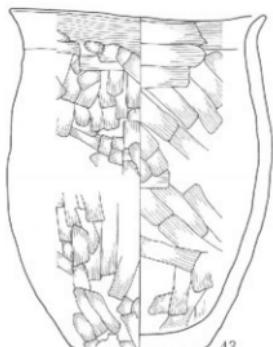
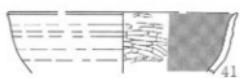
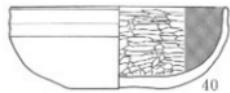
SI06



0 (1:3) 10cm

第84図 SI06遺物

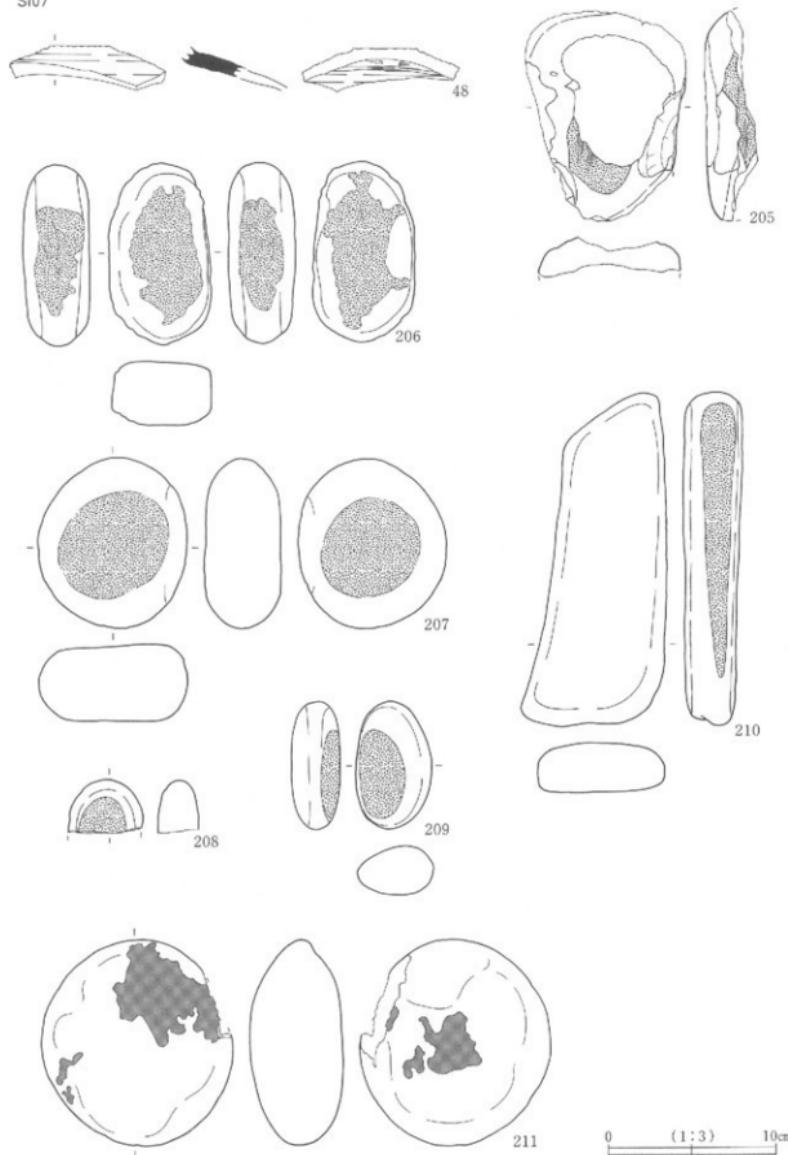
SI07



0 (1:3) 10cm

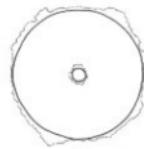
第85図 SI 07遺物 (1)

SI07

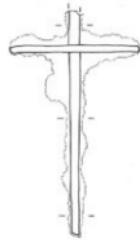


第86図 S I 07遺物 (2)

SI07



303



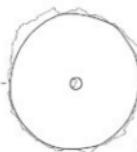
○

○

○

304

SI09



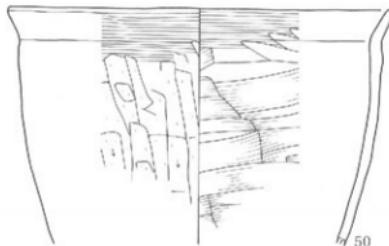
305

SI08

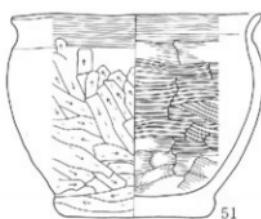


49

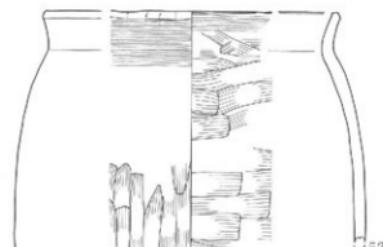
SI09



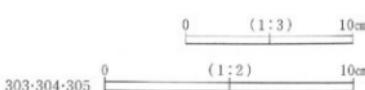
50



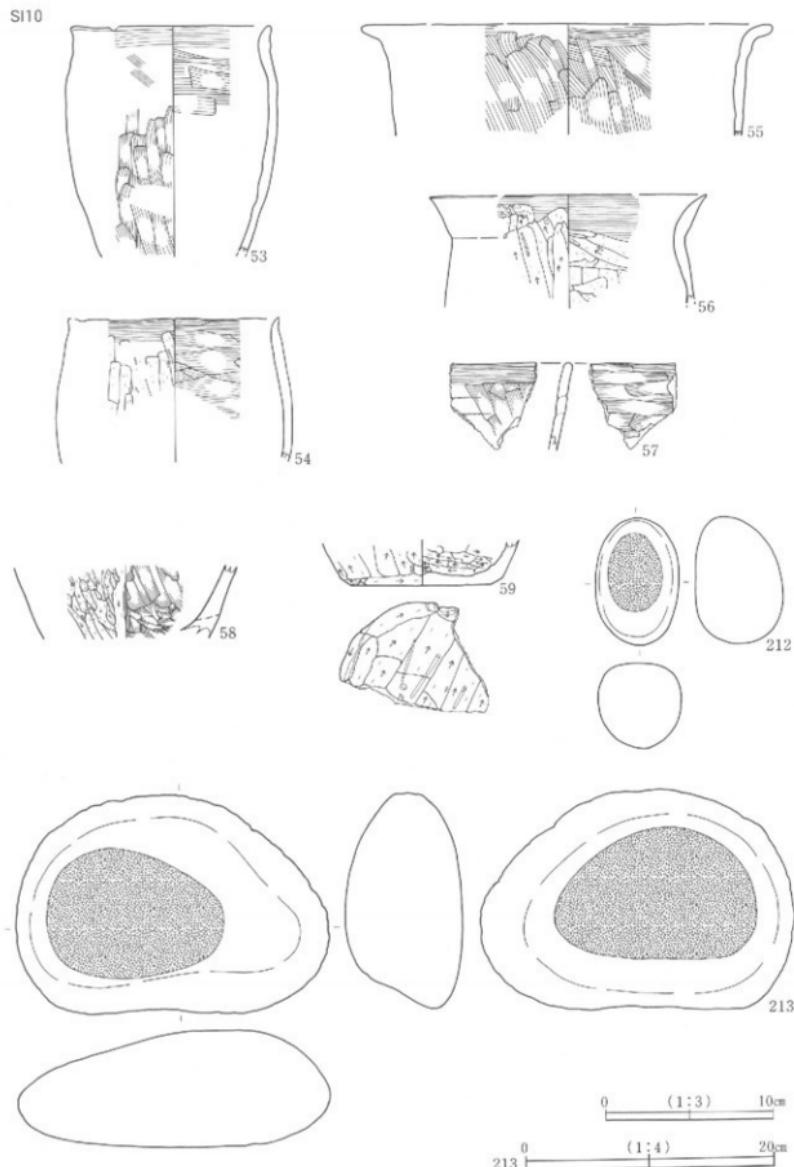
51



52

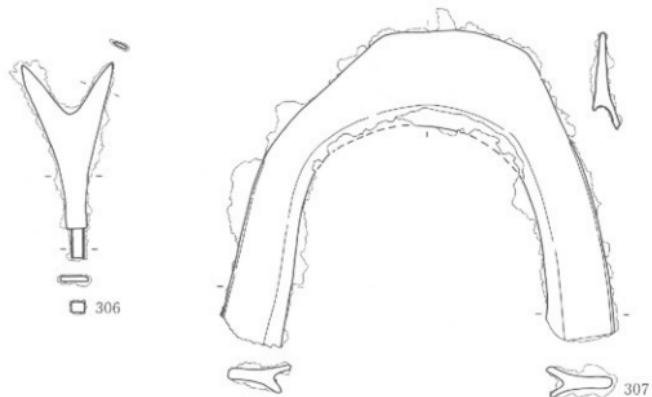


第87図 SI07 (3)・SI08・SI09遺物



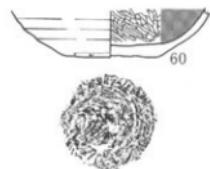
第88図 S I 10遺物 (1)

SI10

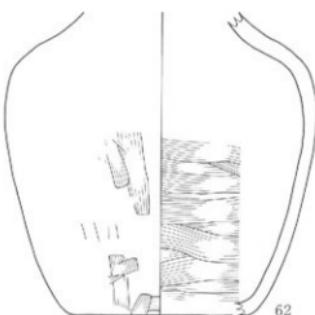
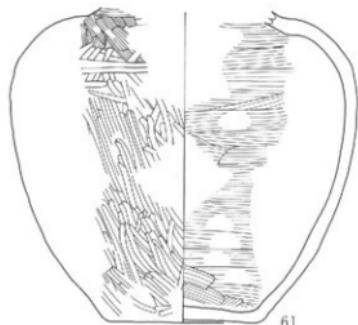


0 (1:2) 10cm

SI12

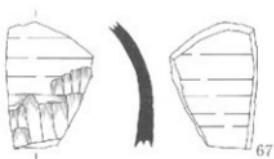
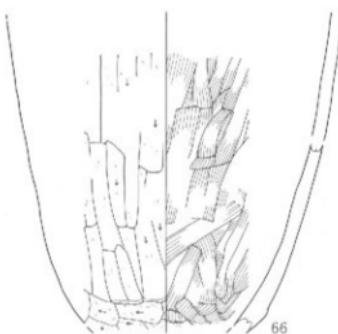
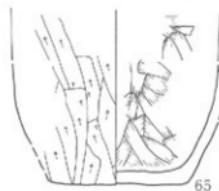
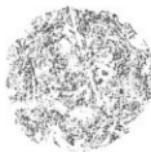
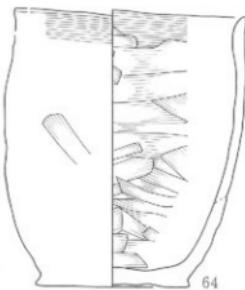


0 (1:3) 10cm



第89図 S I 10遺物 (2) + S I 12遺物 (1)

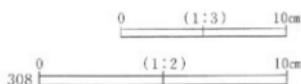
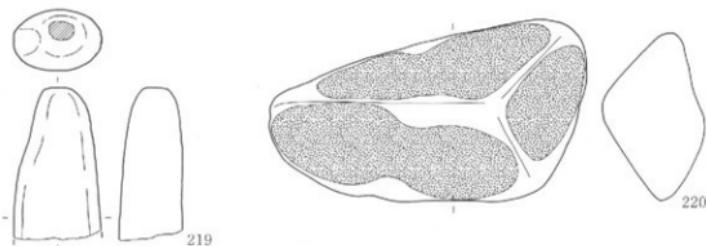
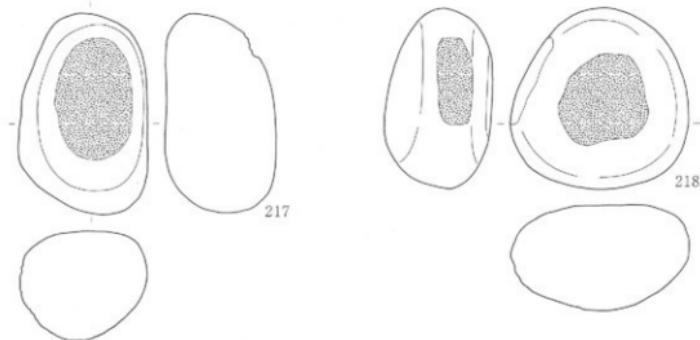
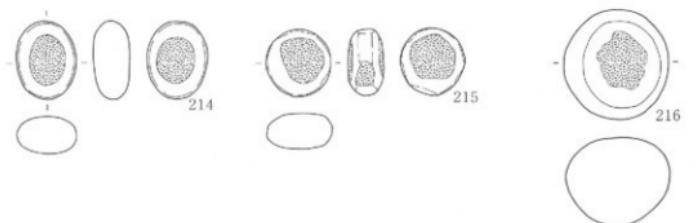
SI12



0 (1:3) 10cm

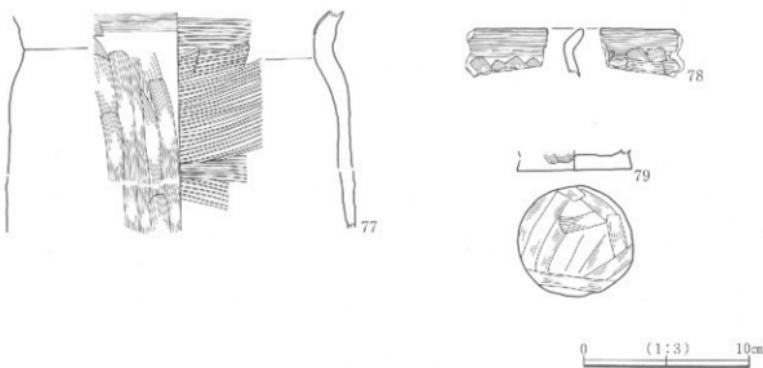
第90図 SI12遺物 (2)

SI12



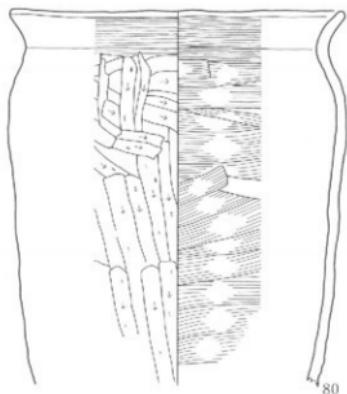
第91図 SI12遺物 (3)

SI14

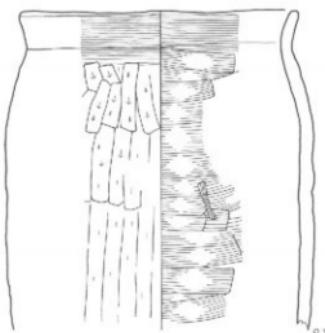


第92図 S I 14遺物

SI15



80



81



82



83



84

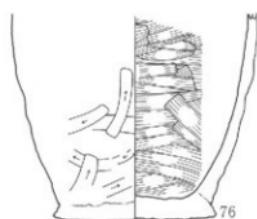
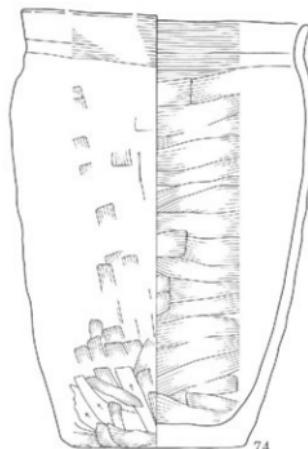
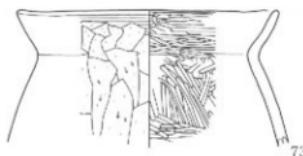
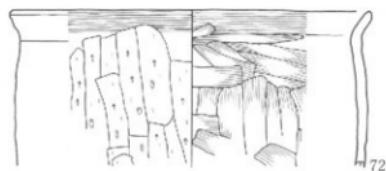
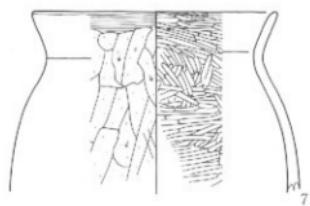
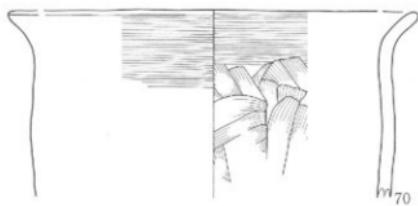
0 (1:3) 10cm

第93図 SI 15遺物

SK19



SK25



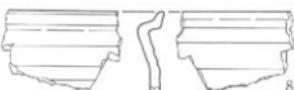
0 (1:3) 10cm

第94図 SK19・SK25遺物

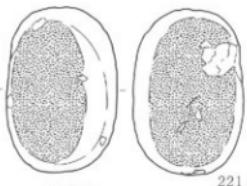
SK81



86



87



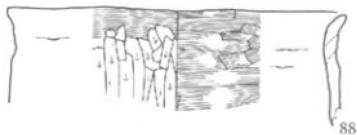
221



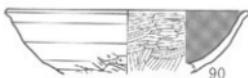
222



223



88



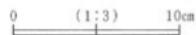
90



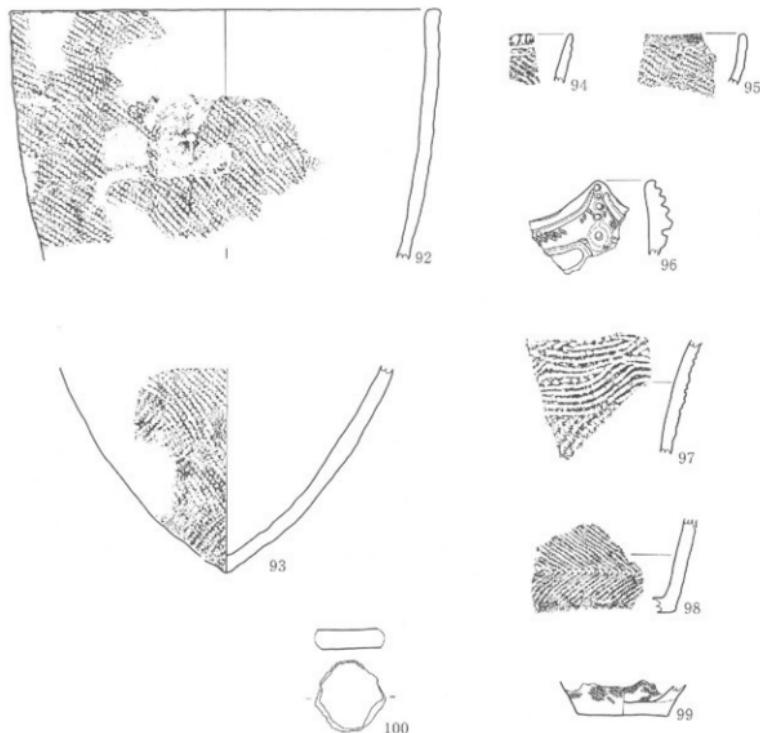
89



91



第95図 SK 81遺物

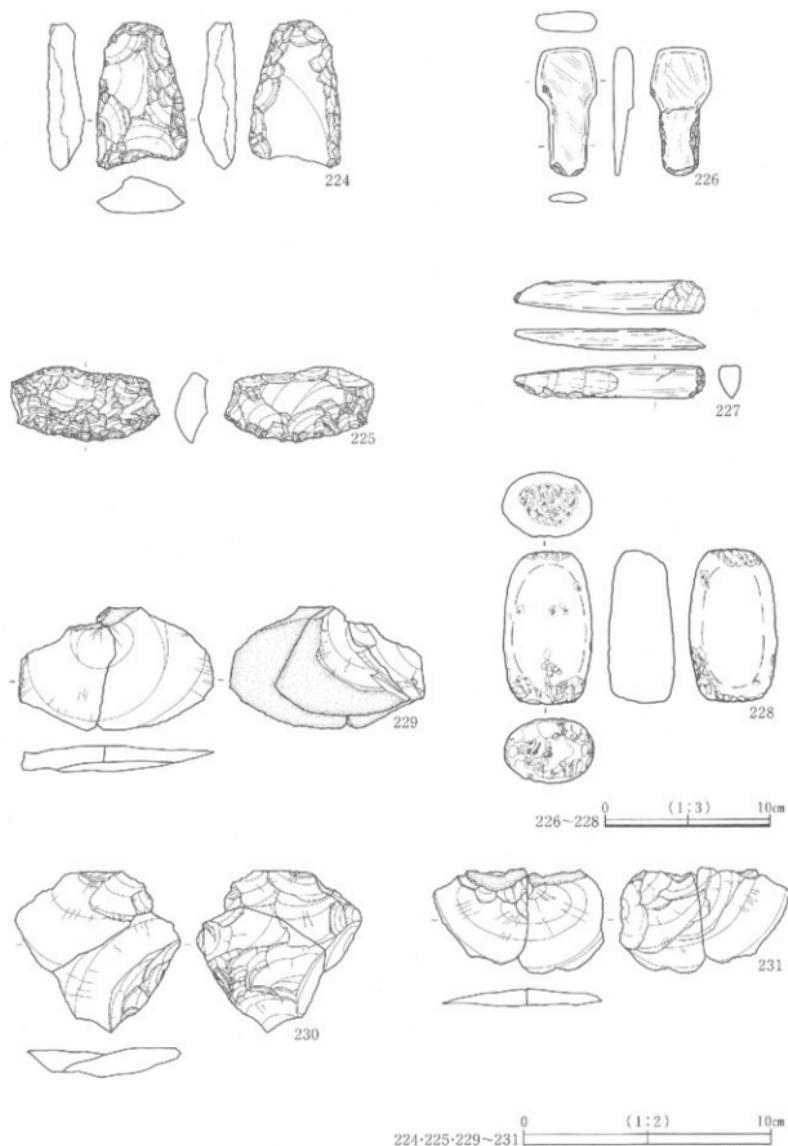


0 (1:3) 10cm

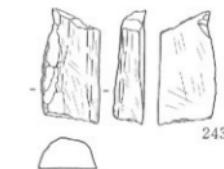
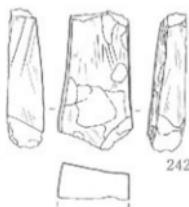
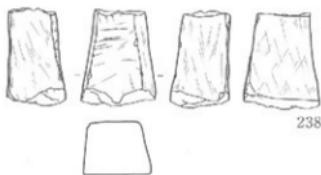
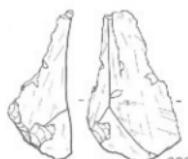
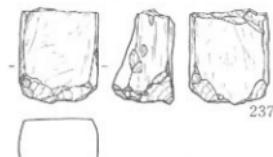
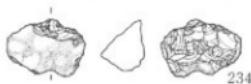
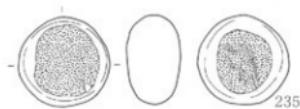
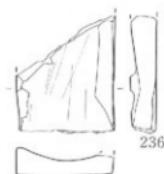
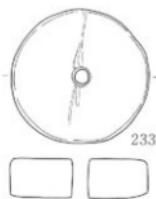
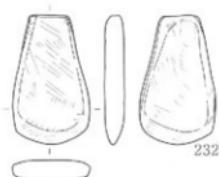
第96図 縄文土器



第97図 陶磁器



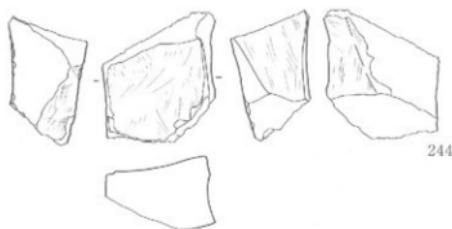
第98図 石器・石製品（1）



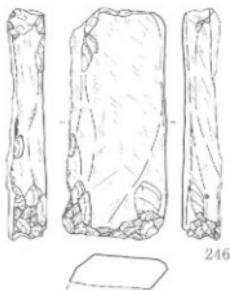
232~234·236 0 (1:2) 10cm

235·237~243 0 (1:3) 10cm

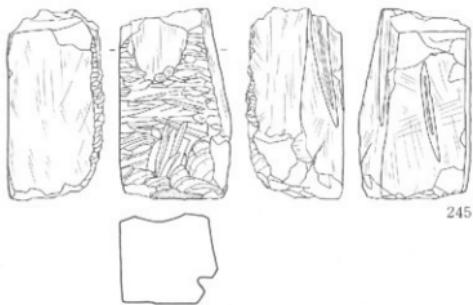
第99図 石器・石製品(2)



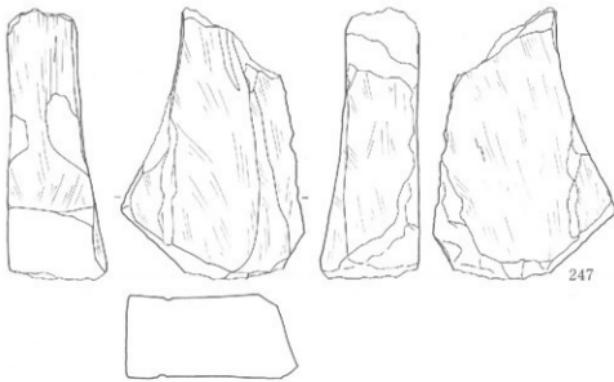
244



246



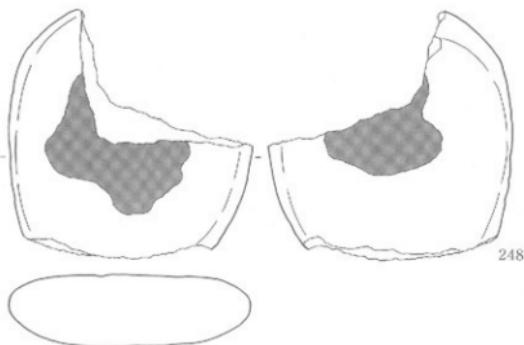
245



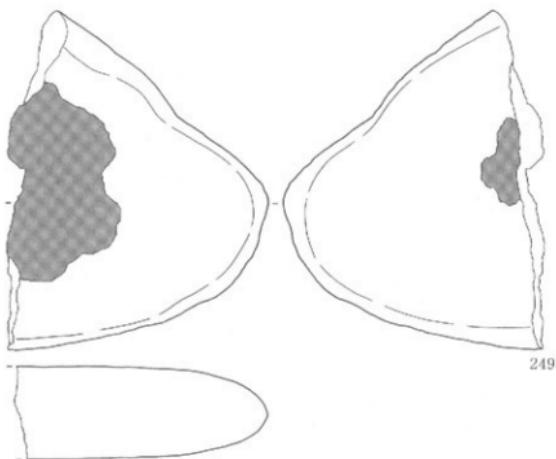
247

0 (1:3) 10cm

第100図 石器・石製品(3)



248

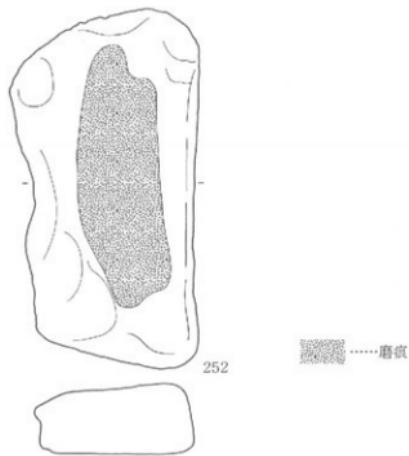
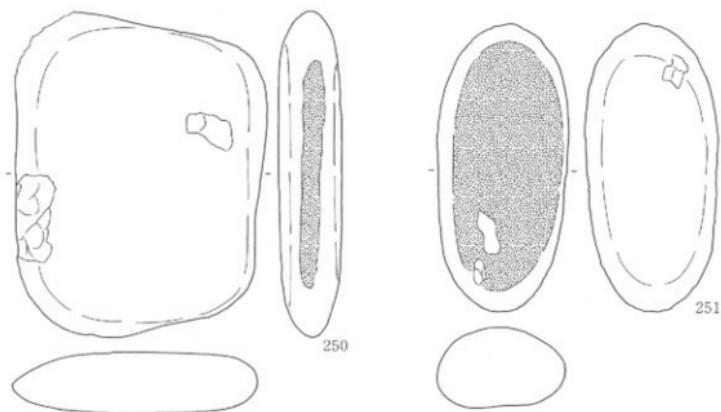


249

■ .....炭化物付着箇所

0 (1:3) 10cm

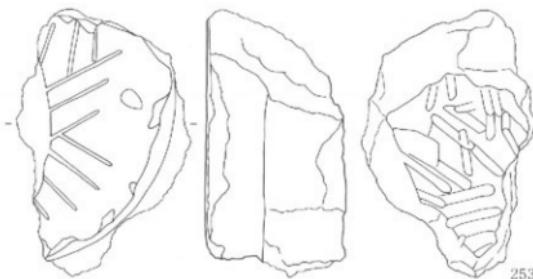
第101図 石器・石製品(4)



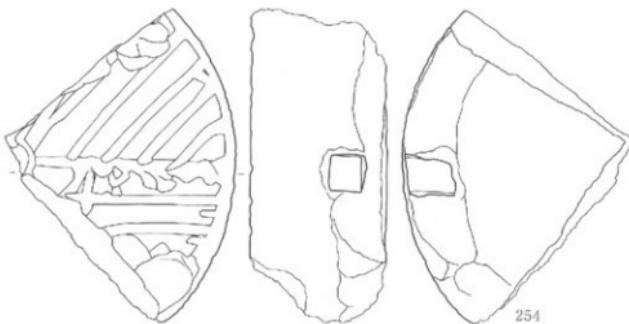
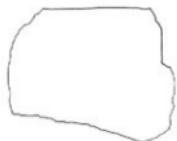
■ .....磨痕

0 (1:3) 10cm

第102図 石器・石製品(5)



253

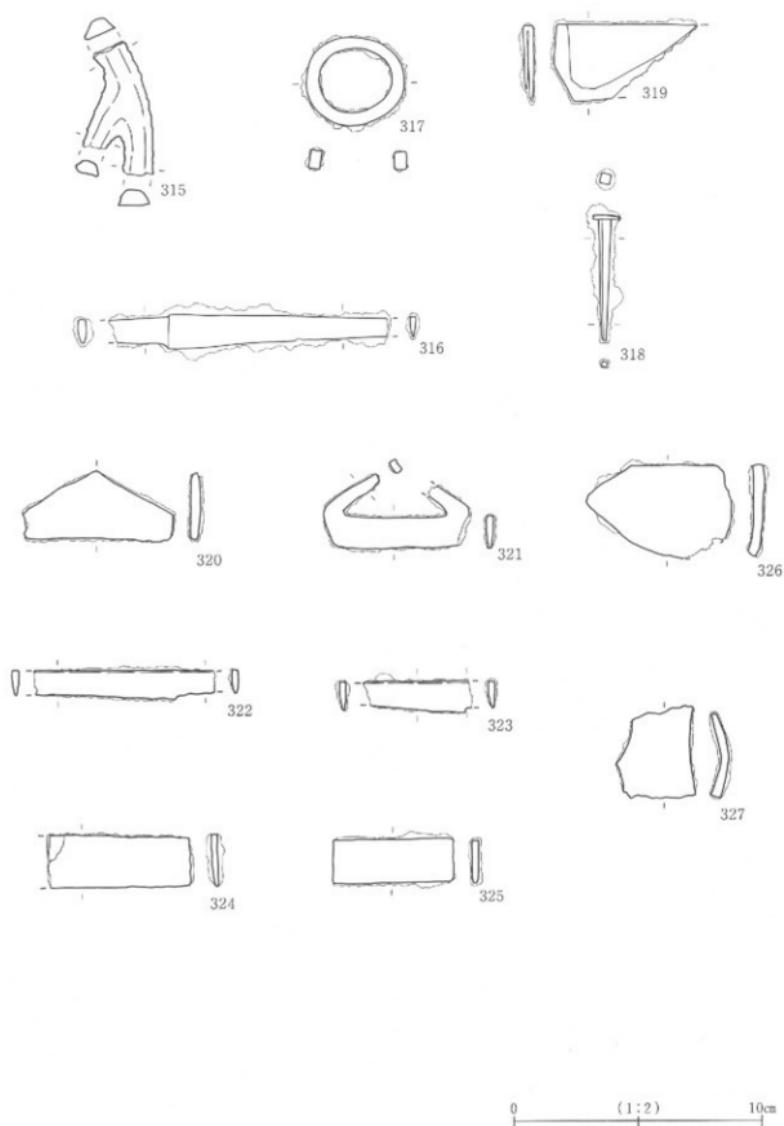


254

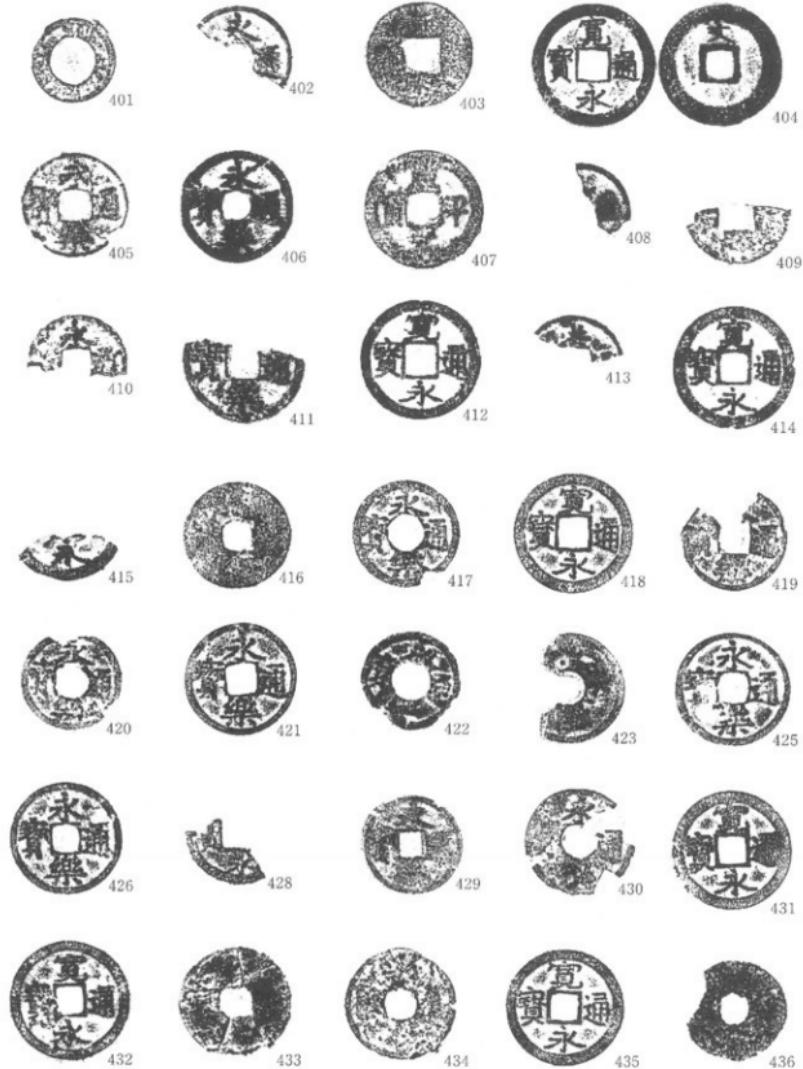


A scale bar at the bottom right of the page. It consists of a horizontal line with a small square at each end. Above the line, the text "(1:3)" indicates the scale. To the right of the line, the text "10cm" indicates the length.

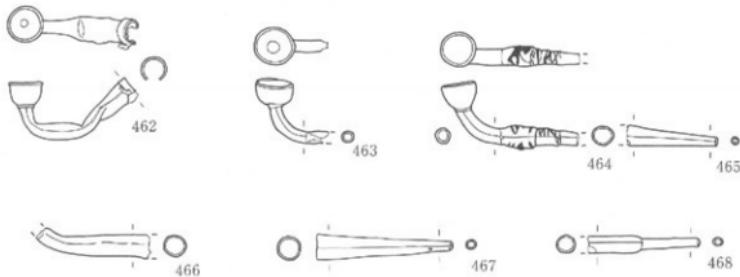
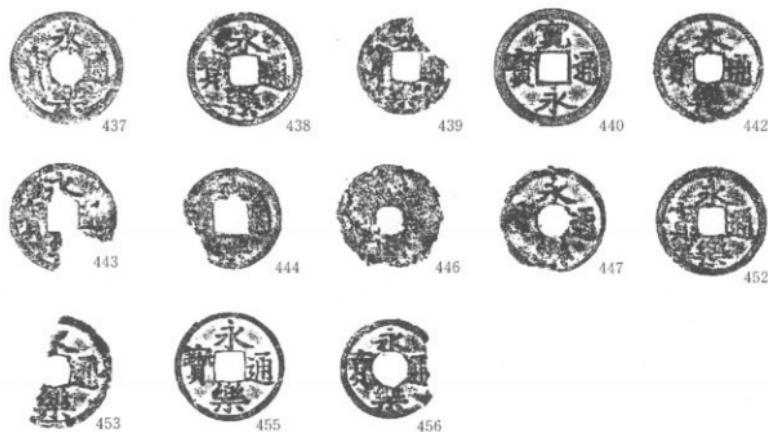
第103図 石器・石製品 (6)



第104図 鉄製品



第105図 銅製品 (1)



460~468 0 (1:2) 10cm

第106図 銅製品(2)

第2表① 遺物観察表(土器)

地名	区画	標高	山川	山川地点			標高(m)	地質	地質	地形	外見	色調	地質	土質	
				北	南	東西									
1. 十ヶ島	下	B区 S100m標高		○	○	12.0	—	口述記	口述記	地形面	地形面	棕褐色	灰	砂質・小砂砾	
2. 土居原	上	B区 S1020m±5.5E		○	○	19.2	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	淡紅色	白	砂質少量	
3. 土居原	長野原	B区 S1020m±5.5E		○	○	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—	
4. 土居原	土居原	B区 S1020m±5.5E		○	○	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—	
5. 土居原	長野原	B区 S1020m±5.5E		○	○	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—	
6. 土居原	長野原	B区 S1020m±5.5E		○	○	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—	
7. 土居原	下	B区 S1020m±5.5P1 鹿渓		○	○	13.0	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
8. 土居原	上	B区 S1030m±5.5E		○	○	14.0	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
9. 土居原	長野原	B区 S1030m±5.5E	P10 カマタニキ1.	○	○	20.0	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
10. 土居原	長野原	B区 S1030m±5.5W		○	○	21.0	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
11. 土居原	長野原	B区 S1030m±5.5P1 P-4 P-10 + 9.5		○	○	16.9	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
12. 土居原	長野原	B区 S1030m±5.5P2		○	○	15.3	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
13. 土居原	要	B区 S1030m±5.5E		○	○	15.5	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
14. 土居原	要	B区 S1030m±5.5P5 P-10		○	○	10.8	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
15. 土居原	要	B区 S1030m±5.5E		○	○	8.0	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
16. 土居原	要	B区 S1030m±5.5P7		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
17. 土居原	要	B区 S1030m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
18. 土居原	要	B区 S1030m±5.5P4 P-6 屋下5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
19. 土居原	要	B区 S1030m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
20. 小型1	下	B区 S1040m±5.5E		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
21. 小型1	上	B区 S1040m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
22. 土居原	長野原	B区 S1040m±5.5E		○	○	20.4	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
23. 土居原	長野原	B区 S1040m±5.5W		○	○	18.8	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
24. 土居原	長野原	B区 S1040m±5.5E		○	○	19.6	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
25. 土居原	長野原	B区 S1040m±5.5W	ヤマトヒメ	○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
26. 土居原	要	B区 S1040m±5.5P		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
27. 土居原	要	B区 S1040m±5.5E		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
28. 土居原	要	B区 S1040m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
29. 土居原	要	B区 S1040m±5.5P		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
30. 土居原	要	B区 S1040m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
31. 土居原	要	B区 S1040m±5.5E		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
32. 土居原	要	B区 S1040m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
33. 土居原	要	B区 S1040m±5.5P		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
34. 土居原	要	B区 S1040m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
35. 土居原	要	B区 S1040m±5.5E		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
36. 土居原	要	B区 S1040m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
37. 土居原	要	B区 S1040m±5.5P		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—
38. 土居原	要	B区 S1040m±5.5W		○	○	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	テテ	テテ	—	—	—	—

第2表② 遺物観察表（土器）

圖 2 表③ 遺物觀察表（土器）

表3 遺物觀察表（陶磁器）

第4表 遺物觀察表(石器・石製品)

第5表 遺物観察表（金属製品）

掲載No.	器種	出土区域	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
301	刀子？	B区	S I 03埋土 SW	12.0	1.4	0.5	11.8	
302	鎌？	B区	S I 05上位	(7.3)	(11.0)	0.3	101.2	
303	刀子？	B区	S I 07床面	(15.3)	1.8	0.5	44.6	
304	筋鍔車	B区	S I 07床面	(9.3)	5.4	5.4	55.6	輪あり
305	筋鍔車	B区	S I 09炭化物上	5.3	5.1	0.2	32.5	鍔なし
306	鍔	B区	S I 10埋土	(8.2)	3.7	0.5	20.0	
307	鍔先？	B区	S I 10埋土 SW	13.2	15.9	1.3	196.5	
308	刀子？	B区	S I 12埋土 NW	(6.4)	2.8	1.7	21.6	
309	刀子	C区	S I 14床面	(4.9)	1.2	0.4	6.8	
310	刀子	C区	S I 14床面	(4.6)	0.9	0.3	5.0	
311	刀子	C区	S I 14P 2	(5.4)	0.9	0.3	10.6	
312	鍔	C区	S I 14贴床	(9.1)	0.9	0.4	13.0	
313	刀子	C区	S I 14床面	(12.5)	1.5	0.4	22.5	
314	刀子	C区	S I 14床面	(10.7)	1.2	0.3	10.4	
315	？	B区	- III D 10 g	(5.5)	(2.9)	0.6	21.3	鉢物？
316	刀子？	B区	- III D 8 i	11.4	1.4	0.4	22.3	
317	環状	C区	- III E 6 b	4.3	3.9	0.7	19.8	
318	釘？	B区	造標外	5.2	1.2	1.2	6.4	筋鍔車の軸？
319	刀物？	C区	造標外	(6.0)	3.5	0.5	18.7	
320	火打金	D区	- IV F 2 f III層	(6.2)	2.8	0.4	21.8	
321	火打金	C区	- III E 4 c IV層	5.9	3.1	0.3	18.5	
322	刀子	C区	P 589	(7.4)	1.2	0.3	11.6	
323	刀子	C区	P 644	4.5	1.4	0.3	7.7	
324	板状	C区	P 649	(5.8)	2.2	0.2	16.9	
325	板状	D区	北西溝 II層	(5.0)	1.8	0.3	17.4	
326	鍔？	C区	P 592	(6.0)	4.0	0.5	42.8	
327	鍔？	C区	- V E 4 h II層	3.7	3.2	0.4	24.4	
460	鍔？	C区	S I 16床面	(3.2)	1.8	0.1	1.5	
461	鍔？	C区	- III E 5 d、肩上面	3.5	1.9	0.1	3.0	
462	煙管吸口	C区	S I 07埋土上位E	5.3	2.5	1.4	5.8	
463	煙管吸口	C区	- III E 4 c、肩上	(3.0)	2.6	1.6	2.8	
464	煙管吸口	C区	P 388	3.5	2.6	1.4	6.6	
465	煙管吸口	C区	P 388	(3.6)	0.9	0.9		
466	煙管吸口	D区	上段部カラン	4.7	1.2	0.9	8.0	
467	煙管吸口	C区	- III E 7 b	5.5	1.1	1.1	2.8	
468	煙管吸口	C区	P 1173	(4.5)	0.7	0.7	2.8	

第6表 遺物観察表(錢貨)

掲載No	器種	出土区域	出土地点	重量(g)	備考
401	水□通□	C区	カクラン	0.5	水樂通寶?
402	水口通□	C区	S I 07W埋土上位	0.6	水樂通寶?
403	不明	C区	S I 07埋土上位	1.6	磨滅
404	寛永通寶(文)	C区	S I 07 S埋土上位	3.1	新寶水背文銘
405	水樂通寶	B区	P42	1.1	
406	水樂通寶	C区	- III E 7 b	2.1	
407	咸平元寶	B区	- III E 6 d	2.0	
408	□□通□	C区	- III E 5 c	0.3	水樂通寶?
409	不明	C区	- III E 5 b	0.5	磨滅
410	水□通□	C区	不明	0.5	水樂通寶?
411	□樂通寶	C区	- III E 5 b	0.9	水樂通寶?
412	寛永通寶(内)	C区	- III E 2 a	2.9	
413	洪□□□	C区	- III E 2 a	0.4	洪武通寶?
414	寛永通寶(古)	C区	- III E 2 a	4.2	
415	□永□□	C区	S I 07W埋土上位	0.6	寛永通寶?
416	不明	A区	P1021底面	1.7	磨滅
417	水樂通寶	A区	南カクラン	1.4	
418	寛永通寶(古)	C区	S K49	4.1	
419	□樂通寶	C区	S K70埋土上位	1.0	水樂通寶?
420	水樂通寶	C区	S N23底上	1.3	
421	永樂通寶	C区	- III E 4 c IV 网上	1.8	
422	永樂通寶	C区	- III E 4 c IV 网上	0.6	
423	水口通□	C区	- III E 4 c IV 网上	0.6	水樂通寶?
424	不明	C区	- III E 4 c IV 网上	0.3	拓本なし
425	水樂通寶	C区	S I 07付近IV 网上	1.0	
426	水樂通寶	C区	S I 07付近IV 网上	1.8	
427	不明	D区	- IV E 1 g III 网	0.2	写真なし
428	□□口寶	D区	- V E 7 h カクラン	0.6	寛永通寶(新)?
429	水樂通寶	D区	- IV F 4 E II 网	1.0	
430	水樂通寶	C区	P390	1.1	
431	寛永通寶(古)	C区	P394	3.9	
432	寛永通寶(古)	C区	P401	3.4	
433	不明	C区	P435	1.2	
434	不明	C区	P461	1.6	
435	寛永通寶(古)	C区	P502	3.1	
436	不明	C区	P537	1.5	
437	水樂通寶	C区	P556	1.9	
438	水樂通寶	C区	P584	1.9	
439	水樂通寶	C区	P590	0.6	
440	寛永通寶(古)	C区	P616	3.2	
441	不明	C区	P630	2.2	拓本なし
442	水樂通寶	C区	P630	2.8	
443	水口通寶	C区	P630	0.8	水樂通寶?
444	□□通□	C区	P635	0.9	
445	不明	C区	P683	0.3	写真なし
446	不明	C区	P690	1.2	磨滅
447	水樂通寶	C区	P813	2.1	
448	不明	C区	P894	0.6	拓本なし
449	□樂口寶	C区	P921	0.3	拓本なし
450	□□通□	C区	P921	0.1	拓本なし
451	不明	C区	P921	0.6	拓本なし
452	水樂通寶	C区	P933	1.5	
453	水樂通寶	C区	P933	1.5	
454	不明	C区	P936	0.7	拓本なし
455	水樂通寶	C区	P1107	1.3	
456	水樂通寶	C区	不明	1.1	

第7表① 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	底面lev (m)	側面lev (m)	深さ (m)	備考(構成する地 質部・出土遺物)
1	B区	-Ⅲ D 10 f	209.58	209.97	0.39	泥化粘土?
2	B区	-Ⅲ D 10 f	209.82	210.05	0.20	
3	B区	-Ⅲ D 10 f	209.41	210.05	0.64	
4	B区	-Ⅲ D 10 f	209.61	209.89	0.28	土解説付
5	B区	-Ⅲ D 9 i	206.78	209.95	0.17	
6	B区	-Ⅲ D 9 i	206.78	209.41	0.21	
7	欠番		0.00	0.00	0.00	
8	B区	-Ⅲ D 10 g	206.92	210.26	0.34	
9	B区	-Ⅲ D 9 g	209.98	210.20	0.21	
10	B区	-Ⅲ D 9 g	209.90	210.13	0.23	
11	B区	-Ⅲ D 9 g	209.79	210.25	0.46	
12	B区	-Ⅲ D 10 g	210.04	210.41	0.37	
13	B区	-Ⅲ D 9 g	209.17	209.45	0.28	
14	B区	-Ⅲ D 9 g	206.89	209.97	0.08	
15	B区	-Ⅲ D 9 g	209.84	210.01	0.17	
16	B区	-Ⅲ D 9 g	209.85	210.04	0.19	
17	B区	-Ⅲ D 9 g	209.94	210.10	0.16	
18	B区	-Ⅲ D 9 g	209.93	210.13	0.20	
19	B区	-Ⅲ D 9 g	209.97	210.20	0.23	
20	B区	-Ⅲ D 9 g	209.96	210.20	0.22	
21	B区	-Ⅲ D 9 g	210.14	210.32	0.18	
22	B区	-Ⅲ D 9 g	210.22	210.42	0.20	
23	B区	-Ⅲ D 9 g	209.47	209.60	0.13	
24	B区	-Ⅲ D 9 g	209.54	209.71	0.17	
25	B区	-Ⅲ D 9 g	209.65	209.71	0.16	
26	B区	-Ⅲ D 9 g	209.60	209.77	0.17	
27	B区	-Ⅲ D 8 g	209.34	209.56	0.21	
28	B区	-Ⅲ D 8 g	209.68	209.75	0.07	
29	B区	-Ⅲ D 8 g	209.41	209.75	0.32	
30	B区	-Ⅲ D 8 g	209.61	209.71	0.10	
31	B区	-Ⅲ D 8 g	209.56	209.66	0.10	
32	B区	-Ⅲ D 10 h	210.28	210.66	0.38	
33	B区	-Ⅲ D 10 h	210.44	210.70	0.26	
34	B区	-Ⅲ D 10 h	210.43	210.74	0.31	
35	B区	-Ⅲ D 10 h	210.67	210.89	0.13	
36	B区	-Ⅲ D 10 h	210.66	210.96	0.30	
37	B区	-Ⅲ D 10 h	210.38	210.66	0.28	
38	B区	-Ⅲ D 10 h	210.27	210.54	0.27	
39	B区	-Ⅲ D 10 h	210.26	210.58	0.32	
40	B区	-Ⅲ D 10 h	210.35	210.66	0.31	
41	B区	-Ⅲ D 10 h	210.55	210.66	0.11	
42	B区	-Ⅲ D 10 h	210.42	210.73	0.31	水壓過濾(405)
43	B区	-Ⅲ D 10 h	210.19	209.63	0.31	
44	B区	-Ⅲ D 10 h	210.19	209.63	0.44	
45	B区	-Ⅲ D 10 h	210.48	210.73	0.25	
46	B区	-Ⅲ D 10 h	210.49	210.70	0.30	
47	B区	-Ⅲ D 10 h	210.52	210.80	0.28	
48	B区	-Ⅲ D 9 h	210.24	210.50	0.26	
49	B区	-Ⅲ D 9 h	209.91	210.04	0.10	
50	B区	-Ⅲ D 9 h	210.18	210.68	0.50	
51	B区	-Ⅲ D 9 h	210.34	210.71	0.37	
52	B区	-Ⅲ D 9 h	210.11	210.68	0.57	
53	B区	-Ⅲ D 9 h	210.29	210.68	0.39	
54	B区	-Ⅲ D 9 h	209.83	210.10	0.27	
55	B区	-Ⅲ D 9 h	209.66	209.67	0.01	
56	B区	-Ⅲ D 9 h	209.75	210.24	0.49	
57	B区	-Ⅲ D 9 h	209.76	210.24	0.48	
58	B区	-Ⅲ D 9 h	209.96	210.36	0.40	
59	B区	-Ⅲ D 9 h	209.83	210.39	0.56	
60	B区	-Ⅲ D 9 h	209.89	210.35	0.46	
61	B区	-Ⅲ D 9 h	209.87	210.26	0.39	
62	B区	-Ⅲ D 9 h	209.84	209.98	0.14	
63	B区	-Ⅲ D 9 h	209.90	209.98	0.06	
64	B区	-Ⅲ D 9 h	209.84	210.25	0.41	
65	B区	-Ⅲ D 9 h	209.69	210.24	0.64	
66	B区	-Ⅲ D 9 h	210.09	210.41	0.32	
67	B区	-Ⅲ D 9 h	210.52	209.88	0.63	
68	B区	-Ⅲ D 7 h	209.69	209.87	0.27	
69	B区	-Ⅲ D 9 h	209.67	210.02	0.35	
70	B区	-Ⅲ D 9 h	209.92	210.20	0.28	
71	B区	-Ⅲ D 9 h	210.08	210.19	0.11	
72	B区	-Ⅲ D 9 h	210.04	210.17	0.13	
73	B区	-Ⅲ D 8 h	209.97	210.06	0.09	
74	B区	-Ⅲ D 8 h	209.53	210.08	0.55	
75	B区	-Ⅲ D 11 i	210.52	210.92	0.40	
76	B区	-Ⅲ D 10 i	210.40	210.92	0.52	
77	B区	-Ⅲ D 11 i	210.50	210.97	0.47	
78	B区	-Ⅲ D 2 i	210.68	211.00	0.32	
79	B区	-Ⅲ D 10 i	210.29	210.68	0.39	
80	B区	-Ⅲ D 10 i	210.59	210.69	0.10	
81	B区	-Ⅲ D 10 i	210.41	210.78	0.37	
82	B区	-Ⅲ D 10 i	210.40	210.75	0.35	
83	B区	-Ⅲ D 10 i	210.48	210.76	0.28	

第7表② 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	底面lev (m)	側面lev (m)	深さ (m)	備考(構成する地 質部・出土遺物)
84	B区	-Ⅲ D 10 i	210.55	210.85	0.30	
85	B区	-Ⅲ D 10 i	210.29	210.87	0.58	
86	B区	-Ⅲ D 10 i	210.54	210.86	0.32	
87	B区	-Ⅲ D 10 i	210.60	210.83	0.23	
88	B区	-Ⅲ D 10 i	210.57	210.74	0.17	
89	B区	-Ⅲ D 10 i	210.25	210.72	0.47	
90	B区	-Ⅲ D 10 i	210.50	210.76	0.26	
91	B区	-Ⅲ D 10 i	210.48	210.91	0.43	
92	B区	-Ⅲ D 10 i	210.63	210.97	0.34	
93	B区	-Ⅲ D 10 i	210.98	210.99	0.01	
94	B区	-Ⅲ D 10 i	210.65	210.82	0.17	
95	B区	-Ⅲ D 10 i	210.22	210.57	0.35	
96	B区	-Ⅲ D 10 i	210.27	210.50	0.23	
97	B区	-Ⅲ D 10 i	210.61	210.94	0.33	150mm
98	B区	-Ⅲ D 10 i	210.60	210.96	0.36	
99	B区	-Ⅲ D 10 i	210.95	210.95	0.02	
100	B区	-Ⅲ D 10 i	210.65	210.82	0.17	
101	B区	-Ⅲ D 10 i	210.22	210.57	0.35	
102	B区	-Ⅲ D 10 i	210.27	210.50	0.23	
103	B区	-Ⅲ D 10 i	210.32	210.53	0.21	
104	B区	-Ⅲ D 10 i	210.13	210.53	0.40	
105	B区	-Ⅲ D 10 i	210.34	210.64	0.30	
106	B区	-Ⅲ D 10 i	210.47	210.64	0.17	
107	B区	-Ⅲ D 10 i	210.48	210.61	0.16	
108	B区	-Ⅲ D 10 i	210.60	210.74	0.14	
109	B区	-Ⅲ D 20 i	210.52	210.52	0.27	
110	B区	-Ⅲ D 10 i	210.47	210.83	0.36	
111	B区	-Ⅲ D 10 i	210.46	210.83	0.37	
112	B区	-Ⅲ D 10 i	210.42	210.90	0.50	
113	B区	-Ⅲ D 9 i	210.46	210.49	0.03	
114	B区	-Ⅲ D 9 i	209.99	210.52	0.53	
115	B区	-Ⅲ D 9 i	210.50	210.61	0.11	
116	B区	-Ⅲ D 9 i	210.62	210.50	0.08	
117	B区	-Ⅲ D 9 i	210.36	210.69	0.33	
118	B区	-Ⅲ D 9 i	210.48	210.69	0.21	
119	B区	-Ⅲ D 9 i	210.34	210.69	0.35	
120	B区	-Ⅲ D 9 i	210.59	210.70	0.20	
121	B区	-Ⅲ D 9 i	210.32	210.66	0.36	
122	B区	-Ⅲ D 9 i	210.16	210.62	0.51	
123	B区	-Ⅲ D 9 i	210.35	210.53	0.23	
124	B区	-Ⅲ D 9 i	210.43	210.53	0.18	
125	B区	-Ⅲ D 9 i	210.49	210.53	0.04	
126	B区	-Ⅲ D 9 i	210.11	210.51	0.40	
127	B区	-Ⅲ D 9 i	210.31	210.53	0.20	
128	B区	-Ⅲ D 10 i	210.42	210.58	0.16	
129	B区	-Ⅲ D 9 i	210.04	210.55	0.49	
130	B区	-Ⅲ D 9 i	210.42	210.53	0.11	
131	B区	-Ⅲ D 9 i	210.56	210.73	0.17	
132	B区	-Ⅲ D 9 i	210.56	210.79	0.13	
133	B区	-Ⅲ D 9 i	210.41	210.75	0.34	
134	B区	-Ⅲ D 9 i	210.48	210.75	0.27	
135	B区	-Ⅲ D 9 i	210.37	210.74	0.37	
136	B区	-Ⅲ D 9 i	210.31	210.75	0.41	残塗
137	B区	-Ⅲ D 9 i	210.61	210.74	0.13	
138	B区	-Ⅲ D 9 i	210.59	210.70	0.11	
139	B区	-Ⅲ D 9 i	210.16	210.72	0.56	
140	B区	-Ⅲ D 9 i	210.46	210.71	0.23	
141	B区	-Ⅲ D 9 i	210.58	210.75	0.17	
142	B区	-Ⅲ D 9 i	210.56	210.72	0.16	
143	B区	-Ⅲ D 9 i	210.59	210.74	0.15	
144	B区	-Ⅲ D 9 i	210.56	210.77	0.22	
145	B区	-Ⅲ D 9 i	210.63	210.76	0.13	
146	B区	-Ⅲ D 9 i	210.72	210.78	0.06	
147	B区	-Ⅲ D 9 i	210.69	210.89	0.11	
148	B区	-Ⅲ D 9 i	210.59	210.78	0.19	
149	B区	-Ⅲ D 9 i	210.35	210.75	0.40	
150	B区	-Ⅲ D 9 i	210.31	210.80	0.49	
151	B区	-Ⅲ D 8 i	210.85	210.34	0.48	
152	B区	-Ⅲ D 8 i	209.92	210.37	0.43	
153	B区	-Ⅲ D 8 i	210.26	210.44	0.18	
154	B区	-Ⅲ D 8 i	210.57	210.47	0.38	
155	B区	-Ⅲ D 8 i	210.04	210.43	0.39	
156	B区	-Ⅲ D 8 i	210.34	210.46	0.12	
157	B区	-Ⅲ D 8 i	210.25	210.50	0.25	
158	B区	-Ⅲ D 8 i	210.35	210.54	0.25	
159	B区	-Ⅲ D 8 i	210.28	210.50	0.22	
160	B区	-Ⅲ D 8 i	210.49	210.58	0.18	
161	B区	-Ⅲ D 8 i	210.41	210.50	0.09	
162	B区	-Ⅲ D 8 i	210.29	210.52	0.28	
163	B区	-Ⅲ D 8 i	210.43	210.57	0.14	
164	B区	-Ⅲ D 8 i	210.37	210.61	0.21	
165	B区	-Ⅲ D 8 i	210.36	210.57	0.21	
166	B区	-Ⅲ D 8 i	210.45	210.61	0.16	

第7表③ 柱穴一覧表

区画	グリッド	底面lev (m)	横面lev (m)	深さ (m)	標高 (標高する場 所)	特徴・付属物
167 B区	-Ⅲ D 8 1	210.38	210.64	0.26		
168 B区	-Ⅲ D 8 1	210.54	210.68	0.14		
169 B区	-Ⅲ D 8 1	210.24	210.69	0.45		
170 B区	-Ⅲ D 8 1	210.43	210.74	0.31		
171 B区	-Ⅲ D 8 1	210.21	210.72	0.51		
172 B区	-Ⅲ D 8 1	210.64	210.71	0.17		
173 B区	-Ⅲ D 8 1	210.38	210.67	0.29		
174 B区	-Ⅲ D 8 1	210.45	210.66	0.21		
175 B区	-Ⅲ D 8 1	210.19	210.62	0.44	土跡部分	
176 B区	-Ⅲ D 8 1	210.37	210.58	0.21		
177 B区	-Ⅲ D 8 1	210.51	210.63	0.12		
178 B区	-Ⅲ D 8 1	210.29	210.65	0.56		
179 B区	-Ⅲ D 8 1	210.25	210.45	0.29		
180 B区	-Ⅲ D 8 1	210.33	210.42	0.10		
187 B区	-Ⅲ D 8 1	210.94	210.44	0.10		
182 B区	-Ⅲ D 8 2	210.28	210.39	0.11		
183 B区	-Ⅲ D 8 2	210.18	210.38	0.20		
184 B区	-Ⅲ D 8 2	210.17	210.45	0.28		
185 B区	-Ⅲ D 8 2	209.28	210.26	0.58		
186 B区	-Ⅲ D 8 2	209.85	210.28	0.44		
187 B区	-Ⅲ D 8 2	210.19	210.30	0.11		
188 B区	-Ⅲ D 8 2	210.37	210.39	0.22		
189 B区	-Ⅲ D 7 1	209.99	210.24	0.34		
190 B区	-Ⅲ D 7 1	209.86	210.38	0.47		
191 B区	-Ⅲ D 7 1	210.17	210.30	0.13		
192 B区	-Ⅲ D 7 1	210.00	210.25	0.25		
193 B区	-Ⅲ D 7 1	210.20	210.38	0.13		
194 B区	-Ⅲ D 7 1	210.15	210.46	0.31		
195 B区	-Ⅲ D 7 1	210.31	210.42	0.11		
196 B区	-Ⅲ D 7 1	210.11	210.43	0.32		
197 B区	-Ⅲ D 7 1	210.36	210.53	0.17		
198 B区	-Ⅲ D 7 1	210.35	210.51	0.16		
199 B区	-Ⅲ D 7 1	210.42	210.53	0.11		
200 B区	-Ⅲ D 7 1	209.97	210.19	0.22		
201 B区	-Ⅲ D 7 1	209.92	210.23	0.31		
202 B区	-Ⅲ D 7 1	209.79	210.31	0.61		
203 B区	-Ⅲ D 7 1	209.99	210.40	0.41		
204 B区	-Ⅲ D 7 1	210.21	210.43	0.22		
205 B区	-Ⅲ D 7 1	210.24	210.46	0.26		
206 B区	-Ⅲ D 7 1	210.01	210.45	0.42		
207 B区	-Ⅲ D 7 1	210.20	210.38	0.28		
208 B区	-Ⅲ D 7 1	210.39	210.47	0.24		
209 B区	-Ⅲ D 7 1	209.67	210.17	0.50		
210 B区	-Ⅲ D 6 1	210.05	210.18	0.13		
211 B区	-Ⅲ D 6 1	209.94	210.12	0.18		
212 B区	-Ⅲ D 6 1	209.97	210.11	0.14		
213 B区	-Ⅲ D 10 1	210.90	210.99	0.09		
214 B区	-Ⅲ D 10 1	210.64	210.92	0.38		
215 B区	-Ⅲ D 10 1	210.87	211.09	0.22		
216 B区	-Ⅲ D 10 1	210.72	211.14	0.42		
217 B区	-Ⅲ D 10 1	211.07	211.12	0.05		
218 B区	-Ⅲ D 10 1	210.74	211.08	0.34		
219 B区	-Ⅲ D 10 1	211.15	211.45	0.30		
220 B区	-Ⅲ D 10 1	211.06	211.09	0.03		
221 B区	-Ⅲ D 9 3	210.46	210.94	0.48		
222 B区	-Ⅲ D 9 3	210.56	210.88	0.32		
223 B区	-Ⅲ D 9 3	210.08	210.85	0.77		
224 B区	-Ⅲ D 9 3	210.50	210.81	0.34		
225 B区	-Ⅲ D 9 3	210.96	211.11	0.15		
226 B区	-Ⅲ D 9 3	210.68	211.11	0.43		
227 B区	-Ⅲ D 9 3	210.64	211.16	0.32		
228 C区	-Ⅲ D 10 1	210.63	211.22	0.59		
229 C区	-Ⅲ D 9 a	210.82	211.20	0.38		
230 B区	-Ⅲ D 9 1	210.86	211.10	0.24		
231 B区	-Ⅲ D 9 1	211.02	211.09	0.07		
232 B区	-Ⅲ D 9 1	210.78	211.01	0.23		
233 B区	-Ⅲ D 9 1	210.47	210.97	0.50		
234 B区	-Ⅲ D 9 1	210.79	211.04	0.25		
235 B区	-Ⅲ D 9 1	210.81	211.08	0.20		
236 B区	-Ⅲ D 9 1	210.79	211.01	0.22		
237 B区	-Ⅲ D 9 1	210.79	211.01	0.22		
238 B区	-Ⅲ D 9 1	210.97	211.07	0.42		
239 B区	-Ⅲ D 9 1	210.76	210.98	0.10		
240 B区	-Ⅲ D 9 1	210.27	210.96	0.39		
241 B区	-Ⅲ D 9 1	210.64	210.93	0.29		
242 B区	-Ⅲ D 9 1	210.79	210.88	0.09		
243 B区	-Ⅲ D 9 1	210.73	210.85	0.12		
244 B区	-Ⅲ D 9 1	210.73	210.93	0.22		
245 B区	-Ⅲ D 9 1	210.70	210.98	0.28		
246 B区	-Ⅲ D 9 1	210.33	210.94	0.61		
247 B区	-Ⅲ D 9 1	210.57	210.95	0.39		
248 B区	-Ⅲ D 9 1	210.76	210.93	0.17		
249 B区	-Ⅲ D 9 1	210.49	210.95	0.46		
250 B区	-Ⅲ D 9 1	210.67	211.04	0.37		

第7表④ 柱穴一覧表

%	区画	グリッド	底面lev (m)	横面lev (m)	深さ (m)	標高 (構成する床 面)
250 B区	-Ⅲ D 9 1	210.69	211.08	0.39		
251 B区	-Ⅲ D 9 1	210.77	211.06	0.29		
252 B区	-Ⅲ D 9 1	210.81	211.07	0.22		
253 B区	-Ⅲ D 8 1	210.36	210.78	0.42		
254 B区	-Ⅲ D 8 1	210.44	210.80	0.36		
255 B区	-Ⅲ D 8 1	210.50	210.85	0.31		
257 B区	-Ⅲ D 8 1	210.24	210.74	0.51		
258 B区	-Ⅲ D 8 1	210.66	210.91	0.25		
259 B区	-Ⅲ D 8 1	210.36	210.91	0.33		
260 B区	-Ⅲ D 8 1	210.65	210.82	0.17		
261 B区	-Ⅲ D 8 1	210.68	210.90	0.12		
262 B区	-Ⅲ D 8 1	210.49	210.80	0.31		
263 B区	-Ⅲ D 8 1	210.42	210.75	0.33		
264 B区	-Ⅲ D 8 1	210.31	210.82	0.61		
265 B区	-Ⅲ D 8 1	210.30	210.85	0.55		
266 B区	-Ⅲ D 8 1	210.79	210.87	0.7		
267 B区	-Ⅲ D 8 1	210.73	210.90	0.17		
268 B区	-Ⅲ D 8 1	210.36	210.91	0.35		
269 B区	-Ⅲ D 8 1	210.42	210.67	0.25		
270 B区	-Ⅲ D 7 1	210.39	210.67	0.28		
271 B区	-Ⅲ D 8 1	210.66	210.76	0.20		
272 B区	-Ⅲ D 8 1	210.44	210.80	0.36		
273 B区	-Ⅲ D 8 1	210.35	210.80	0.25		
274 B区	-Ⅲ D 8 1	210.36	210.90	0.34		
275 B区	-Ⅲ D 8 1	210.76	210.93	0.23		
276 B区	-Ⅲ D 8 1	210.64	210.95	0.31		
277 B区	-Ⅲ D 7 1	210.42	210.73	0.30		
278 B区	-Ⅲ D 7 1	210.63	210.73	0.10		
279 B区	-Ⅲ D 7 1	210.63	210.63	0.30		
280 B区	-Ⅲ D 7 1	210.37	210.60	0.23		
281 B区	-Ⅲ D 7 1	210.19	210.54	0.35		
282 B区	-Ⅲ D 7 1	210.36	210.61	0.25		
283 B区	-Ⅲ D 7 1	210.31	210.65	0.34		
284 B区	-Ⅲ D 7 1	210.42	210.72	0.30		
285 B区	-Ⅲ D 7 1	210.42	210.73	0.23		
286 B区	-Ⅲ D 7 1	210.63	210.73	0.10		
287 B区	-Ⅲ D 7 1	210.63	210.73	0.10		
288 B区	-Ⅲ D 7 1	210.65	210.76	0.11		
289 B区	-Ⅲ D 7 1	210.67	210.80	0.13		
290 B区	-Ⅲ D 7 1	210.49	210.84	0.44		
291 B区	-Ⅲ D 7 1	210.36	210.81	0.25		
292 B区	-Ⅲ D 7 1	210.78	210.91	0.13		
293 B区	-Ⅲ D 7 1	210.54	210.91	0.37		
294 B区	-Ⅲ D 7 1	210.64	210.92	0.28		
295 B区	-Ⅲ D 7 1	210.52	210.91	0.23		
296 B区	-Ⅲ D 7 1	210.36	210.99	0.63		
297 B区	-Ⅲ D 7 1	210.65	210.97	0.32		
298 B区	-Ⅲ D 7 1	210.67	210.97	0.59		
299 B区	-Ⅲ D 7 1	210.33	210.92	0.10		
300 B区	-Ⅲ D 7 1	210.25	210.52	0.27		
301 B区	-Ⅲ D 7 1	210.31	210.53	0.22		
302 B区	-Ⅲ D 7 1	210.31	210.61	0.33		
303 B区	-Ⅲ D 7 1	210.44	210.66	0.22		
304 B区	-Ⅲ D 7 1	210.56	210.76	0.20		
305 B区	-Ⅲ D 7 1	210.62	210.72	0.10		
306 B区	-Ⅲ D 7 1	210.63	210.76	0.13		
307 B区	-Ⅲ D 7 1	210.65	210.81	0.16		
308 B区	-Ⅲ D 7 1	210.50	210.88	0.38		
309 C区	-Ⅲ D 7 a	210.60	210.89	0.29		
310 B区	-Ⅲ D 7 1	210.53	210.87	0.34		
311 B区	-Ⅲ D 7 1	210.57	210.82	0.24		
312 B区	-Ⅲ D 7 1	210.41	210.72	0.10		断片
313 B区	-Ⅲ D 6 1	210.21	210.46	0.25		
314 B区	-Ⅲ D 6 1	210.28	210.58	0.39		
315 B区	-Ⅲ D 6 1	210.52	210.65	0.13		
316 B区	-Ⅲ D 6 1	210.48	210.58	0.26		
317 B区	-Ⅲ D 6 1	210.36	210.58	0.22		
318 B区	-Ⅲ D 6 1	210.22	210.53	0.26		
319 B区	-Ⅲ D 6 1	210.50	210.65	0.15		
320 B区	-Ⅲ D 6 1	210.48	210.66	0.30		
321 B区	-Ⅲ D 6 1	210.59	210.76	0.17		土塊
322 C区	-Ⅲ D 7 c	211.58	212.25	0.67	S-B07	
323 B区	-Ⅲ D 4 j	210.27	210.50	0.24		
324 B区	-Ⅲ D 4 j	210.03	210.53	0.32		
325 B区	-Ⅲ D 4 j	210.13	210.43	0.30		
326 B区	-Ⅲ D 4 j	210.01	210.19	0.18		
327 B区	-Ⅲ D 10 j	210.32	210.29	0.08		
328 B区	-Ⅲ D 10 j	210.06	210.28	0.20		
329 B区	-Ⅲ D 4 j	210.05	210.25	0.19		
330 B区	-Ⅲ D 4 j	209.96	210.15	0.19		
331 B区	-Ⅲ D 3 i	210.12	210.22	0.10		
332 B区	-Ⅲ D 3 i	210.06	210.32	0.27		

第7表⑤ 柱穴一覧表

No.	区段	グリッド	施面lev (m)	柱出面lev (m)	高さ (m)	備考(構成する遺跡・出土物)
338	北区	- III D 3	210.25	210.34	0.09	
334	北区	- III D 3	210.16	210.33	0.17	
335	北区	- III D 3	210.21	210.38	0.17	
336	北区	- III D 4	210.35	210.46	0.13	
337	北区	- III D 3	210.24	210.45	0.21	
338	北区	- III D 3	210.28	210.47	0.19	
339	北区	- III D 3	210.38	210.47	0.09	
340	C区	- III E 6 c	211.16	212.08	0.92	
341	C区	- III E 9 a	210.94	211.18	0.24	
342	C区	- III E 9 a	210.89	211.07	0.27	
343	B区	- III D 8	210.19	210.42	0.23	
345	D区	- III D 8	210.26	210.42	0.16	
346	C区	- III E 7 c	211.51	212.17	0.66	S B06
346	C区	- III E 6 a	211.61	211.78	0.17	
347	C区	- III E 8 a	211.40	211.73	0.33	
348	C区	- III E 8 a	211.40	211.73	0.31	
349	C区	- III E 8 a	211.25	211.76	0.53	
350	C区	- III E 8 b	211.11	211.88	0.77	
351	C区	- III E 8 b	211.27	211.88	0.61	
352	C区	- III E 8 b	211.23	211.88	0.65	
353	C区	- III E 8 b	211.56	211.88	0.32	
354	C区	- III E 7 b	211.20	211.88	0.68	砾石(237)・貝殻
355	C区	- III E 7 b	211.10	211.88	0.78	
356	C区	- III E 8 c	211.47	211.79	0.33	
357	C区	- III E 7 c	211.16	212.02	0.86	S B01
358	C区	- III E 7 c	211.15	212.12	0.97	S B01
359	C区	- III E 7 c	211.36	212.08	0.72	砾石
360	C区	- III E 7 c	211.68	212.22	0.54	
361	C区	- III E 7 c	211.15	212.07	0.92	砾石
362	C区	- III E 7 c	211.07	212.03	0.96	
363	C区	- III E 7 b	211.06	212.03	0.97	S B01・陶片
364	C区	- III E 7 c	211.69	212.09	0.40	穀器皿(112)・英化物(ケヤキ)
365	C区	- III E 7 c	211.20	212.08	0.88	S B01
366	C区	- III E 7 c	211.28	212.07	0.79	
367	C区	- III E 7 c	211.48	212.09	0.61	S B01
368	C区	- III E 7 c	211.44	212.09	0.65	花形器(ウルシ)
369	C区	- III E 7 c	211.47	212.01	0.54	
370	C区	- III E 7 c	211.49	211.61	0.62	
371	C区	- III E 8 c	211.35	212.16	0.81	
372	C区	- III E 7 c	211.33	212.11	0.78	S B03
373	C区	- III E 7 c	211.20	212.12	0.92	英化物(ケヤキ)
374	C区	- III E 4 b	211.42	211.85	0.43	S B03
375	C区	- III E 6 c	211.33	212.14	0.81	S B01
376	C区	- III E 6 c	211.83	212.22	0.46	
377	C区	- III E 6 c	211.83	212.02	0.73	
378	C区	- III E 6 c	211.46	212.04	0.64	S B03
379	C区	- III E 6 c	211.76	212.16	0.34	
380	C区	- III E 6 c	211.54	212.10	0.56	
381	C区	- III E 7 c	211.62	212.09	0.47	S B01
382	C区	- III E 6 c	211.53	212.09	0.56	
383	C区	- III E 7 c	211.22	212.04	0.82	S B03
384	C区	- III E 7 c	211.32	212.01	0.69	骨器(102)・英化物(ケヤキ)
385	C区	- III E 7 c	211.24	212.06	0.82	
386	C区	- III E 7 c	211.26	212.06	0.80	
387	C区	- III E 7 c	211.37	212.02	0.65	貝具
388	C区	- III E 6 c	211.53	212.05	0.52	砾石(238)・貝具(464)
389	C区	- III E 4 d	211.86	212.31	0.45	
390	C区	- III E 6 c	211.06	212.09	1.03	水素窯(430)・脚
391	C区	- III E 6 c	211.06	212.06	0.98	S B01
392	C区	- III E 6 c	211.15	212.06	0.93	S D 03・貝具
393	C区	- III E 6 c	211.18	212.08	0.90	S B02
394	C区	- III E 6 b	211.33	212.11	0.56	台石(250)・瓦器 (431)
395	C区	- III E 4 d	211.60	212.38	0.78	
396	C区	- III E 4 d	212.13	212.36	0.23	
397	C区	- III E 4 d	211.74	212.37	0.63	
398	C区	- III E 4 d	211.57	212.33	0.78	
399	C区	- III E 2 f	213.36	213.85	0.49	
400	C区	- III E 1 f	213.25	214.10	0.85	
401	C区	- III E 6 b	211.40	211.70	0.30	木炭灰(432)・貝
402	C区	- III E 6 c	211.32	212.24	0.92	S B01
403	C区	- III E 6 c	211.41	212.26	0.67	S B03
404	C区	- III E 6 c	211.18	212.02	0.84	
405	C区	- III E 6 c	211.21	212.05	0.84	S B02・貝具
406	C区	- III E 6 c	211.72	212.08	0.76	S B01
407	C区	- III E 6 c	211.74	212.06	0.62	S B08
408	C区	- III E 6 c	211.56	212.08	0.52	
409	C区	- III E 6 c	211.49	212.07	0.58	S B03

第7表⑥ 柱穴一覧表

No.	区段	グリッド	施面lev (m)	柱出面lev (m)	高さ (m)	備考(構成する地 質・出土物)
410	C区	- III E 6 c	211.34	212.09	0.75	
411	C区	- III E 6 c	211.70	212.02	0.32	
412	C区	- III E 5 c	211.63	212.23	0.60	S P08
413	C区	- III E 5 c	211.22	211.87	0.65	S R02
414	C区	- III E 5 c	211.29	211.91	0.62	
415	C区	- III E 5 c	211.30	212.24	0.94	
416	C区	- III E 5 c	211.00	211.93	0.93	S B01
417	C区	- III E 5 c	211.09	211.81	0.72	
418	C区	- III E 5 c	211.05	212.04	0.99	S B03
419	C区	- III E 5 c	211.05	212.08	1.03	純文土器(99)
420	C区	- III E 5 c	211.32	212.06	0.76	
421	C区	- III E 5 c	211.41	212.09	0.67	阿野山(108)・青 石(252)
422	C区	- III E 5 c	211.45	212.07	0.62	
423	C区	- III E 5 b	211.64	212.04	0.40	台石(249)
424	C区	- III E 5 b	211.70	212.03	0.31	
425	C区	- III E 5 b	211.36	212.06	0.70	砾砂
426	C区	- III E 5 c	211.17	212.05	0.86	貝殻・海藻
427	C区	- III E 5 c	211.09	212.09	0.95	S B01
428	C区	- III E 5 b	211.21	212.02	0.81	S B03
429	C区	- III E 5 b	211.63	211.95	0.32	
430	C区	- III E 5 b	211.16	211.90	0.74	S B01
431	C区	- III E 5 a	212.70	212.20	0.00	
432	C区	- III E 9 a	212.70	212.20	0.00	
433	C区	- III E 8 a	211.26	211.46	0.20	
434	C区	- III E 8 a	211.30	211.59	0.20	
435	C区	- III E 8 a	211.26	211.51	0.25	網状(433)
436	C区	- III E 7 a	210.73	211.66	0.93	S B02
437	C区	- III E 8 b	211.26	211.54	0.28	
438	C区	- III E 8 a	211.18	211.62	0.44	
439	C区	- III E 8 a	211.10	211.60	0.50	
440	C区	- III E 8 a	211.21	211.66	0.45	
441	C区	- III E 7 a	211.34	211.82	0.28	
442	C区	- III E 8 a	211.15	211.33	0.18	
443	C区	- III E 8 a	210.94	211.60	0.74	
444	C区	- III E 8 a	211.55	211.72	0.17	
445	C区	- III E 9 a	211.33	211.75	0.42	
446	C区	- III E 8 a	211.22	211.67	0.46	
447	C区	- III E 5 c	210.79	211.76	0.97	
448	C区	- III E 8 a	211.06	211.73	0.65	
449	C区	- III E 8 a	211.27	211.72	0.45	
450	C区	- III E 8 a	211.23	211.57	0.34	
451	C区	- III E 8 a	211.00	211.57	0.57	
452	C区	- III E 8 a	211.19	211.44	0.25	
453	C区	- III E 8 a	211.39	211.69	0.30	
454	C区	- III E 8 a	211.22	211.67	0.45	
455	C区	- III E 8 a	210.79	211.76	0.91	
456	C区	- III E 8 a	211.25	211.79	0.55	
457	C区	- III E 8 a	211.02	211.46	0.44	
458	C区	- III E 7 a	211.31	211.51	0.20	
459	C区	- III E 8 a	211.31	211.67	0.36	
460	C区	- III E 8 a	211.12	211.62	0.50	
461	C区	- III E 8 a	210.85	211.75	0.90	調査(434)
462	C区	- III E 8 b	211.53	211.81	0.28	
463	C区	- III E 8 b	0.00	0.00	0.00	
464	C区	- III E 7 a	210.64	210.95	0.31	
465	C区	- III E 7 a	210.96	211.27	0.31	
466	C区	- III E 7 a	210.90	211.30	0.40	
467	C区	- III E 7 a	211.07	211.39	0.32	
468	C区	- III E 7 a	211.06	211.45	0.39	
469	C区	- III E 7 a	210.89	211.51	0.61	
470	C区	- III E 7 a	211.17	211.43	0.26	
471	C区	- III E 8 a	211.25	211.47	0.22	
472	C区	- III D 3	209.09	210.58	0.52	
473	C区	- III E 7 a	211.24	211.39	0.15	
474	C区	- III E 7 a	211.08	211.38	0.30	
475	C区	- III D 3	210.42	210.51	0.09	
476	C区	- III E 7 a	211.45	211.58	0.09	
477	C区	- III E 7 a	211.07	211.57	0.50	
478	C区	- III E 7 a	211.28	211.59	0.31	氯化物少量
479	C区	- III E 7 a	211.23	211.61	0.38	
480	C区	- III E 7 a	210.99	211.68	0.69	
481	C区	- III E 7 a	211.17	211.74	0.57	
482	C区	- III E 7 a	211.23	211.63	0.37	
483	C区	- III E 7 a	211.42	212.02	0.60	
484	C区	- III E 7 a	211.17	211.53	0.35	
485	C区	- III E 7 a	211.15	211.37	0.22	
486	C区	- III E 7 a	210.99	211.38	0.44	
487	C区	- III E 7 a	210.96	211.36	0.43	
488	C区	- III E 7 a	210.99	211.40	0.44	
489	C区	- III E 7 a	211.06	211.52	0.50	
490	C区	- III E 7 a	211.22	211.60	0.38	
491	C区	- III E 7 a	211.22	211.69	0.38	
492	C区	- III E 7 a	211.22	211.63	0.68	S B01

第7表⑦ 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	基面lev (m)	後柱面lev (m)	深さ (m)	概名(構成する遺物等、凡て通称)
402	C区	-Ⅲ E 7 a	211.42	211.73	0.31	
403	C区	-Ⅲ E 7 a	211.41	211.58	0.17	
404	C区	-Ⅲ E 7 b	211.14	211.82	0.68	
405	C区	-Ⅲ E 7 b	211.48	211.80	0.32	
406	C区	-Ⅲ E 7 b	211.36	211.83	0.47	
407	C区	-Ⅲ E 7 b	211.19	211.86	0.67	S B03
409	C区	-Ⅲ E 7 b	211.47	211.55	0.58	
500	C区	-Ⅲ E 7 a	211.36	211.88	0.52	S B02
501	C区	-Ⅲ E 7 b	211.35	211.94	0.59	
502	C区	-Ⅲ E 7 b	211.53	211.99	0.44	盲甃水(426)
503	C区	-Ⅲ E 7 c	211.11	211.66	0.55	
505	方区	-Ⅲ D 6	210.78	211.01	0.23	
505	C区	-Ⅲ E 7 c	211.95	212.21	0.26	
506	C区	-Ⅲ E 6 a	210.90	211.25	0.35	
507	C区	-Ⅲ E 5 b	211.24	211.61	0.37	
508	C区	-Ⅲ E 6 a	210.90	211.28	0.38	
509	C区	-Ⅲ E 7 a	211.04	211.45	0.41	
510	C区	-Ⅲ E 6 a	211.13	211.66	0.52	S B02
511	C区	-Ⅲ E 6 b	211.69	211.82	0.13	
512	C区	-Ⅲ E 6 b	211.52	211.82	0.30	
513	C区	-Ⅲ E 6 b	211.25	211.77	0.52	
514	C区	-Ⅲ E 6 a	211.39	211.76	0.36	
515	C区	-Ⅲ E 6 a	211.51	211.73	0.22	
516	C区	-Ⅲ E 6 a	211.34	211.76	0.29	
517	C区	-Ⅲ E 6 b	211.45	211.84	0.39	S B01
518	C区	-Ⅲ E 5 b	210.90	211.65	0.72	S B01
519	C区	-Ⅲ E 6 b	211.52	211.84	0.34	盲甃水(424)
520	C区	-Ⅲ E 6 b	211.09	211.55	0.52	S B02
521	C区	-Ⅲ E 6 b	211.20	211.67	0.47	S B03
522	C区	-Ⅲ E 6 b	211.66	211.97	0.39	
523	C区	-Ⅲ E 6 b	211.10	211.98	0.88	S B01
524	C区	-Ⅲ E 6 b	211.45	211.95	0.50	
525	C区	-Ⅲ E 6 b	211.64	211.93	0.29	
526	C区	-Ⅲ E 6 b	211.58	212.00	0.42	風呂(247)
527	C区	-Ⅲ E 6 b	211.38	211.82	0.44	S B03
528	C区	-Ⅲ E 6 b	211.18	211.74	0.56	
529	C区	-Ⅲ E 6 b	211.26	211.88	0.62	土器容器(88)・壺 壺形器(90)
530	C区	-Ⅲ E 6 b	211.65	211.90	0.25	
531	C区	-Ⅲ E 6 c	211.62	211.93	0.31	
532	C区	-Ⅲ E 6 b	211.64	211.94	0.30	
533	C区	-Ⅲ E 6 b	211.57	211.94	0.37	
534	C区	-Ⅲ E 6 b	211.52	212.01	0.49	S B03
535	C区	-Ⅲ E 6 b	211.78	212.00	0.22	
536	C区	-Ⅲ E 6 b	211.71	212.01	0.30	
537	C区	-Ⅲ E 6 c	211.21	212.01	0.80	調瓶(406)・貝殻 石器
538	C区	-Ⅲ E 6 c	211.26	212.15	0.89	S B01
539	C区	-Ⅲ E 6 d	211.13	212.05	0.92	S B01-石碗(215)
540	C区	-Ⅲ E 5 a	211.07	211.50	0.43	
541	C区	-Ⅲ E 6 c	211.11	212.12	1.01	貝殻
542	C区	-Ⅲ E 5 a	212.00	212.42	0.42	S B09
543	C区	-Ⅲ E 6 d	211.99	212.67	0.68	S B09
544	C区	-Ⅲ E 6 d	211.66	212.30	0.64	S B02
545	火葬	火葬	0.00	0.00	火葬	
546	C区	-Ⅲ E 6 c	211.56	212.29	0.73	S B06
547	C区	-Ⅲ E 6 c	211.91	212.31	0.40	S B08
548	C区	-Ⅲ E 6 c	212.10	212.32	0.22	
549	C区	-Ⅲ E 5 d	211.74	212.32	0.38	S B06
550	C区	-Ⅲ E 6 c	212.15	212.35	0.20	S B07
551	C区	-Ⅲ E 5 c	211.95	212.21	0.26	
552	C区	-Ⅲ E 6 c	212.12	212.38	0.21	
553	C区	-Ⅲ E 6 c	212.10	212.27	0.17	
554	C区	-Ⅲ E 6 c	211.56	212.32	0.77	S B02
555	C区	-Ⅲ E 6 c	211.29	211.92	0.63	S B03
556	C区	-Ⅲ E 5 c	211.54	212.20	0.66	S B01-水槽遺構 (437)
557	C区	-Ⅲ E 6 c	212.00	212.30	0.30	
558	C区	-Ⅲ E 6 c	212.03	212.32	0.29	
559	C区	-Ⅲ E 6 c	211.65	212.38	0.73	S B06
560	C区	-Ⅲ E 6 d	211.85	212.27	0.45	S B08
561	C区	-Ⅲ E 6 d	211.65	212.44	0.79	S B07
562	C区	-Ⅲ E 6 c	212.01	212.36	0.35	
563	C区	-Ⅲ E 6 c	212.05	212.39	0.34	
564	C区	-Ⅲ E 6 d	211.75	212.43	0.68	S B09
565	C区	-Ⅲ E 5 b	211.60	212.01	0.87	
566	C区	-Ⅲ E 5 b	211.25	211.51	0.26	
567	C区	-Ⅲ E 5 b	211.36	211.69	0.33	
568	C区	-Ⅲ E 5 b	211.09	211.69	0.60	S B01
569	C区	-Ⅲ E 6 b	211.40	211.67	0.27	
570	C区	-Ⅲ E 6 b	211.35	211.77	0.62	S B01
571	C区	-Ⅲ E 5 b	211.28	211.81	0.53	

第7表⑧ 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	先柱lev (m)	後柱lev (m)	深さ (m)	備考(構成する遺物等、出土遺物)
522	C区	-Ⅲ E 5 b	211.21	211.76	0.55	
523	C区	-Ⅲ E 5 b	211.46	211.90	0.44	
524	C区	-Ⅲ E 5 b	211.28	211.84	0.56	
525	C区	-Ⅲ E 4 a	211.05	211.31	0.29	
526	C区	-Ⅲ E 5 b	211.24	211.83	0.57	
527	C区	-Ⅲ E 5 c	211.90	212.28	0.38	
528	C区	-Ⅲ E 5 b	211.26	211.94	0.68	S B02
529	C区	-Ⅲ E 5 b	211.63	211.97	0.34	
530	C区	-Ⅲ E 5 b	211.69	211.92	0.23	
531	C区	-Ⅲ E 5 b	211.63	211.86	0.23	
532	C区	-Ⅲ E 5 b	211.70	211.86	0.16	
533	C区	-Ⅲ E 5 c	211.13	212.06	0.93	S B02-水槽遺 構(438)
535	C区	-Ⅲ E 5 b	211.40	211.88	0.48	
536	C区	-Ⅲ E 5 b	211.52	212.05	0.54	貝殻・西脇片
537	C区	-Ⅲ E 5 b	211.41	211.84	0.43	
538	C区	-Ⅲ E 5 c	211.46	212.13	0.67	
539	C区	-Ⅲ E 5 c	211.15	212.11	0.96	刀子(322)・貝殻
540	C区	-Ⅲ E 5 c	211.88	212.31	0.43	水型湯鑄(439)・ 石臼
541	C区	-Ⅲ E 5 c	211.49	212.20	0.71	
542	C区	-Ⅲ E 5 c	211.38	212.11	0.73	S B01-鍋(306)
543	C区	-Ⅲ E 5 c	211.75	212.15	0.40	
544	C区	-Ⅲ E 5 c	211.66	212.21	0.52	
545	C区	-Ⅲ E 5 c	211.76	212.33	0.82	
546	C区	-Ⅲ E 5 c	211.59	212.33	0.73	
547	C区	-Ⅲ E 5 c	211.76	212.49	0.73	
548	C区	-Ⅲ E 5 c	212.02	212.31	0.29	
549	C区	-Ⅲ E 5 c	211.68	212.36	0.68	
550	C区	-Ⅲ E 5 c	211.94	212.43	0.49	
551	C区	-Ⅲ E 5 c	212.10	212.44	0.34	
552	C区	-Ⅲ E 5 c	211.59	212.36	0.77	S B07
553	C区	-Ⅲ E 5 c	211.34	212.16	0.84	
554	C区	-Ⅲ E 5 d	211.85	212.29	0.44	S B09
555	C区	-Ⅲ E 5 d	211.96	212.25	0.31	S B06
556	C区	-Ⅲ E 5 d	212.07	212.65	0.58	S B09
557	C区	-Ⅲ E 5 d	211.96	212.30	0.92	S B06-洞片
558	C区	-Ⅲ E 5 d	211.93	212.36	1.05	S B09
559	C区	-Ⅲ E 4 a	210.64	210.83	0.19	
560	C区	-Ⅲ E 4 a	210.52	210.90	0.38	
561	C区	-Ⅲ E 4 a	210.93	211.07	0.14	
562	C区	-Ⅲ E 4 a	210.83	211.09	0.26	
563	C区	-Ⅲ E 5 b	211.79	211.95	0.16	
564	C区	-Ⅲ E 4 a	210.94	211.12	0.18	
565	C区	-Ⅲ E 4 a	210.77	211.12	0.35	
566	C区	-Ⅲ E 4 a	210.89	211.16	0.27	丸窓(410)
567	C区	-Ⅲ E 4 a	210.90	211.20	0.30	
568	C区	-Ⅲ E 4 c	211.33	212.17	0.84	
569	C区	-Ⅲ E 4 a	210.86	211.30	0.44	
570	C区	-Ⅲ E 6 c	211.51	212.31	0.81	S B06
571	C区	-Ⅲ E 6 c	211.73	212.31	0.58	
572	C区	-Ⅲ E 5 c	211.35	212.28	0.94	
573	C区	-Ⅲ E 5 c	211.14	212.28	1.04	S B02
574	C区	-Ⅲ E 6 d	212.17	212.44	0.27	
575	C区	-Ⅲ E 6 d	212.27	212.48	0.21	
576	C区	-Ⅲ E 6 d	212.13	212.36	0.25	S B09
577	C区	-Ⅲ E 4 d	211.88	212.30	0.42	
578	C区	-Ⅲ E 5 c	211.56	212.18	0.62	
579	C区	-Ⅲ E 5 d	211.55	212.36	0.85	
580	C区	-Ⅲ E 4 c	211.03	212.21	1.18	朱漆酒器(442)- 貝殻
581	C区	-Ⅲ E 4 c	211.79	212.21	0.51	S B01
582	C区	-Ⅲ E 4 c	211.38	212.02	0.64	S B03
583	C区	-Ⅲ E 4 c	211.39	212.17	0.78	S B02-兩輪片
584	C区	-Ⅲ E 5 e	211.56	212.07	0.51	
585	C区	-Ⅲ E 4 c	211.34	212.03	0.69	銅鏡(444)
586	C区	-Ⅲ E 6 c	211.60	212.31	0.74	
587	C区	-Ⅲ E 7 b	211.59	211.93	0.34	
588	C区	-Ⅲ E 7 b	211.32	211.88	0.56	
589	C区	-Ⅲ E 8 b	211.55	211.92	0.37	
590	C区	-Ⅲ E 7 b	211.42	211.97	0.55	
591	C区	-欠番	0.00	0.00	0.00	
592	C区	-欠番	0.00	0.00	0.00	
593	C区	-Ⅲ E 5 b	211.38	212.03	0.63	
594	C区	-Ⅲ E 7 b	211.70	211.89	0.19	刀子(333)
595	C区	-Ⅲ E 8 b	211.82	211.93	0.11	
596	C区	-Ⅲ E 8 b	211.85	211.93	0.08	
597	C区	-Ⅲ E 8 a	211.45	211.69	0.21	
598	C区	-Ⅲ E 8 a	211.60	211.67	0.27	
599	C区	-Ⅲ E 6 b	211.40	211.67	0.27	
600	C区	-Ⅲ E 6 b	211.40	211.67	0.27	
601	C区	-Ⅲ E 6 b	211.47	212.00	0.53	刀子(331)
602	C区	-Ⅲ E 8 a	210.97	211.47	0.50	

第7表⑨ 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	高さ(hc)	底面積(m <sup>2</sup> )	深さ(m)	標高(標高する地物・出土遺物)
651	C区	■■E 8.3	291.30	211.58	0.25	
652	C区	■■E 8.3	211.24	211.56	0.32	
653	C区	■■E 8.3	211.28	211.54	0.25	
654	C区	■■E 8.3	211.19	211.57	0.38	
655	C区	■■E 8.3	211.22	211.59	0.48	S B03
656	C区	■■E 5.5	211.19	211.37	0.18	
657	C区	■■E 5.5	211.09	211.31	0.22	
658	C区	■■E 5.5	211.07	211.29	0.22	
659	C区	■■E 5.5	211.09	211.23	0.14	
660	C区	■■E 6.6	211.69	211.91	0.22	
661	C区	■■E 7.7	211.17	211.42	0.25	
662	C区	■■E 7.7	211.17	211.72	0.35	S B03
663	C区	■■E 7.7	210.92	211.75	0.83	S B01
664	C区	■■E 8.8	211.53	211.90	0.35	
665	C区	■■E 8.8	211.38	211.94	0.36	
666	欠番		0.00	0.00	0.00	
667	C区	■■E 6.6	211.17	212.10	0.93	S B03
668	C区	■■E 6.6	210.94	212.06	1.12	S B01・真珠
669	C区	■■E 6.6	211.15	211.54	0.39	S B03
670	C区	■■E 6.6	210.95	211.46	0.54	
671	C区	■■E 4.4	210.95	211.10	0.15	
672	C区	■■E 5.5	211.39	212.23	0.84	
673	C区	■■E 4.4	211.26	211.48	0.20	
674	C区	■■E 5.5	211.12	211.77	0.65	S B01
675	C区	■■E 4.4	211.12	211.50	0.38	
676	C区	■■E 4.4	211.19	211.47	0.28	
677	C区	■■E 4.4	211.29	211.58	0.24	
678	欠番		0.00	0.00	0.00	
679	C区	■■E 4.4	211.21	211.56	0.54	
680	C区	■■E 4.4	211.25	211.59	0.24	
681	C区	■■E 4.4	211.26	211.72	0.46	S B01
682	C区	■■E 4.4	211.25	211.56	0.47	
683	C区	■■E 4.4	211.32	211.67	0.25	網繩(443)
684	C区	■■E 4.4	211.24	211.65	0.41	
685	C区	■■E 4.4	211.19	211.62	0.43	
686	C区	■■E 4.4	211.33	211.73	0.38	S B03
687	C区	■■E 4.4	211.21	211.60	0.37	網繩(114)
688	C区	■■E 5.5	210.85	211.08	0.23	
689	C区	■■E 4.4	211.29	211.71	0.42	
690	C区	■■E 4.4	211.15	211.68	0.53	S B01・真珠(446)
691	C区	■■E 4.4	211.51	211.73	0.22	
692	C区	■■E 4.4	211.21	211.77	0.56	
693	C区	■■E 4.4	211.53	211.83	0.30	
694	C区	■■E 3.3	211.81	211.41	0.60	S B03
695	C区	■■E 3.3	210.99	211.12	0.13	
696	C区	■■E 4.4	211.38	211.65	0.27	S B02
697	C区	■■E 4.4	211.21	211.73	0.49	
698	C区	■■E 4.4	211.53	211.75	0.22	
699	C区	■■E 4.4	211.60	211.17	0.37	
700	C区	■■E 4.4	211.55	211.95	0.40	S B01
701	C区	■■E 4.4	211.03	211.88	0.85	網繩(241)
702	C区	■■E 4.4	211.56	211.90	0.32	
703	C区	■■E 4.4	211.57	211.90	0.31	S B05
704	C区	■■E 4.4	211.66	212.05	0.36	
705	C区	■■E 4.4	211.92	212.41	0.29	
706	C区	■■E 5.5	211.40	212.13	0.73	網繩
707	C区	■■E 5.5	211.45	212.16	0.74	網繩(265)
708	C区	■■E 4.4	211.46	212.11	0.63	S B04
709	C区	■■E 4.4	211.27	22.17	0.60	
710	C区	■■E 4.4	211.29	22.17	0.42	
711	C区	■■E 4.4	211.65	22.44	0.71	S B04
712	C区	■■E 4.4	211.46	22.41	0.95	
713	C区	■■E 4.4	211.95	22.45	0.50	
714	C区	■■E 4.4	212.26	22.47	0.21	
715	欠番	欠番	0.00	0.00	0.00	
716	欠番	欠番	0.00	0.00	0.00	
717	C区	■■E 4.4	211.58	22.58	1.00	S B04
718	欠番	欠番	0.00	0.00	0.00	
719	C区	■■E 3.3	211.48	22.50	1.02	S B04
720	欠番	欠番	0.00	0.00	0.00	
721	C区	■■E 4.4	213.34	23.05	0.71	
722	C区	■■E 4.4	213.29	23.06	0.77	
723	C区	■■E 4.4	214.22	23.45	0.28	
724	C区	■■E 4.4	213.68	23.57	0.49	
725	C区	■■E 3.3	210.44	23.08	0.55	
726	C区	■■E 3.3	210.66	23.15	0.49	
727	C区	■■E 3.3	210.79	23.19	0.35	
728	C区	■■E 3.3	210.65	23.11	0.55	
729	C区	■■E 4.4	210.61	23.13	0.62	
730	欠番	欠番	0.00	0.00	0.00	
731	欠番	欠番	0.00	0.00	0.00	
732	C区	■■E 3.3	210.66	23.19	0.53	
733	C区	■■E 3.3	211.29	23.11	0.13	灰

第7表10 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	高さ(hc)	底面積(m <sup>2</sup> )	深さ(m)	標高(標高する地物・出土遺物)
734	C区	■■E 3.3	211.07	211.49	0.33	
735	C区	■■E 3.3	211.00	211.37	0.37	
736	C区	父母	0.00	0.00	0.00	
737	C区	■■E 3.3	210.76	211.18	0.42	
738	C区	■■E 3.3	210.61	211.27	0.66	
739	C区	大母	0.00	0.00	0.00	
740	C区	■■E 3.3	210.84	211.41	0.57	
741	C区	■■E 3.3	210.90	211.47	0.57	
742	C区	■■E 3.3	211.22	211.32	0.15	
743	C区	■■E 3.3	211.27	211.45	0.18	
744	C区	■■E 3.3	211.35	211.77	0.42	S B04
745	C区	■■E 3.3	211.13	211.26	0.13	
746	C区	■■E 3.3	210.54	211.38	0.84	
747	C区	■■E 3.3	211.07	211.47	0.40	
748	C区	■■E 3.3	211.32	211.75	0.23	
749	C区	父母	210.58	211.04	0.46	
750	C区	■■E 3.3	210.98	211.30	0.82	
751	C区	■■E 3.3	211.48	211.74	0.26	
752	C区	■■E 3.3	211.37	211.65	0.28	
753	C区	■■E 3.3	211.45	211.71	0.36	
754	C区	■■E 3.3	211.44	211.75	0.31	
755	C区	■■E 3.3	211.48	211.66	0.20	
756	C区	■■E 3.3	211.44	211.71	0.27	
757	C区	■■E 3.3	211.32	211.82	0.30	
758	C区	■■E 3.3	211.40	211.76	0.36	
759	C区	■■E 3.3	211.36	211.80	0.44	
760	C区	■■E 3.3	211.63	211.85	0.22	
761	C区	■■E 3.3	211.27	211.89	0.50	S B05
762	C区	■■E 3.3	211.41	211.98	0.27	陶器片(116)
763	C区	■■E 3.3	211.43	211.99	0.33	
764	C区	■■E 3.3	211.50	211.84	0.33	
765	C区	■■E 3.3	211.44	211.88	0.36	
766	C区	■■E 3.3	211.50	211.99	0.43	
767	C区	■■E 3.3	211.56	211.90	0.35	
768	C区	■■E 3.3	211.57	211.82	0.25	S B06
769	C区	■■E 3.3	211.40	211.55	0.15	
770	C区	■■E 3.3	211.16	211.57	0.41	
771	C区	■■E 3.3	211.41	211.70	0.29	
772	C区	■■E 3.3	211.45	211.90	0.45	
773	C区	■■E 3.3	211.62	211.87	0.26	
774	C区	■■E 3.3	211.60	211.81	0.21	
775	C区	■■E 3.3	211.42	211.90	0.48	S B04
776	C区	■■E 3.3	211.56	212.04	0.48	
777	C区	■■E 3.3	211.46	212.03	0.59	陶石(32)
778	C区	■■E 3.3	211.75	211.99	0.19	
779	C区	■■E 3.3	211.67	211.95	0.28	S B06
780	C区	■■E 3.3	211.43	211.88	0.45	
781	C区	■■E 3.3	211.50	211.91	0.41	
782	C区	■■E 3.3	211.41	211.71	0.30	
783	C区	■■E 3.3	211.62	211.87	0.32	鐵錐
784	C区	■■E 3.3	211.77	212.02	0.25	
785	C区	■■E 3.3	211.49	211.61	0.12	
786	C区	■■E 3.3	211.17	211.98	0.10	
787	C区	■■E 3.3	211.79	212.21	0.42	陶器片(111)
788	C区	■■E 3.3	211.78	212.18	0.40	S B05
789	C区	■■E 3.3	211.85	211.96	0.11	S B02
790	C区	■■E 3.3	211.03	211.79	0.76	
791	C区	■■E 3.3	211.51	212.28	0.77	S B04
792	C区	■■E 3.3	211.49	212.27	0.75	S B05
793	C区	父母	0.00	0.00	0.00	
794	C区	■■E 3.3	211.37	212.33	0.33	
795	C区	■■E 3.3	211.35	212.33	0.35	S B04
796	C区	■■E 3.3	211.37	212.35	0.35	S B04
797	C区	■■E 3.3	210.85	211.36	0.47	瓦
798	C区	■■E 3.3	210.96	211.42	0.46	
799	C区	■■E 3.3	210.79	211.49	0.67	
800	C区	■■E 3.3	211.47	212.22	0.80	S B03
801	C区	■■E 3.3	211.37	211.56	0.21	
802	C区	■■E 3.3	211.83	212.02	0.19	
803	C区	■■E 3.3	211.46	211.61	0.21	
804	C区	■■E 3.3	211.44	212.10	0.26	S B04
805	C区	父母	0.00	0.00	0.00	
806	C区	■■E 3.3	211.24	211.55	0.31	S B05
807	C区	■■E 3.3	211.56	212.24	0.68	
808	C区	■■E 3.3	211.45	211.62	0.22	
809	C区	■■E 3.3	211.29	211.65	0.36	
810	C区	父母	0.00	0.00	0.00	
811	C区	父母	0.00	0.00	0.00	
812	C区	■■E 3.3	211.54	211.65	0.31	
813	C区	父母	0.00	0.00	0.00	水井清酒(447)
814	C区	■■E 3.3	211.52	211.87	0.35	洗瓦(238)
815	C区	■■E 3.3	211.55	211.96	0.21	
816	C区	■■E 3.3	211.66	211.85	0.16	

第7表① 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	断面lev (m)	横断面lev (m)	深さ (m)	備考(発掘する場 跡跡・出土遺物)
817	C区	-Ⅲ E 2 d	211.47	212.01	0.54	S D05
818	C区	-Ⅲ E 5 c	211.19	212.05	0.86	S B02
819	C区	-Ⅲ E 2 d	211.47	212.12	0.65	
820	C区	-Ⅲ E 2 d	211.83	212.13	0.30	
821	C区	-Ⅲ E 2 d	211.28	212.50	0.72	S B04
822	C区	-Ⅲ E 2 e	211.49	212.42	0.93	S B04
823	C区	-Ⅲ E 2 d	211.43	212.31	0.88	S B04
824	C区	-Ⅲ E 2 d	211.33	212.04	0.71	S B04
825	C区	-Ⅲ E 6 c	211.33	212.21	0.88	砾石(240)
826	C区	-Ⅲ E 8 a	211.01	211.40	0.36	
827	矢ヶ 次塗		0.00	0.00	0.00	
828	矢ヶ 次塗		0.00	0.00	0.00	
829	C区	-Ⅲ E 6 b	211.54	211.78	0.24	
830	C区	-Ⅲ E 7 a	210.85	211.42	0.57	
831	C区	-Ⅲ E 5 c	211.88	212.31	0.23	
832	C区	-Ⅲ E 5 b	211.89	212.19	0.30	
833	C区	-Ⅲ E 5 c	211.75	212.18	0.43	
834	C区	-Ⅲ E 5 b	211.43	211.96	0.53	
835	C区	-Ⅲ E 5 b	211.42	212.04	0.62	
836	C区	-Ⅲ E 5 b	210.84	211.98	1.14	
837	C区	-Ⅲ E 1 c	211.38	211.66	0.28	S B04・瓦片
838	C区	-Ⅲ E 4 b	211.16	211.78	0.69	
839	C区	-Ⅲ E 4 g	211.57	211.81	0.24	
840	C区	-Ⅲ E 7 a	210.69	211.47	0.78	
841	C区	-Ⅲ E 7 a	211.10	211.49	0.39	
842	C区	-Ⅲ E 2 c	211.42	212.07	0.65	
843	C区	-Ⅲ E 2 d	211.26	211.99	0.70	石器(240)
844	C区	-Ⅲ E 2 d	212.02	212.50	0.48	
845	C区	-Ⅲ E 3 e	211.64	212.44	0.80	S D05
846	C区	-Ⅲ E 6 c	211.28	211.91	0.63	S B02
847	C区	-Ⅲ E 6 c	211.34	211.66	0.32	
848	C区	-Ⅲ E 3 d	211.77	212.57	0.80	S B05
849	C区	-Ⅲ E 3 d	211.17	212.07	0.90	
850	C区	-Ⅲ E 3 d	211.68	212.47	0.79	S B05
851	C区	-Ⅲ E 6 a	211.17	211.42	0.25	
852	C区	-Ⅲ E 7 b	211.30	211.76	0.46	
853	C区	-Ⅲ E 7 a	211.27	211.73	0.46	
854	C区	-Ⅲ E 6 b	211.27	211.73	0.45	
855	C区	-Ⅲ E 4 c	211.41	212.17	0.76	石器(227)
856	C区	-Ⅲ E 4 c	211.41	212.17	0.76	
857	C区	-Ⅲ E 2 d	212.15	212.45	0.30	
858	C区	-Ⅲ E 2 f	213.10	214.12	1.02	
859	C区	-Ⅲ E 5 c	211.18	212.11	0.93	瓦片
860	C区	-Ⅲ E 2 d	211.56	212.16	0.62	S D05
861	C区	-Ⅲ E 1 f	213.36	214.20	0.84	
862	C区	-Ⅲ E 3 e	211.42	212.06	0.64	S B05
863	C区	-Ⅲ E 6 c	211.20	212.07	0.87	
864	C区	-Ⅲ E 6 c	211.86	212.18	0.32	
865	C区	-Ⅲ E 5 c	211.16	211.96	0.80	
866	C区	-Ⅲ E 5 c	211.76	212.18	0.42	
867	C区	-Ⅲ E 5 c	211.40	212.20	0.89	
868	C区	-Ⅲ E 4 c	211.56	212.08	0.59	
869	C区	-Ⅲ E 2 b	210.73	211.03	0.30	
870	C区	-Ⅲ E 2 d	210.73	211.05	0.32	
871	C区	-Ⅲ E 4 c	212.03	212.43	1.04	
872	C区	-Ⅲ E 3 d	212.25	212.60	0.35	
873	C区	-Ⅲ E 2 b	211.58	212.09	0.52	
874	C区	-Ⅲ E 2 a	211.22	211.48	0.25	
875	C区	-Ⅲ E 1 d	211.61	212.17	0.56	
876	C区	-Ⅲ E 10 f	213.19	214.06	0.87	
877	C区	-Ⅲ E 2 f	213.69	214.14	0.45	
878	C区	-Ⅲ E 2 f	213.83	213.99	0.16	
879	C区	-Ⅲ E 2 f	213.80	214.09	0.29	
880	C区	-Ⅲ E 2 f	213.65	213.93	0.28	
881	C区	-Ⅲ E 1 f	213.78	213.99	0.21	
882	C区	-Ⅲ E 1 f	213.72	213.89	0.17	
883	C区	-Ⅲ E 3 b	210.50	211.35	0.82	
884	C区	-Ⅲ E 3 b	211.11	211.25	0.14	
885	C区	-Ⅲ E 1 f	213.32	213.85	0.53	
886	C区	-Ⅲ E 1 f	213.10	213.86	0.76	
887	C区	-Ⅲ E 3 c	210.97	211.63	0.66	
888	C区	-Ⅲ E 1 f	213.94	214.04	0.10	
889	C区	-Ⅲ E 5 c	210.36	211.28	0.92	
890	C区	-Ⅲ E 2 b	211.10	211.29	0.19	
891	C区	-Ⅲ E 4 c	211.81	212.13	0.32	
892	C区	-Ⅲ E 1 f	213.64	213.84	0.20	
893	C区	-Ⅲ E 4 c	211.76	212.12	0.36	
894	C区	-Ⅲ E 4 c	213.10	213.80	0.77	銅鏡(1枚)・貝殻
895	C区	-Ⅲ E 4 c	211.41	212.06	0.65	網片
896	C区	-Ⅲ E 4 b	211.31	212.01	0.70	
897	C区	-Ⅲ E 4 b	211.45	212.05	0.60	
898	C区	-Ⅲ E 4 b	211.50	211.95	0.45	
899	C区	-Ⅲ E 10 b	211.54	212.01	0.47	

第7表② 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	断面lev (m)	横断面lev (m)	深さ (m)	備考(発掘する場 跡跡・出土遺物)
900	C区	-Ⅲ E 4 b	211.39	211.95	0.56	
901	C区	-Ⅲ E 4 b	211.56	212.02	0.46	印文
902	C区	-Ⅲ E 4 c	211.54	212.04	0.50	
903	C区	-Ⅲ E 4 c	211.70	212.01	0.31	
904	C区	-Ⅲ E 4 c	211.62	212.18	0.56	S B05
905	C区	-Ⅲ E 4 d	211.36	212.36	0.80	
906	C区	-Ⅲ E 3 d	211.31	212.36	0.85	
907	C区	-Ⅲ E 4 d	211.58	212.41	0.83	S B05
908	C区	-Ⅲ E 4 d	211.91	212.22	0.31	
909	C区	-Ⅲ E 3 c	211.73	211.94	0.21	
910	C区	-Ⅲ E 3 c	211.67	212.09	0.42	
911	C区	-Ⅲ E 2 d	211.79	212.14	0.35	
912	C区	-Ⅲ E 3 d	211.66	212.25	0.59	
913	C区	-Ⅲ E 3 c	211.24	212.23	0.99	
914	C区	-Ⅲ E 3 d	211.90	212.28	0.38	S B05
915	C区	-Ⅲ E 3 d	212.30	212.42	0.22	
916	C区	-Ⅲ E 3 d	211.52	212.19	0.67	
917	C区	-Ⅲ E 3 d	211.72	212.18	0.46	
918	C区	-Ⅲ E 3 c	211.51	212.08	0.57	
919	C区	-Ⅲ E 3 c	211.87	212.13	0.25	
920	C区	-Ⅲ E 3 c	211.93	212.16	0.23	
921	C区	-Ⅲ E 3 c	211.76	211.97	0.21	印文(449・450- 451)
922	C区	-Ⅲ E 4 c	211.24	212.19	0.95	
923	C区	-Ⅲ E 4 c	211.44	212.39	0.53	
924	C区	-Ⅲ E 5 c	211.44	212.17	0.73	
925	C区	-Ⅲ E 5 c	212.57	212.33	0.24	
926	C区	-Ⅲ E 4 c	211.63	212.13	0.50	
927	C区	-Ⅲ E 4 c	211.82	212.14	0.32	
928	大森	矢ヶ 次塗	0.00	0.00	0.00	
929	C区	-Ⅲ E 4 c	211.70	212.18	0.48	
930	C区	-Ⅲ E 6 b	211.51	211.96	0.45	
931	C区	-Ⅲ E 3 c	211.62	212.19	0.57	
932	C区	-Ⅲ E 4 d	211.55	212.23	0.68	
933	C区	-Ⅲ E 4 c	211.36	212.09	0.73	水槽・溝
934	C区	-Ⅲ E 5 b	211.38	211.93	0.55	S B05
935	C区	-Ⅲ E 3 c	211.58	212.14	0.56	
936	C区	-Ⅲ E 4 b	211.44	211.95	0.51	S B01・銅鏡(554)
937	C区	-Ⅲ E 4 c	211.50	212.01	0.51	S B05
938	C区	-Ⅲ F 2 c	210.44	211.42	0.98	
939	C区	-Ⅲ E 6 c	211.50	212.18	0.68	
940	C区	-Ⅲ E 3 d	211.41	212.22	0.86	
941	C区	-Ⅲ E 3 c	211.36	212.08	0.72	
942	C区	-Ⅲ E 3 c	211.68	212.16	0.48	
943	C区	-Ⅲ E 4 c	211.59	212.10	0.51	
944	矢ヶ 次塗	0.00	0.00	0.00		
945	矢ヶ 次塗	0.00	0.00	0.00	灰化物(アカツツ)	
946	C区	-Ⅲ E 4 f	213.56	214.37	0.81	
947	C区	-Ⅲ E 4 c	213.40	214.21	0.81	
948	C区	-Ⅲ E 3 c	211.63	212.00	0.37	
949	C区	-Ⅲ E 3 b	211.58	211.88	0.30	
950	C区	-Ⅲ F 5 c	211.56	212.44	0.88	
951	C区	-Ⅲ E 3 d	211.06	211.44	0.35	
952	C区	-Ⅲ E 2 b	210.01	211.06	1.04	
953	C区	-Ⅲ E 2 b	210.96	211.06	0.12	
954	C区	-Ⅲ E 2 b	210.59	211.14	0.55	
955	C区	-Ⅲ E 2 b	210.10	210.70	0.60	
956	C区	-Ⅲ E 2 b	210.72	210.72	0.53	
957	C区	-Ⅲ E 2 b	210.83	211.31	0.27	
958	C区	-Ⅲ E 2 b	210.68	211.11	0.43	
959	C区	-Ⅲ E 2 b	211.05	211.35	0.31	
960	C区	-Ⅲ E 2 b	211.33	211.38	0.28	
961	C区	-Ⅲ E 2 b	210.94	211.11	0.17	
962	C区	-Ⅲ E 2 b	210.79	210.95	0.16	
963	B区	-Ⅲ D 4 j	210.29	210.82	0.53	
964	C区	-Ⅲ E 3 a	210.76	211.05	0.29	
965	C区	-Ⅲ E 2 b	210.85	211.04	0.19	
966	C区	-Ⅲ E 2 b	210.59	211.11	0.52	
967	C区	-Ⅲ E 2 b	210.90	211.12	0.22	
968	C区	-Ⅲ E 2 b	210.83	211.21	0.38	鉢
969	矢ヶ 次塗	0.00	0.00	0.00		
970	C区	-Ⅲ E 3 b	210.45	211.14	0.21	
971	C区	-Ⅲ E 3 a	210.38	211.12	0.74	
972	C区	-Ⅲ E 2 a	210.89	211.07	0.18	
973	C区	-Ⅲ E 2 a	210.55	210.96	0.41	
974	C区	-Ⅲ E 3 a	210.34	211.09	0.75	
975	C区	-Ⅲ E 2 b	211.23	211.90	0.67	瓦敷
976	C区	-Ⅲ E 2 a	210.27	211.02	0.75	
977	C区	-Ⅲ E 2 a	210.83	210.97	0.14	
978	C区	-Ⅲ E 2 b	210.56	211.08	0.52	
979	C区	-Ⅲ E 3 a	210.61	210.88	0.27	
980	C区	-Ⅲ E 3 a	210.64	211.00	0.36	鉢(243)

第7表⑬ 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	底面lev (m)	横断面lev (m)	浮き (m)	備考(構成する地 物・土石等)
981	C区 - 蓼E 3 a	210.50	210.00	0.40		
982	C区 - 蓼E 3 a	210.64	210.05	0.31		
983	C区 - 蓼E 3 a	210.70	211.05	0.35		
984	C区 - 蓼E 3 a	210.46	211.05	0.39		
985	C区 - 蓼E 2 a	210.56	210.88	0.32		
986	欠番 欠番	210.00	210.00	0.00		
987	C区 - 蓼E 2 a	210.82	211.05	0.23	床	
988	C区 - 蓼E 2 a	210.78	210.96	0.20		
989	C区 - 蓼E 2 a	210.75	210.79	0.04		
990	C区 - 蓼E 2 a	210.69	210.81	0.12		
991	C区 - 蓼E 2 b	211.51	211.76	0.25		
992	C区 - 蓼E 2 b	211.31	211.77	0.46		
993	C区 - 蓼E 2 b	211.11	211.77	0.66		
994	C区 - 蓼E 2 a	211.40	211.90	0.50		
995	C区 - 蓼E 2 b	211.27	211.88	0.61		
996	C区 - 蓼E 2 b	211.39	211.68	0.49		
997	C区 - 蓼E 2 b	211.35	211.88	0.53		
998	欠番 欠番	0.00	0.00	0.00		
999	欠番 欠番	0.00	0.00	0.00		
1000	欠番 欠番	0.00	0.00	0.00		
1001	A区 - I C 3 g	208.73	209.07	0.34		
1002	A区 - I C 4 g	208.87	209.00	0.13		
1003	A区 - I C 4 g	208.69	208.91	0.22		
1004	欠番 欠番	0.00	0.00	0.00		
1005	欠番 欠番	0.00	0.00	0.00		
1006	A区 - I C 10 d	207.04	207.46	0.42		
1007	A区 - I C 10 d	206.80	207.40	0.62		
1008	A区 - I C 10 d	206.68	207.52	0.64	鉄錆	
1009	A区 - I C 9 e	206.85	207.20	0.35		
1010	A区 - I C 9 e	207.80	207.80	0.42		
1011	A区 - I C 9 e	207.26	207.78	0.52		
1012	A区 - I C 9 e	207.38	207.80	0.40		
1013	A区 - I C 9 e	207.47	207.76	0.29		
1014	A区 - I C 10 d	207.19	207.76	0.57		
1015	A区 - I C 10 d	206.85	207.49	0.64		
1016	A区 - I C 10 d	206.74	207.47	0.73		
1017	A区 - I C 10 d	206.95	207.14	0.19		
1018	A区 - I C 5 f	208.48	208.67	0.19		
1019	A区 - I C 5 f	208.29	208.44	0.15		
1020	A区 - I C 5 f	208.57	208.70	0.13		
1021	A区 - I C 5 f	207.27	208.59	1.32	鋼錆 (416)	
1022	A区 - I C 5 e	207.86	208.44	0.58		
1023	A区 - I C 5 e	208.14	208.69	0.55		
1024	A区 - I C 4 f	0.00	208.80	208.80		
1025	A区 - I C 5 f	0.00	208.64	208.61		
1026	A区 - I C 6 g	207.91	208.70	0.79		
1027	A区 - I C 6 g	208.38	208.76	0.38		
1028	A区 - I C 4 f	209.02	209.09	0.07		
1029	A区 - I C 4 b	208.98	209.70	0.72		
1030	A区 - I C 5 h	208.91	209.00	0.09		
1031	A区 - I C 5 g	208.94	208.97	0.03		
1032	A区 - I C 5 g	208.64	208.99	0.26		
1033	A区 - I C 4 b	208.82	209.04	0.22		
1034	A区 - I C 5 e	207.87	208.20	0.33		
1035	A区 - I C 8 e	207.81	208.28	0.47		
1036	A区 - I C 8 e	207.90	208.22	0.32		
1037	A区 - I C 9 e	207.36	207.64	0.28		
1038	A区 - I C 9 e	207.35	207.74	0.39		
1039	A区 - I C 9 e	207.85	208.14	0.29		
1040	A区 - I C 9 e	208.10	208.17	0.67		
1041	欠番 欠番					
1050	欠番 欠番					
1051	D区 - 蓼F 8 f	212.38	212.67	0.29		
1052	D区 - 蓼F 8 g	229.69	229.88	0.19		
1053	欠番 欠番	0.00	0.00	0.00		
1054	D区 - 蓼F 8 f	228.42	228.72	0.30		
1055	欠番 欠番	0.00	0.00	0.00		
1056	D区 - 蓼F 7 f	228.35	228.70	0.35		
1057	- 欠番 欠番					
1100	C区 - 蓼E 2 c	211.58	211.95	0.37	S B04	
1101	C区 - 蓼E 4 f	213.84	214.31	0.47		
1103	C区 - 蓼E 3 f	213.77	214.30	0.53		
1104	C区 - 蓼E 3 f	213.43	214.11	0.68		
1105	C区 - 蓼E 4 c	211.18	212.21	1.03	S B02	
1106	欠番 欠番	0.00	0.00	0.00		
1107	C区 - 蓼E 5 c	211.48	212.02	0.54	水頭測定 (456) · 剖面	
1108	C区 - 蓼E 4 b	211.44	211.97	0.53		
1109	C区 - 蓼E 4 c	211.42	211.96	0.36		
1110	C区 - 蓼E 4 b	211.34	211.89	0.35		

第7表⑭ 柱穴一覧表

No.	区域	グリッド	奥間lev (m)	横断面lev (m)	浮き (m)	備考(構成する場 所・寸法等)
1111	C区	- III F 4 c	211.50	212.03	0.53	
1112	C区	- III F 4 c	211.83	212.17	0.34	
1113	C区	- III E 4 c	211.89	212.12	0.29	
1114	C区	- III E 3 c	211.83	212.18	0.35	
1115	C区	- III E 4 d	211.70	212.42	0.72	
1116	C区	- III E 4 d	211.75	212.41	0.66	S B05
1117	C区	- III E 4 d	211.82	212.26	0.44	
1118	C区	- III E 4 d	211.34	212.20	0.86	S B05
1119	C区	- III E 4 d	211.97	212.42	0.05	
1120	C区	- III E 4 c	211.38	212.19	0.61	S B05
1121	C区	- III E 4 d	211.96	212.48	0.56	
1122	C区	- III E 4 c	211.22	211.35	0.13	
1123	C区	- III E 4 c	210.93	211.33	0.40	
1124	C区	- III E 6 d	211.70	212.11	0.41	S B08
1125	C区	- III E 6 d	211.41	212.16	0.75	
1126	C区	- III E 6 d	211.86	212.34	0.48	
1127	C区	- III E 6 d	211.22	212.18	0.96	
1128	C区	- III E 6 d	211.37	212.38	1.01	
1129	C区	- III E 6 d	212.01	212.49	0.39	
1130	C区	- III E 6 d	211.65	212.42	0.77	
1131	C区	- III E 6 d	211.95	212.29	0.34	
1132	C区	- III E 6 d	212.15	212.46	0.31	
1133	C区	- III E 6 d	211.74	212.57	0.85	S B07
1134	C区	- III E 6 d	212.00	212.35	0.55	
1135	C区	- III E 6 d	211.83	212.60	0.77	
1136	C区	- III E 6 d	212.15	212.64	0.49	S B08
1137	C区	- III E 6 d	211.67	212.63	0.90	
1138	C区	- III E 6 d	211.78	212.57	0.79	S B07
1139	C区	- III E 6 d	212.25	212.57	0.32	
1140	C区	- III E 5 d	212.58	212.68	0.10	
1141	C区	- III E 5 d	212.45	212.53	0.30	
1142	C区	- III E 5 d	211.40	212.59	0.94	
1143	C区	- III E 5 d	211.79	212.69	0.90	S B08
1144	C区	- III E 5 d	211.95	212.71	0.76	
1145	C区	- III E 5 d	212.22	212.82	0.60	S B06
1146	C区	- III E 5 d	211.66	212.72	1.05	S B07
1147	C区	- III E 5 d	212.19	212.59	0.40	
1148	C区	- III E 5 d	211.83	212.72	0.89	S B08
1149	C区	- III E 5 d	212.21	212.48	0.47	
1150	C区	- III E 10 g	213.12	213.86	0.74	
1151	C区	- III E 8 g	213.50	213.90	0.40	
1152	C区	- III E 5 c	211.47	212.10	0.63	
1153	C区	- III E 4 c	211.48	211.91	0.43	
1154	C区	- III E 4 c	211.46	211.88	0.42	S B02
1155	C区	- III E 4 c	211.70	211.92	0.22	
1156	C区	- III E 4 c	211.95	212.15	0.60	S B05
1157	C区	- III E 4 c	211.15	212.16	1.01	S B02 - 鉄錆
1158	C区	- III E 4 c	211.62	212.18	0.56	
1159	C区	- III E 6 b	211.37	212.01	0.64	S B01
1160	C区	- III E 6 b	211.61	212.01	0.40	
1161	C区	- III E 6 b	211.48	212.04	0.36	
1162	C区	- III E 8 b	211.15	211.85	0.33	
1163	C区	- III E 8 b	211.38	211.83	0.45	
1164	C区	- III E 8 b	211.49	211.83	0.34	
1165	C区	- III E 8 a	210.96	211.77	0.81	
1166	C区	- III E 7 b	211.50	211.80	0.30	
1167	C区	- III E 7 b	211.47	211.77	0.31	
1168	C区	- III E 7 b	211.42	211.74	0.52	S B01
1169	C区	- III E 5 d	212.24	212.81	0.57	鉄錆 (106)
1170	C区	- III E 5 b	211.45	211.96	0.71	
1171	C区	- III E 5 b	211.21	212.05	0.33	
1172	C区	- III E 4 c	211.21	212.03	0.82	鉄錆
1173	C区	- III E 3 c	211.74	212.11	0.37	伊留後口 (468)
1174	C区	- III E 6 b	211.39	211.97	0.26	石板
1175	欠番 欠番					
1176	C区	- III E 5 c	211.46	212.07	0.61	
1177	欠番 欠番					
1178	C区	- III E 7 c	211.15	212.06	0.93	S B03
1179	C区	- III E 4 c	211.36	212.08	0.72	
1180	C区	- III E 4 c	211.17	212.15	0.98	S B03
1181	C区	- III E 4 c	211.49	212.21	0.72	
1182	C区	- III E 5 d	212.53	212.70	0.17	
1183	C区	- III E 5 d	212.38	212.57	0.19	
1184	C区	- III E 5 d	212.31	212.57	0.26	
1185	C区	- III E 5 d	212.35	213.01	0.66	S B06
1186	C区	- III E 5 d	212.23	212.89	0.66	
1187	C区	- III E 5 c	211.36	211.99	0.57	
1188	C区	- III E 7 b	211.24	211.54	0.30	
1189	C区	- III E 7 b	211.10	211.60	0.50	
1190	C区	- III E 7 b	211.33	211.60	0.27	
1191	C区	- III E 8 b	211.22	211.88	0.66	陶器軸 (143) - 貨 物
1192	C区	- III E 8 b	210.97	211.79	0.82	

第7表⑩ 柱穴一覧表

No	区域	グリッド	底面lev (m)	検出面lev (m)	深さ (m)	備考(発現する遺 物群・出土遺物)
1193	C区	-Ⅲ E 8 b	210.96	211.88	0.92	
1194	C区	-Ⅲ E 7 b	211.80	212.00	0.20	
1195	C区	-Ⅲ E 7 b	210.76	211.70	0.94	S B01
1196	C区	-Ⅲ E 6 b	210.63	211.80	1.17	S B03
1197	C区	-Ⅲ E 5 a	210.14	211.80	1.66	S B01
1198	C区	-Ⅲ E 5 d	211.82	212.63	0.71	S B08
1199	C区	-Ⅲ E 6 d	212.07	212.41	0.34	
1200	C区	-Ⅲ E 6 b	211.33	211.57	0.24	

第8表 焼土遺構一覧表

遺構名	区域	グリッド	長幅 (m)	短幅 (m)	焼成深度 (m)	重複遺構
S N01	C区	-Ⅲ E 8 b	0.65	0.55	0.14	
S N02	C区	-Ⅲ E 8 b	0.70	0.58	0.12	< P 645 < P 646 < P 665
S N03	C区	-Ⅲ E 8 b	0.58	0.50	0.05	
S N04	C区	-Ⅲ E 8 b	0.70	0.70	0.11	< P 644 < P 664
S N05	C区	-Ⅲ E 7 b	0.30	0.15	0.05	
S N06	C区	-Ⅲ E 7 b	0.35	0.30	0.03	
S N07	C区	-Ⅲ E 7 b	0.20	0.20	0.03	
S N08	C区	-Ⅲ E 7 a	0.43	0.38	0.06	
S N09 a	C区	-Ⅲ E 6 b	0.75	0.55	0.08	< P 536
S N09 b	C区	-Ⅲ E 6 b	0.53	0.46	0.08	< P 537
S N09 c	C区	-Ⅲ E 6 b	0.42	0.25	0.02	
S N10	C区	-Ⅲ E 6 b	0.93	0.90	0.08	< P 534 < P 930
S N11	C区	-Ⅲ E 5 b	0.34	0.27	0.05	
S N12	C区	-Ⅲ E 6 b	0.80	0.70	0.06	
S N13	C区	-Ⅲ E 5 b	0.60	0.45	0.04	
S N14	C区	-Ⅲ E 5 b	0.56	0.40	0.06	
S N15	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番
S N16	C区	-Ⅲ E 4 b	0.53	0.43	0.08	
S N17	C区	-Ⅲ E 4 b	0.42	0.34	0.04	
S N18	C区	-Ⅲ E 6 b	0.37	0.35	0.05	
S N19	C区	-Ⅲ E 3 c	0.57	0.50	0.06	
S N20	C区	-Ⅲ E 3 c	0.45	0.44	0.08	
S N21	C区	-Ⅲ E 3 c	0.55	0.48	0.04	
S N22	C区	-Ⅲ E 2 d	0.46	0.40	0.05	
S N23 a	C区	-Ⅲ E 4 c	0.77	0.64	0.21	
S N23 b	C区	-Ⅲ E 4 c	0.70	0.45	0.05	
S N24	C区	-Ⅲ E 2 a	0.57	0.50	0.05	
S N25	C区	-Ⅲ E 2 b	0.37	0.26	-	
S N26	C区	-Ⅲ E 2 b	0.25	0.17	-	
S N27	C区	-Ⅲ E 2 a	0.70	0.45	-	
S N28	C区	-Ⅲ E 2 b	0.50	0.45	0.10	
S N29	C区	-Ⅲ E 2 b	0.65	0.58	0.07	< P 965

## IV 自然化学分析

### 1 桂平I遺跡における火山灰分析（1）

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

岩手県二戸市（旧淨法寺町）桂平I遺跡は、北上山地北部を流れる安比川の右岸に分布する狭小な段丘平坦面上に位置する。今回の発掘調査では、中世頃とされる堀跡や奈良～平安時代とされる堅穴住居および縄文時代とされる土坑などの遺構およびそれらに伴う土器や石器などの遺物が検出されている。

今回の分析調査では、発掘調査の際に、縄文時代とされる陥穴および奈良～平安時代とされる堅穴住居のそれぞれの覆土上部に、火山灰（テフラ）とされるブロック状の堆積物が検出されたことから、これらについて、その碎屑物の性状を明らかにし、テフラである場合には、既知のテフラとの対比を行い、各遺構の時代観に関する試料を作成する。

#### 1 試 料

試料は、縄文時代の陥穴とされたSK01の覆土1層および奈良～平安時代とされた堅穴住居の覆土1層の各層位より1点ずつ採取されたNo1とNo2の計2点の堆積物である。いずれも、黄褐色を呈する砂質シルトからなる。

#### 2 分 析 方 法

試料は、その外見上の特徴から、火山ガラス質テフラのブロックと考えられるため、ここでは、テフラの検出同定により碎屑物全体の状況を確認し、重鉱物組成と火山ガラス比を求め、さらに火山ガラスについては屈折率の測定を行う。各分析法の処理手順は以下の通りである。

##### （1）テフラの検出同定

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

##### （2）重鉱物・火山ガラス比分析

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタンクステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に

達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスの形態分類は、上述のテフラ分析に準ずる。

### (3) 屈折率測定

屈折率の測定は、古澤（1995）のM A I O Tを使用した温度変化法を用いた。

## 3 結 果

### (1) テフラの検出同定

結果を表1に示す。SK01の1層から採取されたNo.1には、中量の軽石と多量の火山ガラスが含まれ、スコリアは認められない。軽石は、最大径約4.5mmであり、白色を呈し、発泡は良好～やや良好である。火山ガラスのほとんどは無色透明の塊状の軽石型であり、少量の繊維束状のものも混在する。また、微量の無色透明のバブル型も認められる。

SI08の1層から採取されたNo.2には、微量の軽石と多量の火山ガラスが含まれ、スコリアは認められない。軽石は、最大径約3mmであるが、色調・発泡度ともに上述したNo.1の軽石と同様である。火山ガラスは、無色透明のバブル型と軽石型とが混在する。

### (2) 重鉱物・火山ガラス比分析

結果を表2、図1に示す。重鉱物組成では、2点ともにほぼ同様の組成を示す。すなわち、斜方輝石と不透明鉱物が同量程度に多く、少量の単斜輝石を伴うという組成である。鏡下の観察では、これらの各鉱物は、新鮮な結晶が多く、火山ガラスの付着した結晶も認められる。

火山ガラス比では、No.1において軽石型火山ガラスが非常に高い量比を示すが、No.2においては、バブル型と軽石型とともに少量である。

### (3) 屈折率測定

結果を図2に示す。No.1の火山ガラスは、n1.499-1.506のレンジに入り、n1.503-1.504にモードがある。No.2の火山ガラスは、No.1よりも高い値を示し、n1.510-1.520のレンジで、n1.517-1.518にモードがある。

## 4 考 察

No.1の採取された堆積物は、白色軽石と軽石型火山ガラスからなるテフラの降下堆積物であると考えられる。また、重鉱物組成を構成する斜方輝石と単斜輝石および不透明鉱物は、上述した鏡下の観察から、テフラの本質的特徴とされる。したがって、No.1のテフラの重鉱物組成は、斜方輝石を主体とする両輝石安山岩質の組成であると考えられる。また、No.1のテフラを構成する火山ガラスは、無色透明の軽石型火山ガラスを主体とするとして良い。これらの特徴と上述した火山ガラスの屈折率、さらには本遺跡の地理的位置と、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか（1981；1984）、Arai et al. (1986)、町田・新井（2003）など）との比較から、No.1のテフラは十和田カ

ルデラを給源とする十和田aテフラ（To-a）に同定される。To-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火碎流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火碎流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のはば全域で確認されている（町田ほか, 1981）。前述したように、No.1には中量の軽石が含まれるから、本遺跡の位置する旧淨法寺町付近は、To-aが軽石質テフラとして分布する範囲に入っているといえる。また、町田ほか（1981）は、To-aのn1.502以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とする火山灰層は、南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとしている。No.1の屈折率測定結果は、低屈折率の火山ガラスも微量ながら、旧淨法寺町付近まで及んでいることを示唆している。なお、To-aの噴出年代については、早川・小山（1998）による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。

添付資料によれば、No.1の採取されたテフラブロックは、覆土の最上部に認められており、陥穴がほんんど埋積した頃に降灰のあったことを示している。陥穴の帰属時期は考古学的所見から縄文時代であり、No.1を平安時代に降灰したTo-aとすると、当時この遺構は埋没仕切っていなかったことが示唆される。

No.2の採取された堆積物については、碎屑物の主体をなす火山ガラスの屈折率がNo.1よりも明らかに高いことと、その火山ガラスの粒径が、火山ガラス比分析の対象とした細砂径には少なく、それよりも細かい極細砂径以下を主体とすることから、To-aとは異なる火山ガラス質テフラである可能性が高い。ただし、No.2に微量含まれる軽石は、その特徴から、To-aに由来するものであり、またNo.2の細砂径の重鉱物組成を構成する重鉱物もTo-aに由来するものが多いと考えられる。これは、No.2のテフラが、To-aと層位的に接続している（すなわち降下年代が近い）ために、To-aに由来する碎屑物が混入していると考えることができる。のことと、上述した火山ガラスの特徴および本遺跡の地理的位置と、上述した文献による、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状から、No.2のテフラは、白頭山苦小牧テフラ（B-Tm）に同定される。B-Tmは、10世紀に中国と北朝鮮の国境に位置する白頭山から噴出したテフラであり、岩手・秋田県北部以北と北海道のはば全域で確認されている（町田ほか, 1981；町田・新井, 2003）。また、東北地方北部各地でTo-aの上位に堆積することが確認されている（町田ほか, 1981）ことから、その噴出年代は915年よりも後であることは確実である。早川・小山（1998）は歴史記録の解釈から、B-Tmの噴出年代を西暦946年としている。しかし、14C年代や年輪年代および湖成層の年輪などの研究成果とは必ずしも一致しておらず、町田・新井（2003）は10世紀に収まる（しながらも年代値は未解決である）としている。

いずれにしても、S I 08が廃棄された後の埋積中にB-Tmの降灰があったと考えられることから、S I 08の構築年代は、新しくとも10世紀より以前とできる。なお、現時点では、S I 08の覆土におけるTo-aの産状が不明である。それが明らかになるとによって、S I 08の構築年代に関する資料の精度が向上することが期待される。例えば、覆土中にTo-aの降下堆積物が確認されている場合には、S I 08の構築年代は915年より以前となり、B-Tmのみの場合よりもやや年代が明瞭になる。さらに、確認されていない場合には、降下堆積後に覆土中に拡散してしまったということも考えられるが、前述したS K01におけるTo-aの産状を考慮すると、その場合にはS I 08の埋積時にTo-aは降下堆積していない可能性が高い。すなわちS I 08の構築はTo-aの降下堆積以後であると考えられ、かつB-Tm降下時にはすでに埋積されていたことから、その年代は915年以降の10世紀に限定されることになる。このことは、今後の周辺の調査においても、確認しておきたい観察事項と思われる。

## 引用文献

Arai, F.・Machida, H.・Okumura, K.・Miyauchi, T.・Soda, T.・Yamagata, K., 1986, Catalog for late quaternary marker tephra in Japan II -Tephra occurring in Northeast Honshu and Hokkaido-, Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21, 223-250.

山澤 明, 1995, 火山ガラスの層折率測定および形態分類とその統計的解析に基づくテフラの識別, 地質学雑誌, 101, 123-133.

早川由紀夫・小山真人, 1998, 日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日-『和田湖と白頭山-』, 火山, 43, 403-407.

町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336 p.

町田 洋・新井房夫・森脇 広, 1981, 日本海を渡ってきたテフラ, 科学, 51, 562-569.

町田 洋・新井房夫・移原重大・小田静夫・遠藤邦彦, 1984, テフラと日本考古学-考古学研究と関連するテフラのカタログ-, 渡辺直経(編)古文化財に関する保存科学と人文・自然科学, 同朋舎, 865-928.

表1 テフラ分析結果

試料番号	出土位置	層位	スコリア	火山ガラス			軽石	
				量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径
No.1	SK01階穴	1層	-	++++	cl・pm>cl・bw	+++	W・g~sg	4.5
No.2	SI08壁穴住居	1層	-	++++	cl・bw, cl・pm	+	W・g~sg	3.0

凡例 ー: 含まない、(+) : きわめて微量、+ : 微量、++ : 少量、+++ : 中量、++++ : 多量。

cl: 黒色、G: 灰色、Br: 褐色、GB: 灰褐色、R: 赤色、W: 白色。

g: 良好、sg: やや良好、sb: やや不良、b: 不良、最大粒径はmm。

cl: 無色透明、br: 褐色、bw: バブル型、md: 中間型、pm: 薄石型。

表2 重鉱物・火山ガラス比分析結果

試 料 番 号	出 土 位 置	層 位	カ ル ラ ン シ ン						不 透 明 性 能			そ の 他			中 間 型 火 山 ガ ラ ス			軽 石 型 火 山 ガ ラ ス			そ の 他		
			斜 方 輝 輝 鉱 石	單 斜 輝 輝 鉱 石	不 透 明 性 能	そ の 他	合 計		バ ブ ル 型 火 山 ガ ラ ス	中 間 型 火 山 ガ ラ ス	軽 石 型 火 山 ガ ラ ス	そ の 他	合 計		バ ブ ル 型 火 山 ガ ラ ス	中 間 型 火 山 ガ ラ ス	軽 石 型 火 山 ガ ラ ス	そ の 他	合 計				
No.1	SK01階穴	1層	0	112	41	94	3	250	1	0	200	49	250										
No.2	SI08壁穴住居	1層	1	98	29	110	12	250	9	0	21	220	250										

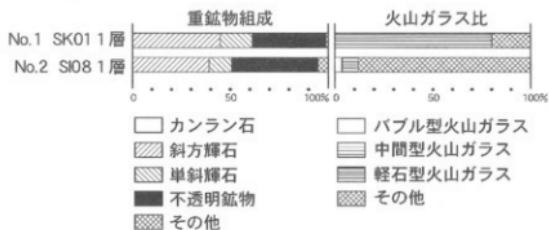


図1 重鉱物組成および火山ガラス比

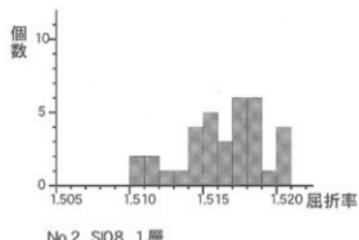
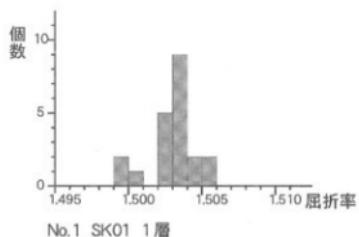
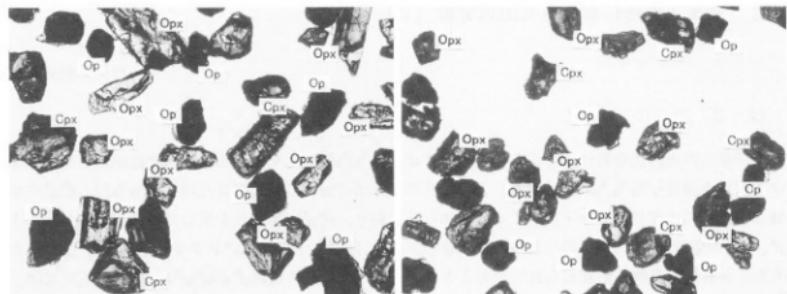


図2 火山ガラスの屈折率測定結果

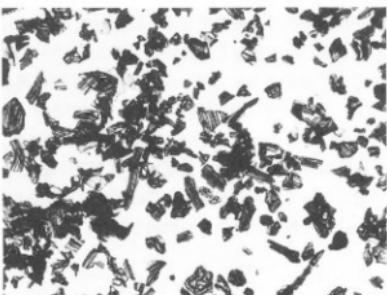


1 重鉱物 (No. 1 ; SK01陥穴 1 層)

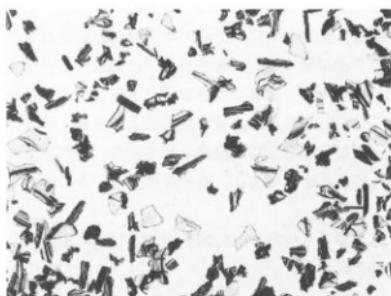
2 重鉱物 (No. 2 ; SI08陥穴住居跡 1 層)



3 To-aの長石 (No. 1 ; SK01陥穴 1 層)



4 To-aの火山ガラス (No. 1 ; SK01陥穴 1 層)



5 B-Tmの火山ガラス (No. 2 ; I08陥穴住居跡 1 層)

Opx : 斜方輝石 Cpx : 卵斜輝石 Op : 不透明鉱物

3 mm  
1, 2, 4, 5      3 mm  
3

写真図版 重鉱物・長石・火山ガラス

## 2 桂平I遺跡における火山灰分析（2）

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

岩手県二戸市淨法寺町に所在する桂平I遺跡は、北上山地北部を流れる安比川中流域の右岸に分布する狭小な段丘平垣面上に立地する。この段丘の安比川に面する段丘崖は北向きであるが、段丘の東側は安比川の支流である赤平沢によって区切られており、段丘は半島状を呈している。後述するように、今回の発掘調査により、段丘表層の土壤層の下位に、砂層と十和田八戸テフラとされる白色土層（おそらく火碎流堆積物）が認められていることから、桂平I遺跡の位置する段丘は、馬淵川沿いに広く確認されている、八戸テフラの火碎流堆積物を構成層とする段丘（例えば大池ほか（1966）など）に対比されると考えられる。

平成19年度の発掘調査では、縄文時代とされる竪穴や平安時代の竪穴住居などの遺構や縄文土器や石器および土器師などの遺物が検出されている。特に遺構検出面については、上位より第1面から第3面まで設定されており、第1面と第2面は縄文時代前期約6000年前に噴出した十和田中振テフラ（To-Cu）の降下堆積層の上位と上面であり、第3面は十和田南部テフラ（To-Nb）の降下堆積層の可能性があるとされている層位の上位に認められている。

今回の分析調査では、遺構検出第3面の層位の指標となるTo-Nbの可能性があるとされている堆積層について、それを構成する碎屑物の性状を明らかにし、テフラに由来する碎屑物が確認された場合には、既知のテフラとの対比を行う。

## 1 試 料

調査区の基本層序は、上位よりⅠ層からⅧ層まで分層されている。Ⅰ層は耕作土、Ⅱ層は盛土であり、その下位の黒色土（いわゆる黒ボク土）とされているⅢ層に遺構検出第1面が認められている。Ⅲ層の直下にTo-Cuの降下堆積層であるⅣ層が堆積し、その上面に遺構検出第2面が設定されている。Ⅳ層の下位には、暗褐色～黒褐色を呈するいわゆる漸移層であるⅤ層を挟んで、褐色～黄褐色を呈するいわゆるローム層に相当するⅥ層が分層され、その下位に砂層であるⅦ層および八戸テフラ層とされている白色土層のⅧ層の堆積が認められている。これらのうち、Ⅵ層は上位よりⅥa、Ⅵb、Ⅵc層に細分されている。Ⅵa層は褐色土層とされ、遺構検出第3面が設定されており、その下位のⅥb層がTo-Nbの降下堆積層の可能性があるとされている層位であり、Ⅵc層はその下位の黄褐色土層である。

試料は、A区南西端（基本層序1）で認められたⅥb層より採取された暗赤褐色を呈する細礫混じりのシルト質砂1点であり、試料にはNo.1の番号が付されている。

## 2 分析方法

ここでは、テフラの検出同定により碎屑物全体の状況を確認し、重鉱物組成と火山ガラス比を求め、さらに火山ガラスについては屈折率の測定を行う。ただし、今回の分析では、後述するように火山ガラスがほとんど認められなかったことから、火山ガラスと共にその屈折率がテフラ同定の指標とされている斜方輝石の屈折率測定を行った。各分析法の処理手順は以下の通りである。

### (1) テフラの検出同定

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

### (2) 重鉱物・火山ガラス比分析

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタンゲスタン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスの形態分類は、上述のテフラ分析に準ずる。

### (3) 屈折率測定

屈折率の測定は、古澤（1995）のMA I O Tを使用した温度変化法を用いた。

## 3 結 果

### (1) テフラの検出同定

No.1試料には、多量の軽石が認められた。軽石は、最大径約10mmであり、黄褐色～黄橙色を呈し、発泡はやや不良である。火山ガラスは認めることができなかった。また、試料中には、径1.5-3mm程度の暗灰色、灰黑色および赤褐色を呈する比較的新鮮な安山岩の岩石片が少量混在する。

### (2) 重鉱物・火山ガラス比分析

結果を表1、図1に示す。重鉱物組成では、斜方輝石が多く、約50%を占め、單斜輝石と不透明鉱物が同量で約20%程度である。極めて微量のカンラン石も認められた。火山ガラス比では、軽鉱物250粒中に火山ガラスを計数することはできなかった。ただし、極めて微量の軽石型火山ガラスを認ることができた。

### (3) 屈折率測定

上述したように、火山ガラスについては、屈折率測定のための十分な分析量を確保できないことから、ここでは、重鉱物中の斜方輝石の屈折率を測定した。結果を図2に示す。斜方輝石の屈折率は、 $\gamma$  1.705-1.709のレンジに入り、 $\gamma$  1.707付近にモードがある。

#### 4 考 察

No 1 試料のテフラ分析結果と、添付資料写真のうち調査断面におけるVI b層の層相から、VI b層は軽石質テフラの降下堆積層であると判断される。その場合、桂平I遺跡の地理的位置と、八戸テフラ層とTo-Nbに挟まれたVI b層の層位に基づけば、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか（1981；1984）、Arai et al. (1986)、町田・新井（2003）など）との比較から、VI b層は、発掘調査所見でも示されたTo-Nbの降下堆積層である可能性が高い。また、軽石の色調や発泡度および安山岩片を伴うことなどは、松山・大池（1986）によるTo-Nbの記載とよく一致する。両輝石からなる重鉱物組成も、To-Nbのそれと同様である。さらに、今回の分析調査にあたり、比較試料として馬淵川沿いの段丘上に位置する上町遺跡で確認されているTo-Nbの試料が提供されている。この試料についても、テフラ分析を実施して確認したところ、軽石の色調や発泡度および安山岩片の混在など、No 1 試料と全く同様であった。これらのこととは、いずれもVI b層がTo-Nbの降下堆積層であることを支持している。

ただし、斜方輝石の屈折率については、町田・新井（2003）に記載されたTo-Nbの斜方輝石の屈折率 $\gamma$  1.708–1.712 (mode $\gamma$  1.710) に比べて、レンジおよびモードともに有意に低い方にずれる値となった。この結果については、To-Nbの中でも降下ユニットによって屈折率の異なる斜方輝石が含まれている可能性を考えることができるが、現時点では検討材料が不十分なため、斜方輝石の屈折率についての解釈を特定することはできない。周辺の事例研究も含めて、今後の課題としたい。

なお、To-Nbの噴出年代は、町田・新井（2003）により約8600年前とされている。IV b層がTo-Nbの降下堆積層とした場合に、その上位のVI a層中にある遺構検出第3面は8600年前以降であるとすることができる。

#### 引用文献

- Arai, F. · Machida, H. · Okumura, K. · Miyauchi, T. · Soda, T. · Yamagata, K., 1986, Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II—Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido—, Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21, 223–250.
- 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的解析に基づくテフラの識別, 地質学報誌, 101, 123–133.
- 早川由紀夫・小山良人, 1998, 日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日—上和田湖と白頭山—, 火山, 43, 403–407.
- 町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336 p.
- 町田 洋・新井房夫・義賀 広, 1981, 日本海を讀ってきたテフラ, 科学, 51, 562–569.
- 町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静大・遠藤邦彦, 1984, テフラと日本考古学—考古学研究と関連するテフラのカタログ—, 渡辺直経（編）古文化財に関する保存科学と人文・自然科学, 同朋舎, 865–928.
- 松山 力・大池昭二, 1986, 上和田火山噴出物と火山活動, 十和田科学博物館, N o.4, 1–64, 十和田開発株式会社.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之, 1966, 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰, 第四紀研究, 5, 29–35.

表1 重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料番号	カラン石	斜方輝石	單斜輝石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
No.1 A区南西端 VI b層	1	130	59	59	1	250	0	0	0	250	250

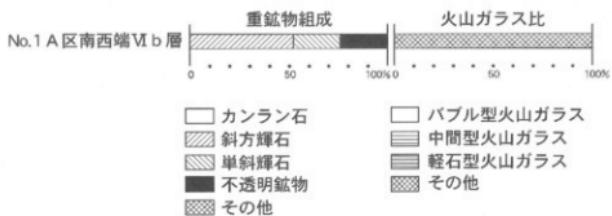


図1 重鉱物組成および火山ガラス比

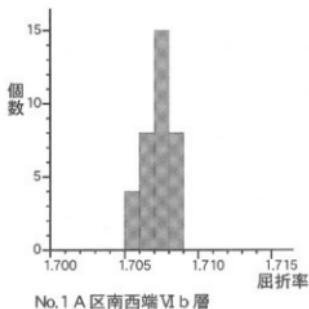


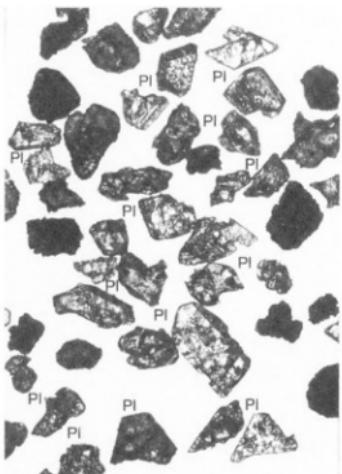
図2 斜方輝石の屈折率



1 軽石 (No. 1 A区南西端 Vb層)



2 重鉱物 (No. 1 A区南西端 Vb層)



3 軽鉱物 (No. 1 A区南西端 Vb層)

Opx : 斜方輝石 Cpx : 単斜輝石 Pl : 斜長石

写真図版 軽石・重鉱物・軽鉱物

## V まとめ

### I 壁穴住居

〔占地〕検出した壁穴住居は総数15棟である。調査区内で全体を完掘出来たのは S I 01・02・04・05・06・07・15壁穴住居の7棟で、ほぼ半数である。ただし S I 06壁穴住居は攪乱により大きく削平されている。一部を除きほぼ完掘できたのが S I 03・12壁穴住居で、S I 08・09・10・11・13・14壁穴住居は一部しか精査できなかつた。確認されたのはB・C区の平坦～緩斜面地で、斜面部の多いD区では確認されていない。S D01以東のA区でも確認されていない。標高は、210～212mの範囲に限られる。調査区内は、等高線が北東～南西向きに走る。

〔重複〕調査区内での住居跡同士の重複は確認できなかつた。ただし、S I 10・11壁穴住居など近接しているものは調査区外で重複している可能性がある。

〔形状・規模〕完掘できた7棟はいずれも平面形は方形である。このうち、床面積が最大のものはS I 07(35.3m<sup>2</sup>)、最小のものはS I 01(7.60m<sup>2</sup>)である。完掘できなかつたものも、確認できた辺長から推定すると、小型(3～4m)・中型(4～5m)・大型(6m以上)に分かれる傾向がみられる。小型のものはS I 01(3.26m)、S I 02(3.64m)、S I 05(4.01m)、S I 06(3.10m)、S I 08(3.86m)、S I 11(3.14m)、S I 15(3.40m)の7棟。中型のものはS I 03(4.84m)・S I 04(5.98m)、S I 09(4.56m)、S I 10(4.80m)、S I 12(4.48m)、S I 14(5.20m)の6棟。大型のものはS I 07(6.56m)の1棟である。S I 13は不明である。

〔床面施設〕S I 07壁穴住居では、P 1・9・12・20の4個が方形に配列することから、建物の主柱穴である可能性が高いと考えられる。S I 03・04・09・10・14壁穴住居では床面上で柱穴状土坑が複数確認されているが、配置や規模などに規則性はみられず、上屋構造を支える建物の柱穴であるかは不明である。S I 03壁穴住居では周溝を確認した。S I 01・02・05・06・08・11・12・13・15壁穴住居では、柱穴・土坑・周溝のいずれも確認されていない。

〔貼床〕S I 06・13壁穴住居以外で貼床が確認された。いずれも黄褐色の地山ブロックを含む。掘り方は、床面中央が浅く、外側が深くなる傾向がある。S I 12壁穴住居では非常に固く締まっていた。

〔埋土・火山灰〕S I 01・02・03・05・06・09・11・14壁穴住居では、埋土中に十和田a火山灰のブロックが混入する。これらは2次堆積によるものと考えられる。十和田aテフラが層状に堆積するものは確認されていない。S I 04・08・11壁穴住居では、埋土中～上位に白頭山火山灰が薄く層状に堆積する。S I 11壁穴住居では下位にブロック状の十和田a火山灰、上位に白頭山火山灰の堆積が確認された。

〔炭化材〕S I 07・08・10・11壁穴住居では床面上に炭化材が出土した。S I 07壁穴住居では、中央より外側でまばらに出土している。S I 08壁穴住居では中央から外側へ向かって放射状に広がる状態で木材と、葦状のものが出土した。床面中央には焼土の広がりが確認できた。S I 10壁穴住居では、壁付近に炭化材が出土したほか、床面全体に焼土が広がる。S I 11壁穴住居では床面中央に集中して炭化材が出土した。これら4棟は焼失住居であった可能性がある。

〔カマド〕カマドもしくはその痕跡が確認できたのは、15棟中11棟である。ただし、S I 02・09・11壁穴住居は焼土が確認されたのみである。煙道が確認できた7棟は、すべて掘り込み式である。S I 05・07壁穴住居は外側へ伸びる浅い掘り込みが確認できたが、煙道の下部で、上部は削平により失わ

れたと考えられる。他の5棟は壁から短く外側へ張り出す掘り込みが確認されたのみである。倒り抜き式は1棟も確認されていない。S I 01・03・04・15壺穴住居では構材として砂岩が用いられていた。

方位は、西向きが2棟（S I 07・15）、北西向きが3棟（S I 01・03・05）、北向きが1棟（S I 12）、北東向きが3棟（S I 02・06・09）、南東向きが2棟（S I 04・11）である。壁の中における位置は、中央にあるものが4棟（S I 01・03・07・15）、住居の内側から見て右側に寄るものが4棟（S I 02・06・09・12）、左側に寄るものが2棟（S I 04・05）である。

〔出土遺物〕土師器は、S I 13壺穴住居を除く14棟で出土した。最も出土量が多いのはS I 03壺穴住居（4,148g）、次いでS I 12壺穴住居（3,821g）で、以下、2,000~3,000gが5棟（S I 04・05・06・07・10壺穴住居）、1,000~2,000gが2棟（S I 02・14壺穴住居）、1,000g未満が6棟（S I 01・08・09・11・13・15壺穴住居）である。壺が出土したのは5棟（S I 01・03・07・08・12壺穴住居）のみである。出土した壺はすべてロクロ成形で、内面にミガキ・黒色処理が施され、体部が内湾し立ち上がる器形である。甕は、口縁部が短く外反し、体部に最大径を持つ長胴甕が多い。ロクロは使用しないものが多い。ロクロを使用した甕は、S I 04・12壺穴住居で出土したのみである。S I 12壺穴住居では壺に近い器形のものが出土している。S I 04壺穴住居では、刻文で「人」の字が施された甕（21）が出土した。砂底のものがS I 02・03・04・09壺穴住居で出土している。須恵器は、S I 05・07・12壺穴住居で小破片が出土したのみである。

鉄製品は、鉄族（S I 10壺穴住居）、刀子（S I 03・07・14壺穴住居）、紡錘車（S I 07・09壺穴住居）、鋤先（S I 10壺穴住居）、鎌（S I 05壺穴住居）で出土している。石器は、磨石がS I 03・05・07・10・12壺穴住居で出土した。

〔時期〕埋土に十和田aブロックが含まれる造構については、2次堆積であるという前提で考えれば10世紀前半以降という年代が考えられる。白頭山火山灰が堆積するものについても十和田aが堆積するものより若干おくれるもの、それほど大きな時期差はないものと考えられる。住居跡の年代は概ね10世紀代前半に収まるものと考えられる。

## 2 陥し穴

計45基検出した。区域別では、A区で3基、B区で20基、C区で16基、D区で6基である。最も東側に位置するのはA区のS K61陥し穴である。最も西側に位置するのはD区のS K58陥し穴で、最も標高の高い位置（230m）にある。S K24・28・29・41・48・57・72陥し穴は、一部が調査区外にあるため完掘していない。

形状は、溝状、楕円形があり、溝状が44基、楕円形のものは1基のみである。

楕円形の1基（S K31陥し穴）は、開口部径1.56×1.46mである。底部に副穴を伴う。円形のものは確認されていない。

溝状のものは、細長いものと、短く幅広のものがある。最長のものはS K12陥し穴で開口部径4.18m、最短のものはS K74陥し穴で1.42mである。深さは、最深のものがS K01陥し穴で1.72mである。底部の幅は、最も広いものがS K03陥し穴で0.36m、最も狭いものがS K57陥し穴で0.06mである。

主軸方向は、等高線に平行するもの、直交するものがある。

検出面は、IV層上面で検出したものと、その後の掘り下げによりVI層上面で検出したものの2種類がある。ただし、IV層上面から掘り込まれた造構が、その面で確認できず、下のVI層上面で確認でき

た例や、VI層上面から掘り込まれた遺構が、たまたま上のIV層上面で検出できた例もあると考えられ、検出面で時期を判断するには注意を要する。

埋土は、最下位に柔らかい黒色土の薄い層が堆積するものが多く、中位～下位は堅面の崩落による黄褐色土と黒褐色土が交互に堆積し、締まりが弱い。深いものでは、Ⅶ層白色土やⅧ層砂層まで掘り込まれる。

S K74・75・77・79陥し穴の4基は、形状・規模のほぼ等しいものが、等間隔に並んでおり、一連の遺構である可能性が高い。他に、同規模の2基が平行に配列する例としては、S K14・20陥し穴、21・22、54・55陥し穴などがある。

S K01～03は、埋土の最上位に十和田a火山灰が堆積し、最も新しい時期に属するものと考えられる。ただし、これらを含め、陥し穴から遺物は一切出土していないため、時期の詳細は不明である。

### 3 土 坑

26基確認している。陥し穴以外で、特徴のあるものだけ述べる。S K05土坑は籠状石器(224)が出土しており縄文時代の遺構と考えられる。S K06土坑は円形で、貯蔵穴などの用途が考えられる。S K10・18土坑はフラスコ状で、貯蔵穴などの用途が考えられる。S K18土坑は、S I 02竪穴住居に切られ、これより古いものと考えられる。S K15土坑は、円形で浅い。S K16土坑は浅く不整な平面形で、埋土中に焼土の痕跡があった。S K19土坑は、底面に焼土が確認されており、土師器が出土している。S K25土坑は、土師器、礫などが大量にまとめて廃棄された様相である。S K34は円形で大型である。S K35土坑は、埋土最上位に十和田a火山灰が厚く堆積していた。S K45土坑はS I 15住居跡を切り、土師器が出土している。S K49土坑は、礫が廃棄された様相である。S K56は、白頭山、十和田a火山灰の双方が堆積する。S K70土坑は円形・やや浅型で、土師器が出土している。S K81土坑は長方形で、土師器が多量に出土している。

遺物が出土したのは6基(S K05・19・25・45・70・81)のみで、S K05は縄文時代、S K19・25・45・70・81は平安時代の遺構と考えられるが、その他は時期不明である。S K15と70、S K45と81は規模・形状が類似しており、同様の性格を持つものかもしれない。

### 4 堀 跡

1条(S D01)確認された。調査区東側、A区とB区の境界に位置する。上幅6.5m、深さ4mで、調査区内で確認できた全長は13mである。隣接する吉田館跡の外堀である可能性が高く、A区は吉田館の範囲に含まれることになる。

### 5 焼 土 遺 構

29基を確認した。位置はすべてC区で、柱穴密集範囲と一致する。Ⅲ層上面で確認している。焼成深度は、最深で0.14mである。S N01・14・16～23焼土は、標高211.5～212.0mの範囲に分布し、S N24～29焼土は、それよりやや低い標高211.0m前後の—Ⅲ E 2 aグリッド付近で群をなす。S N01・02・04焼土、S N07・08焼土、S N09・10焼土、S N13・14焼土、S N16・17焼土のように、2基間の距離が1m以内に近接しているものもある。S N01・02・04・09a・10焼土は、焼成面の中央部分

が凹み、白色の灰が堆積していた。S N02・04・05・07・09a・10・16焼土では、焼成範囲よりも下位に、青灰色の還元したような層を確認している。S N02焼土を切るP 645・646、S N04を切るP 644、S N10を切るP 930には、灰が底面まで堆積している。時期は、掘立柱建物と同じか、やや新しく、近世以降に属すると考えられる。鉄生産関連遺構の可能性なども想定したが、周辺の土壤から鉄滓や鍛造剥片などは確認していない。

## 6 掘立柱建物

柱穴状土坑は1110個を確認した。主にB区西側からC区にかけて分布し、C区では特に密度が高く、重複も多い。B区東側、D区では疎らに分布するものの、建物を構成するものではなさそうである。A区で確認されたもの的一部は近・現代に属するとみられる。柱穴の規模は、C区の密集部にあるものが平面・深さともに大きい印象を受ける。

掘立柱建物は9棟を確認した。すべてC区に属する。9棟は、その配置から、第1群（SB01・02・03掘立柱建物）、第2群（SB04・05掘立柱建物）、第3群（SB06・07・08・09掘立柱建物）と分けられ、それぞれの群に属するものは重複し、異なる群のものは、第1群のSB02掘立柱建物と第2群のSB04掘立柱建物が僅かに重複する例外を除き、重複しない。同じ群に属するものは、規模、軸方向などがほぼ等しい。したがって、それぞれの群に属する建物跡のうち、1棟ずつが共存し、建て替えを行ないつつ、3～4時期程度存続した可能性が高いと考えられる。建物の詳細な変遷は明らかにできなかったが、SB01・02掘立柱建物の柱穴から永楽通寶が出土していることから、建物群の時期は概ね近世初頭頃に属すると捉えておきたい。C区では、掘立柱建物として使用しなかった柱穴や遺構外から、中世末の瀬戸・美濃産陶器や青磁のほか、永楽通寶が多く出土している。



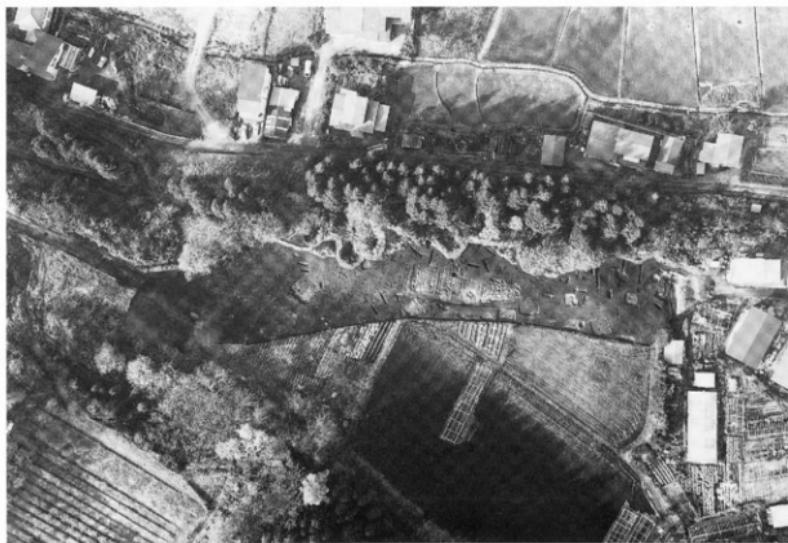
道跡周辺 (← 東)



道跡全景 (← 東)



調査区周辺（←南東）



調査区全景（←南）

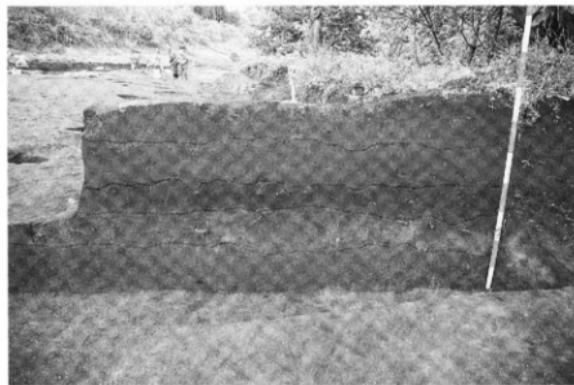
写真図版2 航空写真（2）



B区調査前 (←東)



B区全景 (←東)



B区基本層序

写真図版3 B区 (東から)



C区全景1（←西）



C区全景2（←西）



C区全景3（←西）

写真図版4 C区（西から）



C区全景1 (←東)



C区全景2 (←東)



C区第1面（←東）



C区第2面（←東）



C区第3面（←東）

写真図版6 C区（東から）



C区西側 (←西)



C区中央 (←西)



C区東側 (←西)



C区中央 (←北)



C区中央 (←東)



C区中央 (←南)

写真図版 8 C区(柱穴2)



A区北側（←西）



A区南側（←東）



A区基本層序（←東）



D区斜面部（←西）



D区北側（←東）



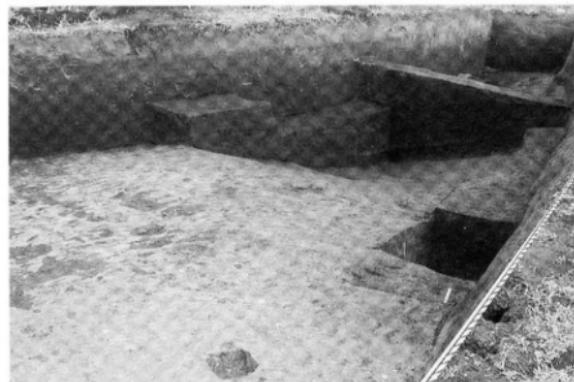
D区斜面部（←北）



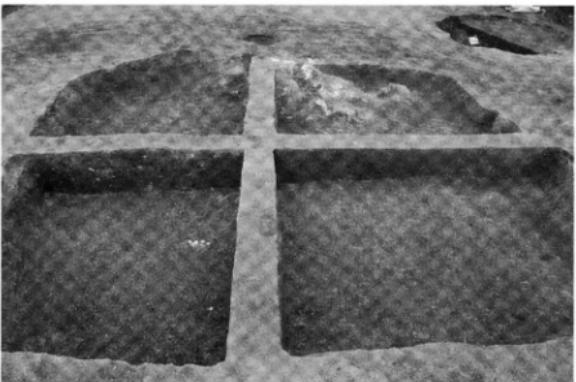
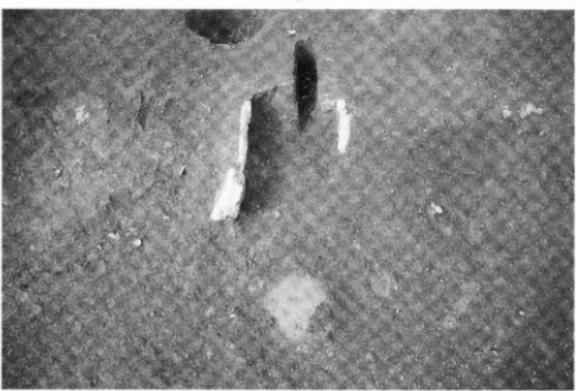
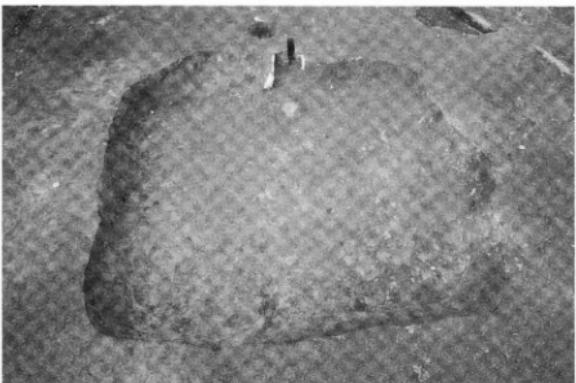
E区作業状況（←東）



E区西侧検出状況（←東）



E区東側検出状況（←東）



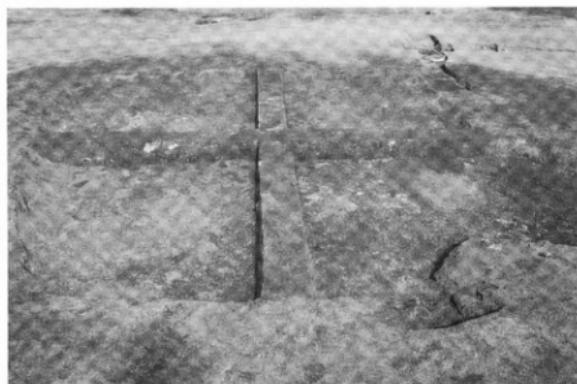
写真図版12 S101



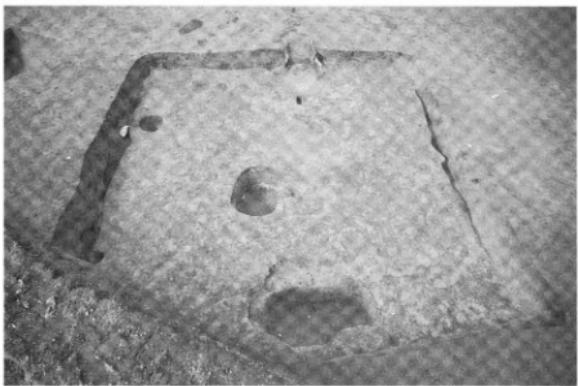
SI02完掘（←南）



SI02遺物出土状況（←北）



SI02断面（←南）



SI04完掘 (+東)

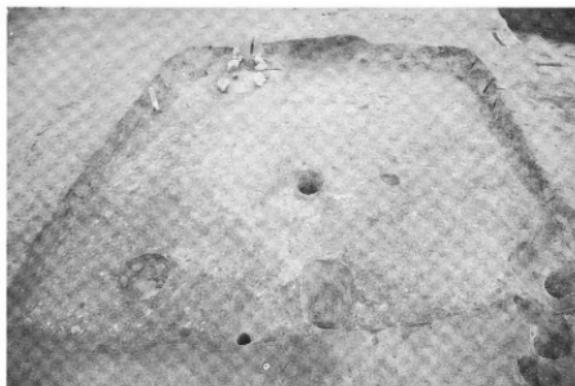


SI04カマド (+東)



SI04断面 (+南)

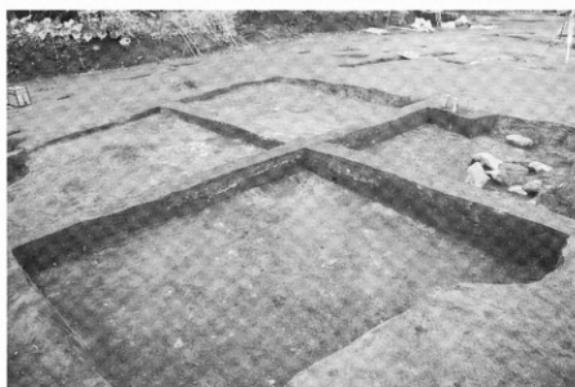
写真図版14 SI03



SI04完掘（←南）

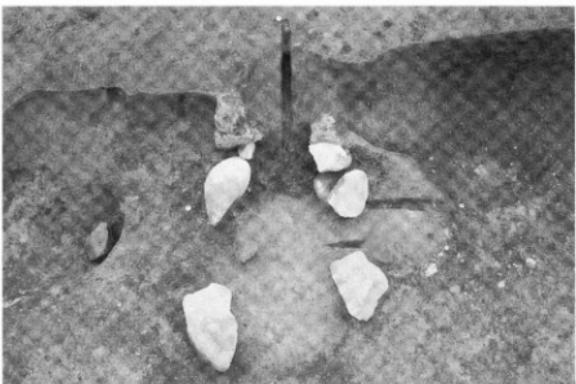


SI04遺物出土状況（←南）

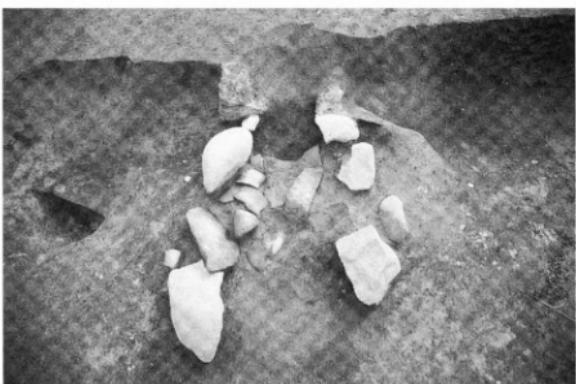


SI04断面（←南）

写真図版15 SI04 (1)



SI04カマド実掘状況 (←北)



SI04カマド遺物出土状況 (←北)



SI04カマド検出状況 (←北)



SI05 完掘 (←南)



SI05 カマド (←南)



SI05 断面 (←南)



SI06完掘（←西）



SI06断面（←西）



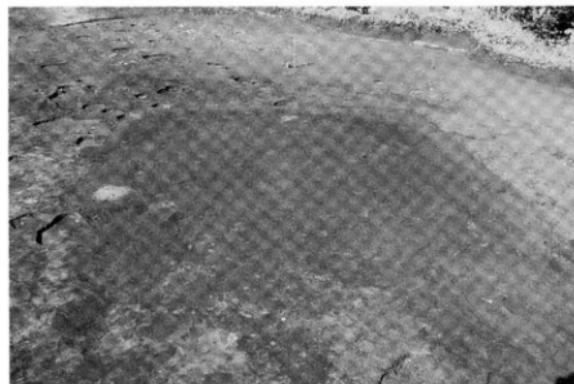
SI06遺物出土状況（←南）



SI07完掘（←東）



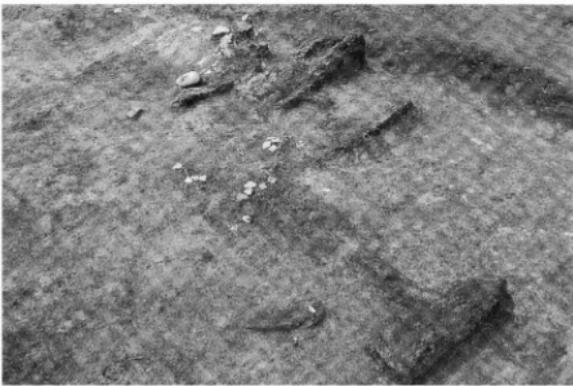
SI07遺物出土状況（←東）



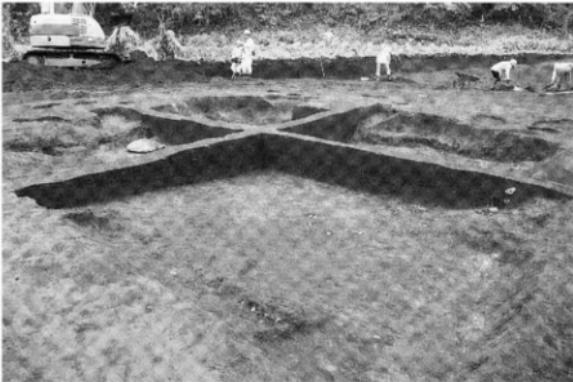
SI07検出状況（←東）



SI07カマド（←東）



SI07炭化材出土状況（←東）



SI07断面（←北）



SI08炭化材出土状況（←北）



SI08炭化材出土状況（←北）



SI08炭化材出土状況（←北）



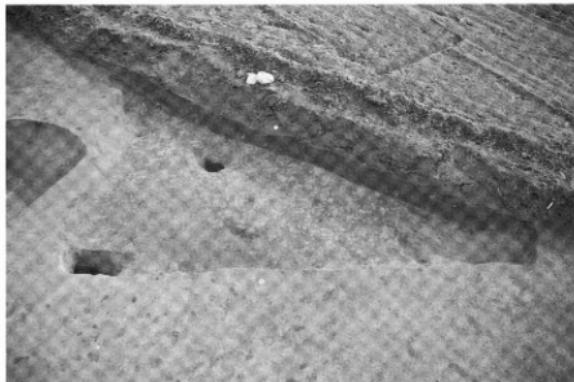
SI08断面（←西）



SI08断面（←北）



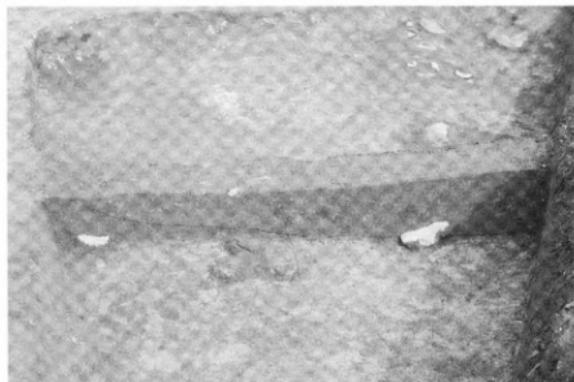
SI08周辺（←東）



SI09完掘 (←北)



SI09遺物出土状況 (←北)



SI09断面 (←西)



B区東側 (←東)

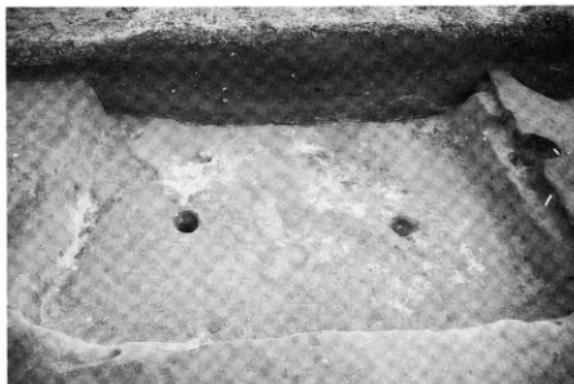


現地説明会



B区西側 (←東)

写真図版24 B区その他



SI10完掘 (←北)



SI10炭化材出土状況 (←北)



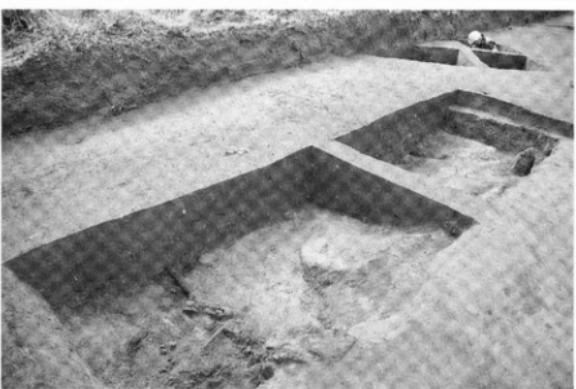
SI10作業状況 (←北)



SI10炭化材出土状況（←北）



SI10遺物出土状況（←西）



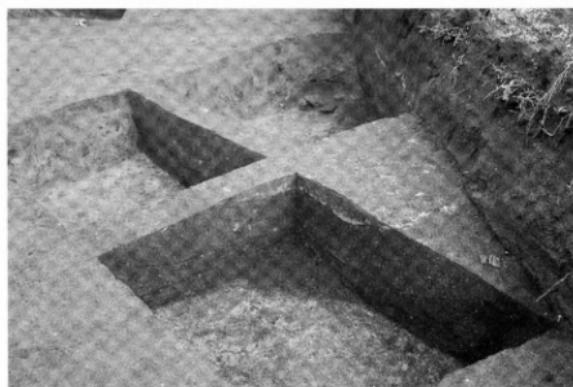
SI10断面（←東）



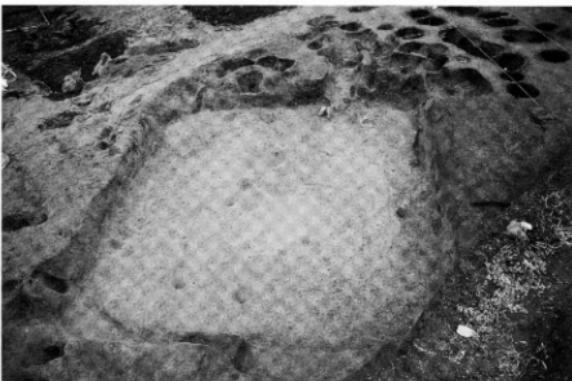
SII1完掘（←西）



SII1炭化材出土状況（←西）



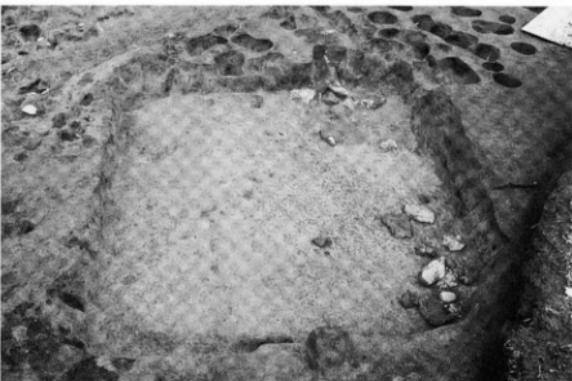
SII1断面（←西）



SI12窓掘 (←南)



SI12カマド (←南)



SI12遺物出土状況 (←南)

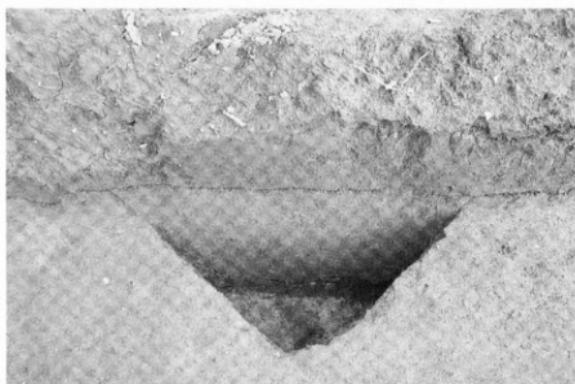
写真図版28 SI12 (1)



SI12断面（←南）



SI12検出状況（←西）



SI13完掘状況



SI14完掘（←北）



SI14断面（←北）



SI14掘り方完掘（←北）

写真図版30 SI14



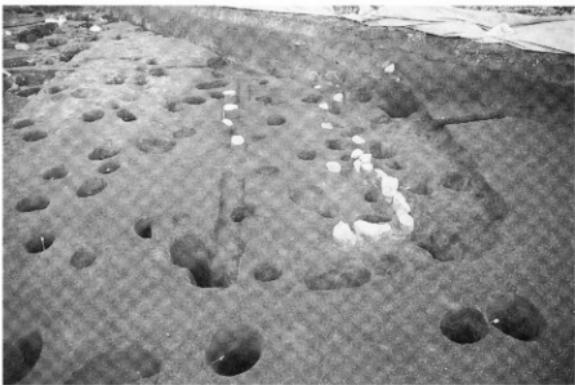
SI15窓擬（←東）



SI15カマド（←東）



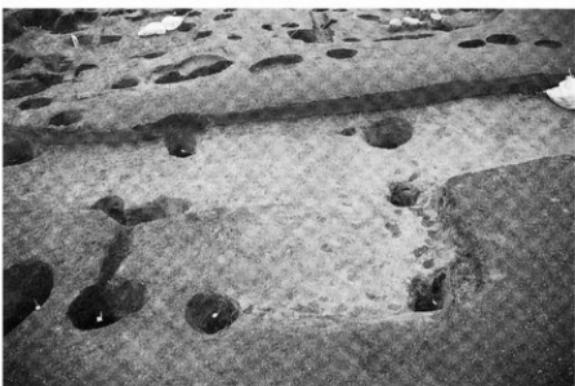
SI15カマド断面（←北）



SI16出土状況 (←西)



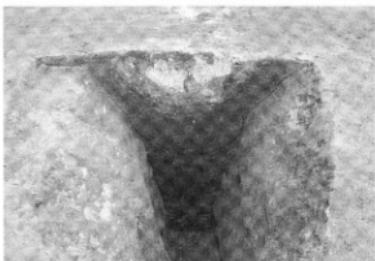
SI16断面 (←西)



SI17実掘 (←西)



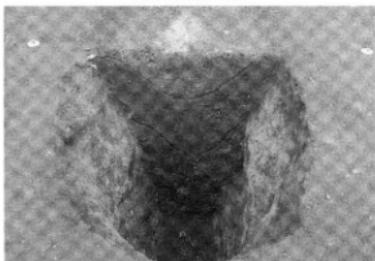
SK01完掘 (←南)



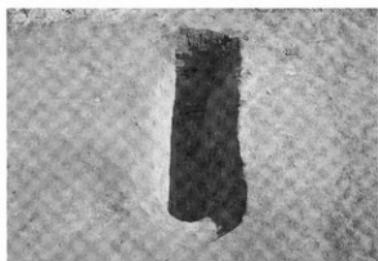
SK01断面 (←南)



SK02完掘 (←南)



SK02断面 (←南)



SK03完掘 (←西)



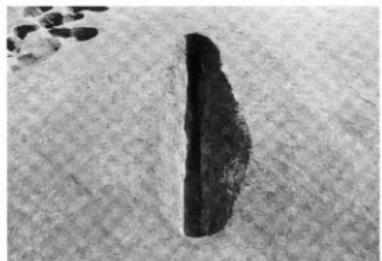
SK03断面 (←西)



SK07完掘 (←西)



SK07断面 (←西)



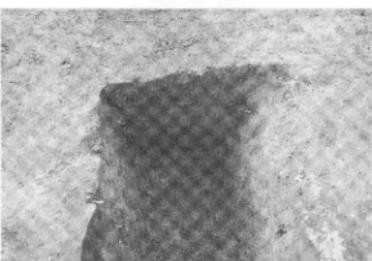
SK08完掘（←西）



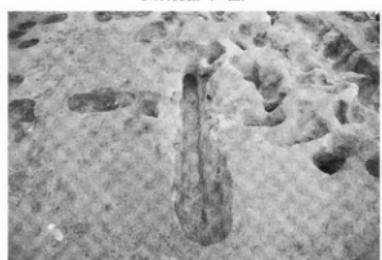
SK08断面（←西）



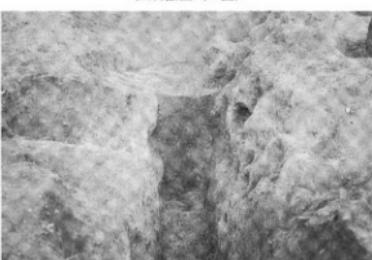
SK09完掘（←西）



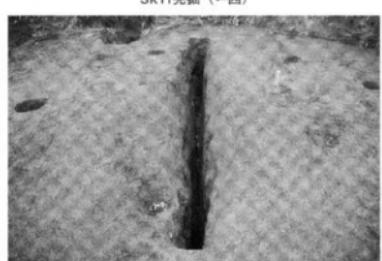
SK09断面（←西）



SK11完掘（←西）



SK11断面（←西）



SK12完掘（←南）



SK12断面（←南）

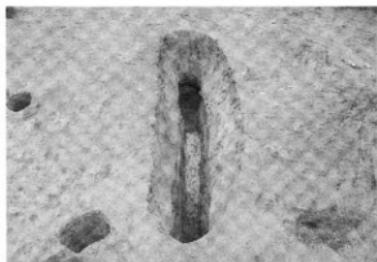
写真図版34 陥し穴 (2) SK08・09・11・12



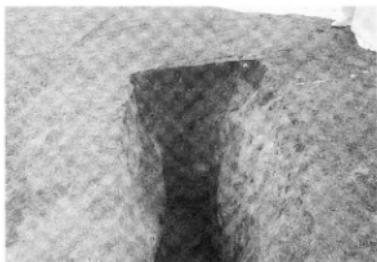
SK14完掘（←西）



SK14断面（←西）



SK20完掘（←西）



SK20断面（←西）



SK21・22完掘（←東）



SK21断面（←東）



SK22断面（←東）



SK21・22作業状況（←東）



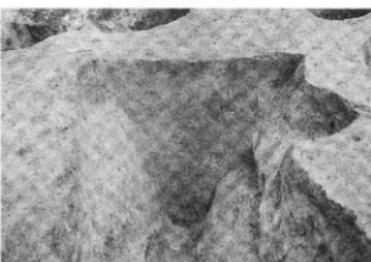
SK23完掘（←東）



SK23断面（←東）



SK26完掘（←東）



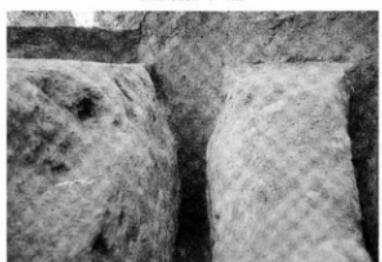
SK26断面（←東）



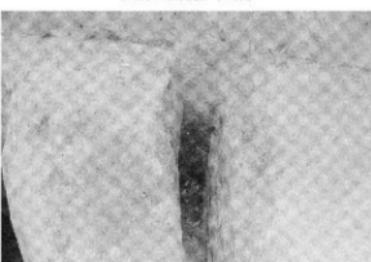
SK24完掘（←南）



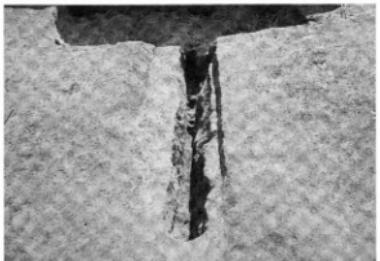
SK28・29完掘（←東）



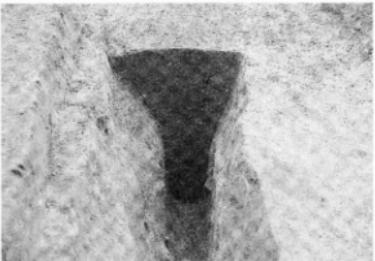
SK28断面（←東）



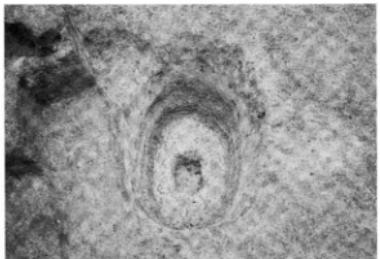
SK29断面（←東）



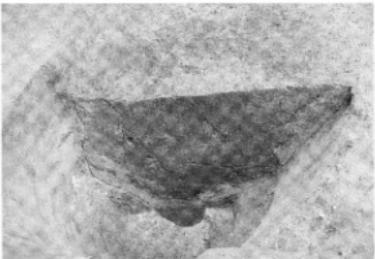
SK30完掘（←北）



SK30断面（←北）



SK31完掘（←西）



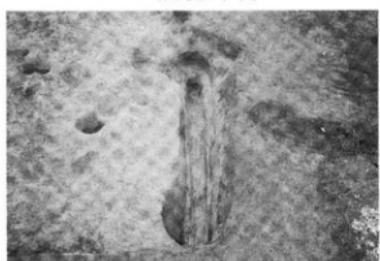
SK31断面（←西）



SK31作業状況（←西）



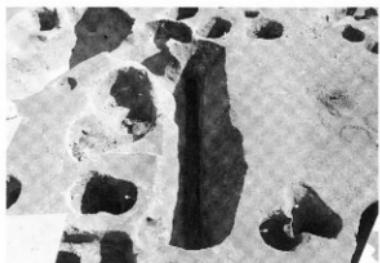
SK09周辺（←北）



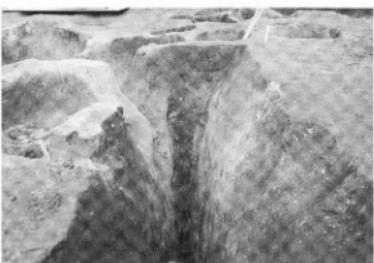
SK32完掘（←東）



SK32断面（←西）



SK36完掘 (←西)



SK36断面 (←西)



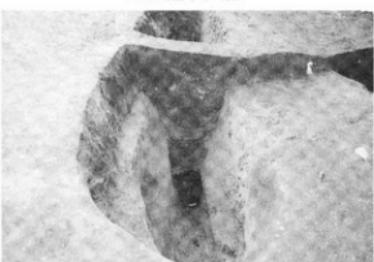
SK37完掘 (←東)



SK37断面 (←東)



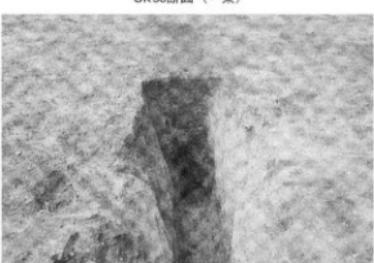
SK38完掘 (←東)



SK38断面 (←東)



SK39完掘 (←東)

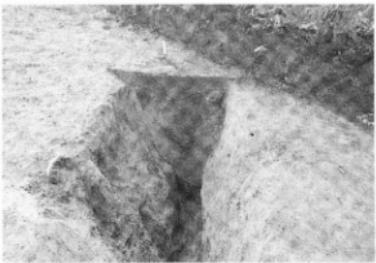


SK39断面 (←東)

写真図版38 陥し穴 (6) SK36~39



SK41完掘（←東）



SK41断面（←東）



SK44完掘（←東）



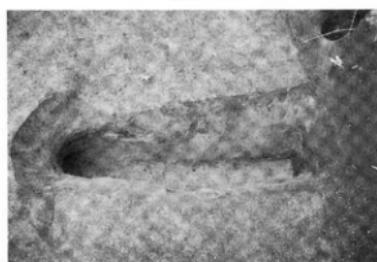
SK44断面（←東）



SK46完掘（←東）



SK46断面（←東）



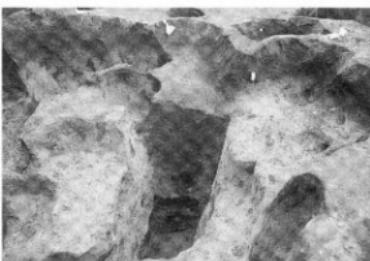
SK48完掘（←東）



SK48断面（←東）



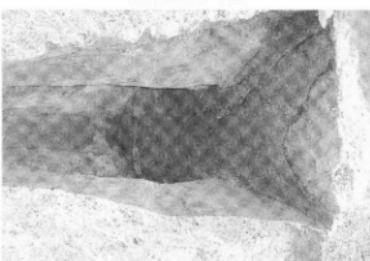
SK50完掘（←東）



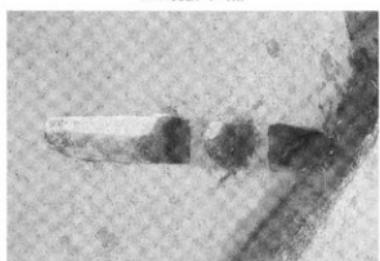
SK50断面（←東）



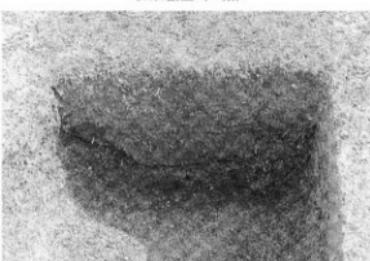
SK51完掘（←東）



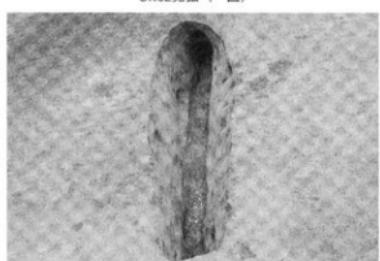
SK51断面（←東）



SK52完掘（←西）



SK52断面（←西）



SK53完掘（←西）

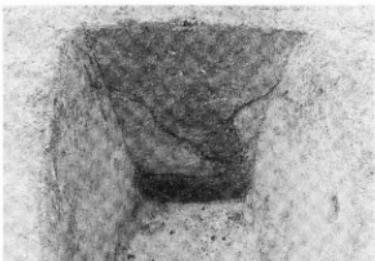


SK53断面（←西）

写真図版40 詰し穴 (8) SK50~53



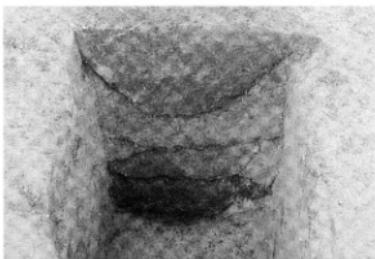
SK54完掘（←北）



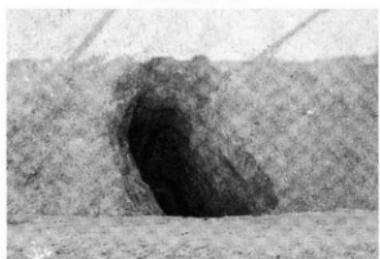
SK54断面（←南）



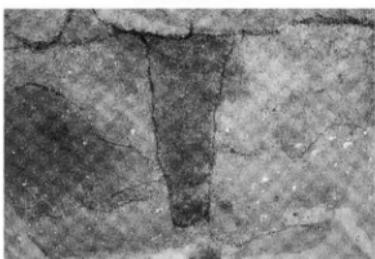
SK55完掘（←北）



SK55断面（←南）



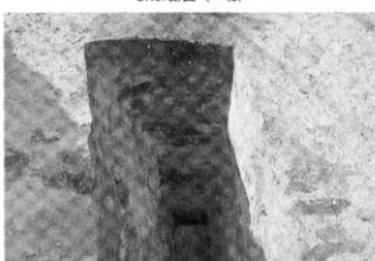
SK57完掘（←南）



SK57断面（←北）



SK58完掘（←東）

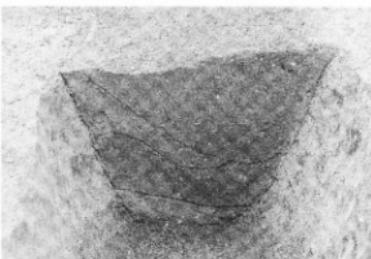


SK58断面（←東）

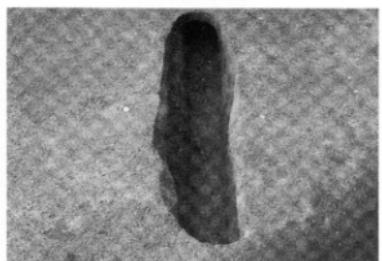
写真図版41 路し穴（9）SK54・55・57・58



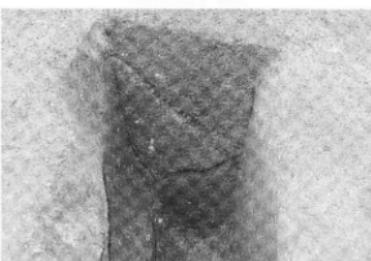
SK61完掘 (←東)



SK61断面 (←東)



SK62完掘 (←東)



SK62断面 (←東)



SK71完掘 (←西)



SK71断面 (←西)



SK72完掘 (←北)

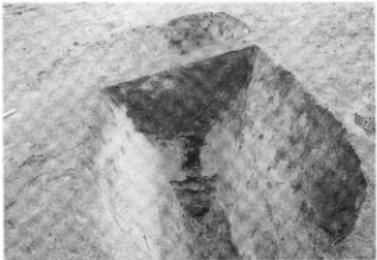


SK72断面 (←東)

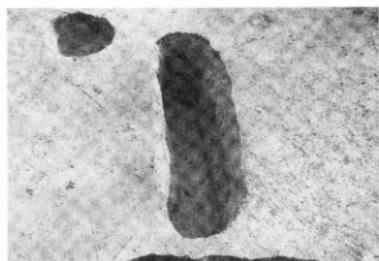
写真図版42 踏し穴 (10) SK61・62・71・72



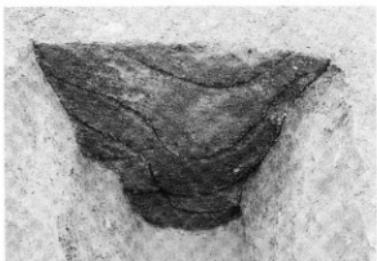
SK73完掘 (←西)



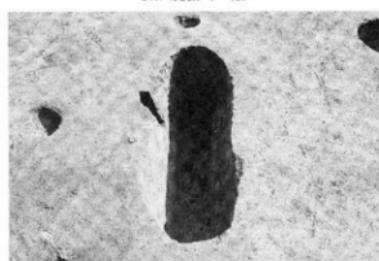
SK73断面 (←西)



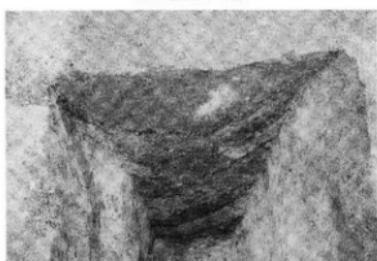
SK74完掘 (←北)



SK74断面 (←南)



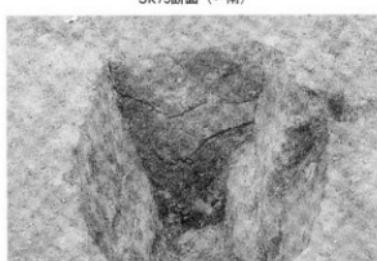
SK75完掘 (←北)



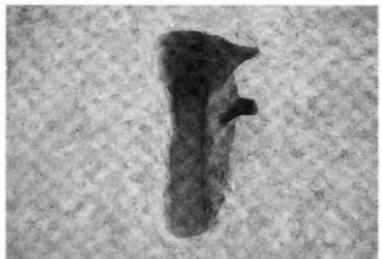
SK75断面 (←南)



SK77完掘 (←北)



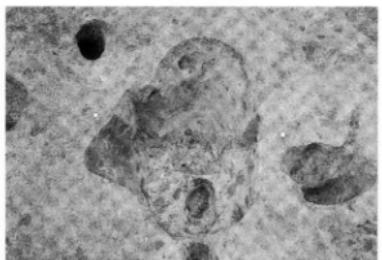
SK77断面 (←南)



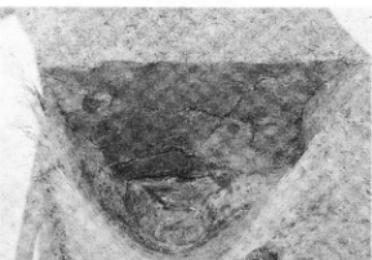
SK79完掘（←北）



SK79断面（←南）



SK80完掘（←南）



SK80断面（←南）



SK79付近（←東）



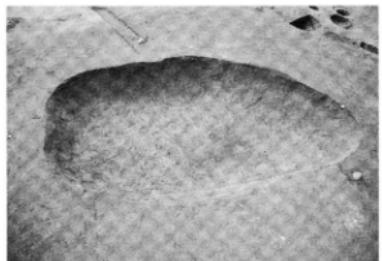
SK73精査状況（←西）



SK71精査状況（←西）



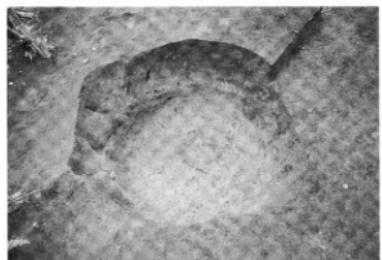
SK46精査状況（←東）



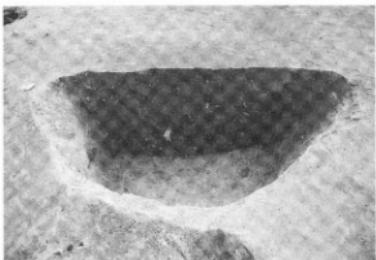
SK05完掘（←北）



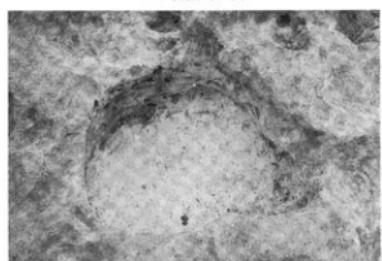
SK05断面（←東）



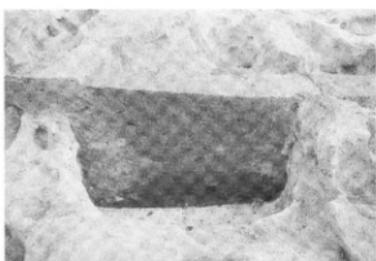
SK06完掘（←北）



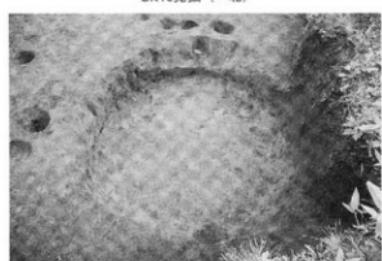
SK06断面（←北）



SK10完掘（←北）



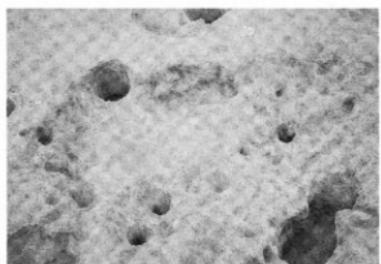
SK10断面（←北）



SK15完掘（←東）



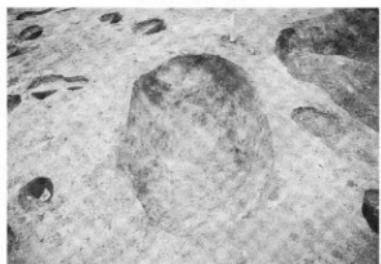
SK15断面（←西）



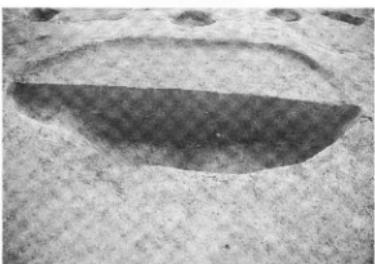
SK16完掘（←東）



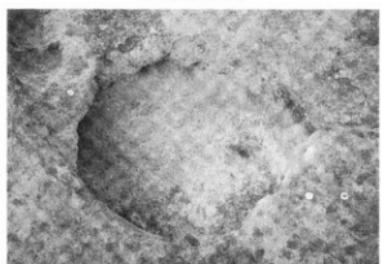
SK16断面（←西）



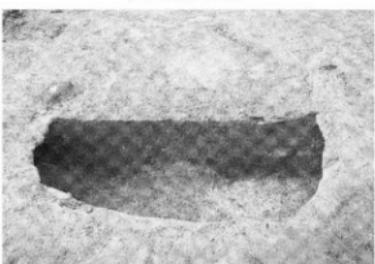
SK17完掘（←北）



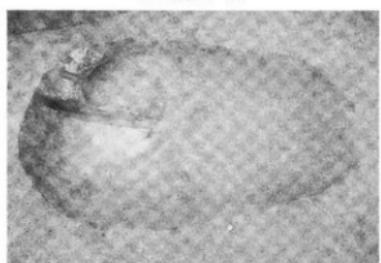
SK17断面（←東）



SK18完掘（←東）



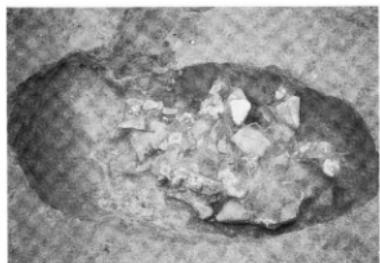
SK18断面（←東）



SK19完掘（←北）



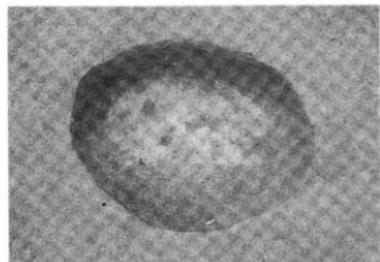
SK19断面（←西）



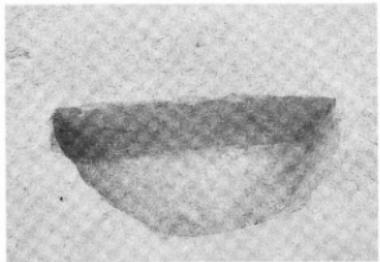
SK25遺物出土状況（←東）



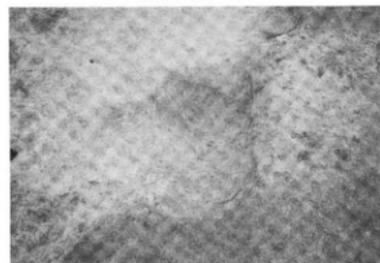
SK25断面（←南）



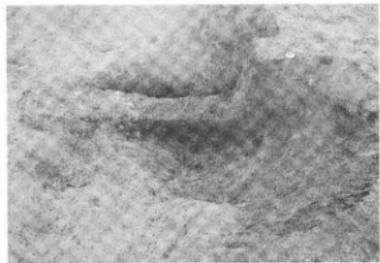
SK27完掘（←西）



SK27断面（←東）



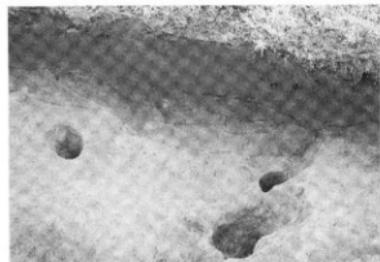
SK33完掘（←西）



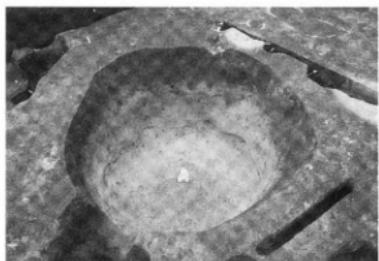
SK33断面（←西）



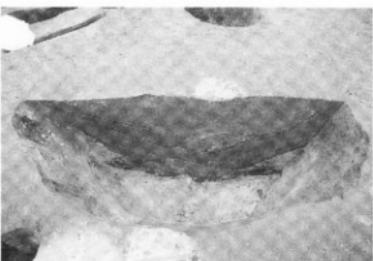
SK33精査状況（←南）



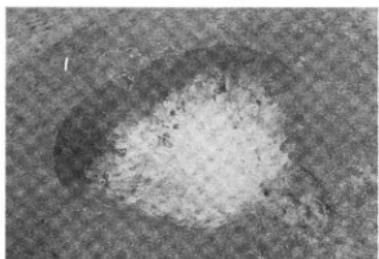
SK13完掘（←南）



SK34完掘（←西）



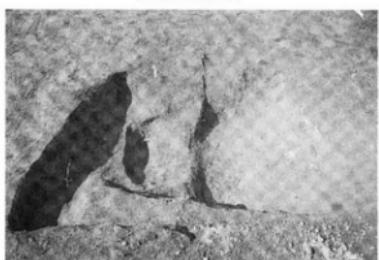
SK34断面（←西）



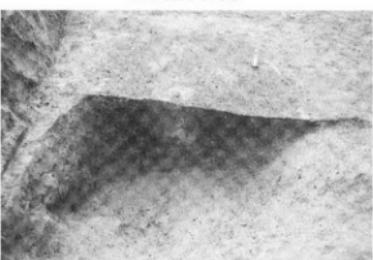
SK35完掘（←西）



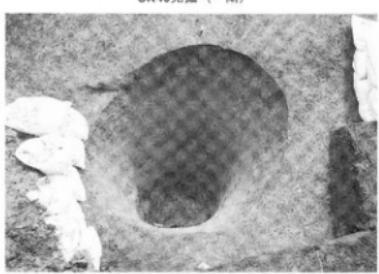
SK35断面（←西）



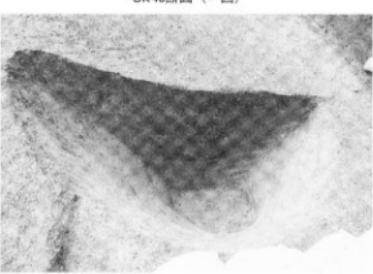
SK40完掘（←南）



SK40断面（←西）

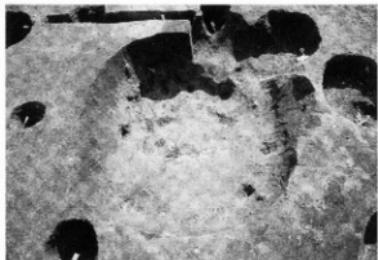


SK42完掘（←北）

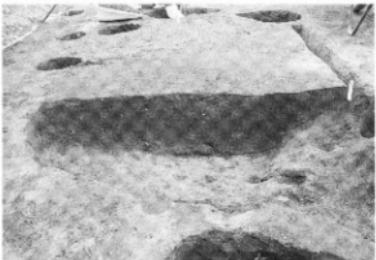


SK42断面（←東）

写真図版48 土坑（4）SK34・35・40・42



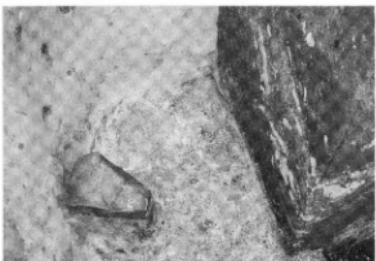
SK43完掘（←北）



SK43断面（←東）



SK45完掘（←南）



SK45遺物出土状況（←南）



SK45壕出土状況（←南）



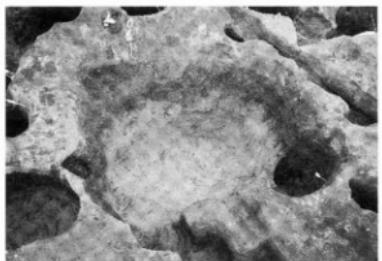
SK45断面（←南）



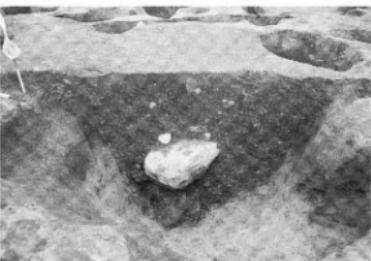
SK47完掘（←北）



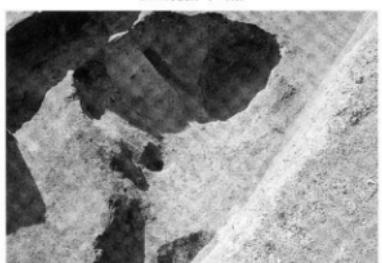
SK47断面（←南）



SK49完掘（←南）



SK49断面（←東）



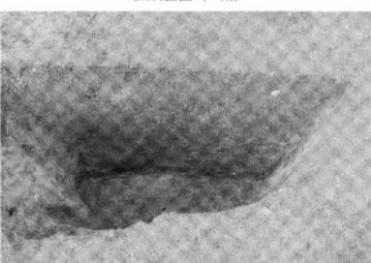
SK56完掘（←北）



SK56断面（←南）



SK59完掘（←南）



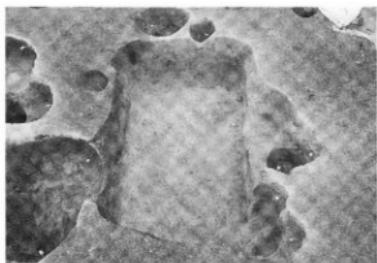
SK59断面（←南）



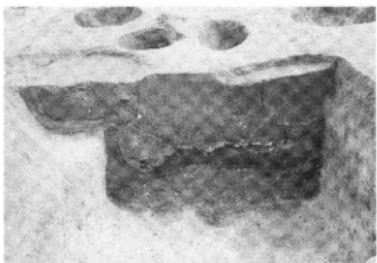
SK60断面（←西）



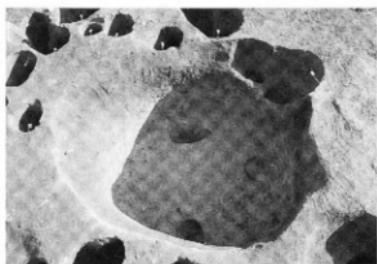
SK60完掘（←東）



SK81完掘 (←北)



SK81断面 (←北)



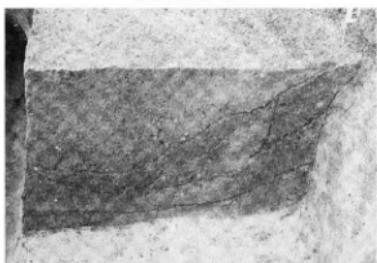
SK70完掘 (←北)



SK70断面 (←東)



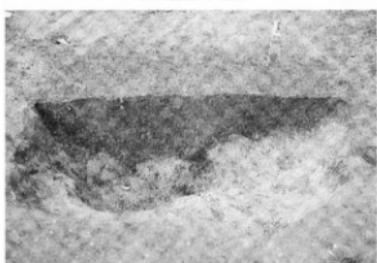
SK76完掘 (←南)



SK76断面 (←東)



SK78完掘 (←東)



SK78断面 (←南)



SD01完掘（←南）



SD01積査状況（←北）



SD01完掘（←東）



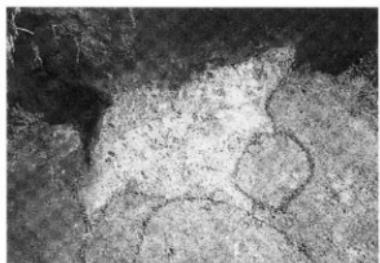
SD01断面 (←南)



SD01断面 (←北)



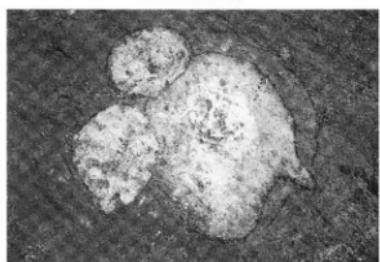
SD01精査状況 (←北)



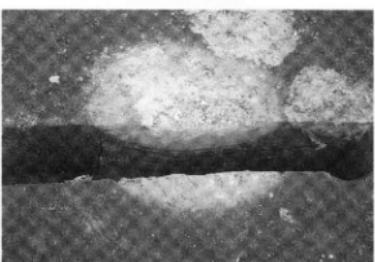
SN01平面 (←北)



SN01断面 (←北)



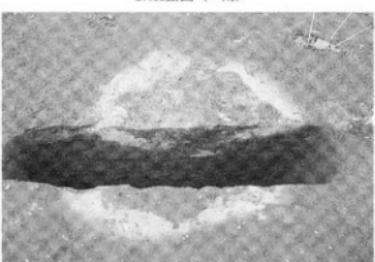
SN02平面 (←北)



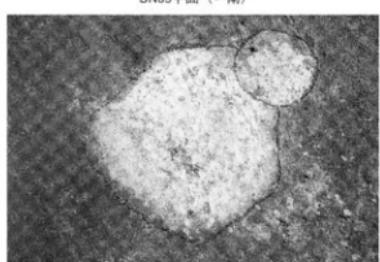
SN02断面 (←南)



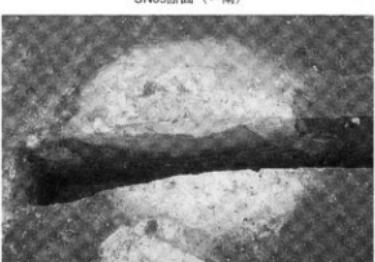
SN03平面 (←南)



SN03断面 (←南)



SN04平面 (←西)

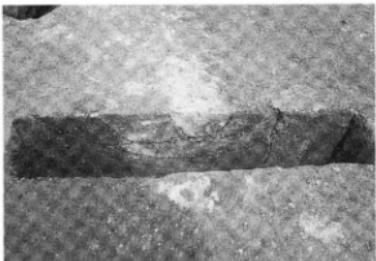


SN04断面 (←南)

写真図版54 焼土 (1) SN01~04



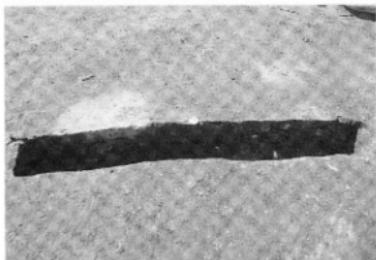
SN05平面 (←西)



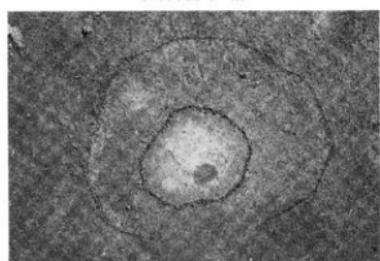
SN05断面 (←西)



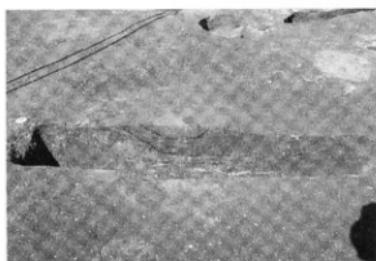
SN06平面 (←北)



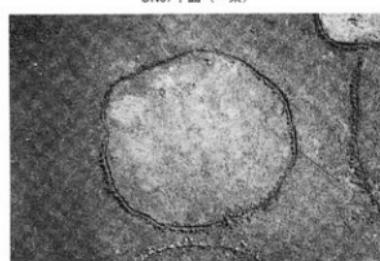
SN06断面 (←北)



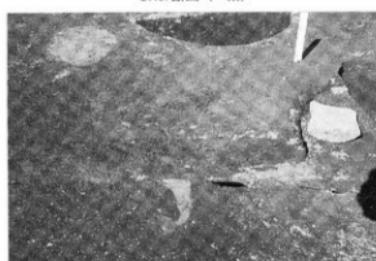
SN07平面 (←東)



SN07断面 (←東)



SN08平面 (←東)



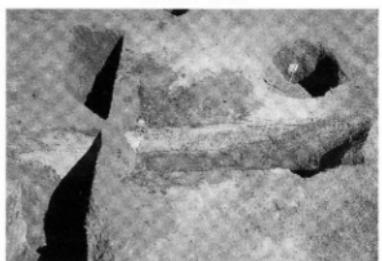
SN08断面 (←東)



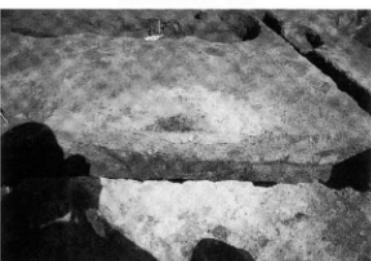
SN09平面 (←北)



SN09・10断面 (←南)



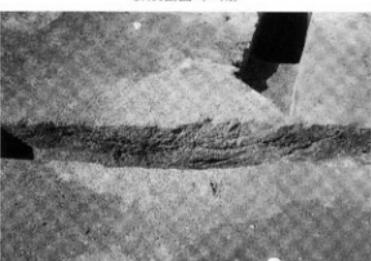
SN10断面 (←南)



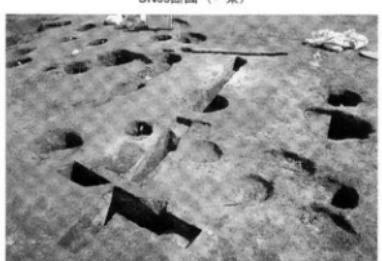
SN09断面 (←南)



SN09断面 (←東)



SN09断面 (←東)

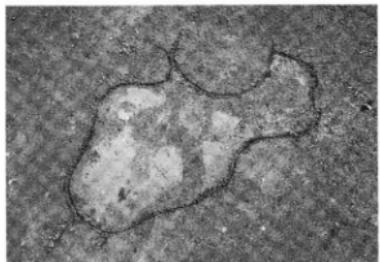


SN10断面 (←西)

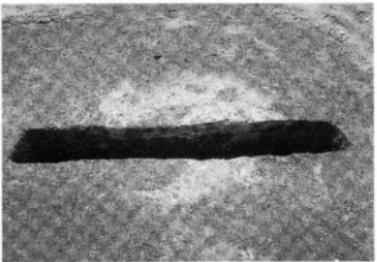


SN10断面 (←西)

写真図版56 烧土 (3) SN09・10



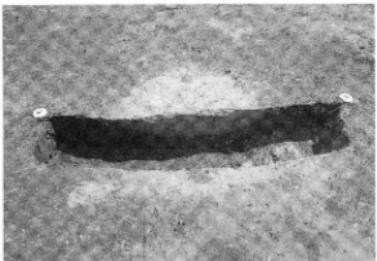
SN11平面 (←北)



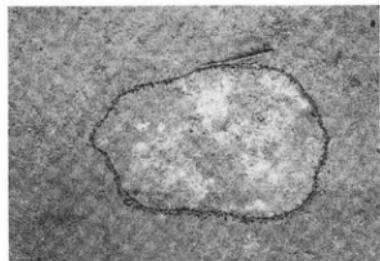
SN11断面 (←北)



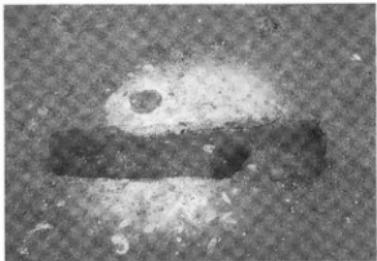
SN12平面 (←西)



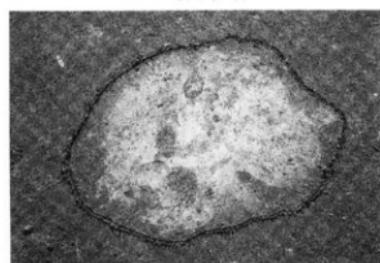
SN12断面 (←西)



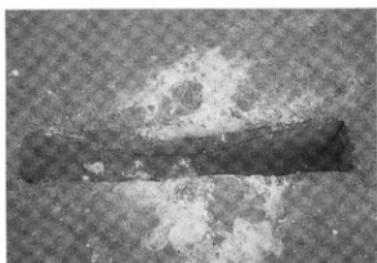
SN13平面 (←東)



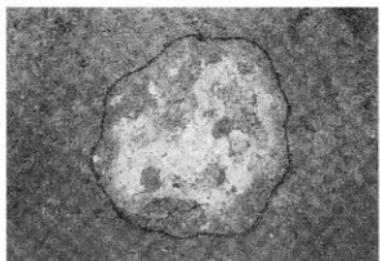
SN13断面 (←東)



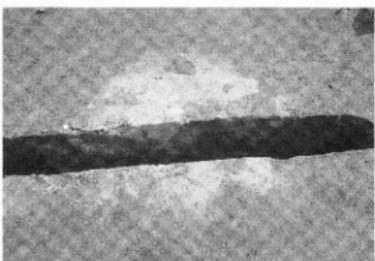
SN14平面 (←東)



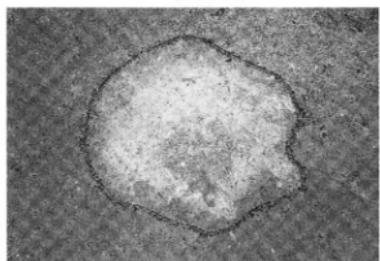
SN14断面 (←東)



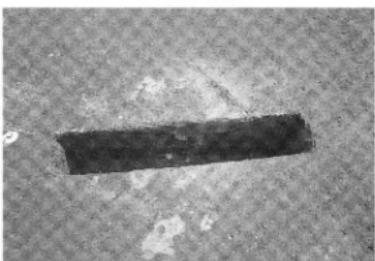
SN16平面 (←東)



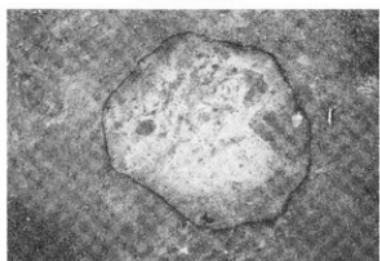
SN16断面 (←東)



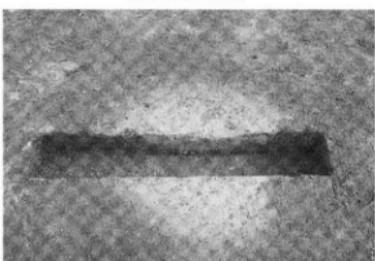
SN17平面 (←東)



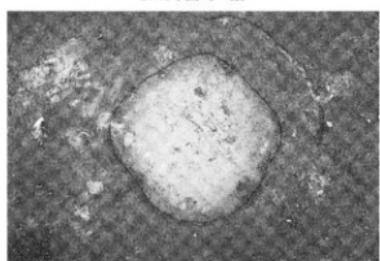
SN17断面 (←東)



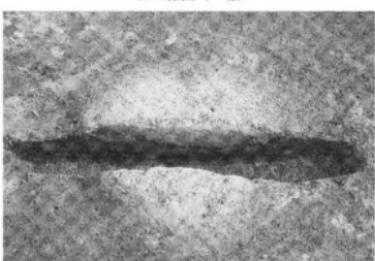
SN19平面 (←北)



SN19断面 (←北)

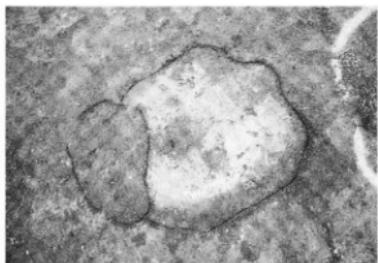


SN20平面 (←北)

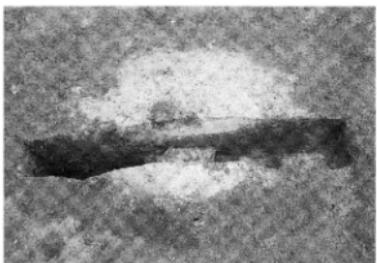


SN20断面 (←北)

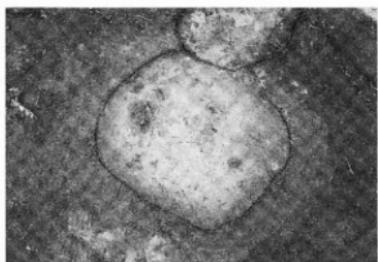
写真図版58 焼土 (5) SN16・17・19・20



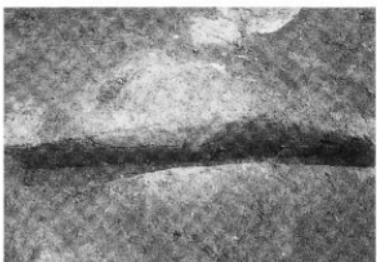
SN21平面 (←北)



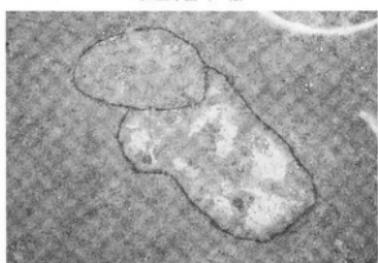
SN21断面 (←北)



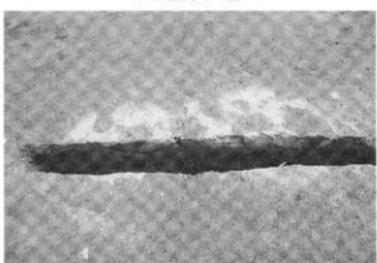
SN22平面 (←北)



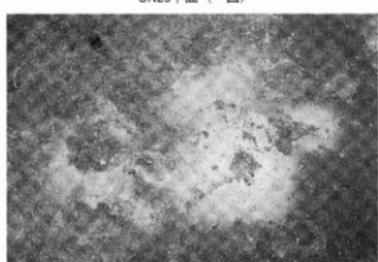
SN22断面 (←北)



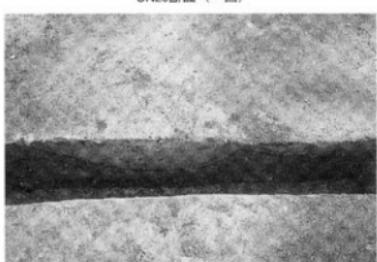
SN23平面 (←西)



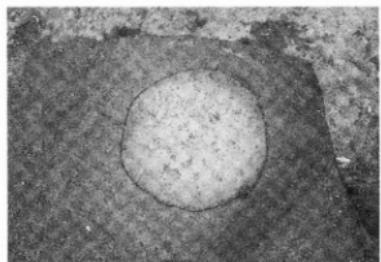
SN23断面 (←西)



SN24平面 (←北)



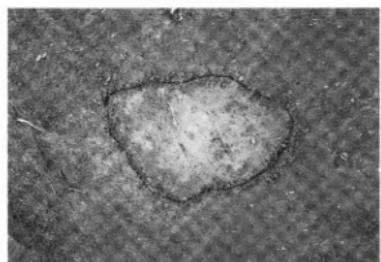
SN24断面 (←北)



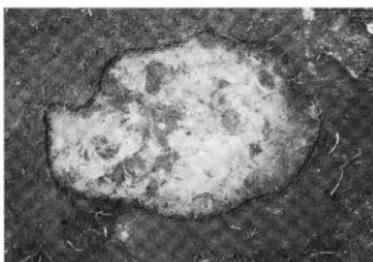
SN18平面（←西）



SN25平面（←北）



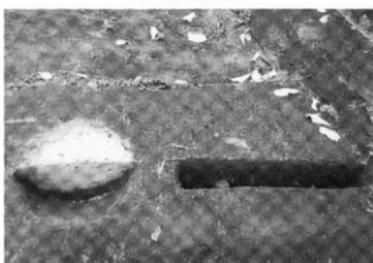
SN26平面（←北）



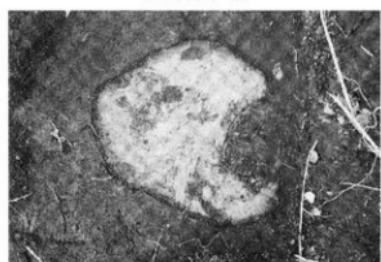
SN27平面（←北）



SN28平面（←北）



SN28・P953断面（←東）



SN29平面（←東）



SN29断面（←東）

## 報告書抄録

ふりがな	かつらたい いせきはくつちょうしきはうこくしょ							
書名	桂平I遺跡発掘調査報告書							
副書名	主要地方道二戸・五日市線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第538集							
編著者名	川又 茂・北村忠昭							
編集機関	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地			TEL (019) 638-9001				
発行年月日	2008年11月7日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 度分秒	東經 度分秒	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
桂平I遺跡	岩手県二戸市 市浄法寺町 大字御山字 桂平地内	03213	JE36-1308	40度 10分 50秒	141度 9分 30秒	2006.08.17 ~ 2006.11.28 2007.08.17 2007.11.15	7,809m <sup>2</sup>	主要地方道二戸・五日市線緊急地方道路整備事業に伴う緊急発掘調査
取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
桂平I遺跡	狩獵場 集落跡	縄文時代	竪穴	45基	縄文土器 鏡状石器・剥片 土師器破片・甕 須恵器等			
		平安時代	堅穴住居 土坑	15棟 26基	鐵鏃・紡錘草・鎌先 陶器器・砥石 銭貨・煙管			
		近世以降 時期不明	塚跡 測立柱建物 柱穴状土坑 焼土遺構	1条 9棟 1100個 29基				
要約	桂平I遺跡は、岩手県二戸市浄法寺町大字御山字桂平に所在し、安比川により形成された河岸段丘上に立地する。発掘調査は2箇年にわたり行なわれた。遺構は、縄文時代の竪穴、平安時代の堅穴住居、近世の掘立柱建物、塚跡などを確認した。遺物は、縄文土器、石器、土師器破片、甕、須恵器等、銭貨、陶器器・砥石、銭貨、煙管などが出土した。縄文時代には狩獵場、平安時代には集落であったことが判明した。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第538集

## 桂平 I 遺跡発掘調査報告書

主要地方道二戸五戸市線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成20年10月31日

発 行 平成20年11月 7 日

編 集 謝岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発 行 岩手県二戸地方振興局土木部

〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡 6-3

電話 (0195) 23-9209

謝岩手県文化振興事業団

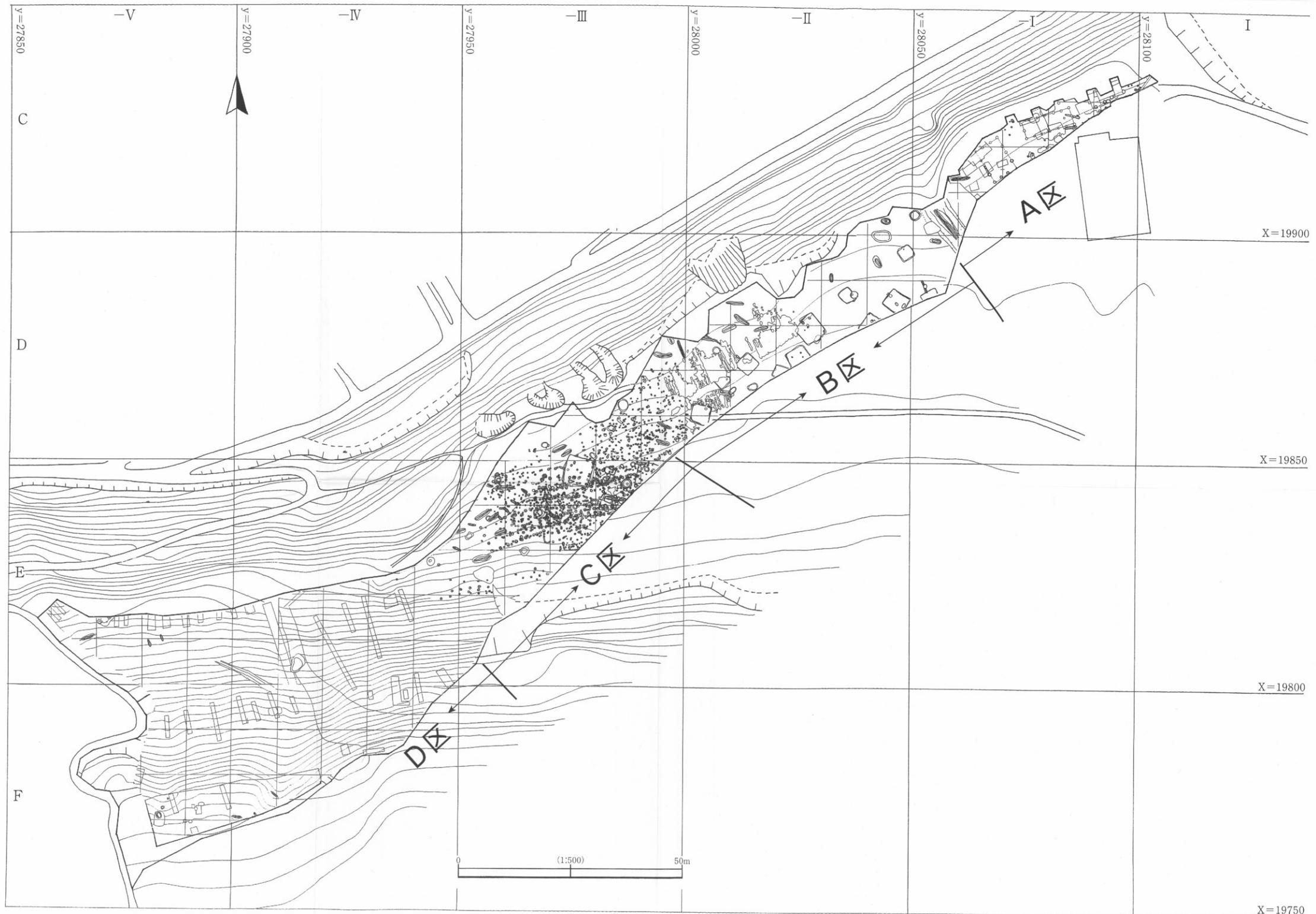
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印 刷 小松総合印刷株式会社

〒020-0827 岩手県盛岡市鉢屋町15-4

電話 (019) 624-1374



付図1 遺構配置図（全体）



付図2 遺構配置図（C区密集部分）

